

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アカデミック・セミナー	後期	土1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山口 真也 (6回) 伊佐常利 (6回) 島村 麗(3回)	3年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>前提科目「児童文化論」で制作した、沖縄の昔話を題材とするソフトウェア(アニメーション)の素材をもとに、より高度なマルチメディア処理や多言語字幕を加えたデジタル紙芝居を制作し、インターネットを通じて世界に発信するとともに、手製の絵本づくり・県内図書館・学校等への配布を通して、地域文化の蓄積と発信の意義、研究の手法についての理解をさらに深める。</p>	<p>毎回の授業での学び、授業外の課題の積み重ねを通して、より高いスキルの習得を目指しますので、他の資格科目と同様の学習態度で授業にのぞみましょう。司書課程受講中の学生にとってもICTや製本技術など、図書館現場で役立つ内容となっています。</p>

到達目標
<p>以下のアカデミックスキルの修得を目指す。</p> <p>①フォトショップ・イラストレーターを用いた高度な画像(イラスト)処理能力</p> <p>②DTP(デジタル書籍編集)の基礎知識、本の仕組みに関する知識、製本技術</p> <p>③グループワークに求められるコーディネート能力・課題解決能力・コミュニケーション能力</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・イラスト作成方法① Photoshopを利用したイラスト作成	イラスト課題
	2	イラスト作成方法② Photoshopを利用したイラスト作成	イラスト課題
	3	イラスト作成方法③ Illustratorを利用したイラスト作成	イラスト課題
	4	イラスト作成方法④ Illustratorを利用したイラスト作成	イラスト課題
	5	グループワーク① 素材イラストの準備	イラストの素材収集
	6	グループワーク② 素材イラストの準備	イラスト作成
	7	デジタル紙芝居作成方法 ムービーメーカーによる動画作成・多言語字幕の挿入	多言語への翻訳
	8	グループワーク③ 英語字幕の作成①	多言語への翻訳・イラスト提出
	9	グループワーク④ 英語字幕の作成②	多言語への翻訳・仮提出
	10	グループワーク⑤ 英語字幕の作成③	多言語への翻訳・本提出
	11	パソコンを使った書籍編集方法 ページ入れ替え、テキスト流し込み	絵本データの作成
	12	グループワーク⑥ DTP実習	絵本データの作成
	13	グループワーク⑦ 製本実習 絵本の印刷、表紙シールの作成	絵本データの作成
	14	グループワーク⑧ 製本実習 糸かがり綴じ、表紙布の作成	製本素材の準備
15	グループワーク⑨ 製本実習 表紙と本体の結合、絵本の完成	製本作業	
16	課題提出・発表 デジタル紙芝居のネット公開、図書館・学校への寄贈(読み聞かせなども)	関係機関への寄贈	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プリントを配布する。毎回、ファイリングして持参すること。 ・2GB以上を保存できるUSBフラッシュメモリを各自で準備すること。
----	---

学びの手立て	<p>授業時間内のグループワークが中心となる授業のため、欠席回数が全体の2/3を超えた場合は不可となる。</p>
--------	--

評価	<p>グループワークでの取り組み(図書館・学校等への寄贈、上映会への参加も含む)、ソフトウェア・絵本の完成度を総合的に評価する。</p> <p>平常点 30点 (グループワークでの学習態度、発言回数などを評価)</p> <p>レポート点 70点 (ソフトウェア、絵本の完成度を評価)</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>日本文化学科が専門科目として開講している上級情報処理士科目「地域文化情報論」「エリアスタディ演習」「図書館情報技術論」などを中心に、共通科目の情報科目も積極的に受講し、情報処理スキルをさらに高めていきましょう。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 学科のカリキュラムポリシー1（専門分野を学ぶ上で前提となる能力を修得するための「基礎科目」を設置）に関連する。

[/演習]

科目基本情報	科目名 アカデミック・ライティング	期別	曜日・時限	単位
	担当者 桃原 千英子・芳山紀子	前期	月 2	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	授業終了後に教室で受け付けます。または、 c. toubaru@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい ゼミナールでの研究活動に必要なアカデミックスキルを修得することを目的として、文章表現法やアンケート調査の計画・実施、パソコンを用いた分析方法等を学習し、レポート報告を行う。	メッセージ 1年次に修得した、リテラシーの能力を更に発展させた科目である。日本文化学科の学生として、大学の研究や論文作成に必要な、高度な能力の基礎を身に付けてほしい。その基礎的なスキルをもとに、研究テーマを絞り込み、所属ゼミを選択することになる。3年次のゼミでは、論文の書き方は修得済みとして、文献やデータから考察を深めることを念頭において授業を受けてほしい。
	到達目標 本授業を通して、①論理的な思考法にもとづくライティング能力を身に付け、実際に論理的な文章が書けるようになる。②情報処理スキルを用いたデータの集計、分析、プレゼンテーション能力を育み、量的研究分析と発表力を身に付けることができる。③グループワークに求められるコーディネート能力・課題解決能力を高め、協同で課題を見つけ、解決することができるようになる。④卒業研究に求められるレポート・論文作成能力の修得を目指し、3年次から始まるゼミナールにおいて、論文作成の基礎をみにつけることができる。	

学びの準備	到達目標 本授業を通して、①論理的な思考法にもとづくライティング能力を身に付け、実際に論理的な文章が書けるようになる。②情報処理スキルを用いたデータの集計、分析、プレゼンテーション能力を育み、量的研究分析と発表力を身に付けることができる。③グループワークに求められるコーディネート能力・課題解決能力を高め、協同で課題を見つけ、解決することができるようになる。④卒業研究に求められるレポート・論文作成能力の修得を目指し、3年次から始まるゼミナールにおいて、論文作成の基礎をみにつけることができる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	●アカデミックワードと日常語の違い
	2	●句読点の付け方・見やすい表記
	3	●曖昧な文の回避・分かりやすい語順
	4	●文の適切な長さや接続表現・文のねじれの解消
	5	●結論を先に述べる・事実と意見の区別・データの解釈
	6	●レポート・論文の構成・見出しの付け方・先行研究の整理
	7	●調査計画の立て方・アンケート用紙の作成(グループワーク①)
	8	●アンケート結果の集計・データのクリーニング(グループワーク②)
	9	●データの解釈・仮説の検証
	10	●結論と序論の書き方・夏休みの課題
	11	Excel表計算活用術 高度な関数を自在に操る
	12	Excel活用術 3-D集計/統合機能
	13	Excel活用術 自動集計機能/フィルタオプション
	14	Excel活用術 ピボットテーブルの作成と活用
	15	Excel活用術 マクロ機能 成績評価テスト
16	予備	
		時間外学習の内容
		演習問題 (アカデミックワード)
		演習問題 (見やすい表記)
		演習問題 (分かりやすい語順)
		演習問題 (ねじれの種類)
		演習問題 (結論を先に書く)
		演習問題 (文献情報の記載)
		グループ課題 (調査項目を考える)
		グループ課題 (アンケート作成)
		グループ課題 (データ結合)
		レポート課題
		関数演習問題
		演習問題1 / 演習問題2
		演習問題3 / 演習問題4
		ピボットテーブル演習問題
		マクロ演習問題

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト・・・オリジナル資料 参考文献・・・安部朋世・福嶋健伸・橋本修 編著、『大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編』,三省堂,2013.1,本体1,900円+税
-------	--

学びの実践	学びの手立て ①4月3日に行われる在学生オリエンテーションで本授業の履修方法、クラス分けを説明する。必ず出席すること ②無断欠席をしないこと。 ③レジュメ等プリント類を多く使うが、保持および保管は学生の責任において為すこと。余分に刷らない。 ④本学図書館でのレポートライティングサポートを積極的に利用し、ライティングスキルを高めること。
-------	--

学びの実践	評価 ①出席を重視する。(ライティングパートでは4回以上 エクセルパートでは2回以上欠席すると不可) ②課題レポートの内容を評価する。(エクセルパートでは別にレポート・ミニテストがある) ③欠席が1 / 3を超える者には単位は認定しない。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目【上位科目】ゼミナール入門(2年次・後期)ゼミ(3年次から) (2) 次のステージ 後期ゼミナール入門で、自分の専門とする領域を決める。ゼミの決定にあたり、希望調査票と研究計画書(＋文献リスト)を作成する。【カリキュラムポリシーとの関連】4. 論理的・批判的思考力や課題探究力を養い、卒業論文を作成するための「ゼミナール」を設置。
-------	--

※ポリシーとの関連性 学科のカリキュラムポリシー1（専門分野を学ぶ上で前提となる能力を修得するための「基礎科目」を設置）に関連する。

[/演習]

科目基本情報	科目名 アカデミック・ライティング	期別	曜日・時限	単位
	担当者 下地 賀代子・芳山 紀子	前期	月 2	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	授業終了後に教室で受け付けます。または kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい ゼミナールでの研究活動に必要なアカデミックスキルを修得することを目的として、文章表現法やアンケート調査の計画・実施、パソコンを用いた分析方法等を学習し、レポート報告を行う。	メッセージ 1年次に修得した、リテラシーの能力を更に発展させた科目である。日本文化学科の学生として、大学の研究や論文作成に必要な、高度な能力の基礎を身に付けてほしい。その基礎的なスキルをもとに、研究テーマを絞り込み、所属ゼミを選択することになる。3年次のゼミでは、論文の書き方は修得済みとして、文献やデータから考察を深めることを念頭において授業を受けてほしい。
	到達目標 本授業を通して、①論理的な思考法にもとづくライティング能力を身に付け、実際に論理的な文章が書けるようになる。②情報処理スキルを用いたデータの集計、分析、プレゼンテーション能力を育み、量的研究分析と発表力を身に付けることができる。③グループワークに求められるコーディネート能力・課題解決能力を高め、協同で課題を見つけ、解決することができるようになる。④卒業研究に求められるレポート・論文作成能力の修得を目指し、3年次から始まるゼミナールにおいて、論文作成の基礎をみにつけることができる。	

学びの準備	到達目標 本授業を通して、①論理的な思考法にもとづくライティング能力を身に付け、実際に論理的な文章が書けるようになる。②情報処理スキルを用いたデータの集計、分析、プレゼンテーション能力を育み、量的研究分析と発表力を身に付けることができる。③グループワークに求められるコーディネート能力・課題解決能力を高め、協同で課題を見つけ、解決することができるようになる。④卒業研究に求められるレポート・論文作成能力の修得を目指し、3年次から始まるゼミナールにおいて、論文作成の基礎をみにつけることができる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	●アカデミックワードと日常語の違い
	2	●句読点の付け方・見やすい表記
	3	●曖昧な文の回避・分かりやすい語順
	4	●文の適切な長さや接続表現・文のねじれの解消
	5	●結論を先に述べる・事実と意見の区別・データの解釈
	6	Excel表計算活用術 高度な関数を自在に操る
	7	Excel活用術 3-D集計／統合機能
	8	Excel活用術 自動集計機能／フィルタオプション
	9	Excel活用術 ピボットテーブルの作成と活用
	10	Excel活用術 マクロ機能 成績評価テスト
	11	●レポート・論文の構成・見出しの付け方・先行研究の整理
	12	●調査計画の立て方・アンケート用紙の作成(グループワーク①)
	13	●アンケート結果の集計・データのクリーニング(グループワーク②)
	14	●データの解釈・仮説の検証
	15	●結論と序論の書き方・夏休みの課題
16	予備	
		時間外学習の内容
		演習問題 (アカデミックワード)
		演習問題 (見やすい表記)
		演習問題 (分かりやすい語順)
		演習問題 (ねじれの種類)
		演習問題 (結論を先に書く)
		関数演習問題
		演習問題 1 / 演習問題 2
		演習問題 3 / 演習問題 4
		ピボットテーブル演習問題
		題マクロ演習問題
		演習問題 (文献情報の記載)
		グループ課題 (調査項目を考える)
		グループ課題 (アンケート作成)
		グループ課題 (データ結合)
		レポート課

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト・・・オリジナル資料 参考文献・・・安部朋世・福嶋健伸・橋本修 編著、『大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編』,三省堂, 2013. 1, 本体1, 900円+税
-------	--

学びの実践	学びの手立て ①4月3日に行われる在学生オリエンテーションで本授業の履修方法、クラス分けを説明する。必ず出席すること ②無断欠席をしないこと。 ③レジュメ等プリント類を多く使うが、保持および保管は学生の責任において為すこと。余分に刷らない。 ④本学図書館でのレポートライティングサポートを積極的に利用し、ライティングスキルを高めること。
-------	--

学びの実践	評価 ①出席を重視する。(ライティングパートでは4回以上 エクセルパートでは2回以上欠席すると不可) ②課題レポートの内容を評価する。(エクセルパートでは別にレポート・ミニテストがある) ③欠席が1 / 3を超える者には単位は認定しない。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目【上位科目】ゼミナール入門(2年次・後期)ゼミ(3年次から) (2) 次のステージ 後期ゼミナール入門で、自分の専門とする領域を決める。ゼミの決定にあたり、希望調査票と研究計画書(＋文献リスト)を作成する。【カリキュラムポリシーとの関連】 4. 論理的・批判的思考力や課題探究力を養い、卒業論文を作成するための「ゼミナール」を設置。
-------	---

※ポリシーとの関連性 学科のカリキュラムポリシー1（専門分野を学ぶ上で前提となる能力を修得するための「基礎科目」を設置）に関連する。

[/演習]

科目基本情報	科目名 アカデミック・ライティング	期別 前期	曜日・時限 月 2	単位 2
	担当者 村上 陽子・-芳山 紀子	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 授業終了後に教室で受け付けます。または、 c. toubaru@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい ゼミナールでの研究活動に必要なアカデミックスキルを修得することを目的として、文章表現法やアンケート調査の計画・実施、パソコンを用いた分析方法等を学習し、レポート報告を行う。	メッセージ 1年次に修得した、リテラシーの能力を更に発展させた科目である。日本文化学科の学生として、大学の研究や論文作成に必要な、高度な能力の基礎を身に付けてほしい。その基礎的なスキルをもとに、研究テーマを絞り込み、所属ゼミを選択することになる。3年次のゼミでは、論文の書き方は修得済みとして、文献やデータから考察を深めることを念頭において授業を受けてほしい。
	到達目標 本授業を通して、①論理的な思考法にもとづくライティング能力を身に付け、実際に論理的な文章が書けるようになる。②情報処理スキルを用いたデータの集計、分析、プレゼンテーション能力を育み、量的研究分析と発表力を身に付けることができる。③グループワークに求められるコーディネート能力・課題解決能力を高め、協同で課題を見つけ、解決することができるようになる。④卒業研究に求められるレポート・論文作成能力の修得を目指し、3年次から始まるゼミナールにおいて、論文作成の基礎をみにつけることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	Excel表計算活用術 高度な関数を自在に操る
	2	Excel活用術 3-D集計／統合機能
	3	Excel活用術 自動集計機能／フィルタオプション
	4	Excel活用術 ピボットテーブルの作成と活用
	5	Excel活用術 マクロ機能 成績評価テスト
	6	●アカデミックワードと日常語の違い
	7	●句読点の付け方・見やすい表記
	8	●曖昧な文の回避・分かりやすい語順
	9	●文の適切な長さや接続表現・文のねじれの解消
	10	●結論を先に述べる・事実と意見の区別・データの解釈
	11	●レポート・論文の構成・見出しの付け方・先行研究の整理
	12	●調査計画の立て方・アンケート用紙の作成(グループワーク①)
	13	●アンケート結果の集計・データのクリーニング(グループワーク②)
	14	●データの解釈・仮説の検証
	15	●結論と序論の書き方・夏休みの課題
16	予備	
		時間外学習の内容
		関数演習問題
		演習問題 1 / 演習問題 2
		演習問題 3 / 演習問題 4
		ピボットテーブル演習問題
		マクロ演習問題
		演習問題 (アカデミックワード)
		演習問題 (見やすい表記)
		演習問題 (分かりやすい語順)
		演習問題 (ねじれの種類)
		演習問題 (結論を先に書く)
		演習問題 (文献情報の記載)
		グループ課題 (調査項目を考える)
		グループ課題 (アンケート作成)
		グループ課題 (データ結合)
		レポート課題

実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト・・・オリジナル資料 参考文献・・・安部朋世・福嶋健伸・橋本修 編著、『大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編』,三省堂, 2013. 1, 本体1, 900円+税
----	--

学びの手立て	①4月3日に行われる在学生オリエンテーションで本授業の履修方法、クラス分けを説明する。必ず出席すること ②無断欠席をしないこと。 ③レジュメ等プリント類を多く使うが、保持および保管は学生の責任において為すこと。余分に刷らない。 ④本学図書館でのレポートライティングサポートを積極的に利用し、ライティングスキルを高めること。
--------	--

評価	①出席を重視する。(ライティングパートでは4回以上 エクセルパートでは2回以上欠席すると不可) ②課題レポートの内容を評価する。(エクセルパートでは別にレポート・ミニテストがある) ③欠席が1 / 3を超える者には単位は認定しない。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目【上位科目】ゼミナール入門(2年次・後期)ゼミ(3年次から) (2) 次のステージ 後期ゼミナール入門で、自分の専門とする領域を決める。ゼミの決定にあたり、希望調査票と研究計画書(＋文献リスト)を作成する。【カリキュラムポリシーとの関連】 4. 論理的・批判的思考力や課題探究力を養い、卒業論文を作成するための「ゼミナール」を設置。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア太平洋文化論	前期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-島袋 盛世	2年	moriyo@ll.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	日本語を取り巻くアジア諸国の文化、特に「ことば」を中心に外観する。アジアの諸言語を文字、語彙、文法、音声や表現などに焦点をあて、アジアの言語が日本語に与えた影響、また、日本語がそれらの諸言語に与えた影響など言語・文化接触によって生じた特徴をとらえディスカッションをする。日本語も含め、環太平洋諸国、アジア諸国の言語を比較し、それぞれの言語の特徴を理解する。	講義の予習・復習はきちんとして講義にのぞめば理解度が増すでしょう。欠席すると取り残される可能性が十分にあります。欠席をしないよう心がけましょう。
到達目標	日本語も含め、環太平洋諸国、アジア諸国の言語の構造を客観的に比較することによりそれらの言語の特徴を理解することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義の概要の説明	
	2	アジアの諸言語	
	3	言語の分類と系統	
	4	日本語の特徴	
	5	琉球語の特徴	
	6	アイヌ語の特徴	
	7	韓国語の特徴	
8	中国語の特徴		
9	中間試験		
10	台湾の言語の特徴		
11	環太平洋の諸言語1		
12	環太平洋の諸言語2		
13	環太平洋の諸言語2		
14	環太平洋の諸言語3		
15	環太平洋の諸言語とアジアの諸言語ディスカッション（復習）		
16	期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	特定の教科書は特になし。必要な資料は講義中、またはポータルなどで随時知らせる。受講生は図書館において、各々コピーし、読んで講義にそなえる必要がある。参考文献などは便宜紹介する。		
学びの手立て	講義の予習・復習はきちんとして講義にのぞめば理解度が増すでしょう。この講義は受講生の発表を中心に進めるため、疑問や質問等がある場合は担当教員へ問い合わせるとよいでしょう。欠席回数が全授業回数の3分の1を超えた場合は単位を与えない。		
評価	中間試験 40% 期末試験 40% 授業への参加および宿題（発表も含む）20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	エリアスタディ演習	後期	土3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-伊佐 常利	3年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄・琉球文化を世界に向けて広く発信していくにはICTは最適にツールである。本科目は、ICTを用いた文化発信のスキルを実践的に身に付ける為の専門科目と位置づけ、Flashを用いた琉球語や沖縄の伝統文化を題材とするクイズ形式の学習ソフトウェアを作成する。</p>	<p>毎回の授業や授業外の課題の積み重ねを通して、より高いスキルの習得を目指します。アニメーション作成だけでなくイラスト作成や音声処理なども行い、情報処理および情報発信技術がより深く学べます。</p>
到達目標	<p>① Flashを用いてアニメーションを作成することができる ② アニメーション作成に必要な音声情報、画像情報を適切に処理できる ③ ActionScriptを用いて条件分岐型の簡易ゲームを作成することができる</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	アニメーションの制作①：Flashの基本操作（図形描画、レイヤー、モーショントウイーン）	モーショントウイーンの復習
	2	アニメーションの制作②：Flashの基本操作（モーショングイド、背景の透過、シーンの連結）	課題の為の素材を準備
	3	アニメーションの制作③：Flashの基本操作（カラー変更、パブリッシュ、音声の追加）	課題の為の素材を準備
	4	アニメーションの制作④：Flashの基本操作（シェイプトウイーン、振り子、スクリプト）	課題の為の素材を準備
	5	アニメーションの制作⑤：イラスト作成（ペンタブ、ペイント系ソフトの使い方）	イラスト作成
	6	音声情報処理① フリーソフトを用いたWAVファイルの編集・効果音のミキシング	音声の準備
	7	音声情報処理② WAVファイルからMP3への音声変換	音声の変換
	8	ActionScript基礎① ActionScriptの概念と基本記述/フレーム操作	課題（簡易ゲーム）作成の為の準備
	9	ActionScript基礎② 変数/テキスト/プロパティ/ムービーシンボル/Ikボーン	課題（簡易ゲーム）作成の為の準備
	10	ActionScript基礎③ 関数/ボタンイベント	課題（簡易ゲーム）作成の為の準備
	11	ActionScript基礎④ 条件分岐（if文）	課題（簡易ゲーム）作成の為の準備
	12	ActionScript応用① 簡易ゲームの作成①	課題（簡易ゲーム）の作成
	13	ActionScript応用② 簡易ゲームの作成②	課題（簡易ゲーム）の作成
14	ActionScript応用③ 簡易ゲームの作成③	課題（簡易ゲーム）の作成	
15	課題発表①	課題公開	
16	課題発表②	課題公開	
テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントを配布する。 ・2GB以上を保存できるUSBフラッシュメモリを各自で準備すること。 		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントは毎回持参すること。 ・データを保存できるUSBメモリを毎回持参すること。 		
評価	<p>平常点 30点（単元ごとの課題提出状況、到達度を評価） レポート点 70点（課題発表での完成度を評価）</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>日本文化学科が専門科目として開講している上級情報処理士科目「地域文化情報論」「図書館情報技術論」などを中心に、共通科目の情報科目も積極的に受講し、情報処理スキルをさらに高めていきましょう。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

規範的とされる標準語（共通語）と地方の言葉との違いを言語学的に確認する。また、自分の身の回りにある言語学的現象に気付く。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	応用言語学	前期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲間 恵子	2年	授業終了後に教室で受付ける	

学びの準備	ねらい 規範的な標準語を学ぶだけでなく、それを応用し、地方の言葉にもある言語学的な現象を見抜く力を身につける。また、伝統的な琉球諸語も学んだ人には、二つの言語が接触したときにおこる現象についての知識を手に入れる。日常的な言葉の使用実態をデータ化し、理論にもとづいた整理のしかたを学ぶ。	メッセージ アナウンサーが話すような標準語でもなく、祖父母世代がはなす伝統的な方言でもなく、みなさん自身が日常使う言葉について考えます。耳にする音声、目にする文字すべてが研究対象であることを知ってください。
	到達目標 ねらいにもとづき、規範的な標準語と地方の言葉を区別できるようになる。そのために接触言語についてかかれた論文、社会言語学と言語学の差異を理解する。日常の言語生活から研究材料を取り出し、データ化するトレーニングをする。そのため、講義の各回の内容ごとに、自身が気づいた、論文を読んで思いだした接触言語体験例をあげてもらい、出席カードとともに提出する。9回～10回ごろに、レポートの課題を提示し、データ数を指定して、主に文字資料から言語接触の例を取り出し、分析し、提出する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドダンス・琉球列島の言語とは	
	2	日本語標準語・琉球列島の言葉に関する基本	
	3	接触言語における単語作り1・名詞編	テキストを事前に読む
	4	接触言語における単語作り2・動詞/形容詞編	テキストを事前に読む
	5	助詞にみられる言語接触1 主に格助詞	テキストを事前に読む
	6	助詞にみられる言語接触2 とりたて	テキストを事前に読む
	7	動詞における言語接触1 語幹	テキストを事前に読む
	8	動詞における言語接触2 活用・アスペクト・ムード	テキストを事前に読む
9	動詞における言語接触3 受身・使役・可能 【レポート課題提示】	レポートに関する用例あつめ・分析	
10	形容詞における言語接触1 語幹・意味	レポートに関する用例あつめ・分析	
11	形容詞における言語接触1 活用	レポートに関する用例あつめ・分析	
12	沖縄島北部・奄美諸島における言語接触	レポートに関する用例あつめ・分析	
13	宮古諸島・八重山諸島における言語接触 【レポート提出】		
14	データの収集と分析におけるモラルと作法	自身のレポートのやり方を省みる	
15	レポート解説・まとめ		
16			
実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書は教員で用意する。配布日を除き、講義の進捗を考え、次回に進みそうな範囲は読んでおくこと。講義ではあえて何ページまでとは指定しない。日本語・琉球諸語以外の「接触言語」の研究書なども参考になる。		
	学びの手立て 身近にある郷土関係図書を読み、接触言語的表現がないか参考にする。国語、日本語、言語学の専門用語をもちいた説明がなぜ必要なのか考えながら受講する。		
	評価 各回の課題、内容、取組み具合30%。レポート60%、出席10%とする。15回の講義のうち、3分の2以上の欠席は不可とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本語標準語、琉球諸語、接触言語に関連する分野。日常の言葉遣いに敏感になる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	海外文化体験実習	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	兼本 敏	4年	兼本敏 kanemoto@okiu.ac.jp	研究室5-501

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この科目は、「多文化間コミュニケーション」コースが提供する「ジャパノロジー」「比較文化論」「コミュニケーションスキル」「多文化共生論」などで既習した知識を自ら海外での文化体験を通して、実際に他文化に触れ、国際的視野を広げる機会を得られるように設けられた科目です。語学能力やコミュニケーション能力を向上させ、異文化理解(多文化理解)を深めることを目標とします。	多文化に興味を持ち、理解しようとすることはグローバル化した現代社会で活躍するための基本です。国外での実体験を通し得られる新たな発見や理解がグローバルな視野を築く基礎になり、国際感覚を育むことになります。
到達目標	訪問先の地域の「通」になれるように地理・歴史・文化を広く理解し、国外体験を通して各自が得た国際感覚・知的理解を言葉で表現できるレベルに至るため、次の目標の達成をめざします。 (1) 事前学習で訪問先の地域に関する基本的な語学・知識を修得することができる。 (2) 訪問先の地域での実体験を通じて、コミュニケーションの技能や多文化理解を深めることができる。 (3) 研修内容を自覚的に内省し、その内容について報告書にまとめることで、成果を他者に発信することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	事前研修(本学内)	オリエンテーション
	2	事前研修(本学内)	訪問先について調べる
	3	事前研修(本学内)	訪問先について調べる
	4	事前研修(本学内)	訪問先の最新情報の共有と確認
	5	訪問先での実体験(事前研修での計画の実践)	訪問先の最新情報の共有と確認
	6	訪問先での実体験(事前研修での計画の実践)	訪問先の最新情報の共有と確認
	7	訪問先での実体験(事前研修での計画の実践)	訪問先の最新情報の共有と確認
	8	訪問先での実体験(事前研修での計画の実践)	訪問先の最新情報の共有と確認
	9	訪問先での実体験(事前研修での計画の実践)	訪問先の最新情報の共有と確認
	10	訪問先での実体験(事前研修での計画の実践)	訪問先の最新情報の共有と確認
	11	訪問先での実体験(事前研修での計画の実践)	訪問先の最新情報の共有と確認
	12	訪問先での実体験(事前研修での計画の実践)	訪問先の最新情報の共有と確認
	13	帰国報告書の反省会	資料の整理
14	報告書作成	報告書の確認	
15	報告書作成	報告書の確認	
16	相互評価および修正	最終提出	
テキスト・参考文献・資料など	訪問先地域に関するあらゆる情報を可能な限り収集する。 日本文化学科が提供する関連科目の復習。 共通科目で提供される訪問先の情報の確認など。		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問先地域の「鼻高さん」になれるように地理、歴史、文化を事前に調べる。 ・本学が提供する語学・文化理解に関連する科目で既習した知識を実体験して「鼻高さん知識」の確認、修正、追加を行う。 ・帰国後、先輩、後輩や友人に異文化体験を紹介し、自分が感じた事、学んだ事を言語(発表と報告書)で表現する。 ※事前研修では詳細に具体的に調べ、現地では、帰国後の報告書の作成を想定し日記や写真などの記録を取る。		
評価	当該科目における成績評価は、「事前研修(20%)」「研修先での活動(40%)」「帰国報告書の提出(40%)」の合計で評価する。全体での活動と個別での活動は事前に計画し報告してもらう。全体行動と個別活動の評価は「研修先活動」に含まれる。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 国際感覚を磨くのに役立つ科目です。出発前の準備も大切です。また訪問先で自分自身に対する新たな発見があるはずです。帰国後には新たな自分を形成に寄与する科目の履修や勉強(語学・歴史・地理・文化関連科目など)を希望します。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	漢文学 I	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	2年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 琉球は、様々な国々と接触し、交流してきた歴史がありますが、漢文による記録はたいへん重要なものとなっています。本講義では、東洋の共通語でもあった漢文によって表現された琉球の文化的な事象について考えます。具体的には漢文によって書かれた琉球文化の記述を読み解く作業を行います。	メッセージ 本講義では、「課題の提示」「レジュメの準備および発表」「学生および教員によるコメント・討議」の繰り返しによって、漢文による琉球文化の表現を考えていきます。
	到達目標 漢文の基本的な句法を理解し、訓読や読解ができるようになること。琉球文化が、漢文によって、どのように伝えられてきたかを理解すること。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	琉球の地名の由来	レジュメの準備・宿題
	2	琉球の産業の由来	レジュメの準備・宿題
	3	琉球への漂流者たち	レジュメの準備・宿題
	4	琉球の龍宮伝説	レジュメの準備・宿題
	5	聖所の由来（1） 白銀堂	レジュメの準備・宿題
	6	聖所の由来（2） 普天間宮	レジュメの準備・宿題
	7	聖所の由来（3） 聖なる石	レジュメの準備・宿題
	8	聖所の由来（4） 聖なる泉	レジュメの準備・宿題
	9	祭事の由来（1） 鬼餅	レジュメの準備・宿題
	10	祭事の由来（2） ナーパイ祭	レジュメの準備・宿題
	11	琉球の天女伝説	レジュメの準備・宿題
	12	琉球の英雄伝説（1） 若き日の察度王	レジュメの準備・宿題
	13	琉球の英雄伝説（2） 護佐丸と阿摩和利	レジュメの準備・宿題
14	琉球の英雄伝説（3） 久米島・笠末若茶良	レジュメの準備・宿題	
15	琉球の英雄伝説（4） 伊良部島・豊見氏親	期末試験の準備	
16	期末試験	復習	
テキスト・参考文献・資料など 琉球漢文の選集をテキストとして使用します。漢和辞典を各自毎回持参してください（紙媒体・電子辞書いずれも可）。			
学びの手立て 出席日数が3分の2に満たない者は単位を与えません。発表形式の授業です。発表担当者は責任をもって発表すること。			
評価 平常点（出席を含む）、試験、宿題の解答状況、レポート等で総合的に判断します。平常点では、授業に対する姿勢（積極的な発言など）、授業における発表の内容についても評価します。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本文学を読む I～IV、琉球文学を読む I・II
-------	--

※ポリシーとの関連性

日本文化や琉球文化に専門的な知識・能力を持ち、多文化共生を目指すために開講する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	漢文学Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	2年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 琉球は、様々な国々と接触し、交流してきた歴史がありますが、漢文による記録はたいへん重要なものとなっています。本講義では、東洋の共通語でもあった漢文によって表現された琉球の文化的な事象について考えます。具体的には漢文によって書かれた琉球文化の記述を読み解く作業を行います。	メッセージ 本講義では、「課題の提示」「レジュメの準備および発表」「学生および教員によるコメント・討議」の繰り返しによって、漢文による琉球文化の表現を考えていきます。
	到達目標 漢文の基本的な句法を理解し、訓読や読解ができるようになること。琉球文化が、漢文によって、どのように伝えられてきたかを理解すること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：組踊と漢文資料	レジュメの準備・宿題
	2	「二童敵討」の漢文資料（1）	レジュメの準備・宿題
	3	「二童敵討」の漢文資料（2）	レジュメの準備・宿題
	4	「執心鐘入」の漢文資料（1）	レジュメの準備・宿題
	5	「執心鐘入」の漢文資料（2）	レジュメの準備・宿題
	6	「銘苺子」の漢文資料（1）	レジュメの準備・宿題
	7	「銘苺子」の漢文資料（2）	レジュメの準備・宿題
	8	「孝行之巻」の漢文資料	レジュメの準備・宿題
9	「忠士身替」の漢文資料	レジュメの準備・宿題	
10	「巡見官」の漢文資料	レジュメの準備・宿題	
11	「万歳敵討」「未生の縁」の漢文資料	レジュメの準備・宿題	
12	「身替忠女」「大城崩」の漢文資料	レジュメの準備・宿題	
13	「矢蔵之比屋」の漢文資料	レジュメの準備・宿題	
14	「忠臣仲宗根豊見親」の漢文資料	レジュメの準備・宿題	
15	「我数之子」の漢文資料	期末試験の準備	
16	期末試験	復習	
	テキスト・参考文献・資料など 琉球漢文の選集をテキストとして使用します。漢和辞典を各自毎回持参してください（紙媒体・電子辞書いずれも可）。		
	学びの手立て 出席日数が3分の2に満たない者は単位を与えません。発表形式の授業です。発表担当者は責任をもって発表すること。		
	評価 平常点（出席を含む）、試験、宿題の解答状況、レポート等で総合的に判断します。平常点では、授業に対する姿勢（積極的な発言など）、授業における発表の内容についても評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本文学を読むⅠ～Ⅳ、琉球文学を読むⅠ・Ⅱ
-------	--------------------------------------

※ポリシーとの関連性 自文化を認識し発信するための表現力や感性を磨き、地球市民としての語学力と表現力、そして自己表現力を身につけていく。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語コミュニケーション演習	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-島村 麗	4年	l-shimamura@hotmail.co.jp 080-3968-8867	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	多様な文化を背景とした人々の効果的なコミュニケーションの方法を考えながら、自文化に関する知識や認識を英語という媒介語を用いて深めていく。そしてそれらを効果的に発信する方法を身につけ、国際社会に積極的に関わっていく基盤を整えていく。世界共通の言語となりつつある英語を道具として使い、グローバル時代に必要となる調整力を身につけていく。	自文化について、特に伝えたいことや話し合ってみたいこと、意見を求めてみたいこと等を常日頃から考え、日本語ではなく英語等の媒介語を用いて行う時の鍵は何なのか等、問題意識を持ち、実際のコミュニケーションを楽しんでほしい。
到達目標	伝えたい、継承したい、疑問に思う、一緒に考えたい、発展させたいと考える課題を見つける。それを世界共通語になりつつある英語で、わかりやすく伝える方法を学んでいく。ゲストとの交流や、メディア等も駆使して多様な人々に英語で伝えるという生の経験を重ね、多文化共生社会で生きていることを実感し、コミュニケーションの方法を磨いていく。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	Talking about Japan ① 日本語	課題①
	3	Presentation (Okinawan Geography and Nature - 沖縄の地理と自然)	
	4	Talking about Japan ② 日本を話す ②	課題②
	5	Presentation (Okinawan History and Community - 沖縄の歴史と社会)	
	6	ゲスト スピーカー ①	
	7	Talking about Japan ③ 日本を話す ③	課題③
8	Presentation (U.S Bases & Lifestyle of Okinawa - 沖縄の基地と生活)		
9	Visiting Okinawa International Center		
10	Inviting foreign friends		
11	Talking about Japan ④ 日本を話す④	課題④	
12	Presentation (Okinawan Culture & the Future - 沖縄の文化と未来)		
13	ゲスト スピーカー ②		
14	YouTube による発信	課題⑤	
15	交流会での発信		
16	まとめ		
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	「Talking about Japan」Asahi Press, 「沖縄の素顔-Profile of Okinawa」テクノ, 「英語で話す日本の文化-Japanese as I See It」講談社バイリンガル・ブックス、その他の資料を随時配布するが、情報収集力を付けるためにも各自が自主的に資料を収集することも期待される。		
	学びの手立て		
	・日常的に、あるいは、社会やその他に、問題意識をもち、課題に取り組むこと。 ・英語によるコミュニケーション力をつけていくことにもなるので、地道に積み上げていこう。 ・伝えたい、コミュニケーションしたいという気持ちを大切に、生の現場体験を重ねて、コミュニケーション力をつけていこう。		
	評価		
	出席、意欲、活動や課題への取り組み、プレゼンテーション等、総合的に判断する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 多様な人々とのコミュニケーションに臆することなく、自分の中に眠っている力を引き出していこう。
-------	---

※ポリシーとの関連性 自文化、他文化への理解を深め、多文化共生社会で生きていけるコミュニケーション能力を養う。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	グローバルコミュニケーション論	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	奥山貴之（3回）、大城朋子（3回）、上江洲律子（3回）、兼本敏（3回）、社会人特別講師：孫恵仁（3回）	1年	授業終了後に受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	自文化・他文化を学習・理解し、多文化共生社会に適応できるコミュニケーション能力を身につけることを目標とする。	この授業では、自文化・他文化への理解を深めながら、色々な活動に取り組みます。色々な人とコミュニケーションを取りながら活動をするがありますが、そうした活動が苦手な人もまずは一歩踏み出してみましよう。
	到達目標	
	・自己・自文化を再認識し、理解を深める。 ・米国ハワイ・中国・韓国・ヨーロッパの言語や文化を学びながら、自文化と他文化の類似点・相違点を理解し尊重できるようになる。 ・活動に取り組み、他者との関わる中で、多様な見方・考え方ができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、日本のグローバル化①	「グローバル」のイメージを考える
	2	日本のグローバル化② 社会	課題の作成
	3	日本のグローバル化③ 言語・文化	課題の作成
	4	ハワイ文化を学ぼう1:歴史、ハワイ語会話1	調査・発表の準備
	5	ハワイ文化を学ぼう2:言語文化社会、生活・年中行事、ハワイ語会話2	調査・発表の準備
	6	ハワイ文化を学ぼう3:移民と県系・日系社会、ハワイ語会話3	調査・発表の振り返り
	7	韓国文化を学ぼう1:韓国文化を学ぼう1:言語—ハンゲルの誕生とその構造	課題の作成
	8	韓国文化を学ぼう2:韓国文化を学ぼう2:歴史—朝鮮時代の日韓交流	課題の作成
	9	韓国文化を学ぼう3:韓国文化を学ぼう3:文化、社会—現代における日韓交流	課題の作成
	10	ヨーロッパに触れてみると①言語の公平性	課題の作成
	11	ヨーロッパに触れてみると②言語の対立	課題の作成
	12	ヨーロッパに触れてみると③言語から広がる世界	課題の作成
	13	中国の文化と歴史を知ろう!(文字と言葉を中心に)①	漢字の読みと構造を復習しておく
14	中国の文化と歴史を知ろう!(文字と言葉を中心に)②	漢字の読みと構造を復習しておく	
15	現代の「中国語」とは?(日本語や英語との相似と相違を中心に)	英語の基本文型を復習しておく	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 担当教員が適宜プリント等を準備する。参考文献は講義の中で紹介する。		
	学びの手立て ※クラス内の活動を通してコミュニケーション能力の向上を図ります。積極的に参加してください。 ※シラバスは、クラスの状況や授業の進捗状況によって変わることがあります。		
	評価 各パートごとに発表、レポート等を課し、その到達度により評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「比較文化論」「ジャパノロジーⅠ・Ⅱ」 身近な他者から始まり、様々な人との関わりの中で学んでいきましょう。 協定校への交換留学、各種検定試験など、色々なことへのチャレンジにつなげていってください。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	言語文化接触論 I	前期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	3年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>琉球は、様々な国々と接触し、交流してきた歴史があります。また、現在の国際化や多文化共生の時代には、日本語以外の言語による琉球文化の発信も求められています。本講義では、英語などの外国語によって書かれた琉球の言語や文化の記述を読み解く作業を行います。</p> <p>到達目標</p> <p>琉球の言語や文化が、英語によって、どのように伝えられてきたか、あるいは、現在、どのように伝えられようとしているかを理解し、自らが英語によって発信できるようになることを目標とします。</p>	<p>本講義では、「課題の提示」「レジュメの準備および発表」「学生および教員によるコメント・討議」の繰り返しによって、日本語以外の言語、特に英語による琉球文化の表現を考えていきます。</p>

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>オリエンテーション・課題の提示</td><td>レジュメ作成</td></tr> <tr><td>2</td><td>琉球文化の英語テキスト読解①</td><td>レジュメ作成</td></tr> <tr><td>3</td><td>琉球文化の英語テキスト読解②</td><td>レジュメ作成</td></tr> <tr><td>4</td><td>琉球文化の英語テキスト読解③</td><td>レジュメ作成</td></tr> <tr><td>5</td><td>琉球文化の英語テキスト読解④</td><td>レジュメ作成</td></tr> <tr><td>6</td><td>琉球文化の英語テキスト読解⑤</td><td>レジュメ作成</td></tr> <tr><td>7</td><td>琉球文化の英語テキスト読解⑥</td><td>レジュメ作成</td></tr> <tr><td>8</td><td>琉球文化の英語テキスト読解⑦</td><td>レジュメ作成</td></tr> <tr><td>9</td><td>琉球文化の英語テキスト読解⑧</td><td>レジュメ作成</td></tr> <tr><td>10</td><td>琉球文化の英語テキスト読解⑨</td><td>レジュメ作成</td></tr> <tr><td>11</td><td>琉球文化の英語テキスト読解⑩</td><td>レジュメ作成</td></tr> <tr><td>12</td><td>琉球文化の英語テキスト読解⑪</td><td>レジュメ作成</td></tr> <tr><td>13</td><td>琉球文化の英語テキスト読解⑫</td><td>レジュメ作成</td></tr> <tr><td>14</td><td>琉球文化の英語テキスト読解⑬</td><td>期末試験対策</td></tr> <tr><td>15</td><td>期末試験</td><td>後期に向けた取組</td></tr> <tr><td>16</td><td>予備日</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	オリエンテーション・課題の提示	レジュメ作成	2	琉球文化の英語テキスト読解①	レジュメ作成	3	琉球文化の英語テキスト読解②	レジュメ作成	4	琉球文化の英語テキスト読解③	レジュメ作成	5	琉球文化の英語テキスト読解④	レジュメ作成	6	琉球文化の英語テキスト読解⑤	レジュメ作成	7	琉球文化の英語テキスト読解⑥	レジュメ作成	8	琉球文化の英語テキスト読解⑦	レジュメ作成	9	琉球文化の英語テキスト読解⑧	レジュメ作成	10	琉球文化の英語テキスト読解⑨	レジュメ作成	11	琉球文化の英語テキスト読解⑩	レジュメ作成	12	琉球文化の英語テキスト読解⑪	レジュメ作成	13	琉球文化の英語テキスト読解⑫	レジュメ作成	14	琉球文化の英語テキスト読解⑬	期末試験対策	15	期末試験	後期に向けた取組	16	予備日	
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																	
	1	オリエンテーション・課題の提示	レジュメ作成																																																	
	2	琉球文化の英語テキスト読解①	レジュメ作成																																																	
3	琉球文化の英語テキスト読解②	レジュメ作成																																																		
4	琉球文化の英語テキスト読解③	レジュメ作成																																																		
5	琉球文化の英語テキスト読解④	レジュメ作成																																																		
6	琉球文化の英語テキスト読解⑤	レジュメ作成																																																		
7	琉球文化の英語テキスト読解⑥	レジュメ作成																																																		
8	琉球文化の英語テキスト読解⑦	レジュメ作成																																																		
9	琉球文化の英語テキスト読解⑧	レジュメ作成																																																		
10	琉球文化の英語テキスト読解⑨	レジュメ作成																																																		
11	琉球文化の英語テキスト読解⑩	レジュメ作成																																																		
12	琉球文化の英語テキスト読解⑪	レジュメ作成																																																		
13	琉球文化の英語テキスト読解⑫	レジュメ作成																																																		
14	琉球文化の英語テキスト読解⑬	期末試験対策																																																		
15	期末試験	後期に向けた取組																																																		
16	予備日																																																			
<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>その都度指示します。英和辞典を各自毎回持参してください（紙媒体・電子辞書いづれも可）。</p>																																																				
<p>学びの手立て</p> <p>出席日数が3分の2に満たない者は単位を与えません。発表形式の授業です。発表担当者は責任をもってレジュメを準備し発表すること。発表の分担はオリエンテーションのときに説明します。</p>																																																				
<p>評価</p> <p>平常点（出席を含む）、試験、レポート等で総合的に判断します。平常点では、授業に対する姿勢（積極的な発言など）、授業における発表の内容についても評価します。</p>																																																				

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>多文化共生論、地域文化情報論、コミュニケーションスキル I・II など。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	言語文化接触論Ⅱ	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	3年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>琉球は、様々な国々と接触し、交流してきた歴史があります。また、現在の国際化や多文化共生の時代には、日本語以外の言語による琉球文化の発信も求められています。本講義では、英語などの外国語によって書かれた琉球の言語や文化の記述を読み解く作業を行います。</p>	<p>本講義では、「課題の提示」「レジュメの準備および発表」「学生および教員によるコメント・討議」の繰り返しによって、日本語以外の言語、特に英語による琉球文化の表現を考えていきます。</p>
到達目標	<p>琉球の言語や文化が、英語によって、どのように伝えられてきたか、あるいは、現在、どのように伝えられようとしているかを理解し、自らが英語によって発信できるようになることを目標とします。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・課題の提示	レジュメ作成
	2	琉球文化の英語テキスト読解①	レジュメ作成
	3	琉球文化の英語テキスト読解②	レジュメ作成
	4	琉球文化の英語テキスト読解③	レジュメ作成
	5	琉球文化の英語テキスト読解④	レジュメ作成
	6	琉球文化の英語テキスト読解⑤	レジュメ作成
	7	琉球文化の英語テキスト読解⑥	レジュメ作成
8	琉球文化の英語テキスト読解⑦	レジュメ作成	
9	琉球文化の英語テキスト読解⑧	レジュメ作成	
10	琉球文化の英語テキスト読解⑨	レジュメ作成	
11	琉球文化の英語テキスト読解⑩	レジュメ作成	
12	琉球文化の英語テキスト読解⑪	レジュメ作成	
13	琉球文化の英語テキスト読解⑫	レジュメ作成	
14	琉球文化の英語テキスト読解⑬	期末試験対策	
15	期末試験	来期に向けた取組	
16	予備日		
テキスト・参考文献・資料など	その都度指示します。英和辞典を各自毎回持参してください（紙媒体・電子辞書いづれも可）。		
学びの手立て	出席日数が3分の2に満たない者は単位を与えません。発表形式の授業です。発表担当者は責任をもってレジュメを準備し発表すること。発表の分担はオリエンテーションのときに説明します。		
評価	平常点（出席を含む）、試験、レポート等で総合的に判断します。平常点では、授業に対する姿勢（積極的な発言など）、授業における発表の内容についても評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 多文化共生論、地域文化情報論、コミュニケーションスキルⅠ・Ⅱなど。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	現代沖縄文学論	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	黒澤 亜里子	2年		

学びの準備	ねらい 日本・沖縄の近現代史をふまえ、「沖縄文学」の成立と意義について考える。	メッセージ
	到達目標 1 沖縄文学の歴史や特質について理解する。 2 現代小説を中心に作品を読み解き、沖縄文学の成立と意義について考える。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 沖縄文学概説	基礎知識を習得する
	2	I 戦前期—沖縄文学の発端（山城正忠、池宮城積宝、久志美沙子、山之口獺ほか）	テキストを読解する
	3	II 戦後期—アメリカ統治下の文学	同上
	4	III 戦後期—復帰後の文学	同上
	5	IV 現代小説を読む① 大城立裕「棒兵隊」	テキストの予習
	6	現代小説を読む② 霜多正次「虜囚の哭」	同上
	7	現代小説を読む③ 東峰夫「オキナワの少年」	同上
	8	現代小説を読む④ 吉田スエ子「嘉間良心中」	同上
	9	現代小説を読む⑤ 又吉栄喜「カーニバル闘牛大会」	同上
	10	現代小説を読む⑥ 目取真俊「軍鶏」	同上
	11	現代小説を読む⑦ 山野端信子「鬼火」	同上
	12	現代小説を読む⑧ 大城貞俊「K 共同墓地死亡者名簿」	同上
	13	現代小説を読む⑨ 崎山多美「見えないマチからシヨンカネーが」	同上
	14	現代詩歌を読む	
15	まとめと課題—〈沖縄文学〉という問い		
16	期末試験（レポート）	レポート提出	
テキスト・参考文献・資料など テキスト：①大城貞俊『「沖縄文学」への招待』沖縄タイムス社、2015年 ②川村湊編『現代沖縄文学作品選』講談社文芸文庫、2011年 参考文献：岡本恵徳ほか編『沖縄文学選』勉誠社、2015年			
学びの手立て 代表的な沖縄文学の作品をできるだけ多く読むことが望ましい。			
評価 事前学習として課外レポートや学期末試験により総合的に評価する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性 専門分野（文学研究）を学ぶための基礎となる理論を身につけ、応用する力を育てる。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	現代文学理論 I	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	3年	y.murakami@okiu.ac.jp 5号館404研究室	

学びの準備	ねらい 文学の読解に有用な理論を広く学び、適切に応用できる力を身につける。	メッセージ 理論を通して文学を読むとき、ストーリーを理解する、物語を楽しむというのとは別のおもしろさが見えてきます。作者と読者の関係性、文学テキストの背景となっている都市に隠された意義、身体感覚をたどることで見えてくる発見……理論の先にある文学テキストの読み方を探っていきましょう。
	到達目標 文学理論の基礎を理解し、論理的な思考のスタイルを身に付ける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドダンスー欲望の三角関係	シラバスを読んでおく。
	2	テキスト論	テキストについて復習する。
	3	「作者」と「読者」	作者と読者について復習する。
	4	「主人公」なるもの	主人公について復習する。
	5	記号論から構造主義へ	記号論・構造主義を理解する。
	6	物語論と「語り」	物語論について復習する。
	7	森鷗外「舞姫」①ー都市論の視点から	指定された作品を通読する。
	8	森鷗外「舞姫」②ー都市空間と住居空間	指定された作品を通読する。
9	目取真俊「水滴」①ー身体論の視点から	指定された作品を通読する。	
10	目取真俊「水滴」②ー身体をめぐる「水」の循環	指定された作品を通読する。	
11	脱構築	脱構築について復習する。	
12	オリエンタリズム	オリエンタリズムの復習をする。	
13	ジェンダー・セクシュアリティ	ジェンダー論について復習する。	
14	クィア・スタディーズー映画「セルロイド・クローゼット」を通して	クィア表象について理解を深める。	
15	トラウマについてー映画「父と暮せば」を通して	レポートに向けての勉強。	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示する。 参考書としては石原千秋・木股知史・小森陽一・島村輝・高橋修・高橋世織『読むための理論ー文学・思想・批評』（世織書房）を推奨する。		
	学びの手立て 文学理論に関心を寄せる学生を広く受け入れる。 理論を学ぶ際には文学作品の実作に触れながら説明を進めるため、事前事後学習として多くの文学作品を読むことが望ましい。		
	評価 レポートによる評価(80%)、小課題の提出および受講態度など(20%)。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目は「現代文学理論Ⅱ」。理論を通して文学を読む読書姿勢を身につけてほしい。
-------	---

※ポリシーとの関連性

文学テキストの読解を通して現代社会を生きるために必要な問題関心を深め、理論に基づいた思考力を養う。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	現代文学理論Ⅱ	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	3年	y.murakami@okiu.ac.jp 5号館404研究室	

学びの準備	ねらい 現代文学理論Ⅰで学んだことを発展させ、理論を駆使した文学の読み方を身に付ける。	メッセージ 戦後から現代にかけての文学テキストを中心に扱います。理論に基づいた思考を展開することを心がけながら、現代社会の問題について関心を深めてください。
	到達目標 文学理論を踏まえた上で注目するポイントや問題設定を明確にし、受講生それぞれがテキスト読解の可能性を広げていくことを目標とする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読んでおく。
	2	小林勝「フォード・一九二七年」①—コロニアリズムの問題点	指定された作品を読んでくる。
	3	小林勝「フォード・一九二七年」②—植民地二世と銃	指定された作品を読んでくる。
	4	林京子「雛人形」①—引き揚げと戦後	指定された作品を読んでくる。
	5	林京子「雛人形」②—フェミニズムの視点から	指定された作品を読んでくる。
	6	目取真俊「面影と連れて」①—ツーリズムと開発	指定された作品を読んでくる。
	7	目取真俊「面影と連れて」②—被害者の声を奪う暴力	指定された作品を読んでくる。
	8	小田実「アボジを踏む」①—ポストコロニアリズムの視点から	指定された作品を読んでくる。
9	小田実「アボジを踏む」②—「難死」の思想	指定された作品を読んでくる。	
10	黒澤明「夢」より「トンネル」—「難死」に踏みとどまる	鑑賞した映画の感想をまとめる。	
11	黒澤明「夢」より「赤富士」・「鬼哭」・「水車のある村」—核時代を生きる	鑑賞した映画の感想をまとめる。	
12	川上弘美「神様2011」—震災と文学	指定された作品を読んでくる。	
13	木村友祐「野良ビトたちの燃え上がる肖像」①—格差と貧困	指定された作品を読んでくる。	
14	木村友祐「野良ビトたちの燃え上がる肖像」②—「他者」とともに生きるための言葉	指定された作品を読んでくる。	
15	総論	レポートに向けての勉強。	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示する。 参考書としては石原千秋・木股知史・小森陽一・島村輝・高橋修・高橋世織『読むための理論—文学・思想・批評』（世織書房）を推奨する。		
	学びの手立て 現代文学理論Ⅰを受講していることが望ましい。 文学作品を適宜取り上げながら理論を説明していくため、事前・事後学習として文学作品の読書を求める。		
	評価 レポートによる評価(80%)、小課題の提出および受講態度(20%)。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 理論を理解することで、自分の考えや論点を明確にし、今後の学習意欲を高めてほしい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国語科教材研究演習Ⅰ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-國場 厚子	3年	ptt949@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 国語科教材研究の方法を学び、国語科教育法や国語科教育法演習における学び(主に「読むこと」の分野)を拡充する科目である。教科書教材以外の文章(評論・小説・古文・漢文)を読むことによって、読解力や論理的思考力の養成を目指す。	メッセージ わかりやすい解説を心掛けますが、予習、復習も大事にしてください。特に次時の予習は、重要です。自分自身の能力は、自分自身が意識した時に伸びていくものです。積極的な学習を希望します。
	到達目標 (以下の到達目標は評価基準：評価指標と関係します) ①評論の論理構造を理解し、筆者のものの見方、考え方などを読む能力が身についている。②小説中の人物、描写、表現などを読む能力が身についている。③古文に関する語彙、文法、表現を理解し、古文を読む基礎的な読む能力が身についている。④漢文に関する語彙、句形、訓読を理解し、漢文を読む基礎的な読む能力が身についている。①～④の能力が身につくことを到達目標とします	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	日本の古典①語句、文法等の予習
	2	日本の古典①(古文)	日本の古典②語句、文法等の予習
	3	日本の古典②(古文)	日本の古典③語句、文法等の予習
	4	日本の古典③(古文)	日本の古典④語句、文法等の予習
	5	日本の古典④(古文)	中国の古典①漢字、句形等の予習
	6	中国の古典①(漢文)	中国の古典②漢字、句形等の予習
	7	中国の古典②(漢文)	中国の古典③漢字、句形等の予習
	8	中国の古典③(漢文)	中国の古典④漢字、句形等の予習
9	中国の古典④(漢文)	評論①を事前に読むこと。	
10	評論①	評論②を事前に読むこと。	
11	評論②	評論③を事前に読むこと。	
12	評論③	小説①を事前に読むこと。	
13	小説①	小説②を事前に読むこと。	
14	小説②	小説③を事前に読むこと。	
15	小説③	考査の出題範囲の学習。	
16	期末考査	自己採点等で振り返りを行う。	
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ・事前に教材をプリントして配布する。・国語辞典、古語辞典、漢和辞典を必携し、学習に活用してください。「日本語文法基礎Ⅰ・Ⅱ」などで使用した、『基礎からの古典文法』や『漢文必携』などを参考図書とします。		
学びの手立て	○日本文化学科において、国語科教員を目指し、教職課程の科目を受講している方の受講する科目です。○毎回の予習を前提に授業を進めます。所定の範囲の予習を徹底してください。○基礎力テストを毎回行います。テストの振り返りや不足している力の補完目指してください。○辞典類の活用を心掛けてください。理解の進まない文章も、語句調べや意味調べを徹底することによって、授業を充実させることができます。授業中における辞典類の活用も心掛けてください。○読んだ文章ごとに、要点ノート、文学史関連知識ノートを作成することで、この授業の学びを深めることができます。解説などをまとめて受講後の振り返りに役立ててください。		
評価	期末考査60%、基礎力テスト30%、平常点10%) 「期末考査」では、以下の①～④の能力を評価します。①評論の論理構造を理解し、筆者のものの見方、考え方などを読む能力が身についている。②小説中の人物、描写、表現などを読む能力が身についている。③古文に関する語彙、文法、表現を理解し、古文を読む基礎的な読む能力が身についている。④漢文に関する語彙、句形、訓読を理解し、漢文を読む基礎的な読む能力が身についている。「基礎力テスト」では、漢字、語句、語彙などを評価します。「平常点」は受講態度を評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「国語科教材研究演習Ⅱ」、「国語科教育法演習Ⅰ」、「国語科教育法演習Ⅱ」、「日本文学特講Ⅰ」「日本文学特講Ⅱ」などと関連します。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国語科教材研究演習Ⅱ	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-國場 厚子	4年	ptt949@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 国語科教材研究の方法を学び、国語科教育法や国語科教育法演習における学び(主に「読むこと」の分野)を拡充する科目である。教科書教材以外の文章(評論・小説・古文・漢文)を読むことによって、読解力や論理的思考力の養成を目指す。	メッセージ わかりやすい解説を心掛けますが、予習、復習も大事にしてください。特に次時の予習は、重要です。自分自身の能力は、自分自身が意識した時に伸びていくものです。積極的な学習を希望します。
	到達目標 (以下の到達目標は評価基準:評価指標と関係します) ①評論の論理構造を理解し、筆者のものの見方、考え方などを読む能力が身についている。②小説中の人物、描写、表現などを読む能力が身についている。③古文に関する語彙、文法、表現を理解し、古文を読む能力が身についている。④漢文に関する語彙、句形、訓読を理解し、漢文を読む能力が身についている。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	日本の古典①語句、文法等の予習
	2	日本の古典①(古文)	日本の古典②語句、文法等の予習
	3	日本の古典②(古文)	日本の古典③語句、文法等の予習
	4	日本の古典③(古文)	日本の古典④語句、文法等の予習
	5	日本の古典④(古文)	中国の古典①漢字、句形等の予習
	6	中国の古典①(漢文)	中国の古典②漢字、句形等の予習
	7	中国の古典②(漢文)	中国の古典③漢字、句形等の予習
	8	中国の古典③(漢文)	中国の古典④漢字、句形等の予習
	9	中国の古典④(漢文)	評論①を事前に読むこと。
	10	評論①	評論②を事前に読むこと。
	11	評論②	評論③を事前に読むこと。
	12	評論③	小説①を事前に読むこと。
	13	小説①	小説②を事前に読むこと。
	14	小説②	小説③を事前に読むこと。
15	小説③	考査の出題範囲の学習。	
16	期末考査	自己採点等で振り返りを行う。	
	テキスト・参考文献・資料など ・事前に教材をプリントして配布する。・国語辞典、古語辞典、漢和辞典を必携し、学習に活用してください。「日本語文法基礎Ⅰ・Ⅱ」などで使用した、『基礎からの古典文法』や『漢文必携』などを参考図書とします。		
	学びの手立て ○日本文化学科において、国語科教員を目指し、教職課程の科目を受講している方の受講する科目です。○毎回の予習を前提に授業を進めます。所定の範囲の予習を徹底してください。○基礎力テストを毎回行います。テストの振り返りや不足している力の補完目指してください。○辞典類の活用を心掛けてください。理解の進まない文章も、語句調べや意味調べを徹底することによって、授業を充実させることができます。授業中における辞典類の活用も心掛けてください。○読んだ文章ごとに、要点ノート、文学史関連知識ノートを作成することで、この授業の学びを深めることができます。解説などをまとめて受講後の振り返りに役立ててください。		
	評価 (期末考査60%、基礎力テスト30%、平常点10%) 「期末考査」では、①評論の論理構造を理解し、筆者のものの見方、考え方などを読む能力が身についている。②小説中の人物、描写、表現などを読む能力が身についている。③古文に関する語彙、文法、表現を理解し、古文を読む基礎的な読む能力が身についている。④漢文に関する語彙、句形、訓読を理解し、漢文を読む基礎的な読む能力が身についている。「基礎力テスト」では漢字、語句などの習得状況を評価します。「平常点」は受講態度を評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「国語科教育法演習Ⅱ」、「日本文学特講Ⅰ」、「日本文学特講Ⅱ」などと関連します。
-------	---

※ポリシーとの関連性 本科目は学問体系の基本を理解し、知的好奇心を高める導入科目に当たる（カリキュラム・ポリシー2）。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名 古典に親しむ	期別	曜日・時限	単位
		前期	水2	2
	担当者 葛綿 正一	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 古典に親しむというのが本講義の目的である。今回は古事記を講読する。	メッセージ 神話とは何か。現代においても様々なメディアで加工され再生産される神話について考えてみてください。
	到達目標 古事記の本文を理解し、レポートを書く。	

学びの準備	到達目標 古事記の本文を理解し、レポートを書く。
-------	-----------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	古事記紹介	テキストの予習
	2	イザナキとイザナミ	テキストの復習と予習
	3	アマテラスとスサノヲ	テキストの復習と予習
	4	オホクニヌシとスクナヒコナ	テキストの復習と予習
	5	アメノオシホミミノミコトとニニギノミコト	テキストの復習と予習
	6	海幸と山幸	テキストの復習と予習
	7	神武東征	テキストの復習と予習
	8	サホビコの反逆	テキストの復習と予習
9	ヤマトタケル	テキストの復習と予習	
10	天之日矛	テキストの復習と予習	
11	仁徳天皇	テキストの復習と予習	
12	木梨之軽太子と衣通王	テキストの復習と予習	
13	目弱王の変	テキストの復習と予習	
14	一言主大神	レポートの作成	
15	レポートの書き方について	レポートの作成	
16	まとめ	レポートの手直し	
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト、中村啓信『古事記』角川ソフィア文庫 参考文献、西郷信綱『古事記注釈』ちくま学芸文庫		
学びの実践	学びの手立て 大きな事典類を引くことを覚えてください。		
学びの実践	評価 毎回の小レポートと最後に提出するレポートによって評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「古典に学ぶ」では平家物語を講読する。また「日本古典文学史」では古典文学の流れを概観する。
-------	--

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシー2に対応し、各専門分野における学問体系の基本を理解し、知的好奇心を高めるための「導入科目」です。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	古典に親しむ	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	1年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、『万葉集』を中心に学びながら、日本の古典文学に関する知識を深めていきます。「ことば学びの放射線」は国語教育学者中渕正堯氏が提唱している国語教育観です。『万葉集』のことば学びを中心に据えて、様々な事柄に学びを結びつけていきます。	古典は、今も生きています。私たちよりも長く生きています。その中にどんな学びがあるのでしょうか。講義は学生との対話を積極的に取り入れます。学びを深める発言や質問を期待します。
到達目標	<p>(1) 『万葉集』の歌を理解し、その歌に関する知識をより深めるために、文章を書いたり、発表をしたりすることができる。</p> <p>(2) 古典に関する基礎知識や基礎的な技能を学び、それを活用することができる。</p> <p>(3) のびやかで豊かな詩情をもつことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	『万葉集』事始め	
	2	磐姫皇后歌／雄略天皇歌	
3	舒明天皇歌と大和		
4	有間皇子事件と奈良、和歌山		
5	額田王とは誰なのか		
6	大伯皇女と大津皇子ー二上山、折口信夫『死者の書』		
7	壬申の乱①		
8	壬申の乱②		
9	柿本人麻呂の歌①		
10	柿本人麻呂の歌②		
11	柿本人麻呂の歌③		
12	グループワーク①		
13	グループワーク②		
14	グループワーク③		
15	学習成果発表会		
16	期末考査		
テキスト・参考文献・資料など	<p>必要な資料はプリントを配布します。『万葉集』は各社が出版してしましますが、上下二巻本が使いやすい。おすすめは伊藤博校注『万葉集』（角川文庫）です。</p>		
学びの手立て	『万葉集』を学んで、演劇的表現活動（劇化、対談、プレゼンテーション、ニュースと実況中継等）を行ってまいります。		
評価	<p>期末考査（40%）＋授業態度・出席等の勤怠状況（30%）＋学習成果発表（30%）</p> <p>三分の一以上の欠席があるものには単位を認定しません。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

本科目は学問体系の基本を理解し、知的好奇心を高める導入科目に当たる（カリキュラム・ポリシー2）。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	古典に学ぶ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	1年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 古典に学ぶというのが本講義の目的である。今回は平家物語を講読する。	メッセージ 歴史とは何か。様々なメディアで加工され再生産される歴史のイメージについて考えてみてください。
	到達目標 平家物語の本文を理解し、レポートを書く。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	平家物語の概観	テキストの予習
	2	巻七、清水冠者	テキストの復習と予習
	3	竹生島詣	テキストの復習と予習
	4	俱利伽羅落	テキストの復習と予習
	5	実盛	テキストの復習と予習
	6	維盛都落	テキストの復習と予習
	7	巻八、山門御幸	テキストの復習と予習
	8	名虎	テキストの復習と予習
9	太宰府落	テキストの復習と予習	
10	猫間	テキストの復習と予習	
11	法住寺合戦	テキストの復習と予習	
12	巻九、いけずきの沙汰	テキストの復習と予習	
13	宇治川先陣	テキストの復習と予習	
14	木曾最期	テキストの復習と予習	
15	小宰相投身	レポートの作成	
16	まとめ	レポートの作成	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト、『平家物語三』岩波文庫 参考文献、『平家物語全註釈』（角川書店）、『平家物語研究事典』（明治書院）		
	学びの手立て 大きな事典類を引くことを覚えてください。		
	評価 毎回の小レポートと最後に提出するレポートによって評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「日本古典文学史」では古典文学の流れを概観する。
-------	---

※ポリシーとの関連性 各専門分野における学問体系の基本を理解し、知的好奇心を高めるための「導入科目」です。(カリキュラムポリシー2)

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	古典に学ぶ	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	1年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 『万葉集』を扱います。『万葉集』の詠まれた故地について学びを深め、文化地理学的な視点で歌を理解することを目指します。また、『万葉集』に詠まれた植物や、その植物を扱った後代の歌を学び植物と歌との関係を学びます。	メッセージ 身近な事象と古典を結びつける目を養いましょう。何気ないことに深まりが見えたとき、どんな世界が現れるのでしょうか。
	到達目標 (1) 万葉故地と万葉歌について理解して歌の解釈ができる。 (2) 万葉植物について理解し、歌の解釈ができる。 (3) のびやかで豊かな詩情を身につける。	

学びの準備	到達目標 (1) 万葉故地と万葉歌について理解して歌の解釈ができる。 (2) 万葉植物について理解し、歌の解釈ができる。 (3) のびやかで豊かな詩情を身につける。
-------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	万葉集 春夏秋冬①	
	2	万葉集 春夏秋冬②	
	3	万葉集 春夏秋冬③	
	4	万葉故地① 滋賀	
	5	万葉故地② 奈良(1)	
	6	万葉故地③ 奈良(2)	
	7	万葉故地④ 和歌山(1)	
	8	万葉故地⑤ 和歌山(2)	
	9	万葉故地⑥ 中国地方	
	10	万葉故地⑦ 九州地方	
	11	万葉植物①	
	12	万葉植物②	
	13	万葉植物③	
	14	万葉植物④	
15	万葉植物⑤		
16	期末考査		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 資料はプリントして配布する。
-------	----------------------------------

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価 期末考査(40%) + 授業態度・出席状況等(30%) + レポート(30%) 三分の一以上の欠席をしたものには単位を認定しません。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性 日本語の言語的及び文化的側面を学び、基本的な知識を身につけ、社会人として自立できるようになる。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	コミュニケーションスキル I	前期	月 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高良 宣孝	3年	e-mail、授業終了後教室で (nobu@11.u-ryuky.ac.jp)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業では、日本語を言語的及び文化的側面を学び、かつ外国語との比較をしながら、日本語がどのような言語なのか、外国語とはどのような類似点・相違点があるのかを学んでいく。更に異文化コミュニケーションの観点から、日本語を言語的・文化的側面から知ることがどのように役立つのかを、一緒に考えていく。	この授業では、日本語に関する言語的・文化的側面を外国語と比較しながら学んでいきます。授業では毎回クイズ（ミニテスト）があつて大変かもしれませんが、興味深い授業になるよう工夫していく予定です。

到達目標
(1) 日本語の言語的・文化的側面が理解できる。 (2) 外国語との類似点・相違点が分かるようになる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション、鈴木：第1章（1）	クイズの勉強、次回の予習
	2	クイズ（1）、鈴木：第1章（2）	クイズの勉強、次回の予習
	3	クイズ（2）、鈴木：第1章（3）、第2章（1）	クイズの勉強、次回の予習
	4	クイズ（3）、鈴木：第2章（2）	クイズの勉強、次回の予習
	5	クイズ（4）、鈴木：第2章（3）	クイズの勉強、次回の予習
	6	クイズ（5）、鈴木：第3章（1）	クイズの勉強、次回の予習
	7	クイズ（6）、鈴木：第3章（2）	クイズの勉強、次回の予習
	8	クイズ（7）、鈴木：第4章（1）	クイズの勉強、次回の予習
	9	クイズ（8）、鈴木：第4章（2）	クイズの勉強、次回の予習
	10	クイズ（9）、鈴木：第4章（3）	クイズの勉強、次回の予習
	11	クイズ（10）、鈴木：第4章（4）	クイズの勉強、次回の予習
	12	クイズ（11）、鈴木：第5章（1）	クイズの勉強、次回の予習
	13	クイズ（12）、鈴木：第5章（2）	クイズの勉強、次回の予習
	14	クイズ（13）、鈴木：第5章（3）	クイズの勉強、次回の予習
15	クイズ（14）、鈴木：第5章（4）	期末試験の為の準備	
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 鈴木孝夫。1990年。『日本語と外国語』。岩波書店。
-------	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の為に、出来る限り予習復習を欠かさないこと。 ・クイズが毎回授業の初めに行なわれるので、遅刻・欠席をしないようにし、しっかりクイズを受けること。
--------	--

評価	クイズ60%、期末試験40% クイズは、前回の授業で学習したもの（教科書の内容及び講師が別途準備して説明したもの）から出します。期末試験は、基本的には授業の初回からが範囲となり、クイズを大きくした形式で行ないません。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 後期では、「コミュニケーションスキルII」を提供し、世界で話されている英語について、またそういった英語と日本人の英語とに何らかの類似点・相違点があるか、を学習していく予定です。ここで学んだことを活かし、自立した社会人となり、異文化とのコミュニケーションを積極的に取ってもらいたいと思います。
-------	--

※ポリシーとの関連性 世界中で話されている様々な英語を言語的・文化的側面から学び、基本的な知識を身につけ社会人として自立できるようにする。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	コミュニケーションスキルⅡ	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高良 宣孝	3年	e-mail、授業終了後教室で (nobu@ll.u-ryuky.ac.jp)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業では、世界中で話されている様々な英語 (World Englishes) を言語的・文化的側面から学ぶ。単にイギリス・アメリカの英語だけではなく、オーストラリア、アジア諸国、アフリカ諸国で話されている英語も学んでいく。そして、日本人が使う英語とに何らかの類似点・相違点があるかを学んでいき、異文化間でのコミュニケーションの大切さを学んでいく。	この授業では、様々な英語を学んでいきます。そして、日本人の話す英語とどのような類似点・相違点があるかも見ていきます。授業では毎回クイズ (ミニテスト) があって大変かもしれませんが、興味深い授業になるよう工夫していく予定です。
到達目標	(1) 世界中で話されている様々な英語について、言語的・文化的側面がしっかり理解できる。 (2) 日本人が話す英語と世界中で話されている様々な英語との類似点・相違点がしっかり理解できる。	

学びの実践	学びのヒント																																																			
	授業計画																																																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>イントロダクション、はじめに、第1部：第1章 (1)</td><td>クイズの勉強、次回の予習</td></tr> <tr><td>2</td><td>クイズ (1)、第1部：第1章 (2)</td><td>クイズの勉強、次回の予習</td></tr> <tr><td>3</td><td>クイズ (2)、第1部：第1章 (3)、第1部：第3章 (1)</td><td>クイズの勉強、次回の予習</td></tr> <tr><td>4</td><td>クイズ (3)、第1部：第3章 (2)</td><td>クイズの勉強、次回の予習</td></tr> <tr><td>5</td><td>クイズ (4)、第1部：第3章 (3)、第1部：第4章 (1)</td><td>クイズの勉強、次回の予習</td></tr> <tr><td>6</td><td>クイズ (5)、第1部：第4章 (2)</td><td>クイズの勉強、次回の予習</td></tr> <tr><td>7</td><td>クイズ (6)、第1部：第4章 (3)</td><td>クイズの勉強、次回の予習</td></tr> <tr><td>8</td><td>クイズ (7)、第2部：第1章 (1)</td><td>クイズの勉強、次回の予習</td></tr> <tr><td>9</td><td>クイズ (8)、第2部：第1章 (2)</td><td>クイズの勉強、次回の予習</td></tr> <tr><td>10</td><td>クイズ (9)、第2部：第2章 (1)</td><td>クイズの勉強、次回の予習</td></tr> <tr><td>11</td><td>クイズ (10)、第2部：第2章 (2)</td><td>クイズの勉強、次回の予習</td></tr> <tr><td>12</td><td>クイズ (11)、第2部：第3章 (1)</td><td>クイズの勉強、次回の予習</td></tr> <tr><td>13</td><td>クイズ (12)、第2部：第3章 (2)</td><td>クイズの勉強、次回の予習</td></tr> <tr><td>14</td><td>クイズ (13)、第2部：第4章</td><td>クイズの勉強、次回の予習</td></tr> <tr><td>15</td><td>クイズ (14)、第3部：第3章</td><td>期末試験の為の準備</td></tr> <tr><td>16</td><td>期末試験</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	イントロダクション、はじめに、第1部：第1章 (1)	クイズの勉強、次回の予習	2	クイズ (1)、第1部：第1章 (2)	クイズの勉強、次回の予習	3	クイズ (2)、第1部：第1章 (3)、第1部：第3章 (1)	クイズの勉強、次回の予習	4	クイズ (3)、第1部：第3章 (2)	クイズの勉強、次回の予習	5	クイズ (4)、第1部：第3章 (3)、第1部：第4章 (1)	クイズの勉強、次回の予習	6	クイズ (5)、第1部：第4章 (2)	クイズの勉強、次回の予習	7	クイズ (6)、第1部：第4章 (3)	クイズの勉強、次回の予習	8	クイズ (7)、第2部：第1章 (1)	クイズの勉強、次回の予習	9	クイズ (8)、第2部：第1章 (2)	クイズの勉強、次回の予習	10	クイズ (9)、第2部：第2章 (1)	クイズの勉強、次回の予習	11	クイズ (10)、第2部：第2章 (2)	クイズの勉強、次回の予習	12	クイズ (11)、第2部：第3章 (1)	クイズの勉強、次回の予習	13	クイズ (12)、第2部：第3章 (2)	クイズの勉強、次回の予習	14	クイズ (13)、第2部：第4章	クイズの勉強、次回の予習	15	クイズ (14)、第3部：第3章	期末試験の為の準備	16	期末試験	
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																	
1	イントロダクション、はじめに、第1部：第1章 (1)	クイズの勉強、次回の予習																																																		
2	クイズ (1)、第1部：第1章 (2)	クイズの勉強、次回の予習																																																		
3	クイズ (2)、第1部：第1章 (3)、第1部：第3章 (1)	クイズの勉強、次回の予習																																																		
4	クイズ (3)、第1部：第3章 (2)	クイズの勉強、次回の予習																																																		
5	クイズ (4)、第1部：第3章 (3)、第1部：第4章 (1)	クイズの勉強、次回の予習																																																		
6	クイズ (5)、第1部：第4章 (2)	クイズの勉強、次回の予習																																																		
7	クイズ (6)、第1部：第4章 (3)	クイズの勉強、次回の予習																																																		
8	クイズ (7)、第2部：第1章 (1)	クイズの勉強、次回の予習																																																		
9	クイズ (8)、第2部：第1章 (2)	クイズの勉強、次回の予習																																																		
10	クイズ (9)、第2部：第2章 (1)	クイズの勉強、次回の予習																																																		
11	クイズ (10)、第2部：第2章 (2)	クイズの勉強、次回の予習																																																		
12	クイズ (11)、第2部：第3章 (1)	クイズの勉強、次回の予習																																																		
13	クイズ (12)、第2部：第3章 (2)	クイズの勉強、次回の予習																																																		
14	クイズ (13)、第2部：第4章	クイズの勉強、次回の予習																																																		
15	クイズ (14)、第3部：第3章	期末試験の為の準備																																																		
16	期末試験																																																			
テキスト・参考文献・資料など	田中春美・田中幸子 編。2012年。『World Englishes 世界の英語への招待』。昭和堂。2400円+税																																																			
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の為に、出来る限り予習復習を欠かさないこと。 ・クイズが毎回授業の初めに行なわれるので、遅刻・欠席をしないようにし、しっかりクイズを受けること。 																																																			
評価	クイズ60%、期末試験40% クイズは、前回の授業で学習したもの (教科書の内容及び講師が別途準備して説明したもの) から出します。期末試験は、基本的には授業の初回からが範囲となり、クイズを大きくした形式で行ないません。																																																			

学びの継続	次のステージ・関連科目 ここで学んだことを活かし、自立した社会人となり、異文化とのコミュニケーションを積極的に取ってもらいたいと思います。
-------	--

※ポリシーとの関連性 中学校国語科書写に必要な知識と技能を学ぶことを主な目的とします。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	書写	前期	金2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-比嘉 徳次	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	中学校の書写教育に必要な知識と技能を習得することを主な目的とします。授業の前半(30分程度)を講義、後半を実技に充てます。講義では筆順の原則や活字と手書き文字の違い、許容の形など、他、楷書に至るまでの文字の成り立ちを概観します。実技では書道と書写の違いを踏まえ、中学校書写の教科書を題材とした授業を行います。	小学校以来筆を触ったことのない人でも大丈夫です。今まで履修する学生は様々でしたので、その人の技量に合った方法で懇切丁寧に指導します。特に添削を中心とした指導になります

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 文字について正しい筆順で速く正しく美しい文字を書くことができる。 いわゆる許容の文字について理解が深まる。 活字と手書きの文字の違いを認識して生徒に指導することができる。 毛筆で培った文字を硬筆に生かして指導することができる。 日常生活の中で毛筆によって文字を書くことができる。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 中学校国語科学習指導要領における書写の位置づけ	学習指導要領を読むこと
	2	筆順の原則① 実技 楷書を書く①	配付資料を読むこと 実技復習
	3	筆順の原則② 実技 楷書を書く②	同上 実技復習
	4	許容の字体について 実技 楷書を書く③	同上 実技復習
	5	漢字の誕生－甲骨文－ 実技 楷書と仮名の調和①	同上 実技復習
	6	金文について 実技 楷書と仮名の調和②	同上 実技復習
	7	篆書について 実技 行書を書く①	同上 実技復習
	8	隸書について 実技 行書を書く②	同上 実技復習
	9	様々な書(草書・木簡など) 実技 行書を書く③	同上 実技復習
	10	書聖王羲之 実技 行書と仮名の調和①	同上 実技復習
	11	楷書の成立 実技 行書と仮名の調和②	同上 実技復習
	12	三過折法について 実技 細字を書く	同上 実技復習
	13	初唐の三大大家について 実技 仮名を書く①	同上 実技復習
	14	顔真卿と明朝体 実技 仮名を書く②	同上 実技復習
15	臨書の方法について 実技 半切1/4に書く	同上 実技復習	
16	期末考査		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストは使用しません。プリントを配布します。 ・参考文献・資料として中学校書写の教科書及び「中国書道史」角井博監修 芸術新聞社刊・「改訂 大学書写・書道教育」加藤達成監修 第一法規株式会社刊が役に立ちます。
-------	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・なるべく休まないこと。「継続は力なり」休まず続けることが大切です。 ・毎時間必要な道具を忘れないこと。
--------	---

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点20パーセント(授業に取り組む姿勢や出席状況など)但し、無断欠席が5回以上になると不可とする ・毎回提出する作品60パーセント。レポート20パーセント。以上のことを総合的に判断して評価する。
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書道実習 書写は書道の一部分です。両方受講することでより効果が上がります。
-------	---

※ポリシーとの関連性 中学校国語科書写に必要な知識と技能を学ぶことを主な目的とします。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	書写	前期	金1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-比嘉 徳次	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 中学校の書写教育に必要な知識と技能を習得することを主な目的とします。授業の前半(30分程度)を講義、後半を実技に充てます。講義では筆順の原則や活字と手書き文字の違い、許容の形など、他、楷書に至るまでの文字の成り立ちを概観します。実技では書道と書写の違いを踏まえ、中学校書写の教科書を題材とした授業を行います。	メッセージ 小学校以来筆を触ったことのない人でも大丈夫です。今まで履修する学生は様々でしたので、その人の技量に合った方法で懇切丁寧に指導します。特に添削を中心とした指導になります
	到達目標 ・文字について正しい筆順で速く正しく美しい文字を書くことができる。 ・いわゆる許容の文字について理解が深まる。 ・活字と手書きの文字の違いを認識して生徒に指導することができる。 ・毛筆で培った文字を硬筆に生かして指導することができる。 ・日常生活の中で毛筆によって文字を書くことができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 中学校国語科学習指導要領における書写の位置づけ	学習指導要領を読むこと
	2	筆順の原則① 実技 楷書を書く①	配付資料を読むこと 実技復習
	3	筆順の原則② 実技 楷書を書く②	同上 実技復習
	4	許容の字体について 実技 楷書を書く③	同上 実技復習
	5	漢字の誕生－甲骨文－ 実技 楷書と仮名の調和①	同上 実技復習
	6	金文について 実技 楷書と仮名の調和②	同上 実技復習
	7	篆書について 実技 行書を書く①	同上 実技復習
	8	隸書について 実技 行書を書く②	同上 実技復習
	9	様々な書(草書・木簡など) 実技 行書を書く③	同上 実技復習
	10	書聖王羲之 実技 行書と仮名の調和①	同上 実技復習
	11	楷書の成立 実技 行書と仮名の調和②	同上 実技復習
	12	三過折法について 実技 細字を書く	同上 実技復習
	13	初唐の三大大家について 実技 仮名を書く①	同上 実技復習
	14	顔真卿と明朝体 実技 仮名を書く②	同上 実技復習
15	臨書の方法について 実技 半切1/4に書く	同上 実技復習	
16	期末考査		
	テキスト・参考文献・資料など ・テキストは使用しません。プリントを配布します。・参考文献・資料として中学校書写の教科書及び「中国書道史」角井博監修 芸術新聞社刊・「改訂 大学書写・書道教育」加藤達成監修 第一法規株式会社刊が役に立ちます。		
	学びの手立て ・なるべく休まないこと。「継続は力なり」休まず続けることが大切です。・毎時間必要な道具を忘れないこと。		
	評価 ・平常点20パーセント(授業に取り組む姿勢や出席状況など)但し、無断欠席が5回以上になると不可とする ・毎回提出する作品60パーセント。レポート20パーセント。以上のことを総合的に判断して評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・書道実習 書写は書道の一部です。両方受講することでより効果が上がります。
-------	--

※ポリシーとの関連性

書の表現を学ぶ上で基礎となる古典についての理解や文字の造形や線質、用具の扱い方などを習得する。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	書道実習	後期	金1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-比嘉 徳次	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>実技を中心とした授業を行います。古典の臨書を通して、各書体について基本的な点画や線質の表し方、字形の構成法を理解し、その用筆・運筆の技法を習得することを主な目的とします。併せて表現の方法にも触れます。また、書写との関連にも配慮するとともに、文房四宝などについても知識を深め、その扱いについても学びます。</p> <p>到達目標</p> <p>①文字についてその時代背景や成り立ちがわかるようになり、普段何気なく使っている文字についての理解が深まります。 ②日常生活の中で筆を使う機会が増え、ポスターや慶弔の袋の上書きなど、様々な場面で筆を使い、生活が豊かになります。 ③毛筆による作品の制作など日常生活が豊かになります。</p>	<p>小学校以来筆を触ったことのない人でも大丈夫です。今まで履修する学生は様々でしたので、その人の技量に合った方法で懇切丁寧に指導します。特に添削を中心とした指導になります。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	楷書を書く－楷書の基本用筆について－	楷書の基本用筆について（復習）
	3	臨書①九成宮醜泉銘	臨書①九成宮醜泉銘（復習）
	4	臨書②雁塔聖教序	臨書②雁塔聖教序（復習）
	5	臨書③張猛龍碑	臨書③張猛龍碑（復習）
	6	行書を書く－行書の基本用筆－	行書の基本用筆（復習）
	7	臨書①蘭亭序	臨書①蘭亭序（復習）
	8	臨書②争坐位稿	臨書②争坐位稿（復習）
	9	隷書を書く－隷書の基本用筆－	隷書の基本用筆（復習）
	10	臨書①曹全碑	臨書①曹全碑（復習）
	11	臨書②史晨碑	臨書②史晨碑（復習）
	12	仮名を書く－仮名の基本用筆－（変体かなにつて含む）	仮名の基本用筆（復習）
	13	漢字仮名交じりの書	題材の選定をしていくこと
14	創作①	題材の選定をしていくこと	
15	創作②		
16			
テキスト・参考文献・資料など			
.テキスト：使用しません。プリントを配布します。			
学びの手立て			
<ul style="list-style-type: none"> なるべく休まないこと。たとえば隷書の学習で基本用筆の授業を受けてないと古典の学習が難しくなります。「継続は力なり」休まず続けることが大切です。 毎時間必要な道具を忘れないこと。 			
評価			
<ul style="list-style-type: none"> 平常点40パーセント（授業に取り組む姿勢や出席状況など）但し、無断欠席が5回以上になると不可とします。 毎回提出する作品60パーセント。以上のことを総合的に判断して評価します。 			

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> 書写 書写は書道の一部です。両方受講することで効果が上がります。
-------	--

※ポリシーとの関連性

書の表現を学ぶ上で基礎となる古典についての理解や文字の造形や線質、用具の扱い方などを習得する。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	書道実習	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-比嘉 徳次	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>実技を中心とした授業を行います。古典の臨書を通して、各書体について基本的な点画や線質の表し方、字形の構成法を理解し、その用筆・運筆の技法を習得することを主な目的とします。併せて表現の方法にも触れます。また、書写との関連にも配慮するとともに、文房四宝などについても知識を深め、その扱いについても学びます。</p> <p>到達目標</p> <p>①文字についてその時代背景や成り立ちがわかるようになり、普段何気なく使っている文字についての理解が深まります。 ②日常生活の中で筆を使う機会が増え、ポスターや慶弔の袋の上書きなど、様々な場面で筆を使い、生活が豊かになります。 ③毛筆による作品の制作など日常生活が豊かになります。</p>	<p>小学校以来筆を触ったことのない人でも大丈夫です。今まで履修する学生は様々でしたので、その人の技量に合った方法で懇切丁寧に指導します。特に添削を中心とした指導になります。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	楷書を書く－楷書の基本用筆について－	楷書の基本用筆について（復習）
	3	臨書①九成宮醜泉銘	臨書①九成宮醜泉銘（復習）
	4	臨書②雁塔聖教序	臨書②雁塔聖教序（復習）
	5	臨書③張猛龍碑	臨書③張猛龍碑（復習）
	6	行書を書く－行書の基本用筆－	行書の基本用筆（復習）
	7	臨書①蘭亭序	臨書①蘭亭序（復習）
	8	臨書②争坐位稿	臨書②争坐位稿（復習）
	9	隷書を書く－隷書の基本用筆－	隷書の基本用筆（復習）
	10	臨書①曹全碑	臨書①曹全碑（復習）
	11	臨書②史晨碑	臨書②史晨碑（復習）
	12	仮名を書く－仮名の基本用筆－（変体かなにつて含む）	仮名の基本用筆（復習）
	13	漢字仮名交じりの書	題材の選定をしていくこと
14	創作①	題材の選定をしていくこと	
15	創作②		
16			
テキスト・参考文献・資料など			
.テキスト：使用しません。プリントを配布します。			
学びの手立て			
<ul style="list-style-type: none"> なるべく休まないこと。たとえば隷書の学習で基本用筆の授業を受けてないと古典の学習が難しくなります。「継続は力なり」休まず続けることが大切です。 毎時間必要な道具を忘れないこと。 			
評価			
<ul style="list-style-type: none"> 平常点40パーセント（授業に取り組む姿勢や出席状況など）但し、無断欠席が5回以上になると不可とします。 毎回提出する作品60パーセント。以上のことを総合的に判断して評価します。 			

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> 書写 書写は書道の一部です。両方受講することで効果が上がります。
-------	--

※ポリシーとの関連性

日本文化学科の自由選択科目です。上級情報処理士Nの資格取得のための必修科目でもあります。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	児童文化論	前期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山口 真也	2年	授業開始前、または授業後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	児童文化としての「マンガ」「アニメーション」を題材として、言論・表現活動のルールとマナーについて広く学習するとともに、その理論に基づいて沖縄の昔話を題材とし子ども向けアニメーションを制作、インターネット上に公開するというプロセスを通して、「ITを用いて沖縄の文化を発信する」ことを目的とする「多文化間コミュニケーションコース」での研究活動のモデル学習を行う。	どのような職業に就くにしてもICTの取得は必須です。日本文化学科にはパソコンが苦手な人が多いようですが、そんな人ほどぜひこの科目を受講しましょう。
到達目標	①1年生必修科目「文化情報処理入門」にて修得した文書処理・表計算処理の技能をベースとして、画像、音声、動画処理を含むマルチメディア情報の処理に求められる基本的なスキルを身に付ける。	
	②インターネット社会において1人1人に求められる基本的な知識として、言論・表現の自由と自主規制の関係を学び、SNS等の日々の情報行動を自律的に管理するためのスキルを身に付ける。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・情報発信のルールとマナー① 言論・表現の自由とネット社会、表現規制法	シラバスを読み、授業に備える
	2	情報発信のルールとマナー② 言論・表現の自由と自主規制の関係	授業の復習・予習
	3	情報発信のルールとマナー③ グループワーク(子ども向け作品にみる自主規制の現状の調査)	練習問題: 自主規制状況の分析
	4	情報発信のルールとマナー④ グループワーク(自主規制状況にみる課題の考察・発表)	練習問題: 自主規制状況の分析
	5	情報発信のルールとマナー⑤ まとめ / 文化情報の発信① 作品の選定・シナリオ作成	シナリオ案を作成する
	6	文化情報の発信② グループワーク(シナリオ案の検討・提出)	シナリオ案を作成する
	7	文化情報の発信③ グループワーク(シナリオの完成)	録音のリハーサル
	8	文化情報の発信④ 音声情報処理 スタジオ録音(本番)	録音のチェック
	9	文化情報の発信⑤ 音声情報処理 音声ファイルの編集方法(ファイルの種類、結合とミキシング)	音声を編集し作品を作る
	10	文化情報の発信⑥ 音声情報処理 音声ファイルの編集方法(フェードイン・フェードアウト他)	音声を編集し作品を作る
	11	文化情報の発信⑦ 画像情報処理 イラストの作成方法	イラストを作成する
	12	文化情報の発信⑧ 画像情報処理 実習(イラスト制作)	イラストを作成する
	13	文化情報の発信⑨ 動画情報処理 アニメーションの編集方法	アニメーションを作成する
14	文化情報の発信⑩ 動画情報処理 実習(アニメーション制作)	アニメーションを作成する	
15	文化情報の発信⑪ 課題提出・ネット公開・プレゼンテーション	YouTubeに公開する	
16			
テキスト・参考文献・資料など			
<ul style="list-style-type: none"> ・プリントを配布する。 ・第6回以降はPC室での授業となるため、教材のデータを保存するためのUSBを各自準備すること。 			
学びの手立て			
<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は上級情報処理士Nの認定科目の1つである。基礎的な情報科目の履修を終えた、資格取得を目指す学生の受講を優先する。 ・欠席回数が全体の2/3を超えた場合は不可となる。 ・図書館スタジオでの録音は受講者の数によって複数の週にまたがって行うことがある。 			
評価			
<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークでの取り組み(20点) ・ソフトウェアの完成度(80点) とし、総合的に評価する。 			

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<ul style="list-style-type: none"> ・上級情報処理士Nの必修科目となっている「アカデミック・セミナー」では、この科目で作成した音声データ、イラストを用いたソフトウェア制作を行います。ぜひ継続して受講しましょう。

※ポリシーとの関連性

国際社会に関わっていく人材として必要不可欠な知識（日本語学）を習得する科目です。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名 ジャパノロジー I	期別	曜日・時限	単位
		前期	金 1	2
	担当者 兼本 敏	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	アポ：kanemoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 多様化する国際社会において自己アイデンティティを認識することの第一歩として日本語、日本文化を再確認し、それらを効果的に発信する知識と技能の習得を目指します。	メッセージ 当然だと思っていることが「なぜ？」と質問されたら、直ぐに調べる習慣を。毎回の講義で小テストがあります。
	到達目標 再学習した「日本語・日本文化」について日本語と外国語で簡潔にプレゼンできるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義と評価について。 ジャパノロジーとは	語句を調べる
	2	文化とアイデンティティ	関連文献を読む
	3	コミュニケーションとは	非言語以外の手段を調べる
	4	海外メディアの中の日本	検索
	5	海外メディアの中の日本	検索
	6	言語と文化：時間と空間と文化	配布資料を精読
	7	言語と文化：挨拶・人称・敬語	配布資料を精読
	8	言語と文化：省略・曖昧表現・	配布資料を精読
	9	言語と文化：外来語・文字表記	配布資料を精読
	10	言語と文化：ことわざ・忌み言葉	配布資料を精読
	11	自然と日本：年中行事	関連文献を読む
	12	自然と日本：年中行事	関連文献を読む
	13	学期末試験	総復習
	14	課題の決定と発表形式	具体的な案を提示
15	課題の質疑	内容の確認	
16	まとめ		
	テキスト・参考文献・資料など 資料を配布するが、情報収集力を養うためにも配布資料の他にも各自で積極的に参考文献の精読を期待する。 主な参考文献： 『日本語事情ハンドブック』大修館 『英語で話す日本の文化 Japan as I see it』講談社 『英語で紹介する日本語辞典』ナツメ社		
	学びの手立て 「なぜだろう」「どうしてだろう」と疑問視する態度とそれに対する説明・解説ができ自分を確立して欲しい。そのためにも情報収集（辞書・ネット・文献など）を習慣化することを期待する。		
	評価 学期末試験（40%） 課題（40%） 毎回の小テスト（20%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本を更に理解を深めるためにも「ジャパノロジーⅡ」の履修を強く勧める。その他「海外語学・文化セミナーⅠ～Ⅴ」等の国際理解を深める科目の履修も期待する。
-------	--

※ポリシーとの関連性

多文化間コミュニケーションコースの学問体系の基本を理解し、知的好奇心を高めるための導入科目です。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ジャパノロジーⅡ	後期	金2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	奥山 貴之	2年	Emailや、授業後教室で受けつける。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	日本や沖縄について捉え直すこと、それらを他者に伝えることなどを通し、国際的な場で必要な知識とスキルを身に付けます。	身近なことから、日本や沖縄について興味を持ち、考えましょう。また、発表やグループディスカッションなど、伝え合う活動に積極的に参加してください。
到達目標	日本や沖縄の文化・社会について、身近なことから考えていきます。それらについて知り、考え、そして伝え合う活動をする中で、自分の文化や社会を相対的に捉える視点を持てるようになることを目指します。授業の中で行うグループディスカッションでは、自分の意見や考えを他者に伝える力、他者の意見や考えを聞く力を養います。発表では、他者に分かりやすく伝える力を養います。「知ること」「考えること」「伝え合うこと」を通して、より高度なコミュニケーション能力の獲得を目指します。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	日本がとらえる「日本」	関連文献・記事などを調べる
	3	海外がとらえた「日本」	関連文献・記事などを調べる
	4	言語と文化 日本語と日本文化	言葉や表現の意味について調べる
	5	言語と文化 沖縄の言葉と文化	言葉や表現の意味について調べる
	6	言語と文化 まとめ	
	7	異文化コミュニケーション ケーススタディの分析①	
8	異文化コミュニケーション ケーススタディの分析②	「他者」との接触体験をみつめる	
9	異文化コミュニケーション まとめ	「他者」との接触体験をみつめる	
10	学生プレゼンテーション導入		
11	学生プレゼンテーション①（私が伝えたい/発見した、「日本」/「沖縄」）	プレゼンテーションの準備	
12	学生プレゼンテーション②（私が伝えたい/発見した、「日本」/「沖縄」）	プレゼンテーションの準備	
13	学生プレゼンテーション③（私が伝えたい/発見した、「日本」/「沖縄」）	プレゼンテーションの準備	
14	学生プレゼンテーション④（私が伝えたい/発見した、「日本」/「沖縄」）	プレゼンテーションの準備	
15	まとめ		
16	期末試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など 参考文献 原沢伊都夫『異文化理解入門』研究社 その他随時紹介		
	学びの手立て 知識を得ていくと同時に、自分の体験や経験から考えていくことを重視します。グループディスカッションや発表では、他者を尊重する姿勢を求めます。シラバスは、クラスの状況や授業の進捗状況等によって変わることがあります。		
	評価 平常点 (20%) 課題 (20%) 発表 (30%) 期末試験 (30%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ジャパノロジーⅠ
-------	-------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅠ	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	兼本 敏	3年	研究室5-501 メール: kanemoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 受講生は1～2年で履修してきた専門科目および選択科目を総合的に整理し文化について理解してもらおう。また、卒業論文のテーマ設定を念頭に置き、クラスに参加してもらおう。各自が興味を持っているテーマを話し合い、必要な知識、欠落している知識を確認し補っていく。	メッセージ このクラスで話し合う課題が最終的に卒業論文の作成につながるよう意識してもらいたい。
	到達目標 自分が興味を持つ課題を明確に把握するためにも話し合い、先行研究や資料の検討を十分に行い。受講時点で自分が分かっている知識を基礎に補足すべき知識の入手、確認すべき資料の収集方法を具体的に示すことができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	過卒生のゼミ論紹介
	2	ゼミナールの有り方について（約束とスケジュール確認）	評価方法などの質疑
	3	論文、報告書、感想文などの特徴と形式の確認	論文とはどんなものか
	4	同上	同上
	5	主観的表現と客観的表現	事例を挙げ検討してもらおう
	6	論理性とは	論理性を高めるには・・・
	7	サンプル論文の紹介と精読、図書館の利用と学科資料室の利用	ネット資料の取り扱いと書籍の違い
	8	グループ分けと課題の決定	サンプル論文を批判的に査読
9	テーマの選定とゼミ報告書の執筆開始	実際の論文や資料を読む。	
10	テーマの選定とゼミ報告書の執筆開始	実際の論文や資料を読む。	
11	話し合い（進捗報告・問題点について）	個別面談と話し合い	
12	同上	同上	
13	中間発表（質疑と報告）	プレゼン資料の作成	
14	同上	同上	
15	ゼミ報告書の提出	報告書の仕上げ	
16	ゼミ報告書の提出	評価方法の確認	
実践	テキスト・参考文献・資料など 各自のテーマに応じて自己決定し報告してください。適宜紹介します。 高橋順一 他（1998）『人間科学 研究法ハンドブック』ナカニシヤ出版 小笠原喜康 『インターネット完全活用編 大学生のためのレポート・論文術』 講談社現代新書 その他、適宜に紹介する。		
	学びの手立て 話し合いが最も知的刺激になる。疑問に思ったら調べる（ネット情報だけでなく書籍に当たる）、そして再度話し合うことを繰り返してほしい。グループ毎に中間発表の場を設ける。		
	評価 学期末に提出してもらった「ゼミ報告書」を基に次の3点を基準に分担毎に評価する。 1) 文章の構成・論理性（テーマの明示、参考文献の要約、展開と考察）40% 2) 先行研究（資料の収集量と質）40% 3) 全体の構成 20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 収集した課題（テーマ）に関する資料の更なる精読と要約を行い卒業論文作成へ進んでもらいたい。そのためにも「ゼミナールⅡ」を履修することが望ましい。
-------	---

※ポリシーとの関連性

ゼミを通して相互学習の基盤をつくり、議論を行い、論理的に考え
まとめていく力をつけていく。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナール I	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	3年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	言語・コミュニケーションを人間・文化・社会との関りにおいて考え、そこに存在する課題に取り組んでいく。属性とことば、言語行動、言語生活、言語接触、言語意識、言語習得等の社会言語学領域の文献や日本語教育に関する文献を徹底的に読み込んでいく。その際に担当者はレジメを作成し ppを用いて発表していく。	各自が『社会言語学の展望』について報告した後、問題点・疑問点等の一つ以上挙げ、授業で討論・議論を行ってください。なお、本ゼミは、大城ゼミを引き継いだ形で行われ、後期は新任ゼミに引き継がれる。

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ・ 論理的で多角的な視野を身につけていける。 ・ テキストや資料を読み込んでいみ、各自のテーマを絞っていく。 ・ 日本語に関する感性を磨き、文章による、また、討論によるコミュニケーション能力を身につけていく。 ・ お互いから学び成長を支えあっていき姿勢を培う。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	登録確認、自己紹介、役員選出、概要紹介、『社会言語学の展望』	
	2	『属性とことば』	
	3	『場面とことば』『ことばのストラテジー』	
	4	『ことばの切り換え』	
	5	『生活とことば』	4年次とのグループ学習①
	6	『民族社会とことば』	
	7	『方言接触』『他言語との接触』	4年次とのグループ学習②
	8	音の変化』『文法・語彙の変化』	
	9	『ことばのイメージ』『ことばとアイデンティティ』	4年次とのグループ学習③
	10	『幼児語』『中間言語』	
	11	『国語政策』『日本語政策』	4年次とのグループ学習④
	12	テーマ設定・研究計画	
	13	調査対象、インフォマント等、調査方法、構成を考える。作業の分担を行う。	4年次とのグループ学習⑤
	14	研究計画の発表①	
15	研究計画の発表②		
16	夏期休暇中の作業についての話し合い		

実践	テキスト・参考文献・資料など ダニエル・ロング他編『応用社会言語学を学ぶ人のために』世界思想社 真田信治他著『社会言語学』おうふう社 他
----	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会言語の広範で多様な側面における課題に気付き、議論をし、テーマを引き出していく。 ・ 文献を読むことに慣れていこう。その際に研究ノートに出典他の記録をとっておくと良い。
--------	--

評価	課題（報告）発表の取り組みや内容、討論への参加度、出席率等を総合的に評価する。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 ゼミ論の執筆に入っていくので、そのためにも参考文献を量的・質的に読み込んでいこう。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナール I	前期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	黒澤 亜里子	3年		

学びの準備	ねらい 基本的には近現代の文学テキストを取り上げますが、毎年異なるテーマ、課題を設定します。一つのテーマをめぐって真剣に考え、かつ論じ合うゼミの醍醐味、楽しさを知ってもらいたい。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） <ol style="list-style-type: none"> 1 ゼミ運営の方針説明 2 レジュメの作り方 3 調査、資料収集の方法 4 学術論文のスタイル 5 発表及び討議 6 ゼミ論文の作成 7 ゼミ報告集の編集作業
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：プリント使用。 参考文献：取り上げる作品に応じて適宜指示します。
	学びの手立て
	評価 ①発表 ②ゼミ活動への取り組みの姿勢、貢献度 ③出席

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナール I	前期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉田 肇吾	3年	yoshida@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ゼミのコンセプトは「お互いに学びあうこと」。情報社会・生涯学習社会における図書館について、図書館情報学を中心とする学問分野で、各自が設定したテーマの調査研究を進め、その内容を発表し質疑応答・討議をおこなう。3年生では、次年度の卒業論文作成のために、各自の興味・関心のある分野やテーマの基礎知識の整理・体系化に重点を置くため、文献調査を徹底的におこなうこと。</p>	<p>次年度の卒論作成に向けて各自の問題意識を整理し、基礎的知識の獲得を目指し、卒論のテーマ設定への第一歩を踏み出す。</p>
到達目標	3年次でのゼミ論で取り上げるテーマを、各自の興味・関心に応じて発見・設定すること	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：論文作成作業について	第1～7週：論文の書き方についての基礎知識を修得するので、プリントと関連文献を通して各要素を把握する
	2	ゼミ論の執筆①：執筆スケジュール	
	3	ゼミ論の執筆②：テーマ設定・研究方法	
	4	ゼミ論の執筆③：資料・情報の収集方法	
	5	ゼミ論の執筆④：論文の構成方法	
	6	ゼミ論の執筆⑤：執筆の書き方	
	7	ゼミ論の執筆⑥：内容発表・質疑応答・討議	
8	テーマと方法論の発表／個別指導①	第8～11週：自分の問題意識を明確化するため、先行研究を含めた関連文献に広く目を通すこと	
9	テーマと方法論の発表／個別指導②		
10	テーマと方法論の発表／個別指導③		
11	テーマと方法論の発表／個別指導④		
12	進捗状況・課題・問題点の報告／個別指導①	第12～15週：ゼミ論のテーマを確定させるため、研究室での個別指導を繰り返す	
13	進捗状況・課題・問題点の報告／個別指導②		
14	進捗状況・課題・問題点の報告／個別指導③		
15	進捗状況・課題・問題点の報告／個別指導④		
16	まとめ		
実践	テキスト・参考文献・資料など	各自が設定したテーマに基づき、関連資料・情報を調査・収集・選択することを基本とする。必要に応じて調査方法・関連資料などを紹介する。	
	学びの手立て	各自のテーマを自ら設定するため、関連文献を広く読み知識の獲得を目指す。同時に興味・関心を持つ分野を絞り込み、その分野の基礎的知識の土台作りをめざす。	
	評価	出席状況（10%）と各自の発表内容（80%）、討議への参加姿勢（10%）を総合的に評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅠ	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山口 真也	3年	メールで受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本ゼミ(文化情報学ゼミ)のテーマである「表現の自由(知る自由)研究」「図書館情報学研究」に関するさまざまなトピックを取り上げ、各自が興味関心を持つ専門分野の研究方法を学びます。後期から始まる個人研究発表のテーマ設定を各自で行うことを最終目標とします。	メッセージ 日本文化学科では3年生から卒業論文を書くためのゼミが始まります。ゼミは大学生活の基盤です。卒論を書くのは大変ですが、大変だからこそ学ぶこともたくさんあります。一緒に頑張りましょう。
	到達目標 ①多様なメディアの文献収集能力や社会調査法の基礎を身につける。 ②グループ討論に必要な、論理的な思考方法・発表スキルを修得する。 ③4年生によるテーマ紹介を通して、本ゼミナールのテーマを理解し、自身の研究テーマ、仮説、検証方法を設定できる。 ④個人研究テーマ発表を通して、基本的な発表スキル(話し方、資料の活用方法、質疑応答の方法)を修得する。 ⑤ゼミ単位での課外活動やキャリアガイダンスを通して、他者との協働のあり方、グループ内での自己の役割・適性を考え、将来の職業選択に役立てることが出来る。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション(1):履修上の注意、授業の内容紹介、論文集の配布、発表日程の決定	卒論集に目を通す
	2	オリエンテーション(2):個別面談(2年間の目標設定・進路相談)	エントリーシートの作成
	3	オリエンテーション(3):就職活動と研究活動の両立・就職ガイダンス	将来目標、進路の検討
	4	卒業論文中間報告(1):4年生が現在取り組んでいる卒論テーマの紹介	卒論集に目を通す
	5	卒業論文中間報告(2):4年生が現在取り組んでいる卒論テーマの紹介	卒論集に目を通す
	6	卒業論文中間報告(3):4年生が現在取り組んでいる卒論テーマの紹介	卒論集に目を通す
	7	卒業論文報告(1):昨年度の卒業論文集掲載論文のテーマに関するグループディスカッション	ディスカッションの準備
	8	卒業論文報告(2):昨年度の卒業論文集掲載論文のテーマに関するグループディスカッション	ディスカッションの準備
	9	卒業論文報告(3):昨年度の卒業論文集掲載論文のテーマに関するグループディスカッション	ディスカッションの振り返り
	10	個人研究テーマの決定(1):先行研究の調査方法(図書・雑誌記事編)、チューター制度の説明	研究テーマの検討
	11	個人研究テーマの決定(2):先行研究の調査方法(新聞記事・辞書事典・各種データ編)	文献収集
	12	個人研究テーマの決定(3):学術研究の方法(問題意識・仮説・検証)、研究計画書の作成方法	研究計画書の作成
	13	個人研究テーマの決定(4):社会調査法(アンケート・観察・インタビュー調査方法)	研究計画書の作成
	14	個人研究テーマ発表(1)	発表の準備
15	個人研究テーマ発表(2)	発表の振り返り	
16	授業のまとめと自己評価(到達度チェック)	自己評価シートの提出	
	テキスト・参考文献・資料など ・プリントを配布する。 ・卒業論文集(『文化情報学研究』)をテキストとする。※本学図書館に過去の号が全て所蔵されている。 ・参考文献は適宜指示する。		
	学びの手立て ・本ゼミは、①図書館司書資格課程履修中の学生、②3年次前期より始まる学校図書館司書教諭課程履修予定者(ただし、図書館概論・情報資源論を受講している者)が受講できる		
	評価 定期テスト…0点 レポート…10点 (自己の活動をきちんと振り返ることができているかをレポート提出) 平常点…90点 (討議への参加、積極的な質問、傾聴能力、フィードバックシートへの記入などを評価) ※欠席する場合は事前に欠席届(メール可)を提出すること。(無断で欠席しないこと)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 後期に開講される「ゼミナールⅡ」に繋がる科目です。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナール I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	3年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習は、『萬葉集』を扱う。レポーターが毎回【通釈】【語釈】【考説】を発表し、その内容を検討する。レポートテーマは、万葉歌と風景・景観とする。	メッセージ 発表内容は、最終的にゼミ論集にまとめる。レジュメ等資料を所定の書式で作成するように。
	到達目標 【通釈】【語釈】【考説】をまとめるにあたり、その調査の方法を学び、自らレジュメ等の発表資料をまとめる技能及び能力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1回 ガイダンス 第2回～第4回 『萬葉集』概説（講義形態） 第5回～第14回 レポート発表 ・必ず【通釈】【語釈】【考説】の項をもって発表すること。 ・澤瀉久孝『萬葉集注釈』（中央公論社）、伊藤博『萬葉集釋注』（集英社）、 ・『歌ことば歌枕大辞典』（角川書店）、『日本国語大辞典』（小学館）、『時代別国語大辞典上代編』などの関連する事項を調べること。 ・調査結果に基づく通釈、考説であること。 第15回～第16回（ゼミ論集）の編集作業。
	テキスト・参考文献・資料など テキストは購入しなくてもよい。 授業内で指示する。
	学びの手立て
	評価 ①出席を重視する。②発表内容・演習に対する取り組みの姿勢等を総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅠ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	狩俣 恵一	3年	karimata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本ゼミは、琉球文学を探究する3年次生（ゼミナールⅠ）と4年次生（ゼミナールⅢ）の合同ゼミである。よって、琉球文と和文（古文）を比較検討し、琉球文による琉歌について4年次生から発表をはじめ、続いて3年次生が発表する。	メッセージ 琉球文と和文（古文）の相違を比較検討しながら、琉歌について学ぶ。
	到達目標 琉球文の読みと読解力を養う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1回 古典文学研究と古典芸能の研究について 第2回 琉球文とおもろさうし・碑文) 第3回 琉球文と琉歌・組踊 第4回 琉球文と和文（古文） 第5回 琉球文による琉歌の読解（発表1） 第6回 琉球文による琉歌の読解（発表2） 第7回 琉球文による琉歌の読解（発表3） 第8回 琉球文による琉歌の読解（発表4） 第9回 琉球文による琉歌の読解（発表5） 第10回 琉球文による琉歌の読解（発表6） 第11回 琉球文による琉歌の読解（発表7） 第12回 琉球文による琉歌の読解（発表8） 第13回 琉球文による琉歌の読解（発表9） 第14回 琉球文による琉歌の読解（発表10） 第15回 発表の総括と各自の課題について 第16回 試験
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：コピーを配布する 参考文献：『沖縄古語大辞典』『琉歌全集』
	学びの手立て 琉球語（琉球文）と和語（古文）の表記法、語彙、文法を比較検討することが基礎作業となる。古文の読解力を基礎として琉歌の読解を行う。
	評価 出席・発表レジュメ・質疑応答・試験による総合評価。

学びの継続	次のステージ・関連科目 「ゼミナールⅡ」では、琉球文による組踊をテキストとして発表を行う。
-------	--

※ポリシーとの関連性

琉球文化に対する理解を深め、琉球語学、琉球文学、琉球芸能への知識、能力を身に付けます。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナール I	前期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	3年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 琉球語諸方言の調査・記録、分析あるいは再生に取り組みます。消滅の危機に瀕する言語と呼ばれる琉球語諸方言を分からないまま置いておくのではなく、それら言葉の特徴・個性を分かろうとする学びの姿勢が大切です。	メッセージ 琉球語を甦らせるにはどうすればよいのかを考えていきましょう。音声テキストおよび画像資料の収集（作成）と、そのデジタル化および一般公開も、これから成されるべき仕事です。また、琉球語諸方言によって何かを表現していくという姿勢も大切になってきます。
	到達目標 琉球語諸方言による文法書、辞典、索引、民話テキスト、教科書、演劇台本などの作成を目指します。それぞれが琉球語を理解し、琉球語の継承者となることが目標です。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・課題の琉球語テキスト決定	琉球語の品詞分解・解釈
	2	琉球語テキスト(琉球民謡)の読解・鑑賞①	琉球語の品詞分解・解釈
3	琉球語テキスト(琉球民謡)の読解・鑑賞②	琉球語の品詞分解・解釈	
4	琉球語テキスト(琉球民謡)の読解・鑑賞③	琉球語の品詞分解・解釈	
5	琉球語テキスト(琉球民謡)の読解・鑑賞④	琉球語の品詞分解・解釈	
6	琉球語テキスト(琉球民謡)の読解・鑑賞⑤	琉球語の品詞分解・解釈	
7	琉球語テキスト(琉球民謡)の読解・鑑賞⑥	琉球語の品詞分解・解釈	
8	バス見学1 (故地を訪ねて)	レポートによるまとめ	
9	琉球語テキスト(琉球歌劇)の読解・鑑賞⑦	琉球語の品詞分解・解釈	
10	琉球語テキスト(琉球歌劇)の読解・鑑賞⑧	琉球語の品詞分解・解釈	
11	琉球語テキスト(琉球歌劇)の読解・鑑賞⑨	琉球語の品詞分解・解釈	
12	琉球語テキスト(琉球歌劇)の読解・鑑賞⑩	琉球語の品詞分解・解釈	
13	琉球語テキスト(琉球歌劇)の読解・鑑賞⑪	琉球語の品詞分解・解釈	
14	琉球語テキスト(琉球歌劇)の読解・鑑賞⑫	琉球語の品詞分解・解釈	
15	バス見学2 (故地を訪ねて)	レポートによるまとめ	
16	夏休みの調査計画等		
	テキスト・参考文献・資料など ゼミで扱う琉球語テキストについては、その都度指示します。 毎回、課題の琉球語テキストを品詞分解したレジюмеを用意すること。		
	学びの手立て 初めは、琉球語に関する本を読んだりメディアにふれたりして、琉球語についての理解を深めます。また、琉球語諸方言を記録として書き留める練習をします。文法的に分析する姿勢も学びます。その後、琉球語諸方言に関するテーマを決め、それについて実際に調査・記述します。文法記述、辞書（語彙集）作成、テキスト収集などが大きな目標となります。フィールドワーク（野外調査）を行う際には、まず教室で、先行文献の検討、調査表の作成、予備調査などを行ないます。その後、実際に現地に赴きます。フィールドワークでは、言葉を教えていただいた話者との交流も深めましょう。再び教室に戻ったあとは、集めた資料の整理をし、今後の課題を洗い出します。		
	評価 出席状況、演習の発表、フィールドワークを行う場合は、その準備および参加、行事への取り組み、提出レポートなどを総合的に判断します。発表担当者は責任をもって発表すること。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本語音声学、日本語音声学特講、琉球語学特講などが関連科目です。音声学の知識は必須。毎年度2月に行われる琉球語スピーチコンテストに参加すること。
-------	---

※ポリシーとの関連性 卒業論文執筆に向け、日本語学、琉球語学領域の各自の研究テーマに関する専門的な知識を深める。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅠ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	3年	5-401(研究室) kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文の執筆を見据え、言語研究の基礎を学び方法論を身につけます。プレ研究テーマを設定して、先行研究を収集・分析し、実際に調査を行います。そして、その研究結果を中間報告します。	メッセージ 卒業論文執筆に向けて、自身の学問的な興味を明確にし、基礎固めをしていきましょう。
	到達目標 ・設定したプレ研究テーマについて先行研究を収集・分析して中間報告する。	

学びの準備	到達目標 ・設定したプレ研究テーマについて先行研究を収集・分析して中間報告する。
-------	---

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p><u>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</u></p> <p>おおむね次のように進めていきます。</p> <p>ガイダンス、ゼミ開き プレ研究テーマの設定 以下の項目に関する中間報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集した先行研究のリスト ・主要な先行研究のまとめと考察 ・研究テーマに関わる領域の研究状況 <p>各自の進捗状況に応じて指導、助言を行っていきます。</p> <p>★先行研究の収集とそのまとめは、卒業論文のテーマにしたいと考えている領域が現在どのような研究状況にあるのかを把握するための重要な作業となります。先行研究を分析することで生じてくる疑問や不十分だと思われる点を、卒業論文へと繋げていきます。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>各自の研究テーマに沿って適宜指示・紹介します。</p>

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 各自の研究テーマに沿って適宜指示・紹介します。
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>自身の研究テーマに関わる作業はもちろん、他のゼミ生や先輩の発表からも多くのことを学べます。ゼミでは積極的な発言を求めています。</p>
	<p>評価</p> <p>中間報告の内容、研究テーマへの取り組み方から総合的に判断します。</p>

学びの実践	評価 中間報告の内容、研究テーマへの取り組み方から総合的に判断します。
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目「ゼミナールⅡ」</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 学科カリキュラムポリシー4（論理的・批判的思考力や課題探究力を養い、卒業論文を作成するための「ゼミ」を設置）に関連する。 [/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅠ	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	3年	授業終了後に、教室で受け付けます。 または、c.toubaru@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習は国語科教育に関する演習を行うものである。卒業論文のテーマを念頭に置き、レポートを作成、発表し、検討会を持つ。その中で、文献を読み取る力、分析する力、表現する力の基礎を身につける。	メッセージ 国語科教育学について理解を深め、必要とする文献を見つける力を養ってほしい。 2月以降に、4年次による卒業論文発表会を行います。
	到達目標 卒業論文の書き方を理解し、各自のテーマに沿って論文の第1章まで書く。	

学びの準備	到達目標 卒業論文の書き方を理解し、各自のテーマに沿って論文の第1章まで書く。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	卒業論文の概要とスケジュール（発表日の確定）
	2	卒業論文のテーマの立て方と書き方
	3	4年次中間発表会・質疑応答（1～7）
	4	「国語科教育の成果と展望」要約・質疑応答（1～2）
	5	「国語科教育の成果と展望」要約・質疑応答（3～4）
	6	「国語科教育の成果と展望」要約・質疑応答（5～6）
	7	テーマ・研究方法・アウトラインの報告(1)
	8	テーマ・研究方法・アウトラインの報告(2)
	9	テーマ・研究方法・アウトラインの報告(3)
	10	学術論文を読む・発表・質疑応答(1～3)
	11	学術論文を読む・発表・質疑応答(4～6)
	12	発表・質疑応答(1・2)
	13	発表・質疑応答(3・4)
	14	発表・質疑応答(5・6)
	15	4年次発表会・質疑応答
16		
	時間外学習の内容	
	卒論タイトルの確認	
	復習・卒論研究方法を考える	
	成果と展望の要約	
	成果と展望の要約	
	成果と展望の要約	
	アウトライン作成・文献を読む	
	アウトライン作成・文献を読む	
	アウトライン作成・文献を読む	
	論文作成	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 国語科教育の成果と展望Ⅰ・Ⅱ
-------	----------------------------------

学びの実践	学びの手立て 無断欠席をしないこと。（発表者が欠席した場合、原則として単位は認めない。） 参考文献は、発表前の週に、ゼミ生・教師に配布すること。 積極的に質疑に臨む事。 発表後、訂正箇所はすぐに直すこと。
-------	--

学びの実践	評価 出席重視・発表内容・質問内容などをもとに総合的に判断する。 優（6ページ）良（5ページ）可（4ページ）
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 （1）関連科目【上位科目】ゼミナールⅡ（3年次・後期）ゼミナールⅢ（4年次・前期）ゼミナールⅣ（4年次・後期）（2）次のステージ ゼミナールⅡでは、各自のテーマに基づいて、論文を作成し、発表する。質疑を受け、適切に回答することが求められる。 【カリキュラムポリシーとの関連】4
-------	--

※ポリシーとの関連性 専門的な情報収集能力を身につけ、レジュメやレポートの作成を通して表現力を高める。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅠ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	3年	y.murakami@okiu.ac.jp 5号館404研究室	

学びの準備	ねらい 先行研究の調査方法を学び、作品への理解を深める。 レジュメや論文の書き方の基本を身につける。	メッセージ 卒業論文を執筆するためには、ストーリーを理解するだけに留まらない文学作品の読解力や、自らの問題設定を明確にする力、考えていることを文章にして他者に伝える力など、さまざまな能力が求められます。まずは基礎力をつけていきましょう。
	到達目標 本講義ではレジュメ作成の方法を学んだ上で、受講生自身がレジュメをつくり、積極的に発表、発言していく力をつけることを目標とする。 先行研究の調査や論点整理、同時代状況の調査などを通して作品への理解を深め、卒業論文につながるテーマや問題意識を見出すことを目指す。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読んでおくこと。
	2	演習方法の解説——文献調査の方法やレジュメの作り方、作品決め	教科書を通読する。
	3	文学作品を読み解く①	教科書を通読する。
	4	文学作品を読み解く②	指定された作品を読んでくる。
	5	研究発表	指定された作品を読んでくる。
	6	研究発表	指定された作品を読んでくる。
	7	研究発表	指定された作品を読んでくる。
	8	研究発表	指定された作品を読んでくる。
	9	研究発表	指定された作品を読んでくる。
	10	研究発表	指定された作品を読んでくる。
	11	研究発表	指定された作品を読んでくる。
	12	研究発表	指定された作品を読んでくる。
	13	研究発表	指定された作品を読んでくる。
	14	研究発表	これまでの議論を振り返っておく。
	15	研究発表・まとめ	レポートに向けての学習。
	16		
	テキスト・参考文献・資料など 『日本近代短篇小説選 昭和篇2』岩波文庫（2012年、800円＋税）を教科書として使用する。 受講生の要望に応じて別の作品を扱う場合もある。		
	学びの手立て 学生による発表を行い、その後に教員および受講生全員で討議を行う。 基本的に昭和期の短篇小説をテキストとするが、受講生の要望に応じて若干の変更を加える可能性もある。		
	評価 発表内容40%、授業時の発言や討論への参加の積極性など20%、学期末のレポート40% 授業時数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文を執筆するための基礎力を付け、自身にふさわしいテーマの選定を行なってほしい。関連科目は「ゼミナールⅡ」。
-------	---

※ポリシーとの関連性 本演習は、論理的・批判的思考力や課題探求力を養うというカリキュラム・ポリシーVに当たる。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナール I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	3年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習は日本の古典文学・文化に関する演習を行うものである。今年度は特に狂言を取り上げる。狂言作品を一つ一つ取り上げながら注釈を試み、笑いの問題、オノマトペの効用などについて考える。	メッセージ 資料を探し、分析の視点を設定し、発表の構成について考えるというのは広く応用可能な方法である。ぜひ身につけてほしい。
	到達目標 資料を探す。分析する。まとめる。この手順を身につけてほしい。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	演習の進め方	関連する資料の収集
	2	調べる (1)	資料の収集
	3	調べる (2)	資料の読み込み
	4	調べる (3)	資料の収集
	5	調べる (4)	資料の読み込み
	6	分析する (1)	発表の準備
	7	分析する (2)	発表の準備
	8	分析する (3)	発表の準備
9	分析する (4)	発表の準備	
10	発表する (1)	発表の手直し	
11	発表する (2)	発表の手直し	
12	発表する (3)	発表の手直し	
13	発表する (4)	発表の手直し	
14	発表する (5)	発表の手直し	
15	発表する (6)	発表の手直し	
16	まとめ	発表の手直し	
	テキスト・参考文献・資料など そのつど紹介する。		
	学びの手立て 日本国語大辞典など大きな事典類をまず引くことを勧める。		
	評価 発表内容、出席状況、授業への参加姿勢を総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ゼミナールIIにおいては先行研究を読み込み、分析を深めたい。
-------	---

※ポリシーとの関連性 司会・発表を体験することでコミュニケーション能力を培い、自己の関心を他者に的確に伝える力を養う。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅡ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	3年	y.murakami@okiu.ac.jp 5号館404研究室	

学びの準備	ねらい 先行研究を踏まえた上で明確に問題を設定し、それに基づいてレジユメを作成する。また、他者の発表についてもしっかりと向き合せて意見を出せるようにする。	メッセージ レジユメの書き方の基本を身につけ、議論する雰囲気慣れてきたら、一段高い目標に向けて進みましょう。これまでの研究で十分に検討されていないところを見極め、自分自身の問題関心と突き合わせて問題設定をしていきましょう。
	到達目標 個々のテキストがどのように研究されてきたかを踏まえた上で、新たな研究の視点を見出す。議論をすることを通してコミュニケーション能力を養い、他者に自分の考えを論理的に伝える力を身につける。	

学びの準備	到達目標 個々のテキストがどのように研究されてきたかを踏まえた上で、新たな研究の視点を見出す。議論をすることを通してコミュニケーション能力を養い、他者に自分の考えを論理的に伝える力を身につける。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読んでおくこと。
	2	テキスト分析とは何か	指定された作品を読んでくる。
	3	テキスト分析実践	指定された作品を読んでくる。
	4	研究発表	指定された作品を読んでくる。
	5	研究発表	指定された作品を読んでくる。
	6	研究発表	指定された作品を読んでくる。
	7	研究発表	指定された作品を読んでくる。
	8	研究発表	指定された作品を読んでくる。
	9	研究発表	指定された作品を読んでくる。
	10	研究発表	指定された作品を読んでくる。
	11	研究発表	指定された作品を読んでくる。
	12	研究発表	指定された作品を読んでくる。
	13	研究発表	指定された作品を読んでくる。
	14	研究発表	指定された作品を読んでくる。
	15	全体のまとめおよびレポート作成時の注意点について	レポートに向けての学習。
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 受講生の要望に応じて対象テキストを設定する。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 受講生による発表後に教員および受講生全員で討議を行う。
-------	---------------------------------------

学びの実践	評価 発表内容40%、授業時の発言や討論への参加の積極性など20%、学期末のレポート40% 授業時数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 これまでに何が研究されてきたのかを学ぶことは、これまで何がやり残されてきたのかを見出すことに等しい。卒業論文のテーマを定めるために多くの作品に触れ、先行研究を学び、今後いかに読み開いていくのかに挑んでいってほしい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅡ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	黒澤 亜里子	3年		

学びの準備	ねらい 基本的には近現代の文学テキストを取り上げますが、毎年異なるテーマ、課題を設定します。一つのテーマをめぐって真剣に考え、かつ論じ合うゼミの醍醐味、楽しさを知ってもらいたい。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） <ol style="list-style-type: none"> 1 ゼミ運営の方針説明 2 レジュメの作り方 3 調査、資料収集の方法 4 学術論文のスタイル 5 発表及び討議 6 ゼミ論文の作成 7 ゼミ報告集の編集作業
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：プリント使用。 参考文献：取り上げる作品に応じて適宜指示します。
	学びの手立て
	評価 ①発表 ②ゼミ活動への取り組みの姿勢、貢献度 ③出席

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性 1年生、2年生で積み上げてきた知識や関心を、卒業論文につなげていく科目です。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅡ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-奥山 貴之	3年	email、授業後教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 「日本語教育」「日本語学」などの関連分野で、各自の設定したテーマに基づいて、資料の紹介、研究の発表などをしていきます。課題を自分で見つけ、調査したり考察したりしたことを他者に伝えられるようになること、他者との議論の中で多角的な視点を持つようになることを目指します。	メッセージ 1人での考察や、ゼミの仲間とのやり取りなどから、卒業論文に繋がるものを見つけていきましょう。他者に伝えること、伝え合うことの活動を通して、多角的な視点を得ていきましょう。
	到達目標 ・自らの興味や関心から、卒業論文に向けた課題を見つけること。 ・調査したこと、考察したことをレジュメにまとめて伝えられるようになること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 学習状況の確認 発表日程の決定	
	2	研究(計画)に向けて	発表準備
	3	発表方法の確認	
	4	先行研究の読み方 まとめ方	
	5	先行研究の発表①	発表準備
	6	先行研究の発表②	発表準備
	7	先行研究の発表③	発表準備
	8	先行研究の発表④	発表準備
9	パイロット調査導入		
10	調査計画・調査方法の発表①	発表準備	
11	調査計画・調査方法の発表②	発表準備	
12	調査計画・調査方法の発表③	発表準備	
13	パイロット調査の発表①	発表準備	
14	パイロット調査の発表②	発表準備	
15	パイロット調査の発表③	発表準備	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で適宜紹介する。		
	学びの手立て 「どうして?」「なぜ?」「本当だろうか?」という気持ちを大切に、その気持ちに応えていけるようになります。応えるための適切な方法や手順を仲間と一緒に身につけていきましょう。		
	評価 授業参加度、レジュメ、課題・発表への取り組みなどを総合的に見て判断します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「ゼミナールⅢ・Ⅳ」「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅡ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	3年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習は日本の古典文学・文化に関する演習を行うものである。今年度は特に狂言を取り上げる。狂言作品を一つ一つ取り上げながら注釈を試み、笑いの問題、オノマトペの効用などについて考える。	メッセージ 資料を探し、分析の視点を設定し、発表の構成について考えるというのは広く応用可能な方法である。ぜひ身につけてほしい。
	到達目標 先行研究を整理し、分析の視点を設定し、発表の構成について考える。この手順をぜひ身につけてほしい。	

学びの準備	到達目標 先行研究を整理し、分析の視点を設定し、発表の構成について考える。この手順をぜひ身につけてほしい。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	演習の進め方	関連する資料の収集
	2	調べる〈1〉	資料の収集
	3	調べる〈2〉	資料の読み込み
	4	調べる〈3〉	資料の収集
	5	調べる〈4〉	資料の読み込み
	6	分析する〈1〉	発表の準備
	7	分析する〈2〉	発表の準備
	8	分析する〈3〉	発表の準備
	9	分析する〈4〉	発表の準備
	10	発表する〈1〉	発表の手直し
	11	発表する〈2〉	発表の手直し
	12	発表する〈3〉	発表の手直し
	13	発表する〈4〉	発表の手直し
	14	発表する〈5〉	発表の手直し
	15	発表する〈6〉	発表の手直し
16	まとめ	発表の手直し	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など そのつど紹介する。
-------	-----------------------------

学びの実践	学びの手立て 日本国語大辞典など大きな事典類をまず引くことを勧める。
-------	---------------------------------------

学びの実践	評価 発表内容、出席状況、授業への参加姿勢を総合的に評価する。
-------	------------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 ゼミナールⅢにおいては卒業論文の作成を視野に入れつつ、発表を行う。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅡ	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	兼本 敏	3年	研究室5-501 メール: kanemoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい ゼミ論のテーマを決定する。個人およびグループでの「ゼミ論」の記述が目標となる。ゼミ論完成に向けて必要な知識の確認を行う。このゼミ論は卒論に繋がるよう書いてもらう。	メッセージ 自分が書きたい事(テーマ)をクラスメートや教員に話すことで既習事項や欠落している知識を確認できます。話し合いは大事です。
	到達目標 ゼミナールで選択したテーマに関する資料収集の手段、量と質の確認。資料の要約と活用ができるようになる。それらを論理的に順序立てて執筆できるようになるのを目標とします。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	日程の確認
	2	各自の分担論文の選定	各自の論文内容の確認
	3	中間発表の日程の調整	中間発表の評価基準を説明。
	4	資料・論文の精読(話し合い)	比較・対照を焦点に検討します
	5	同上	同上
	6	中間発表会スタート	毎回2グループ程度
	7	発表と質疑	同上
	8	同上	同上
9	同上	同上	
10	発表課題の修正	質疑を踏まえて修正	
11	同上	同上	
12	ゼミ論の仮テーマの決定・卒論への展開	章立てを考えます	
13	執筆計画日程の話し合いと決定	次年度までの執筆日程の具体化	
14	同上	同上	
15	ゼミ論の提出	締切日厳守	
16	評価に関する質疑		
実践	テキスト・参考文献・資料など 各自のテーマに応じ適宜紹介します。 論文を書く際の規則やスタイルを紹介した「論文の書き方」に関する書籍は各自で入手、精読してください。 図書館の提供する論文の手引きを活用してください。		
	学びの手立て 自分のテーマについて他者に説明することで考えもはっきりとしてきます。足りない知識や必要な情報などを把握するには話して(発表)、質問を受けることが最も効果的です。		
	評価 報告書(ゼミ論)の仕上がりで評価します。評価項目は次の通りです。 1) 構成(章立て、展開) 35% 2) 参考資料(量と質:要約を含む) 35% 3) 引用文の形式 10% 4) 内容については質疑応答形式で加点します。20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 資料や参考文献を精読し「論文」の域まで書き上げるために「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」と「ゼミナールⅢ・Ⅳ」を履修してください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅡ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉田 肇吾	3年	yoshida@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ゼミのコンセプトは「お互いに学びあうこと」。情報社会・生涯学習社会における図書館について、図書館情報学を中心とする学問分野で、各自が設定したテーマに基づいて調査研究を進め、その内容を発表し、質疑応答・討議をおこなう。なお3年生は、次年度の卒論作成のために、各自の興味・関心のある分野やテーマの基礎知識の整理・体系化に重点を置くため、文献調査を徹底的におこない、</p>	<p>次年度の卒論作成に向けて各自の問題意識を整理し、基礎的知識の獲得をめざし、卒論のテーマ設定一の第一歩を踏み出す。</p>
到達目標	3年次でのゼミ論で取り上げるテーマを、各自の興味・関心に応じて発見・設定し、基礎知識を体系的に獲得すること。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：後期日程について	
	2	ゼミ論：経過報告／個別指導①	第2～5週：各自が自分の進捗状況をまとめる
	3	ゼミ論：経過報告／個別指導②	
	4	ゼミ論：経過報告／個別指導③	
	5	ゼミ論：書き方	
	6	ゼミ論執筆：個別指導①	第6～9週：各自の課題・問題点を話し合いながら解決していく
	7	ゼミ論執筆：個別指導②	
8	ゼミ論執筆：個別指導③		
9	ゼミ論執筆：個別指導④		
10	ゼミ論発表／質疑応答①	第10～15週：各自がまとめたゼミ論の内容を確認し、修正・加筆していく	
11	ゼミ論発表／質疑応答②		
12	ゼミ論発表／質疑応答③		
13	ゼミ論発表／質疑応答④		
14	ゼミ論発表／質疑応答⑤		
15	ゼミ論発表／質疑応答⑥		
16	ゼミ論提出		
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	各自が設定したテーマに基づき、関連資料・情報を調査・収集・選択することを基本とする。必要に応じて、調査方法・関連資料などを紹介する。		
	学びの手立て	各自が設定したゼミ論のテーマに関する知識の土台を獲得するために、関連資料・情報を網羅的に収集することをめざす。	
	評価	出席状況（10%）と各自の発表内容（10%）、討議への参加姿勢（10%）、提出されたゼミ論（70%）を含めて総合的に評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅡ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山口 真也	3年	メールで受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「表現の自由(知る自由)研究」「図書館情報学研究」に関するさまざまなテーマを取り上げ、個人ごとに研究発表を行います。その過程で、卒業研究の基礎となる研究レポートを作成し、卒業論文の作成、卒業制作を行うための基本的な知識、技術を身につけることを目的とします。また、キャリアに関する情報提供・交換も行い、各自が研究テーマと関わらせながら、進路研究を進めていきます。	後期のゼミでは、前期に決定したテーマの下で、各自が調査・分析を行い、ゼミ論を執筆します。ゼミ生みんなで頑張りましょう。
到達目標	①多数の先行研究に触れることで、論理的な文章構成力を身に付ける(学術論文の文体をマスターする)。 ②社会調査方法(アンケート・観察・インタビュー方法)を理解し、仮説を証明する上で適切な方法を選択するとともに、実施した調査の結果を客観的な視点で分析できる。 ③研究発表の準備・運営を通して、説明する、質問する、意見を述べる、などのプレゼンテーションの力を高めるとともに、スケジュールマネジメントなどの自己管理能力を伸ばし、就職活動等の実生活に役立てることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	後期の目標設定・夏休みの学習状況の報告・発表日程の決定	夏休みの取り組みをまとめる
	2	レジュメの作成方法・引用の方法・参考文献の書き方・司会進行方法	レジュメのアウトライン案を検討
	3	グループ学習① 基本概念の整理方法(レジュメの見出しの作成)	アウトライン案を検討
	4	グループ学習② 見出しの確定・見出しごとの文献リストの作成、提出	文献収集
	5	グループ学習③ レジュメのアウトラインの確定	文献収集、文献整理
	6	調査結果の実施方法の検討・題目登録	題目の検討、レジュメ作成
	7	調査結果の分析方法・グラフのまとめ方	レジュメ作成
8	個人研究発表①	発表の準備、フィードバック	
9	個人研究発表②	発表の準備、フィードバック	
10	個人研究発表③	発表の準備、フィードバック	
11	個人研究発表④	発表の準備、フィードバック	
12	個人研究発表⑤	発表の準備、フィードバック	
13	個人研究発表⑥	発表の準備、フィードバック	
14	個人研究発表⑦	発表の準備、フィードバック	
15	授業のまとめ(到達度のチェック)	自己評価シートの作成・提出	
16			
	テキスト・参考文献・資料など		
	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントを配布する。 ・卒業論文集(『文化情報学研究』)をテキストとする。※本学図書館に過去の号が全て所蔵されている。 ・参考文献は適宜指示する。 		
	学びの手立て		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ生が10名を超える場合は、12月末、または2月～3月に合宿形式で補講を行うことがあります。 ・2月末～3月上旬に4年生による卒業研究発表会があります。 		
	評価		
	定期テスト・・・0点 レポート・・・10点 (自己の活動をきちんと振り返ることができているかをレポート) 平常点・・・90点 (研究発表の到達度、討議への参加、傾聴能力、フィードバックシートへの記入などを評価) ※欠席する場合は事前に欠席届(メール可)を提出すること。(無断で欠席しないこと)		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	4年生必修科目「ゼミナールⅢ」に繋がる科目です。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅡ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	3年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習は、概ね「古代文学」（上代文学・中古文学）、国語科教育に関する分野について、各自の興味関心、問題意識に基づいて、テーマを設定してレポート発表する。また、臨地研修などを通して、研究対象と向き合うことによって、様々な知見を経験的実感的に学んでいく。	メッセージ 学習指導要領によると「伝統文化」という科目が設定されるようです。「伝統文化」を学ぶ我々の出番です。実感的経験的に学ぶには、作品を深く学ぶことに他ならないと思います。ともに頑張りましょう。
	到達目標 1 自分自身の興味関心、問題意識の基づいてテーマを設定し、調査研究する能力を身に付ける。 2 研究討議等によって、多面的に考察する方法を身に付ける。 3 臨地研究などを通して、研究対象と向き合い、自分自身の気づきや経験に基づいた感性を大事にすることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 演習Ⅰで学んだことを踏まえて、各自が設定した研究テーマについて調査・考察し、その報告と討議によって演習を進める。年度末には、ゼミ論集等を作成する。 1 ガイダンス 2 研究発表 3 研究発表 4 研究発表 5 研究発表 6 研究発表 7 研究発表 8 研究発表 9 研究発表 10 研究発表 11 研究発表 12 研究発表 13 研究発表 14 ゼミ論集等の作成 15 まとめ
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示する。 必要に応じて指示する。
	学びの手立て
	評価 ①出席を重視する。②発表内容・演習に対する取り組みの姿勢等を総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅡ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	狩俣 恵一	3年	karimata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本ゼミは、琉球文学を探究する3年次生（ゼミナールⅠ）と4年次生（ゼミナールⅢ）の合同ゼミである。よって、琉球文と和文（古文）を比較検討し、琉球文による組踊について4年次生から発表し、続いて3年次生が発表する。	メッセージ 琉球文と和文（古文）を比較検討しながら、組踊について学ぶ。
	到達目標 琉球文の読みと読解力を養う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1回 和文（古文）と琉球文について 第2回 琉球土族語と琉球文について 第3回 能の謡と組踊の唱えの詞章について 第4回 古典文学研究と古典芸能の研究について 第5回 琉球文による組踊の読解（発表1） 第6回 琉球文による組踊の読解（発表2） 第7回 琉球文による組踊の読解（発表3） 第8回 琉球文による組踊の読解（発表4） 第9回 琉球文による組踊の読解（発表5） 第10回 琉球文による組踊の読解（発表6） 第11回 琉球文による組踊の読解（発表7） 第12回 琉球文による組踊の読解（発表8） 第13回 琉球文による組踊の読解（発表9） 第14回 琉球文による組踊の読解（発表10） 第15回 発表の総括 第16回 試験
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：コピーを配布する。 参考文献：『沖縄古語大辞典』『日本古語辞典』『琉球戯曲集』
	学びの手立て 琉球語（琉球文）と和語（古文）の表記法、語彙、文法を比較検討することが基礎作業となる。古文の読解力を基礎として琉歌の読解を行う。
	評価 出席点・発表レジュメ・発表の方法・質問内容、試験による総合評価。

学びの継続	次のステージ・関連科目 「ゼミナールⅢ・Ⅳ」「卒業論文」
-------	---------------------------------

※ポリシーとの関連性

琉球文化に対する理解を深め、琉球語学、琉球文学、琉球芸能への知識、能力を身に付けます。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅡ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	3年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 琉球語諸方言の調査・記録、分析あるいは再生に取り組みます。消滅の危機に瀕する言語と呼ばれる琉球語諸方言を分らないまま置いておくのではなく、それら言葉の特徴・個性を分かろうとする学びの姿勢が大切です。	メッセージ 琉球語を甦らせるにはどうすればよいのかを考えていきましょう。音声テキストおよび画像資料の収集（作成）と、そのデジタル化および一般公開も、これから成されるべき仕事です。また、琉球語諸方言によって何かを表現していくという姿勢も大切になってきます。
	到達目標 琉球語諸方言による文法書、辞典、索引、民話テキスト、教科書、演劇台本などの作成を目指します。それぞれが琉球語を理解し、琉球語の継承者となることが目標です。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・課題の琉球語テキスト決定	琉球語の品詞分解・解釈
	2	琉球語テキスト(昔話)の読解・鑑賞①	琉球語の品詞分解・解釈
3	琉球語テキスト(昔話)の読解・鑑賞②	琉球語の品詞分解・解釈	
4	琉球語テキスト(昔話)の読解・鑑賞③	琉球語の品詞分解・解釈	
5	琉球語テキスト(昔話)の読解・鑑賞④	琉球語の品詞分解・解釈	
6	琉球語テキスト(昔話)の読解・鑑賞⑤	琉球語の品詞分解・解釈	
7	琉球語テキスト(昔話)の読解・鑑賞⑥	琉球語の品詞分解・解釈	
8	バス見学1(故地を訪ねて)	レポートによるまとめ	
9	琉球語テキスト(組踊)の読解・鑑賞⑦	琉球語の品詞分解・解釈	
10	琉球語テキスト(組踊)の読解・鑑賞⑧	琉球語の品詞分解・解釈	
11	琉球語テキスト(組踊)の読解・鑑賞⑨	琉球語の品詞分解・解釈	
12	琉球語テキスト(組踊)の読解・鑑賞⑩	琉球語の品詞分解・解釈	
13	琉球語テキスト(組踊)の読解・鑑賞⑪	琉球語の品詞分解・解釈	
14	琉球語テキスト(組踊)の読解・鑑賞⑫	琉球語の品詞分解・解釈	
15	バス見学2(故地を訪ねて)	レポートによるまとめ	
16	春休みの調査計画等		
	テキスト・参考文献・資料など ゼミで扱う琉球語テキストについては、その都度指示します。 毎回、課題の琉球語テキストを品詞分解したレジюмеを用意すること。		
	学びの手立て 初めは、琉球語に関する本を読んだりメディアにふれたりして、琉球語についての理解を深めます。また、琉球語諸方言を記録として書き留める練習をします。文法的に分析する姿勢も学びます。その後、琉球語諸方言に関するテーマを決め、それについて実際に調査・記述します。文法記述、辞書(語彙集)作成、テキスト収集などが大きな目標となります。フィールドワーク(野外調査)を行う際には、まず教室で、先行文献の検討、調査表の作成、予備調査などを行ないます。その後、実際に現地に赴きます。フィールドワークでは、言葉を教えていただいた話者との交流も深めましょう。再び教室に戻ったあとは、集めた資料の整理をし、今後の課題を洗い出します。		
	評価 出席状況、演習の発表、フィールドワークを行う場合は、その準備および参加、行事への取り組み、提出レポートなどを総合的に判断します。発表担当者は責任をもって発表すること。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本語音声学、日本語音声学特講、琉球語学特講などが関連科目です。音声学の知識は必須。毎年度2月に行われる琉球語スピーチコンテストに参加すること。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅡ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	3年	授業終了後に、教室で受け付けます。 または、c.toubaru@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習は国語科教育に関する演習を行うものである。卒業論文のテーマを念頭に置き、レポートを作成、発表し、検討会を持つ。その中で、文献を読み取る力、分析する力、表現する力、多角的に考える力の基礎を身につける。	メッセージ 国語科教育学について理解を深め、必要とする文献をもとに、自分の考えを論理的に構築する力を養ってほしい。
	到達目標 各自のテーマに基づき、第2章までまとめることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	論文作成
	2	①研究発表・質疑応答(1・2)	論文作成
	3	①研究発表・質疑応答(3・4)	論文作成
	4	①研究発表・質疑応答(5・6)	論文作成
	5	②研究発表・質疑応答(1・2)	論文作成
	6	②研究発表・質疑応答(3・4)	論文作成
	7	②研究発表・質疑応答(5・6)	論文作成
	8	③研究発表・質疑応答(1・2)	論文作成
9	③研究発表・質疑応答(3・4)	論文作成	
10	③研究発表・質疑応答(5・6)	論文作成	
11	4年次発表会・質疑応答(1~2)	論文作成	
12	4年次発表会・質疑応答(3~4)	論文作成	
13	4年次発表会・質疑応答(5~6)	論文作成	
14	ゼミ論集の作成	論文作成	
15	まとめ	論文作成	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 適宜紹介する。 発表者は参考文献のコピーを用意する。		
	学びの手立て 無断欠席をしないこと。(発表者が欠席した場合、原則として単位は認めない。) 参考文献は、発表前の週に、ゼミ生・教師に配布すること。 積極的に質疑に臨む事。 発表後、訂正箇所はすぐに直し、メールでデータを送ること。		
	評価 出席重視・ゼミ論の仕上がりで評価する。 【評価項目】 ①構成(章立て、展開) ②参考資料③引用文の形式 優(10ページ) 良(9ページ) 可(8ページ)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目【上位科目】ゼミナールⅢ(4年次・前期)ゼミナールⅣ(4年次・後期) (2) 次のステージ ゼミナールⅢでは、3年次の発表に関する資料を読み込み、質問する力、課題を提示する力が求められる。 【カリキュラムポリシーとの関連】4
-------	---

※ポリシーとの関連性 卒業論文執筆に向け、日本語学、琉球語学領域の各自の研究テーマに関する専門的な知識を深める。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅡ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	3年	5-401(研究室) kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文執筆に向けて、各自の研究テーマを決定します。先行研究の収集と分析、調査方法、論文の構想など具体的な作業を進め、その進捗状況を報告してもらいます。なお可能であれば、調査の実践練習として言語調査の課外実習も行います。	卒業論文執筆に向けて、自身の学問的な興味を明確にし、基礎固めをしていきましょう。

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> 卒業論文執筆に向けて研究テーマを決定し、先行研究をまとめる。 研究テーマに関するプレ調査を行い、具体的な研究計画を立てる。

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p><u>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</u></p> <p>おおむね次のように進めていきます。</p> <p>ガイダンス プレ研究テーマ、これまでの進捗状況の再確認 卒業論文テーマの決定 以下の項目に関する中間報告</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業論文の構想 先行研究の追加リスト 卒業論文の執筆計画の概要 プレ調査とその分析結果報告 <p>各自の進捗状況に応じて指導、助言を行っていきます。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>各自の研究テーマに沿って適宜指示・紹介します。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>自身の研究テーマに関わる作業はもちろん、他のゼミ生や先輩の発表からも多くのことを学べます。ゼミでは積極的な発言を求めています。</p>
	<p>評価</p> <p>中間報告の内容、研究テーマの取り組み方から総合的に判断します。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目「ゼミナールⅢⅣ」「卒業論文ⅠⅡ」</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅢ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	狩俣 恵一	4年	karimata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本ゼミは、琉球文学を探究する3年次生（ゼミナールⅠ）と4年次生（ゼミナールⅢ）の合同ゼミである。よって、琉球文と和文（古文）を比較検討し、琉球文による琉歌について4年次生から発表をはじめ、続いて3年次生が発表する。	メッセージ 琉球文と和文（古文）を比較検討しながら、琉歌について学ぶ。
	到達目標 琉球文の読みと読解力を養う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1回 古典文学研究と古典芸能の研究について 第2回 琉球文とおもろさうし・碑文) 第3回 琉球文と琉歌・組踊 第4回 琉球文と和文（古文） 第5回 琉球文による琉歌の読解（発表1） 第6回 琉球文による琉歌の読解（発表2） 第7回 琉球文による琉歌の読解（発表3） 第8回 琉球文による琉歌の読解（発表4） 第9回 琉球文による琉歌の読解（発表5） 第10回 琉球文による琉歌の読解（発表6） 第11回 琉球文による琉歌の読解（発表7） 第12回 琉球文による琉歌の読解（発表8） 第13回 琉球文による琉歌の読解（発表9） 第14回 琉球文による琉歌の読解（発表10） 第15回 発表の総括と各自の課題について 第16回 試験
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：コピーを配布する。 参考文献：『沖縄古語大辞典』『日本古語辞典』『琉歌全集』
	学びの手立て 琉球語（琉球文）と和語（古文）の表記法、語彙、文法を比較検討することが基礎作業となる。1・2年で習得した古文の読解力を基礎として琉歌の読解を行う。
	評価 出席・発表資料・発表内容・質疑、試験による総合評価。

学びの継続	次のステージ・関連科目 「ゼミナールⅣ」「卒業論文」
-------	-------------------------------

※ポリシーとの関連性

調査を通しての情報検索能力、レジュメやレポート作成で培う論理的・批判的思考力を高める。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅢ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	4年	y.murakami@okiu.ac.jp 5号館404研究室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>先行研究の調査・参照、文献引用や出典の記載の仕方などをあらためて復習し、卒業論文執筆に必要なリテラシーを身につける。</p>	<p>レジュメ・レポート作成の基礎は卒業論文にも生かされます。ゼミナールⅠ・Ⅱで学んだことを定着させながら、新たなテキストに触れていきましょう。</p>

到達目標	多くのテキストに触れ、広い視野を養う。また、他者の発表に向き合い、議論することを通してコミュニケーション力や自己表現力を身につける。
------	--

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
		回	テーマ	時間外学習の内容
		1	ガイダンス	シラバスをよく読んでおくこと。
		2	演習方法の解説——文献調査の方法やレジュメの作り方、作品決め	教科書を通読する。
		3	文学作品を読み解く①	教科書を通読する。
		4	文学作品を読み解く②	指定された作品を読んでくる。
		5	研究発表	指定された作品を読んでくる。
		6	研究発表	指定された作品を読んでくる。
		7	研究発表	指定された作品を読んでくる。
		8	研究発表	指定された作品を読んでくる。
	9	研究発表	指定された作品を読んでくる。	
	10	研究発表	指定された作品を読んでくる。	
	11	研究発表	指定された作品を読んでくる。	
	12	研究発表	指定された作品を読んでくる。	
	13	研究発表	指定された作品を読んでくる。	
	14	研究発表	これまでの議論を振り返っておく。	
	15	研究発表・まとめ	レポートに向けての学習。	
	16			
	テキスト・参考文献・資料など	『日本近代短篇小説選 昭和編2』岩波文庫（2012年、800円＋税）を教科書として使用する。受講生の要望に応じて別の作品を扱う場合もある。		
	学びの手立て	受講生による発表後に教員および受講生全員で討議を行う。		
	評価	発表内容40%、授業時の発言や討論への参加の積極性など20%、学期末のレポート40%。 授業時数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ゼミナールⅣ、卒業論文Ⅰ・Ⅱ
-------	-------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅢ	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	4年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「日本語学」「社会言語学」の学問分野で各自が設定したテーマに基づき、研究内容の発表、文献の紹介等、また、質疑応答・討議を行いながら卒業論文執筆の多角的な視点を養っていく。	論文を最低10本読み込み、「調査・研究のテーマ・動機・目的、どのような先行研究を使用しているか、被験者（調査の対象者）の背景、調査の方法、分析、考察はどのように、結論はどのようにまとめられているか、疑問点や問題点」等を読み込み、論文執筆に生かしていこう。なお、本ゼミは、大城ゼミを引き継いだ形で行われ、後期は新任ゼミに引き継がれる。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 論理的で多角的な視野を身につけていく。論文の「先行研究」となる文献・論文・資料等を読み込み、比較分析、まとめを行い、論文を執筆していく。 相互学習における討論や議論から学び、お互いを支援する姿勢を培っていく。また、先輩として後輩を引っ張っていくことでリーダーシップを養い、学術的な面でもアドバイスや指摘ができるようになる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション レジメの作り方	
2	研究計画書の作成		
3	研究計画の報告		
4	〔はじめに〕〔研究の目的〕〔調査の対象・方法〕等の発表①		
5	〔はじめに〕〔研究の目的〕〔調査の対象・方法〕等の発表②	3年次とのグループ学習①	
6	参考文献の発表①		
7	参考文献の発表②	3年次とのグループ学習②	
8	先行研究の発表①		
9	先行研究の発表②	3年次とのグループ学習③	
10	先行研究の発表③		
11	先行研究の発表④	3年次とのグループ学習④	
12	調査票の発表①		
13	調査票の発表②	3年次とのグループ学習⑤	
14	パイロット調査の結果①		
15	パイロット調査の結果②		
16	夏期休暇中の作業について報告		
テキスト・参考文献・資料など	宇佐美まゆみ『言葉は社会を変えられる』明石書店 他論文や資料を適宜使用する。		
学びの手立て	社会言語学の多様で広範な課題に気付き、そこからテーマを引き出し文献を読むことに慣れていこう。その際に研究ノートに出典、引用箇所、引用したい言及等、記録をとっておくと良い。		
評価	授業や討論等への参加度、論文への取り組みに対する姿勢、発表内容、論文作成、出席率、等を総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文に繋げていくことになるので、まずは文献を量的に質的に、そして分析的に読み込んで行こう。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅢ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	黒澤 亜里子	4年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>基本的には近現代の文学テクストを取り上げますが、毎年異なるテーマ、課題を設定します。一つのテーマをめぐって真剣に考え、かつ論じ合うゼミナールの醍醐味、楽しさを知ってもらいたい。</p>	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ゼミ運営の方針説明 2 レジュメの作り方 3 調査、資料収集の方法 4 学術論文のスタイル 5 発表及び討議 6 ゼミ論文の作成 7 ゼミ報告集の編集作業
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：プリント使用。 参考文献：取り上げる作品に応じて適宜指示します。</p>
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価</p> <p>①発表 ②ゼミ活動への取り組みの姿勢、貢献度 ③出席</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性 「3. 各専門分野における諸課題について深く学ぶための「応用科目」を設置します。」

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅢ	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	4年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習は、『萬葉集』を扱う。レポーターが毎回【通釈】【語釈】【考説】を発表し、その内容を検討する。レポートテーマは、万葉集歌と風景・景観とする。	メッセージ 発表内容は、最終的にゼミ論集としてまとめる。レジュメ等資料を所定の書式で作成するように。
	到達目標 【通釈】【語釈】【考説】をまとめるにあたり、その調査の方法を学び、自らレジュメ等の発表資料をまとめる技能及び能力を身につける。	

学びの準備	到達目標 【通釈】【語釈】【考説】をまとめるにあたり、その調査の方法を学び、自らレジュメ等の発表資料をまとめる技能及び能力を身につける。
-------	---

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回～第4回 『萬葉集』概説 第5回～第14回 レポート発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必ず【通釈】【語釈】【考説】の項をもって発表すること。 ・澤瀉久孝『萬葉集注釋』（中央公論社）、伊藤博『萬葉集釋注』（集英社） ・『歌ことば歌枕大辞典』（角川書店）、『日本国語大辞典』（小学館）、『時代別国語大辞典上代編』などの関連する事項を調べる。 ・調査結果に基づく通釈、考説であること。 <p>第15回～第16回 注釈書（ゼミ論集）の編集作業。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは購入しなくてもよい。 授業内で指示する。 『字典かな 新装版』（笠間書院）¥780”</p>

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは購入しなくてもよい。 授業内で指示する。 『字典かな 新装版』（笠間書院）¥780”</p>
-------	--

学びの実践	<p>学びの手立て</p>
-------	---------------

学びの実践	<p>評価</p> <p>①出席を重視する。②発表内容・演習に対する取り組みの姿勢等を総合的に評価する。</p>
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名 ゼミナールⅢ	期別 前期	曜日・時限 月 3	単位 2	
	担当者 下地 賀代子	対象年次 4年	授業に関する問い合わせ 5-401(研究室) kshimoji@okiu.ac.jp		
	ねらい 日本語学、琉球語学に関する研究テーマを各自で定め、卒業論文執筆に向けて調査・研究を進めていく。		メッセージ 卒業論文の完成に向けて、研究計画をしっかりと立ててください。		
	到達目標 下記の事項について中間報告を行う。 ・研究テーマについての言語調査、収集したデータの分析結果 ・研究テーマに関する考察内容、問題点				
学びの準備	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） おおむね次のように進めていきます。 ガイダンス テーマの最終決定、目次(仮)の設定 進捗状況の確認と論文執筆計画の作成 以下の項目に関する中間報告（複数回） ・先行研究のまとめ ・各自の研究テーマに基づく調査、データの収集状況 ・言語データの整理、分析状況 ・考察結果 論文執筆計画の見直し 各自の進捗状況に応じて指導、助言を行っていきます。 論文の完成に向けて、とくに先行研究など基礎的事項の充実と言語データの収集を集中的に行います。				
	テキスト・参考文献・資料など 各自の研究テーマに沿って適宜指示・紹介します。				
	学びの手立て 先行研究のまとめと調査をとにかく進めること。そして執筆スケジュールの見直しを定期的に行い、研究の進捗状況を確実に把握することが大切です。				
	評価 論文の中間報告の内容、取り組み方を総合的に評価します。				
学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 「ゼミナールⅣ」				

※ポリシーとの関連性

琉球文化に対する理解を深め、琉球語学、琉球文学、琉球芸能への知識、能力を身に付けます。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅢ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	4年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 琉球語諸方言の調査・記録、分析あるいは再生に取り組みます。消滅の危機に瀕する言語と呼ばれる琉球語諸方言を分からないまま置いておくのではなく、それら言葉の特徴・個性を分かろうとする学びの姿勢が大切です。	メッセージ 琉球語を甦らせるにはどうすればよいのかを考えていきましょう。音声テキストおよび画像資料の収集（作成）と、そのデジタル化および一般公開も、これから成されるべき仕事です。また、琉球語諸方言によって何かを表現していくという姿勢も大切になってきます。
	到達目標 琉球語諸方言による文法書、辞典、索引、民話テキスト、教科書、演劇台本などの作成を目指します。それぞれが琉球語を理解し、琉球語の継承者となることが目標です。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・課題の琉球語テキスト決定	琉球語の品詞分解・解釈
	2	琉球語テキスト(琉球民謡)の読解・鑑賞①	琉球語の品詞分解・解釈
	3	琉球語テキスト(琉球民謡)の読解・鑑賞②	琉球語の品詞分解・解釈
	4	琉球語テキスト(琉球民謡)の読解・鑑賞③	琉球語の品詞分解・解釈
	5	琉球語テキスト(琉球民謡)の読解・鑑賞④	琉球語の品詞分解・解釈
	6	琉球語テキスト(琉球民謡)の読解・鑑賞⑤	琉球語の品詞分解・解釈
	7	琉球語テキスト(琉球民謡)の読解・鑑賞⑥	琉球語の品詞分解・解釈
	8	バス見学1(故地を訪ねて)	レポートによるまとめ
9	琉球語テキスト(琉球歌劇)の読解・鑑賞⑦	琉球語の品詞分解・解釈	
10	琉球語テキスト(琉球歌劇)の読解・鑑賞⑧	琉球語の品詞分解・解釈	
11	琉球語テキスト(琉球歌劇)の読解・鑑賞⑨	琉球語の品詞分解・解釈	
12	琉球語テキスト(琉球歌劇)の読解・鑑賞⑩	琉球語の品詞分解・解釈	
13	琉球語テキスト(琉球歌劇)の読解・鑑賞⑪	琉球語の品詞分解・解釈	
14	琉球語テキスト(琉球歌劇)の読解・鑑賞⑫	琉球語の品詞分解・解釈	
15	バス見学2(故地を訪ねて)	レポートによるまとめ	
16	夏休みの調査計画等		
実践	テキスト・参考文献・資料など ゼミで扱う琉球語テキストについては、その都度指示します。 毎回、課題の琉球語テキストを品詞分解したレジユメを用意すること。		
	学びの手立て 初めは、琉球語に関する本を読んだりメディアにふれたりして、琉球語についての理解を深めます。また、琉球語諸方言を記録として書き留める練習をします。文法的に分析する姿勢も学びます。その後、琉球語諸方言に関するテーマを決め、それについて実際に調査・記述します。文法記述、辞書(語彙集)作成、テキスト収集などが大きな目標となります。フィールドワーク(野外調査)を行う際には、まず教室で、先行文献の検討、調査表の作成、予備調査などを行ないます。その後、実際に現地に赴きます。フィールドワークでは、言葉を教えていただいた話者との交流も深めましょう。再び教室に戻ったあとは、集めた資料の整理をし、今後の課題を洗い出します。		
	評価 出席状況、演習の発表、フィールドワークを行う場合は、その準備および参加、行事への取り組み、提出レポートなどを総合的に判断します。発表担当者は責任をもって発表すること。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本語音声学、日本語音声学特講、琉球語学特講などが関連科目です。音声学の知識は必須。毎年度2月に行われる琉球語スピーチコンテストに参加すること。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅢ	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	4年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習は日本の古典文学・文化に関する演習を行うものである。今年度は特に狂言を取り上げる。狂言作品を一つ一つ取り上げながら注釈を試み、笑いの問題、オノマトペの効用などについて考える。	メッセージ 資料を探し、分析の視点を設定し、発表の構成について考えるというのは広く応用可能な方法である。ぜひ身につけてほしい。
	到達目標 先行研究を整理し、分析の視点を設定し、発表の構成について考えるという手順を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	演習の進め方	関連する資料の収集
	2	調べる(1)	資料の収集
	3	調べる(2)	資料の読み込み
	4	調べる(3)	資料の収集
	5	調べる(4)	資料の読み込み
	6	分析する(1)	発表の準備
	7	分析する(2)	発表の準備
	8	分析する(3)	発表の準備
	9	分析する(4)	発表の準備
	10	発表する(1)	発表の手直し
	11	発表する(2)	発表の手直し
	12	発表する(3)	発表の手直し
	13	発表する(4)	発表の手直し
	14	発表する(5)	発表の手直し
15	発表する(6)	発表の手直し	
16	まとめ	発表の手直し	
	テキスト・参考文献・資料など 新日本古典大系『狂言記』岩波書店、新編日本古典文学全集『狂言集』小学館		
	学びの手立て 日本古典文学大辞典、日本国語大辞典など大きな事典類をまず引くことを勧める。		
	評価 発表内容、出席状況、授業への参加姿勢を総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のゼミナールⅣにおいては論文の構成、執筆、再検討へと進む。
-------	---

※ポリシーとの関連性

日本文化及び琉球文化に専門的な知識・能力を持ち、多文化共生を目指し論理的・批判的思考力や課題探究力を養う必修科目です。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅢ	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	兼本 敏	4年	研究室5-501 メール: kanemoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい これまで培ってきた大学生として有すべき技能を駆使してゼミ論を書いてもらう。プレゼンを行い論文の完成度を高めてもらう。	メッセージ 自分の考えを発表して質問を受けることで伝わっている部分、理解されていない部分がはっきりします。発表と質疑で何が足りないのかが明白になります。
	到達目標 自己の設定したテーマに関する口頭発表と質疑を行い「ゼミ報告書」を「ゼミ論」の域まで精緻化する。そのために必要な資料および文献を補足する能力を培う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	日程の確認
	2	進捗状況の確認	各自報告書を提出する
	3	検討会：報告書からゼミ論へ	報告書とゼミ論の違いを確認
	4	中間発表の日程決定	
	5	テーマごとに質疑応答	模擬発表
	6	同上	同上
	7	発表要旨の配布	発表現行の要旨の作成
	8	発表準備	加筆および修正
9	発表と質疑	同上	
10	同上	同上	
11	同上	同上	
12	同上	同上	
13	総括		
14	テーマに関する質疑（対教員）	修正と加筆	
15	同上	同上	
16	ゼミ論の提出		
	テキスト・参考文献・資料など 特に指定はしませんが、論文の書き方に関する書籍を購読するように。各自のテーマによって異なるので適宜アドバイスします。		
	学びの手立て 質疑によって論文の完成度が高まります。クラスメート以外にもテーマについて話してみてください。		
	評価 次の点で評価します。 1. プレゼンの準備度（配布資料・提示資料） 40% 2. プレゼンの論理性 30% 3. ゼミ論の完成度 30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「卒業論文Ⅱ」および「ゼミナールⅣ」に進んで卒業論文を完成させてください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅢ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉田 肇吾	4年	yoshida@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ゼミのコンセプトは「お互いに学びあうこと」。生涯学習社会・情報社会における図書館について、図書館情報学を中心とする学問分野で、各自が設定したテーマに基づき調査・研究を進め、その内容を発表し、質疑応答・討議をおこなう。4年生は、3年次での文献調査でまとめた基礎知識を踏まえた上で、さらなる文献調査やアンケート調査の実施・集計結果の検討などにより考察を深め、卒業論文のテーマ設定と研究方法を検討するため、先行研究を含めた各種文献調査を進める。</p>	<p>3年次でのゼミ論を基礎として、各自の興味・関心に基づいて卒業論文のテーマ設定と研究方法を検討するため、先行研究を含めた各種文献調査を進める。</p>
到達目標	3年次でのゼミ論を基礎として、各自の興味・関心に基づいて卒業論文のテーマ設定と研究方法を確立させる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：ゼミ論から卒論へ	第1～6週：先行研究を含めた各種資料・情報にあたる
	2	卒論：執筆スケジュールの組み方	
	3	卒論：テーマ設定・研究方法の確定	
	4	卒論：資料・情報の収集方法	
	5	卒論：論文の構成方法について	
	6	卒論：書き方・内容発表・質疑応答	
	7	テーマと方法論の報告／個別指導①	第7～10週：テーマと研究方法を組み立てる
8	テーマと方法論の報告／個別指導②		
9	テーマ・方法論の発表／個別指導③		
10	テーマ・方法論の発表／個別指導④		
11	進捗状況、課題・問題点の報告／個別指導①	第11～15週：設定したテーマと研究方法の見直し	
12	進捗状況、課題・問題点の報告／個別指導②		
13	卒論内容の発表／個別指導①		
14	卒論内容の発表／個別指導②		
15	卒論内容の発表／個別指導③		
16	まとめ		
テキスト・参考文献・資料など	設定したテーマに関する資料・情報を収集して基礎知識を持ち、さらに必要に応じて図書館への調査活動もおこなう。各自の必要に応じて、調査方法・関連資料などを紹介する。		
学びの手立て	できるだけ多くの資料・情報に目を通し、自分のテーマと研究方法を見つけること。		
評価	出席状況（10％）と卒論の発表内容、討議（90％）への参加姿勢を含めて総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性 ゼミナール I と同じです。

[/ 演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅢ	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山口 真也	4年	ゼミナール I と同じです。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ゼミナール I と同じです。	ゼミナール I と同じです。

到達目標	ゼミナール I と同じです。
------	----------------

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>ゼミナール I と同じです。</p>

テキスト・参考文献・資料など	ゼミナール I と同じです。
----------------	----------------

学びの手立て	ゼミナール I と同じです。
--------	----------------

評価	ゼミナール I と同じです。
----	----------------

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>ゼミナール I と同じです。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

学科カリキュラムポリシー4（論理的・批判的思考力や課題探究力を養い、卒業論文を作成するための「ゼミ」を設置）に関連する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅢ	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	4年	授業終了後に、教室で受け付けます。 または、c.toubaru@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習は国語科教育に関する演習を行うものである。卒業論文のテーマを念頭に置き、レポートを作成、発表し、検討会を持つ。その中で、文献を読み取る力、分析する力、表現する力、多角的に考える力の基礎を身につける。	自分の専門とする領域以外の知識も深め、国語科教育学の理解を更に深めてほしい。

到達目標
中間発表会で、第3章までの論文を報告し、質問に答えることができる。 各自のテーマに沿って、文献を読み、文言を引用しながら質問することができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	卒業論文の概要とスケジュール（発表日の確定）・次時の発表役割分担（4年次）	中間発表会の準備
	2	卒業論文のテーマの立て方と書き方	中間発表会の準備
	3	4年次中間発表会・質疑応答（1～6）	予習（3年次文献を読む）・卒論
	4	「国語科教育学研究の成果と展望」質疑（1～2）	予習（3年次文献を読む）・卒論
	5	「国語科教育学研究の成果と展望」質疑（3～4）	予習（3年次文献を読む）・卒論
	6	「国語科教育学研究の成果と展望」質疑（5～6）	予習（3年次文献を読む）・卒論
	7	テーマ・研究方法・アウトラインの報告(1)	予習（3年次文献を読む）・卒論
	8	テーマ・研究方法・アウトラインの報告(2)	予習（3年次文献を読む）・卒論
	9	テーマ・研究方法・アウトラインの報告(3)	予習（3年次文献を読む）・卒論
	10	学術論文を読む・質疑（1～3）	予習（3年次文献を読む）・卒論
	11	学術論文を読む・質疑（4～6）	予習（3年次文献を読む）・卒論
	12	発表・質疑応答（1・2）	予習（3年次文献を読む）・卒論
	13	発表・質疑応答（3・4）	予習（3年次文献を読む）・卒論
	14	発表・質疑応答（5・6）	発表会準備
15	4年次発表会・質疑応答	卒論	
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 適宜紹介する。 発表者は参考文献のコピーを用意する。
-------	---

学びの手立て	無断欠席をしないこと。（発表者が欠席した場合、原則として単位は認めない。） 積極的に質疑に臨む事。 リフレクションシートの提出を課す。（文献のまとめ・ゼミの感想）
--------	---

評価	出席重視・研究発表の到達度・討議への参加・質問内容・リフレクションシートなどをもとに総合的に判断する。 優（20ページ）良（19ページ）可（18ページ）
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 （1）関連科目【上位科目】ゼミナールⅣ（4年次・後期）（2）次のステージ ゼミナールⅣでは、3年次の発表に関する資料を読み込み、質問する力、課題を提示する力が求められる。 【カリキュラムポリシーとの関連】4
-------	---

※ポリシーとの関連性 1年生、2年生、3年生で積み上げてきた知識や関心を、卒業論文につなげていく科目です。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅣ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-奥山 貴之	4年	email、授業後教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「日本語教育」「日本語学」などの関連分野で、各自の設定したテーマに基づいて、資料の紹介、研究の発表などをしていきます。課題を自分で見つけ、調査したり考察したりしたことを他者に伝えられるようになること、他者との議論の中で多角的な視点を持つようになることを目指します。	1人での考察や、ゼミの仲間とのやり取りなどから、卒業論文に繋がるものを見つけていきましょう。他者に伝えること、伝え合うことの活動を通して、多角的な視点を得ていきましょう。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの興味や関心から、卒業論文に向けた課題を見つけること。 ・調査したこと、考察したことをレジュメにまとめて伝えられるようになること。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 学習状況の確認 発表日程の決定	
	2	研究(計画)に向けて	発表準備
	3	発表方法の確認	
	4	先行研究の読み方 まとめ方	
	5	先行研究の発表①	発表準備
	6	先行研究の発表②	発表準備
	7	先行研究の発表③	発表準備
8	先行研究の発表④	発表準備	
9	パイロット調査導入		
10	調査計画・調査方法の発表①	発表準備	
11	調査計画・調査方法の発表②	発表準備	
12	調査計画・調査方法の発表③	発表準備	
13	パイロット調査の発表①	発表準備	
14	パイロット調査の発表②	発表準備	
15	パイロット調査の発表③	発表準備	
16			
実践	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で適宜紹介する。		
	学びの手立て 「どうして?」「なぜ?」「本当だろうか?」という気持ちを大切に、その気持ちに応えていけるようになりましょう。 応えるための適切な手順や方法を仲間と一緒に身につけていきましょう。		
	評価 授業参加度、レジュメ、課題・発表への取り組みなどを総合的に見て判断します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「ゼミナールⅠ・Ⅱ」「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」
-------	------------------------------------

※ポリシーとの関連性

広い領域の知識に関心を持ち、必要に応じて知識や理論を用いる応用力を養うと同時に、専門分野についての知見を深める。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅣ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	4年	y.murakami@okiu.ac.jp 5号館404研究室	

学びの準備	ねらい 自分で設定したテーマの研究を深め、レジュメ作成や発表によるプレゼンテーションを通して表現力を高める。	メッセージ ゼミナールⅣではこれまでに学んだことを生かし、積極的に議論に参加してください。自分自身のテーマとはかけ離れているように思えるテキストから意外な示唆を受けることが必ずあります。
	到達目標 論理的な思考力に基づき、発言・執筆する力を身につける。自己の発表にも他者の発表にも積極的に向き合い、多様な視点からの分析につなげる。	

学びの準備	到達目標 論理的な思考力に基づき、発言・執筆する力を身につける。自己の発表にも他者の発表にも積極的に向き合い、多様な視点からの分析につなげる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読んでおくこと。
	2	テキスト分析とは何か	指定された作品を読んでくる。
	3	テキスト分析実践	指定された作品を読んでくる。
	4	研究発表	指定された作品を読んでくる。
	5	研究発表	指定された作品を読んでくる。
	6	研究発表	指定された作品を読んでくる。
	7	研究発表	指定された作品を読んでくる。
	8	研究発表	指定された作品を読んでくる。
	9	研究発表	指定された作品を読んでくる。
	10	研究発表	指定された作品を読んでくる。
	11	研究発表	指定された作品を読んでくる。
	12	研究発表	指定された作品を読んでくる。
	13	研究発表	指定された作品を読んでくる。
	14	研究発表	指定された作品を読んでくる。
	15	全体のまとめおよびレポート作成時の注意点について	レポートに向けての学習。
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 受講生の要望に応じて対象テキストを設定する。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 受講生による発表後に教員および受講生全員で討議を行う。司会は受講生が務める。
-------	--

学びの実践	評価 発表内容50%、授業時の発言や討論への参加の積極性30%、レポート20%。 授業時数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文Ⅱ
-------	----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅣ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	黒澤 亜里子	4年		

学びの準備	ねらい 基本的には近現代の文学テキストを取り上げますが、毎年異なるテーマ、課題を設定します。一つのテーマをめぐって真剣に考え、かつ論じ合うゼミナールの醍醐味、楽しさを知ってほしい。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） <ol style="list-style-type: none"> 1 ゼミ運営の方針説明 2 レジュメの作り方 3 調査、資料収集の方法 4 学術論文のスタイル 5 発表及び討議 6 ゼミ論文の作成 7 ゼミ報告集の編集作業
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：プリント使用。 参考文献：取り上げる作品に応じて適宜指示します。
	学びの手立て
	評価 ①発表 ②ゼミ活動への取り組みの姿勢、貢献度 ③出席

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性 ゼミナールⅡと同じです。

[/演習]

科目基本情報	科目名 ゼミナールⅣ	期別 後期	曜日・時限 水3	単位 2
	担当者 山口 真也	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		4年	ゼミナールⅡと同じです。	
	ねらい ゼミナールⅡと同じです。		メッセージ ゼミナールⅡと同じです。	
学びの準備	到達目標 ゼミナールⅡと同じです。			
学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) ゼミナールⅡと同じです。			
	テキスト・参考文献・資料など ゼミナールⅡと同じです。			
	学びの手立て ゼミナールⅡと同じです。			
	評価 ゼミナールⅡと同じ。			
学びの継続	次のステージ・関連科目 ゼミナールⅡと同じです。			

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅣ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	4年	5-401(研究室) kshimoji@okiu.ac.jp	
学びの準備	ねらい 日本語学、琉球語学に関する研究テーマを各自で定め、卒業論文執筆に向けて調査・研究を進めていく。	メッセージ 卒業論文の完成に向けて、研究計画をしっかりと立ててください。		
	到達目標 ・自身の研究テーマについて、科学的調査と論理的な考察に基づいた卒業論文を執筆する。 ・自身の卒業論文の内容を適切に説明することができる。			
学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p><u>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</u></p> <p>おおむね次のように進めていきます。</p> <p>ガイダンス、卒業論文の体裁・提出方法の説明 進捗状況の確認 目次の見直し 以下の項目に関する中間報告（複数回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の研究テーマに基づく調査、データの収集状況 ・言語データの整理、分析状況 ・考察、まとめ <p>論文原稿の仮提出 原稿の修正・加筆 卒業論文の提出</p> <p>各自の進捗状況に応じて指導、助言を行います。 卒業論文の完成に向けて全力を尽くします。</p>			
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>各自の研究テーマに沿って適宜指示・紹介します。</p>			
	<p>学びの手立て</p> <p>進捗状況を常に把握し、計画的に研究を進めていくことが何よりも大切です。</p>			
	<p>評価</p> <p>卒業論文の内容および形式はもちろんのこと、その研究テーマにどのように取り組んできたか執筆の過程も評価の対象とします。</p>			
学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>論文の執筆を通して高められた思考力、言語運用能力、情報検索能力を存分に発揮し、社会で活躍できる人材となってください</p>			

※ポリシーとの関連性

高度な情報収集能力と的確な自己表現力によって、現代社会の諸課題を解決できる能力を培う。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅣ	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	兼本 敏	4年	研究室5-501 メール: kanemoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 前期で作成提出したゼミ論の完成を目指します。ゼミ論の口頭発表を行い質疑応答を通して完成度を高めます。	メッセージ 事前準備が肝心です。海外へのゼミ調査を企画実行するためにも早めの完成を！
	到達目標 論理的な文章（卒業論文）の作成と資料の提示を会得します。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	発表日程と提出期限の確認
	2	進捗状況の報告	
	3	日程決定	海外調査と論文発表の日程
	4	執筆と質疑	対教員と質疑
	5	同上	同上
	6	発表と質疑	対クラスメート発表
	7	同上	同上
	8	同上	同上
9	同上	同上	
10	総括		
11	添削	執筆	
12	添削	執筆	
13	論文提出		
14	添削	執筆と質疑（教員）	
15	添削	同上	
16	評価と総括		
	テキスト・参考文献・資料など 指定なし。 個々のテーマによって異なりますが、必要に応じて提示します。		
	学びの手立て 先行研究や先輩方の卒論を参考にして下さい。論文の形式や約束事を身に付けてください。		
	評価 早めの提出で添削も可能です。 最終評価は提出されたゼミ論で行います。（卒論に準じる） 構成、論証の正確さ、参考文献の有効性、文章の明瞭さを総合的に評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 大学生として身に着けるべき技能の集大成がゼミ論を発展させた卒業論文です。ある特定の課題を検討する際、多くの情報と資料を収集し、精査し、簡潔に述べる技術は実社会でも必要になります。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅣ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	4年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習は日本の古典文学・文化に関する演習を行うものである。今年度は特に狂言を取り上げる。狂言作品を一つ一つ取り上げながら注釈を試み、笑いの問題、オノマトペの効用などについて考える。	メッセージ 資料を探し、分析の視点を設定し、発表の構成について考えるというのは広く応用可能な方法である。ぜひ身につけてほしい。
	到達目標 論文の構成について考え、執筆、再検討を行う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	演習の進め方	関連する資料の収集
	2	論文の構成について考える1	資料の読み込み
	3	論文の構成について考える2	資料の読み込み
	4	論文の構成について考える3	資料の読み込み
	5	論文の構成について考える4	資料の読み込み
	6	論文を執筆する1	データの打ち込み
	7	論文を執筆する2	データの打ち込み
	8	論文を執筆する3	データの打ち込み
	9	論文を執筆する4	データの打ち込み
	10	論文を執筆する5	データの打ち込み
	11	論文を再検討する1	データの手直し
	12	論文を再検討する2	データの手直し
	13	論文を再検討する3	データの手直し
	14	論文を再検討する4	データの手直し
15	論文の審査	データの手直し	
16	論文の審査	データの手直し	
	テキスト・参考文献・資料など 新日本古典大系『狂言記』岩波書店、新編日本古典文学全集『狂言集』小学館		
	学びの手立て 日本古典文学大辞典、日本国語大辞典など大きな事典類をまず引くことを勧める。		
	評価 発表内容、出席状況、授業への参加姿勢を総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ゼミナールで学んだことを卒業論文に活かす。
-------	--------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅣ	後期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉田 肇吾	4年	yoshida@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ゼミのコンセプトは「お互いに学びあうこと」。生涯学習社会・情報社会における図書館について、図書館情報学を中心とする学問分野で、各自が設定したテーマに基づき調査・研究をすすめ、その内容を発表し質疑応答・討議をおこなう。4年生は、3年次での文献調査でまとめた基礎知識を踏まえた上で、さらなる文献調査やアンケート調査の実施・集計結果の検討などにより考察を深め、卒業論文の執筆を目指す。</p>	<p>設定した課題解決のために、調査活動をおこない、内容をまとめ、分析し、自分なりの結論を導き出す。</p>
到達目標	卒業論文を完成させる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：後期日程について	第1～9週：論文作成作業を進めながら、中間発表をおこない、課題を解決していく
	2	卒論：中間発表／個別指導①	
	3	卒論：中間発表／個別指導②	
	4	卒論：中間発表／個別指導③	
	5	卒論：中間発表／個別指導④	
	6	論文執筆：個別指導①	
	7	論文執筆：個別指導②	
8	論文執筆：個別指導③		
9	論文執筆：個別指導④		
10	論文内容の発表・質疑応答／個別指導①	第10～16週：内容の検討、加筆・修正を繰り返す	
11	論文内容の発表・質疑応答／個別指導②		
12	論文内容の発表・質疑応答／個別指導③		
13	論文内容の発表・質疑応答／個別指導④		
14	論文内容の発表・質疑応答／個別指導⑤		
15	論文内容の発表・質疑応答／個別指導⑥		
16	卒業論文提出		
テキスト・参考文献・資料など	設定したテーマに関する資料・情報を収集して基礎知識を持ち、さらに必要に応じて図書館への調査活動もおこなう。各自の必要に応じ、調査方法・関連資料などを紹介する。		
学びの手立て	調査・研究を着実に進め、調査結果の集計・分析を丁寧におこない、その結果からどのようなことが言えるのかについて、しっかりと検討する。		
評価	出席状況（10％）と卒論の発表内容、討議（90％）への参加姿勢を含めて総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅣ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	4年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習は、概ね「古代文学」（上代文学・中古文学）、国語科教育について、各自の興味関心、問題意識に基づいて、テーマ設定してレポート発表する。また臨地研修などを通して、研究対象と向き合い、様々な知見と経験的実感的に学んでいく。	学習指導要領によると「伝統文化」という科目が設定されるようです。「伝統文化」を学ぶ我々の出番です。実感的経験的に学ぶには、作品を深く学ぶことに他ならないと思います。ともに頑張りましょう。

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1 自分自身の興味関心、問題意識に基づいてテーマを設定し、調査研究する能力を身に付ける。 2 研究討議等によって、多面的に考察する方法を身に付ける。 3 臨地研究などを通して、研究対象と向き合い、自分自身の気づきや経験に基づいた感性を大事にすることができる。

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>演習Ⅰで学んだことを踏まえて、各自が設定した研究テーマについて調査・考察し、その報告と討議によって演習を進める。年度末には、ゼミ論集等を作成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 研究発表 3 研究発表 4 研究発表 5 研究発表 6 研究発表 7 研究発表 8 研究発表 9 研究発表 10 研究発表 11 研究発表 12 研究発表 13 研究発表 14 ゼミ論集等の作成 15 まとめ
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>必要に応じて指示する。</p> <p>必要に応じて指示する。</p>
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価</p> <p>①出席を重視する。②発表内容・演習に対する取り組みの姿勢等を総合的に評価する。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅣ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	狩俣 恵一	4年	karimata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本ゼミは、琉球文学を探究する3年次生（ゼミナールⅠ）と4年次生（ゼミナールⅢ）の合同ゼミである。よって、琉球文と和文（古文）を比較検討し、琉球文による組踊について4年次から発表をはじめ、続いて3年次生が発表する。	メッセージ 琉球文と和文（古文）を比較検討しながら、組踊について学ぶ。
	到達目標 琉球文の読みと読解力を養う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1回 和文（古文）と琉球文について 第2回 琉球土族語と琉球文について 第3回 能の謡と組踊の唱えの詞章について 第4回 古典文学研究と古典芸能の研究について 第5回 琉球文による組踊の読解（発表1） 第6回 琉球文による組踊の読解（発表2） 第7回 琉球文による組踊の読解（発表3） 第8回 琉球文による組踊の読解（発表4） 第9回 琉球文による組踊の読解（発表5） 第10回 琉球文による組踊の読解（発表6） 第11回 琉球文による組踊の読解（発表7） 第12回 琉球文による組踊の読解（発表8） 第13回 琉球文による組踊の読解（発表9） 第14回 琉球文による組踊の読解（発表10） 第15回 発表の総括 第16回 試験
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：コピーを配布する。 参考文献：『沖縄古語辞典』『日本古語辞典』『琉球戯曲集』
	学びの手立て 琉球語（琉球文）と和語（古文）の表記法、語彙、文法を比較検討することが基礎作業となる。古文の読解力を基礎として琉歌の読解を行う。
	評価 出席・発表レジュメ・発表の方法・質問内容、試験による総合評価。

学びの継続	次のステージ・関連科目 「卒業論文」
-------	-----------------------

※ポリシーとの関連性 琉球文化に対する理解を深め、琉球語学、琉球文学、琉球芸能への知識、能力を身に付けます。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅣ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	4年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 琉球語諸方言の調査・記録、分析あるいは再生に取り組みます。消滅の危機に瀕する言語と呼ばれる琉球語諸方言を分らないまま置いておくのではなく、それら言葉の特徴・個性を分かろうとする学びの姿勢が大切です。	メッセージ 琉球語を甦らせるにはどうすればよいのかを考えていきましょう。音声テキストおよび画像資料の収集（作成）と、そのデジタル化および一般公開も、これから成されるべき仕事です。また、琉球語諸方言によって何かを表現していくという姿勢も大切になってきます。
	到達目標 琉球語諸方言による文法書、辞典、索引、民話テキスト、教科書、演劇台本などの作成を目指します。それぞれが琉球語を理解し、琉球語の継承者となることが目標です。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・課題の琉球語テキスト決定	琉球語の品詞分解・解釈
	2	琉球語テキスト(昔話)の読解・鑑賞①	琉球語の品詞分解・解釈
3	琉球語テキスト(昔話)の読解・鑑賞②	琉球語の品詞分解・解釈	
4	琉球語テキスト(昔話)の読解・鑑賞③	琉球語の品詞分解・解釈	
5	琉球語テキスト(昔話)の読解・鑑賞④	琉球語の品詞分解・解釈	
6	琉球語テキスト(昔話)の読解・鑑賞⑤	琉球語の品詞分解・解釈	
7	琉球語テキスト(昔話)の読解・鑑賞⑥	琉球語の品詞分解・解釈	
8	バス見学1 (故地を訪ねて)	レポートによるまとめ	
9	琉球語テキスト(組踊)の読解・鑑賞⑦	琉球語の品詞分解・解釈	
10	琉球語テキスト(組踊)の読解・鑑賞⑧	琉球語の品詞分解・解釈	
11	琉球語テキスト(組踊)の読解・鑑賞⑨	琉球語の品詞分解・解釈	
12	琉球語テキスト(組踊)の読解・鑑賞⑩	琉球語の品詞分解・解釈	
13	琉球語テキスト(組踊)の読解・鑑賞⑪	琉球語の品詞分解・解釈	
14	琉球語テキスト(組踊)の読解・鑑賞⑫	琉球語の品詞分解・解釈	
15	バス見学2 (故地を訪ねて)	レポートによるまとめ	
16	春休みの調査計画等		
	テキスト・参考文献・資料など ゼミで扱う琉球語テキストについては、その都度指示します。 毎回、課題の琉球語テキストを品詞分解したレジユメを用意すること。		
	学びの手立て 初めは、琉球語に関する本を読んだりメディアにふれたりして、琉球語についての理解を深めます。また、琉球語諸方言を記録として書き留める練習をします。文法的に分析する姿勢も学びます。その後、琉球語諸方言に関するテーマを決め、それについて実際に調査・記述します。文法記述、辞書（語彙集）作成、テキスト収集などが大きな目標となります。フィールドワーク（野外調査）を行う際には、まず教室で、先行文献の検討、調査表の作成、予備調査などを行ないます。その後、実際に現地に赴きます。フィールドワークでは、言葉を教えていただいた話者との交流も深めましょう。再び教室に戻ったあとは、集めた資料の整理をし、今後の課題を洗い出します。		
	評価 出席状況、演習の発表、フィールドワークを行う場合は、その準備および参加、行事への取り組み、提出レポートなどを総合的に判断します。発表担当者は責任をもって発表すること。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本語音声学、日本語音声学特講、琉球語学特講などが関連科目です。音声学の知識は必須。毎年度2月に行われる琉球語スピーチコンテストに参加すること。
-------	---

※ポリシーとの関連性

学科カリキュラムポリシー4（論理的・批判的思考力や課題探究力を養い、卒業論文を作成するための「ゼミ」を設置）に関連する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅣ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	4年	授業終了後に、教室で受け付けます。 または、c.toubaru@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習は国語科教育に関する演習を行うものである。卒業論文のテーマを念頭に置き、レポートを作成、発表し、検討会を持つ。その中で、文献を読み取る力、分析する力、表現する力、多角的に考える力の基礎を身につける。	メッセージ 自分の専門とする領域以外の知識も深め、国語科教育学の理解を更に深めてほしい。
	到達目標 各自のテーマに沿って、文献を読み、文言を引用しながら質問することができる。 発表会で、質問に回答することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	卒論執筆
	2	①研究発表・質疑(1・2)	卒論執筆
	3	①研究発表・質疑(3・4)	卒論執筆
	4	①研究発表・質疑(5・6)	卒論執筆
	5	②研究発表・質疑(1・2)	卒論執筆
	6	②研究発表・質疑(3・4)	卒論執筆
	7	②研究発表・質疑(5・6)	卒論執筆
	8	③研究発表・質疑(1・2)	卒論執筆
9	③研究発表・質疑(3・4)	卒論執筆	
10	③研究発表・質疑(5・6)	卒論執筆	
11	4年次発表会・質疑(1～2)	卒論提出	
12	4年次発表会・質疑(3・4)	卒論提出	
13	4年次発表会・質疑(5・6)	卒論集作成・印刷会社への連絡	
14	ゼミ論集の作成	卒論集作成・印刷会社への連絡	
15	まとめ	卒論集作成・印刷会社への連絡	
16			
実践	テキスト・参考文献・資料など 適宜紹介する。 発表者は参考文献のコピーを用意する。		
	学びの手立て 無断欠席をしないこと。 積極的に質疑に臨む事。 リフレクションシートの提出を課す。		
	評価 出席重視・研究発表の到達度・討議への参加・質問内容・リフレクションシートなどをもとに総合的に判断する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目【上位科目】卒業論文ⅠⅡ(4年次・前期・後期) (2) 次のステージ 卒業論文Ⅱでは、文献や調査結果をもとに、国語科教育学に関する論文を作成、提出する。 【カリキュラムポリシーとの関連】4
-------	--

※ポリシーとの関連性 3年次以降の「ゼミナール」を適切に選択するため、必修科目として設置する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナール入門	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡（1回）、田場（4回）、下地（2回）、狩俣（1回）、新任（1回）、黒澤（1回）、桃原（2回）、村上（2回）、兼本（1回）、葛綿（1回）	2年	研究室番号：5402 nishioka@okiu.ac.jp 後期2年次オリエンテーションに要出席。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>日本文化学科開設のゼミの特色、研究内容への理解を深め、専門性の深化させて具体的な学問の方策について学ぶ。琉球文化コース、日本文化コース、多文化間コミュニケーションコースの各開設科目の基礎科目、応用科目、発展科目がどのように形成されているかを知り、卒業研究に向けて自分自身の専門性をどのように高めていくかを学び、研究計画書を作成する。</p>	<p>日本文化学科の教員が、各専門領域における学問的な魅力について講義を行う。日本文化学科で学べることの広がりを感じ取り、どの専門領域の研究を深く掘り下げていきたいのかを考えて決めてほしい。</p>
到達目標	自分が進むべき専門領域について一定の理解に達しており、また、その領域の文献検索も支障なく進められ、研究計画書、ゼミ希望調査表等を適切に書くことができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	大学での学びと進路	登録確認、講義概要の把握
	2	ことばの不思議	講義内容の復習、課題への取組
	3	琉球文化を考える	講義内容の復習、課題への取組
	4	日本古典文学の世界	講義内容の復習、課題への取組
	5	近現代文学①	講義内容の復習、課題への取組
	6	インターンシップ報告会（3年次の職業体験を聞く）	コメントをまとめる
	7	近現代文学②	講義内容の復習、課題への取組
8	古典文学と国語科教育	講義内容の復習、課題への取組	
9	国語科教育を考える	講義内容の復習、課題への取組	
10	図書館学	講義内容の復習、課題への取組	
11	比較・対照 言語と文化	講義内容の復習、課題への取組	
12	多文化間コミュニケーションと日本語教育	講義内容の復習、課題への取組	
13	琉球語の再生と多文化共生	講義内容の復習、課題への取組	
14	優秀レポートの発表（プレゼンテーション）	レポートへのコメントをまとめる	
15	研究計画書の作成方法 研究計画の立て方、ゼミ希望調査の提出方法	研究計画書の作成	
16	予備日	研究計画書の提出	
	テキスト・参考文献・資料など	なし。 各週担当者が適宜紹介する。	
	学びの手立て	①無断欠席をしないこと。②プリント類の保管・管理は受講者が行うこと。増し刷りや欠席者への対応はしない。③遅刻や途中退席は認めない。④毎時間、文章表現課題がある。 後期2年次オリエンテーションにも必ず出席すること（この「ゼミナール入門」の出席としてカウントする）。	
	評価	①出席を重視する。②研究計画書の内容を評価する。③担当者によって所定の課題を求める場合がある。④①～③を総合的に判断して評価を行う。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージ：ゼミナールⅠ・Ⅱ、3年生以上の日本文化学科専門科目。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文 I	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	4年	授業終了後に、教室で受け付けます。 または、c.toubaru@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習は国語科教育に関する演習を行うものである。卒業論文のテーマに沿って、文献を読み、論文としてまとめる。論文を発表し、検討会を持つ中で、文献を適切に読み取り自分の論を組み立てる力、データを基に分析する力、表現する力、多角的に考える力の基礎を身につける。	自分の専門分野はもちろんのこと、他分野の書籍にもあたり、自分の研究を多角的に見る力をつけてほしい。 12月1日に卒論提出、1月に卒業研究発表会を行います。
到達目標	理論編を完成させる。 アンケートや調査、模擬授業を終える。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	卒論提出までのスケジュール確認・予定表の提出	論文作成
	2	①発表・質疑応答（1・2）	論文作成
	3	①発表・質疑応答（3・4）	論文作成
	4	①発表・質疑応答（5・6）	論文作成
	5	②発表・質疑応答（1・2）	論文作成
	6	②発表・質疑応答（3・4）	論文作成
	7	②発表・質疑応答（5・6）	論文作成
8	③発表・質疑応答（1・2）	論文作成	
9	③発表・質疑応答（3・4）	論文作成	
10	③発表・質疑応答（5・6）	論文作成	
11	④発表・質疑応答（1・2）	論文作成	
12	④発表・質疑応答（3・4）	論文作成	
13	④発表・質疑応答（5・6）	論文作成	
14	⑤発表・質疑応答（1・2）	論文作成	
15	⑤発表・質疑応答（3・4）	論文作成	
16			
実践	テキスト・参考文献・資料など 適宜紹介する。 発表者は参考文献のコピーを用意する。		
	学びの手立て 無断欠席をしないこと。（発表者が欠席した場合、原則として単位は認めない。） 参考文献は、発表前の週に、ゼミ生・教師に配布すること。 積極的に質疑に臨む事。 発表後、訂正箇所はすぐに直し、メールでデータを送ること。		
	評価 出席重視・研究発表の到達度・討議への参加・質問内容などをもとに総合的に判断する。 優（17ページ）良（16ページ）可（15ページ）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目【上位科目】卒論Ⅱ（4年次・後期） (2) 次のステージ 卒論Ⅱでは、アンケートや授業実践のデータを分析し、成果と課題をまとめることが求められる。 【カリキュラムポリシーとの関連】 4
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文 I	前期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	4年	y.murakami@okiu.ac.jp 5号館404研究室	

学びの準備	ねらい 各自卒業論文のテーマを設定し、調査研究を進める。	メッセージ 卒業論文の執筆は大学生活の集大成となるものです。自分自身でテーマを定め、納得のいく卒論を書き上げるためのスキルを身につけましょう。
	到達目標 卒業論文全体の構想をまとめる。	

学びの準備	到達目標 卒業論文全体の構想をまとめる。
-------	-------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス
	2	卒業論文の書式について
	3	卒業論文の方向性および展開についてのディスカッション
	4	研究発表
	5	研究発表
	6	研究発表
	7	研究発表
	8	研究発表
	9	研究発表
	10	研究発表
	11	研究発表
	12	研究発表
	13	研究発表
	14	研究発表
	15	総括
16		
	時間外学習の内容	
	シラバスをよく読んでおく。	
	卒業論文の書式について復習する。	
	今後の展開を考える。	
	指定されたテキストを読んでくる。	
	レポートに向けての学習。	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示する。
-------	-------------------------------

学びの実践	学びの手立て 他のゼミ生の研究発表に対して有意義な発言ができるよう、指定されたテキストは必ず読んでくること。
-------	---

学びの実践	評価 発表内容40%、授業時の発言や討論への参加の積極性20%、レポート40%。 授業時数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 ゼミナールⅢ・Ⅳ、卒業論文Ⅱ
-------	-------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文 I	前期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	黒澤 亜里子	4年		

学びの準備	ねらい 各自が設定した課題、テーマについて、調査、研究、分析を行い、論文のアウトラインを作成します。	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1 卒業論文の進め方 年間計画作成 2 調査、文献・資料収集の方法 3 参考文献目録の作り方 4 研究史のまとめ方 5 方法、視点の検討 6 小テーマの設定 7 仮説論証の練習 8 卒論テーマの確定 9 構想表の作り方 10 発表 11 中間発表 ※夏期合宿で「中間発表会」を行う
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：各自の課題、テーマに応じて指導します。 参考文献：適宜指示します。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：各自の課題、テーマに応じて指導します。 参考文献：適宜指示します。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 評価 発表、調査・研究方法、取り組みの姿勢、努力など総合的に評価します。
-------	---

学びの実践	評価 発表、調査・研究方法、取り組みの姿勢、努力など総合的に評価します。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅰ	前期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	4年	5-401(研究室) kshimoji@okiu.ac.jp	
学びの準備	ねらい	メッセージ		
	日本語学、琉球語学に関する研究テーマを各自で定め、卒業論文執筆に向けて調査・研究を進めていく。	卒業論文は大学での学びの集大成です。自ら定めた研究テーマについて真剣に、楽しく取り組んでください。		
学びの実践	到達目標			
	下記の事項について中間報告を行う。 ・研究テーマについての言語調査、収集したデータの分析結果 ・研究テーマに関する考察内容、問題点			
学びの継続	学びのヒント			
	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)			
	おおむね次のように進めていきます。 ガイダンス テーマの最終決定、目次(仮)の設定 進捗状況の確認と論文執筆計画の作成 以下の項目に関する中間報告 (複数回) ・先行研究のまとめ ・各自の研究テーマに基づく調査、データの収集状況 ・言語データの整理、分析状況 ・考察結果 論文執筆計画の見直し 各自の進捗状況に応じて指導、助言を行っていきます。 論文の完成に向けて、とくに先行研究など基礎的事項の充実と言語データの収集を集中的に行います。			
	テキスト・参考文献・資料など	各自の研究テーマに沿って適宜指示・紹介します。		
学びの継続	学びの手立て	先行研究のまとめと調査をとにかく進めること。そして執筆スケジュールの見直しを定期的に行い、研究の進捗状況を確実に把握することが大切です。		
	評価	論文の中間報告の内容、取り組み方を総合的に評価します。		
学びの継続	次のステージ・関連科目	関連科目「卒業論文Ⅱ」		

※ポリシーとの関連性

本科目は、論理的・批判的思考力や課題探求力を養い、卒業論文を作成するというカリキュラム・ポリシー5に当たる。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文 I	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	4年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本科目は卒業論文の作成をめざすものである。特に先行研究の整理、分析視点の設定に力点を置く。	メッセージ 資料を探し、分析の視点を設定し、発表の構成について考える。こうした方法論は広く応用可能だと思われるので、ぜひ身につけてほしい。
	到達目標 先行研究を整理する。分析の視点を設定する。	

学びの準備	到達目標 先行研究を整理する。分析の視点を設定する。
-------	-------------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	卒論とは何か	関連する資料の収集
	2	先行研究の整理（1）	資料収集
	3	先行研究の整理（2）	資料の読み込み
	4	先行研究の整理（3）	資料収集
	5	先行研究の整理（4）	資料の読み込み
	6	分析の視点（1）	資料収集
	7	分析の視点（2）	資料の読み込み
	8	分析の視点（3）	発表の準備
	9	分析の視点（4）	発表の準備
	10	中間発表（1）	発表の手直し
	11	中間発表（2）	発表の手直し
	12	中間発表（3）	発表の手直し
	13	中間発表（4）	発表の手直し
	14	中間発表（5）	発表の手直し
	15	中間発表（6）	発表の手直し
16	まとめ	発表の手直し	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 『枕草子・徒然草・浮世草子—言説の変容』 そのつど指示する
-------	--

学びの実践	学びの手立て 日本古典文学大辞典、日本国語大辞典、沖縄大百科事典など大きな事典類をまず引くことを勧める。
-------	---

学びの実践	評価 先行研究の整理、分析の視点などを重視して、評価する。
-------	----------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文Ⅱにおいては論文の構成と執筆、再検討に進んでいく。
-------	--

※ポリシーとの関連性

選択したテーマに必要な資料収集を行い専門知識を分かりやすく簡潔に表現できる能力を培う。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅰ	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	兼本 敏	4年	問い合わせはメールでkanemoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 表現力（文章構成）、資料収集力、分析&要約などを示す内容の論文を作成してもらいます。これらの技能を示すのが卒業論文であり、大学生活で獲得した知識と技能の集大成が「卒業論文」です。	メッセージ テーマの概要や具体的な事例を分かりやすい適切な言葉で表現できるように日頃から訓練しましょう。
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	卒論課題の確認
	2	卒業論文の進め方 年間計画作成	個別スケジュールの確定
	3	調査、文献・資料収集の方法	図書とウェブの利用について
	4	方法、視点の検討	過卒生の論文の精読
	5	同上	同上
	6	参考文献リストの作成	各自作成、提出
	7	卒論テーマおよびタイトルの最終決定	面談
	8	先行研究に対するディスカッション	関連論文を精読
	9	同上	同上
	10	論文執筆時における諸注意と論文の構成について	著作権、引用方法などの理解
	11	同上	同上
	12	中間発表と質疑	中間発表と質疑応答
	13	中間発表と質疑	同上
	14	同上	同上
15	総括	修正と完成	
16	仮提出		
	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは設定しない。 各自のテーマによって授業内で適宜紹介する。		
	学びの手立て 先輩方の卒論を参考にしたり、後輩へのアドバイスをしながら自分のテーマに関して簡潔に説明できるように心がけてください。		
	評価 論文の中間提出の完成度によって成績を評価するが、その際、先行研究と資料の整理（40%）、要約と整理（30%）、論文の構成（論理性10%）などを重視する。少なくとも章立てが完成していること。 中間発表（20%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文Ⅱで完成を目指してもらおう。
-------	-----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 朋子	4年	講義終了時に受け付ける	

学びの準備	ねらい 卒業論文の執筆に向けて、テーマの設定、資料の収集と読み込み、論文の構想を立て、実際の調査や分析等を行い、推敲を重ねるといふ一連の論文作成のプロセスを経て論文を書き進めていく。	メッセージ まず、何を研究テーマとして1年間取り組んでいきたいのかを熟考してください。そして、論文の文体や表現に慣れ、参考文献を丁寧に読み込み調査を行い、結論を導きだして行ってください。
	到達目標 ・適切なテーマを絞ることができる。 ・卒論執筆の基盤となる先行研究の読み込みが行えるようになる。 ・論理的な構成を組み立てていくことができるようになる。 ・仮説を立て調査を実施することができるようになる。 ・分析の際に多角的な視点を持つことができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション、テーマの絞り込み
	2	論文作成構想と具体的年間計画
	3	論文の構成・目録の作成と発表
	4	「はじめに、研究の目的、方法、対象」発表
	5	参考文献の書き方の確認
	6	参考文献のリスト発表
	7	先行研究の発表①
	8	先行研究の発表②
	9	先行研究の発表③
	10	仮説について
	11	調査票の作成と確認
	12	調査の実施
	13	調査のまとめ方
	14	分析の方法
	15	結果・考察の書き方
	16	検証
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて、適宜資料を配布する。各自が、論文に用いる参考文献の内容を他のゼミ生に紹介していくため参考文献は多岐にわたることになる。各自でコピーを用意する。	
	学びの手立て ・普段から問題意識を持ち、テーマを絞っていくことが大切である。 ・研究計画を練り、構成をしっかり考えよう。 ・各自のテーマに沿った先行研究を読み込んでいくことが基盤となるので、まずは関連基本図書を読み込み比較や検証を行っていきよう。 ・研究ノートを作成し、参考文献からの引用部分やその箇所の記録をきちんと取っておくと良い。 ・論文で用いる文や表現のスタイルにも、慣れていきよう。	
	評価 論文の内容を評価するが、論文完成に至る過程における一連の課題や発表等への取り組みも評価の対象となる。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 次は、卒論を完成させることになるので、十分な分析結果から考察を深め結論を導きだしていきよう。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文 I	前期	月 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉田 肇吾	4年	yoshida@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい これからの図書館の諸問題について、図書館情報学を中心とする学問的視点から、各自がテーマを自由に設定し卒論を執筆することで論理的思考の展開方法を学ぶ。具体的には「問題解決能力」を身につけるために、問題設定→あらゆる情報手段を使用した資料情報収集→収集各種資料の比較・検討・選択→論文作成→発表→質疑応答・討論という論文作成プロセスをすすめていく。	メッセージ 図書館司書課程の科目内容から、さらに踏み込んだ内容に触れる。各自が自分でテーマ設定し、問題解決のプロセスを展開させていく。
	到達目標 図書館情報学という学門分野において、課題設定から問題解決まで自分で考えながらプロセスを進めることにより、問題発見能力、資料・情報検索能力、情報選択能力、情報活用能力、情報発信能力など、社会参加してからも重要な要素となる基礎的能力を身につけていく。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：論文作成プロセス	第1～6週：論文執筆プロセスについての内容説明（各項目について関連文献に目を通しておく）
	2	執筆スケジュールの組み方	
	3	テーマ設定・研究方法の確定	
	4	資料・情報の収集方法	
	5	論文の構成方法	
	6	内容発表の方法・質疑応答・討議について	
	7	各自のテーマ・研究方法の発表①	第7～10週：テーマ、方法、参考文献などを発表をするため、各自が研究計画書を作成する
	8	各自のテーマ・研究方法の発表②	
	9	各自のテーマ・研究方法の発表③	
	10	各自のテーマ・研究方法の発表④	
	11	個別指導①	第11～15週：前週までの研究計画書に基づき、個別に内容確認、修正などをおこない、計画書を修正・加筆し、作成作業に取りかかる
	12	個別指導②	
	13	個別指導③	
	14	個別指導④	
	15	個別指導⑤	
	16	総括	
	テキスト・参考文献・資料など 各自のテーマ及び研究過程で適宜紹介する。		
	学びの手立て 問題解決プロセスでは、まず自ら考えること。その上で迷ったりわからないことがある場合には、どのようなことでも相談すること。		
	評価 提出された論文により評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山口 真也	4年	メールで受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	前年度の「ゼミナールII」にて行った個人研究を学術研究へと発展させ、社会調査(アンケート・観察・インタビュー調査)を本格的に実施し、卒業研究を完成させる。また、「卒業論文集」を出版すると共に、協力機関への報告・図書館への配布・卒業研究発表会の開催を通じて、2年間の個人研究の成果を広く公開する。	前期の卒論の授業では、進路決定に役立つようなガイダンスも含めつつ、後期からは本格的に始まる卒論執筆の準備を進めていきます。いろいろと忙しくなりますが、ゼミ生みんなで乗り切りましょう。

学びの準備	到達目標
	①卒業研究に必要な先行研究の調査を通じて、多種多様な文献、情報収集能力(文献調査力)を身につける。 ②卒業論文を執筆する過程で、データ集計・情報分析力、情報整理能力(論理的な文章構成力)、情報発信力(プレゼンテーションスキル)を身につける。 ③卒業研究のための調査の実施や、成果報告を通じて、コミュニケーションスキルや他者と協働する意識を高め、卒業後、社会人として活躍するための基本的な知識・技能を習得する。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	卒業論文とはなにか?・卒業論文執筆の心得 エントリーシートの書き方①	シラバスを読み、授業に備える
	2	卒業論文の進め方・作業計画書の作成 エントリーシートの書き方②	スケジュールの作成
	3	学術論文の書き方1 主題規定文の作成 エントリーシートの書き方・送り方③	主題規程文の執筆
	4	学術論文の書き方2 序論執筆・問題意識 グループディスカッションの進め方	主題規程文の手直し
	5	学術論文の書き方3 序論執筆・検証方法 面接にのぞむ方法	主題規程文の手直し
	6	個別相談① 序論の確定	文献収集
	7	個別相談② 序論の確定	文献収集
	8	卒業論文の構成1 目次・章立ての方法	目次・章立ての検討
	9	個別相談③ 目次・章立ての検討	目次・章立ての検討
	10	個別相談④ 目次・章立ての検討	目次・章立ての検討
	11	卒業論文の構成2 目次・章立ての発表①	発表の準備、振り返り
	12	卒業論文の構成3 目次・章立ての発表②	発表の準備、振り返り
	13	卒業論文の構成4 目次・章立ての発表③	発表の準備、振り返り
	14	卒業論文の構成5 目次・章立ての発表④	発表の準備、振り返り
15	授業のまとめ・前期の振り返り	自己評価シートの作成・提出	
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントを配布する。 ・卒業論文集(『文化情報学研究』)をテキストとする。※本学図書館に過去の号が全て所蔵されている。 ・参考文献は適宜指示する。

学びの実践	学びの手立て
	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜指示する。

学びの実践	評価
	定期テスト・・・0点 レポート・・・80点 (卒業研究の到達度、卒業論文の完成度を評価します) 平常点・・・20点 (討議への参加、積極的な質問、傾聴能力、個別相談時間の活用状況などを評価) ※欠席する場合は事前に欠席届(メール可)を提出すること。(無断で欠席しないこと)

学びの継続	次のステージ・関連科目 「卒業論文II」に繋がる科目です。
-------	----------------------------------

※ポリシーとの関連性

論理的・批判的思考力や課題探究力を養い、自らが設定した課題を卒業論文としてまとめ上げます。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文 I	後期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	4年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>先行研究をふまえつつ、調査・研究の掘り起こし作業を進めていきます。調査・研究の成果を中間発表し、他の人の質問や意見を参考にして、不十分なところを直していきます。それらを論文という形として文章化し、個別的な指導・添削を受けてまとめます。</p>	<p>卒業論文に求められるものは学術的なオリジナリティです。本や論文を参考にすることはもちろん必要ですが、それに終始するのではなく、自分しか書けないものを、自らが汗水を流すつもりで、卒業論文を仕上げてください。但し、学術的な手続きはしっかりと踏まえましょう。</p>
	到達目標	
	琉球文化についての様々な研究分野から、自分が関心を持っているテーマを選択して、卒業論文として結実させます。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	卒論テーマの再確認
	2	中間発表および討論①	中間発表のレジュメ作成
	3	中間発表および討論②	中間発表のレジュメ作成
	4	中間発表および討論③	中間発表のレジュメ作成
	5	中間発表および討論④	中間発表のレジュメ作成
	6	中間発表および討論⑤	中間発表のレジュメ作成
	7	中間発表および討論⑥	中間発表のレジュメ作成
8	中間発表および討論⑦	中間発表のレジュメ作成	
9	中間発表および討論⑧	中間発表のレジュメ作成	
10	中間発表および討論⑨	中間発表のレジュメ作成	
11	卒論原稿作成と添削①	卒論原稿作成と修筆	
12	卒論原稿作成と添削②	卒論原稿作成と修筆	
13	卒論原稿作成と添削③	卒論原稿作成と修筆	
14	卒論原稿作成と添削④	卒論原稿作成と修筆	
15	卒論原稿作成と添削⑤	卒論原稿作成と修筆	
16	予備日		
	テキスト・参考文献・資料など その都度指示します。		
	<p>学びの手立て</p> <p>個別的な面談を必要とします。レジュメを準備し中間発表を必ず行ってください。必要とあればゼミ合宿を行います。</p>		
	<p>評価</p> <p>論文の内容、形式、取り組み方などの観点から総合的に判断します。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ゼミナールⅢ・Ⅳ、卒業論文Ⅱ。
-------	--------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文 I	前期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	狩俣 恵一	4年	karimata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文の対象分野は、オモロ・琉歌・組踊・琉球の神話や伝説や歌謡等の琉球文学である。テーマの設定、資料収集を行ったうえで、目次を作成しながら構想を立て、論文を執筆する。特に、自分のテーマと関連する先学の論文は十分に読み込むこと。	メッセージ 卒業論文は、文献にのみ頼らず、伝承者の心意（思い）を理解するために、フィールド調査を重視すること。
	到達目標 学士に相応しい卒業論文を作成すること。	

学びの準備	到達目標 学士に相応しい卒業論文を作成すること。
-------	-----------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1回 研究の対象と方法について 第2回 卒論の目次作成について 第3回～第8回 卒論全体のテーマ設定の理由と構想について 第9回～第14回 卒論第1章の発表と全体構成について 第15回 各自の発表を総括し、夏休みの課題についての確認
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：なし 参考文献：各自の研究テーマに応じてその都度指示する。
	学びの手立て 卒業論文に関連した文献の他、沖縄の祭り、御嶽、グスク等の実地見学調査を行うこと。
	評価 卒業論文と平常点及び出席。

学びの継続	次のステージ・関連科目 「卒業論文Ⅱ」
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文 I	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	4年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文の作成のために設定された演習である。「古代文学」（上代文学・中古文学）と国語科教育を対象とする。一部、沖縄の言語文化に関するもの対象とする。	メッセージ
	到達目標 卒業論文を作成するための、資料収集、整理を行い、研究方法を決め、研究をすすめていく。そのために必要な能力を身に付ける。	

学びの準備	到達目標 卒業論文を作成するための、資料収集、整理を行い、研究方法を決め、研究をすすめていく。そのために必要な能力を身に付ける。
-------	---

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>卒業論文執筆の主体は学生個人である。以下に示す展開計画は、参考（目安）のために記載するが、研究計画はそれぞれが作成して取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 卒業論文の要件 2 卒業論文の進め方・年間計画作成 3 先行研究の検索、収集、整理① 4 先行研究の検索、収集、整理② 5 先行研究の検索、収集、整理③ 6 先行研究の検索、収集、整理④ 7 研究方法の検討① 8 研究方法の検討② 9 研究方法の検討③ 10 小テーマの設定① 11 小テーマの設定② 12 卒業論文テーマの確定 13 卒業論文の構成 14 卒業論文の構成の検討 15 中間発表会
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>必要に応じて指示する。</p>
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価</p> <p>論文の内容、組み立て、取り組み状況等を総合的に評価する。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性 論理的・批判的思考力や課題探究力を養い、自らが設定した課題を卒業論文としてまとめ上げます。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	前期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	4年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 先行研究をふまえつつ、調査・研究の掘り起こし作業を進めていきます。調査・研究の成果を中間発表し、他の人の質問や意見を参考にして、不十分なところを直していきます。それらを論文という形として文章化し、個別的な指導・添削を受けてまとめます。	メッセージ 卒業論文に求められるものは学術的なオリジナリティです。本や論文を参考にすることはもちろん必要ですが、それに終始するのではなく、自分しか書けないものを、自らが汗水を流すつもりで、卒業論文を仕上げてください。但し、学術的な手続きはしっかりと踏まえましょう。
	到達目標 琉球文化についての様々な研究分野から、自分が関心を持っているテーマを選択して、卒業論文として結実させます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	卒論テーマの再確認
	2	中間発表および討論①	中間発表のレジュメ作成
3	中間発表および討論②	中間発表のレジュメ作成	
4	中間発表および討論③	中間発表のレジュメ作成	
5	中間発表および討論④	中間発表のレジュメ作成	
6	中間発表および討論⑤	中間発表のレジュメ作成	
7	中間発表および討論⑥	中間発表のレジュメ作成	
8	中間発表および討論⑦	中間発表のレジュメ作成	
9	中間発表および討論⑧	中間発表のレジュメ作成	
10	中間発表および討論⑨	中間発表のレジュメ作成	
11	卒論原稿作成と添削①	卒論原稿作成と修筆	
12	卒論原稿作成と添削②	卒論原稿作成と修筆	
13	卒論原稿作成と添削③	卒論原稿作成と修筆	
14	卒論原稿作成と添削④	卒論原稿作成と修筆	
15	卒論原稿作成と添削⑤	卒論原稿作成と修筆	
16	予備日		
	テキスト・参考文献・資料など その都度指示します。		
	学びの手立て 個別的な面談を必要とします。レジュメを準備し中間発表を必ず行ってください。必要とあればゼミ合宿を行います。		
	評価 論文の内容、形式、取り組み方などの観点から総合的に判断します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ゼミナールⅢ・Ⅳ。卒業論文Ⅰ。
-------	--------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	4年	y.murakami@okiu.ac.jp 5号館404研究室	

学びの準備	ねらい 先行研究を踏まえた上で独自の視点を切り拓いた卒業論文の完成を目指す。	メッセージ 納得のいく卒業論文が書けるよう、各自努力してください。
	到達目標 卒業論文の完成。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	卒業論文進捗状況の確認・卒業論文執筆計画作成	卒業論文の達成度を確認する。
	2	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。
	3	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。
	4	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。
	5	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。
	6	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。
	7	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。
	8	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。
9	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。	
10	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。	
11	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。	
12	研究発表	指定されたテキストを読んでくる。	
13	卒業論文仮提出	添削に応じて修正する。	
14	卒業論文集作成①	卒業論文集作成に向けて作業。	
15	卒業論文集作成②	卒業論文集作成に向けて作業。	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示する。		
	学びの手立て 他のゼミ生の研究発表に対して有意義な発言ができるよう、指定されたテキストは必ず読んでくること。		
	評価 卒業論文の完成度（80%）、受講態度およびゼミ内での共同作業への参加（20%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ゼミナールⅣ
-------	-----------------------

※ポリシーとの関連性

本科目は、論理的・批判的思考力や課題探求力を養い、卒業論文を作成するというカリキュラム・ポリシー5に当たる。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	4年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本科目は卒業論文の作成をめざすものである。特に論文の構成と執筆、再検討に力点をおく。	メッセージ 資料を探し、分析の視点を設定し、発表の構成について考えるというのは広く応用可能な方法である。ぜひ身につけてほしい。
	到達目標 論文の構成について考え、執筆し、再点検する。	

学びの準備	到達目標 論文の構成について考え、執筆し、再点検する。
-------	--------------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	論文の構成について考える1	資料の読み込み
	2	論文の構成について考える2	資料の読み込み
	3	論文の構成について考える3	資料の読み込み
	4	論文の構成について考える4	資料の読み込み
	5	論文を執筆する1	データの打ち込み
	6	論文を執筆する2	データの打ち込み
	7	論文を執筆する3	データの打ち込み
	8	論文を執筆する4	データの打ち込み
	9	論文を執筆する5	データの打ち込み
	10	論文を執筆する6	データの打ち込み
	11	論文を再検討する1	データの手直し
	12	論文を再検討する2	データの手直し
	13	論文を再検討する3	データの手直し
	14	論文を再検討する4	データの手直し
15	論文の評価1	データの手直し	
16	論文の評価2	データの手直し	
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など そのつど指示する。		
学びの実践	学びの手立て 迷ったときは原点に立ち戻る。また、データの打ち込みに専念する。		
学びの実践	評価 論文の形式と内容を重視して評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 今後の課題を明らかにして、研究を継続してほしい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	4年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文の作成のために設定された演習である。「古代文学」（上代文学・中古文学）と国語科教育を対象とする。一部、沖縄の言語文化に関するもの対象とする。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>卒業論文執筆の主体は学生個人である。以下に示す展開計画は、参考（目安）のために記載するが、研究計画はそれぞれが作成して取り組む。</p> <p>16 卒業論文の目次・章立て① 17 卒業論文の目次・章立て② 18 卒業論文の執筆方法① 19 卒業論文の執筆方法② 20 卒業論文の執筆① 21 卒業論文の執筆② 22 卒業論文の執筆③ 23 卒業論文の執筆④ 24 仮提出と添削 25 添削・個別指導① 26 添削・個別指導② 27 添削・個別指導③ 28 卒業論文提出 29 卒業論文集の作成 30 卒業論文発表会</p>
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	黒澤 亜里子	4年		

学びの準備	ねらい 中間発表の内容を踏まえ、各自の課題について手直し、補足調査等を行い、卒業論文をまとめます。	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1 発表 2 卒業論文の形式、体裁の確認 3 手直し／推敲／完成 4 合評会 ※論文執筆と並行して各自3回程度の発表と、進度に応じた指導を行います。
	テキスト・参考文献・資料など 各自の課題、テーマに応じて指導します。
	学びの手立て
	評価 卒業論文の視点、内容、調査、研究方法等をもて総合的に評価します。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 各自の課題、テーマに応じて指導します。
	学びの手立て

学びの実践	学びの手立て
	評価 卒業論文の視点、内容、調査、研究方法等をもて総合的に評価します。

学びの実践	評価 卒業論文の視点、内容、調査、研究方法等をもて総合的に評価します。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性 日本文化学科-4. 論理的批判的思考力や課題探求力を養い、卒業論文を作成するための「ゼミナール」を設置します。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	狩俣 恵一	4年	karimata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文の執筆に当たって重要なことは、「書くこと」は「考えること」であり、また文章力という技術を要することを認識すること。よって、最初に設定した目次等の論文構成は、実際に書くことで何度も移動させながら、全体構想を練り直す作業が必要である。	メッセージ 卒業論文は、文献にのみ頼らず、伝承者の心意（思い）を理解するために、フィールド調査を重視すること。
	到達目標 学士に相応しい卒業論文を作成すること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1回～第8回 各自の卒業論文についての質疑応答 第9回～第15回 卒業論文集の編集及び製本
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：なし 参考文献：各自の研究テーマに応じてその都度指示する。
	学びの手立て 卒業論文に関連した文献の他、沖縄の祭り、御嶽、グスク等の実地見学調査を行うこと。
	評価 卒業論文と平常点及び出席。

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文Ⅱで完了とする。
-------	-----------------------------

※ポリシーとの関連性

日本語学、琉球語学に関する専門的な学修のまとめとして、各自の研究テーマに基づく卒業論文を執筆する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	4年	5-401(研究室) kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 日本語学、琉球語学に関する研究テーマを各自で定めて卒業論文を執筆する。	メッセージ 卒業論文は大学での学びの集大成です。自ら定めた研究テーマについて真剣に、楽しく取り組んでください。
	到達目標 ・自身の研究テーマについて、科学的調査と論理的な考察に基づいた卒業論文を執筆する。 ・自身の卒業論文の内容を適切に説明することができる。	

学びの準備	ねらい 日本語学、琉球語学に関する研究テーマを各自で定めて卒業論文を執筆する。	メッセージ 卒業論文は大学での学びの集大成です。自ら定めた研究テーマについて真剣に、楽しく取り組んでください。
	到達目標 ・自身の研究テーマについて、科学的調査と論理的な考察に基づいた卒業論文を執筆する。 ・自身の卒業論文の内容を適切に説明することができる。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p><u>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</u></p> <p>おおむね次のように進めていきます。</p> <p>ガイダンス、卒業論文の体裁・提出方法の説明 進捗状況の確認 目次の見直し 以下の項目に関する中間報告（複数回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の研究テーマに基づく調査、データの収集状況 ・言語データの整理、分析状況 ・考察、まとめ <p>論文原稿の仮提出 原稿の修正・加筆 卒業論文の提出</p> <p>各自の進捗状況に応じて指導、助言を行います。 卒業論文の完成に向けて全力を尽くします。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>各自の研究テーマに沿って適宜指示・紹介します。</p>

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>各自の研究テーマに沿って適宜指示・紹介します。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>進捗状況を常に把握し、計画的に研究を進めていくことが何よりも大切です。</p>

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>各自の研究テーマに沿って適宜指示・紹介します。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>進捗状況を常に把握し、計画的に研究を進めていくことが何よりも大切です。</p>

学びの実践	<p>評価</p> <p>論文の内容および形式はもちろんのこと、卒業論文にどのように取り組んできたか執筆の過程も評価の対象とします。</p>
	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>論文の執筆を通して高められた思考力、言語運用能力、情報検索能力を存分に発揮し、社会で活躍できる人材となってください。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>論文の執筆を通して高められた思考力、言語運用能力、情報検索能力を存分に発揮し、社会で活躍できる人材となってください。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

自らが専攻する学問的関心を専門知識を系統的に記述し、習得した知識を論理的で分かりやすい文章で表現する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	兼本 敏	4年	kanemoto@okiu.ac.jp 又は 5-501研究室	

学びの準備	ねらい 自らが選定したテーマを多面的に検証・解説し、他者が理解できるように必要な資料の収集し、分かりやすく論理的な記述の提示ができる技能を習得する。	メッセージ これまで学習した専門知識を文章という表現形式で読み手が理解できるように十分な情報（資料）の提供、論理的な展開を実践してください。
	到達目標 自分で選定したテーマを多面的な検証（十分な資料・情報収集）と論理的な展開で専門知識の分かりやすい伝達ができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション
	2	表記上の注意事項（ルール）の確認と構成の確認
	3	事例の提示① 先行研究の活用例
	4	ディスカッション
	5	事例の提示② アンケート調査の事例
	6	ディスカッション
	7	ディスカッション
	8	各自の論文に関する問題提起と確認 アポの確認
9	各自の論文に関する問題提起と確認 アポの確認	
10	添削とアドバイス	
11	添削とアドバイス	
12	ディスカッション	
13	発表と修正	
14	発表と修正	
15	発表と修正	
16	総括	
		時間外学習の内容
		テーマの確認
		文献の引用に関するルールの確認
		文献検索の確認
		手法の検討
		有効性について検討
		テーマと手法について検討
		プレゼンの検討
		手法とプレゼンの検討
		同上
		事前に決められたテーマを検討
		同上
		発表前にテーマと手法の確認
		発表後に加筆や修正を検討
		同上
		同上
	テキスト・参考文献・資料など 各自の決めたテーマについて関連文献を紹介します。 大学図書館と学科資料室の活用を奨励します。	
	学びの手立て 前期でテーマの骨子は完成しています。これまでに書き進めてきた論文を再度読み直しましょう。 論理的展開に必要な資料の確認と卒論における引用の仕方（ルール）を再確認しながら書き加えていきます。 偏った情報や資料にならないように意識してください。	
	評価 基本である講義での取り組み、自己のテーマに関する必要な資料の収集と分析。（40%） 卒業論文：論理的展開および資料の質量で判断されます。（60%） 発表を通して修正を繰り返し最後の完成度を評価します。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 偏らない資料や情報を収集し分析できるように心がけてください。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 朋子	4年	講義終了時に受け付ける	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文の仕上げに向けて、先行研究のまとめ、調査結果のまとめや考察を更に深め、結論を導いていく。そして、推敲を重ねることで多角的な視点の重要性を学び、学術論文を完成させていく。このような長期に渡る計画的で地道な研究を通して、論理的な思考を身につけ、大学での学問の集大成とする。	先行研究を更に深く読み込み調査の結果をまとめ、仮説を立てた場合には検証を重ね、結論を多角的な視点から導きだしてください。そして、推敲を何度も重ねてください。

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> 論文を論理的に構築していくことができる。 調査からどんなことが読み取れるのかを、先行研究等を参考にしながらまとめていく。 仮説の検証を多角的な視点をもって行い、結論を導きだすことができるようになる。 一つの研究に一年間、地道に取り組み論文を完成させることができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	論文や調査の進捗状況の報告	調査のまとめと仮説の検証
	3	個人指導とグループ学習	調査のまとめと仮説の検証
	4	〃	分析と考察の執筆
	5	〃	分析と考察の執筆
	6	論文仮提出	結論の執筆
	7	個人指導	発表原稿の作成
	8	中間発表	
	9	中間発表を踏まえて	修正
	10	個人指導とグループ学習	今後の課題の執筆
	11	〃	最後に（まとめ）の執筆
	12	〃	再考と修正
	13	本提出	
	14	最終確認	
15	発表の準備及び報告書作成の打ち合わせ	最終発表原稿の作成	
16	卒論発表会		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>必要に応じて、適宜資料を配布していく。また、各自が選んだ文献を論文で生かしていくため参考文献や資料は多岐に渡ることになる。</p>
----	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> 研究の流れや計画を再考し、最終確認を行う。 テーマに沿った先行研究を更に読み込み、参考にしていく。 継続的に研究ノートを活用し、記録を取り、正確な記述を心がける。 中間発表と最終発表の2回の発表の時に出席質問やコメントを検証し、論文の中で応えていく。
--------	--

評価	論文の内容を評価するが、論文完成に至る過程での発表や課題等の取り組みも評価の対象とする。
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>社会人・職業人・進学をする者として、卒論執筆で培った論理的思考の構築方法や、一つのことを究めていった力を生かして欲しい。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名 卒業論文Ⅱ	期別 後期	曜日・時限 水2	単位 2
	担当者 山口 真也	対象年次 4年	授業に関する問い合わせ メールで受け付けます	

学びの準備	ねらい 前年度の「ゼミナールⅡ」、前期の「卒業論文Ⅰ」にて行った個人研究を学術研究へと発展させ、社会調査(アンケート・観察・インタビュー調査)を本格的に実施し、卒業研究を完成させる。また、「卒業論文集」を出版すると共に、協力機関への報告・図書館への配布・卒業研究発表会の開催を通じて、2年間の個人研究の成果を広く公開する。	メッセージ 卒業論文は4年間の大学生活の総決算です。大学生活に悔いが残らないように、体調管理、スケジュール管理に気を付けつつ、卒業論文を仕上げていきましょう。
-------	--	--

到達目標	①卒業研究に必要な先行研究の調査を通じて、多種多様な文献、情報収集能力(文献調査力)を身につける。 ②卒業論文を執筆する過程で、データ集計・情報分析力、情報整理能力(論理的な文章構成力)、情報発信力(プレゼンテーションスキル)を身につける。 ③卒業研究のための調査の実施や、成果報告を通じて、コミュニケーションスキルや他者と協働する意識を高め、卒業後、社会人として活躍するための基本的な知識・技能を習得する。
------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	卒業論文の執筆方法1 卒業論文の様式学術論文の文体・引用の方法
	2	卒業論文の執筆1 (個別相談期間)
	3	卒業論文の執筆2 (個別相談期間)
	4	卒業論文の執筆3 (個別相談期間)
	5	卒業論文の執筆4 (個別相談期間)
	6	卒業論文の執筆5 (個別相談期間)
	7	卒業論文の執筆6 (個別相談期間)
	8	卒業論文の執筆7 (個別相談期間)
	9	卒業論文の執筆8 (個別相談期間)
	10	卒業論文の提出(仮提出)
	11	卒業論文の添削 (個別指導期間)
	12	卒業論文の添削 (個別指導期間)
	13	卒業論文の最終提出に向けて・抄録の書き方・英語タイトルの決定
	14	卒業論文集の作成・印刷・配布
	15	卒論発表会の進め方・授業のまとめ
16	卒業論文最終発表 (※ゼミナールⅣとして行う)	
		時間外学習の内容
		夏休みの取り組みを整理
		序論・基本概念の執筆
		基本概念の執筆
		基本概念の執筆
		調査方法の確定
		調査の実施
		調査の実施
		調査結果の分析
		調査結果の分析、結論の執筆
		仮提出用ファイルの作成
		本文の見直し
		本文の見直し
		本提出用ファイルの作成
		卒業論文集の作成準備
		発表会の準備

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ・プリントを配布する。 ・卒業論文集(『文化情報学研究』)をテキストとする。※本学図書館に過去の号が全て所蔵されている。 ・参考文献は適宜指示する。
-------	--

学びの手立て	・10月～11月かけては、1週間1回30分程度の個別相談を行い、卒業論文の執筆を進めていきます。 ・2月末～3月にかけて合宿形式で卒業研究発表会を行います。
--------	---

評価	定期テスト・・・0点 レポート・・・80点 (卒業研究の到達度、卒業論文の完成度を評価します) 平常点・・・20点 (討議への参加、積極的な質問、傾聴能力、個別相談時間の活用状況などを評価) ※欠席する場合は事前に欠席届(メール可)を提出すること。(無断で欠席しないこと)
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文の執筆を通して学んだことを、卒業後、社会に出て生かしてくれることを期待しています。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉田 肇吾	4年	yoshida@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい これからの図書館の諸問題について、図書館情報学を中心とする学問的視点から、各自がテーマを自由に設定し卒論を執筆することで論理的思考の展開方法を学ぶ。具体的には、「問題解決能力」を身につけるために、問題設定→あらゆる情報手段を使用した資料情報収集→収集資料の比較検討選択→論文作成→発表→質疑応答討論という論文作成プロセスをすすめていく。	メッセージ 図書館司書課程の科目内容から、さらに踏み込んだ内容に触れる。各自が自らテーマ設定し、問題解決プロセスを展開させていく。
	到達目標 図書館情報学という学門分野において、課題設定から問題解決まで自分で考えながらプロセスを進めることにより、問題発見能力、情報検索能力、情報選択能力、情報活用能力、情報発信能力など、社会参加した後も重要な問題解決のための基礎能力を身につけていく。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	後期日程について：オリエンテーション
	2	卒論の中間発表①
	3	卒論の中間発表②
	4	卒論の中間発表③
	5	卒論の中間発表④
	6	論文執筆・個別指導①
	7	論文執筆・個別指導②
	8	論文執筆・個別指導③
	9	論文執筆・個別指導④
	10	論文内容の発表・質疑応答①
	11	論文内容の発表・質疑応答②
	12	論文内容の発表・質疑応答③
	13	論文内容の発表・質疑応答④
	14	論文内容の発表・質疑応答⑤
	15	論文内容の発表・質疑応答⑥
	16	総括
	テキスト・参考文献・資料など 各自のテーマ及び研究過程で適宜紹介していく。	時間外学習の内容 第1～5週：中間発表に備えて、論文作成の進捗状況、今後の課題・問題点をまとめたレジュメを作成する 第6～9週：論文作成作業を進めながら、内容確認とともに課題・問題点の解決のため個別に相談する 第10～15週：執筆して論文内容の発表のために、レジュメを作成する
	学びの手立て 問題解決プロセスでは、まず自ら考えること。そのうえで迷ったり、わからないことがある場合にはどのようなことでも相談すること。	
	評価 提出された論文により評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	4年	授業終了後に、教室で受け付けます。 または、c.toubaru@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習は国語科教育に関する演習を行うものである。卒業論文のテーマに沿って、文献を読み、論文としてまとめる。論文を発表し、検討会を持つ中で、文献を適切に読み取り自分の論を組み立てる力、データを基に分析する力、表現する力、多角的に考える力の基礎を身につける。	メッセージ 自分の専門分野はもちろんのこと、他分野の書籍にもあたり、自分の研究を多角的に見る力をつけてほしい。 2月以降に、卒業論文発表会を行います。
	到達目標 12月1日に卒論を提出する。 データ分析・結論を完成させる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	卒論提出までのスケジュール確認・予定表の提出・進行状況報告	論文作成
	2	⑤発表・質疑応答(5・6)	論文作成
	3	⑥発表・質疑応答(1・2)	論文作成
	4	⑥発表・質疑応答(3・4)	論文作成
	5	⑥発表・質疑応答(5・6)	論文作成
	6	⑦発表・質疑応答(1・2)	論文作成
	7	⑦発表・質疑応答(3・4)	論文作成
	8	⑦発表・質疑応答(5・6)	論文作成
	9	⑧発表・質疑応答(1・2)	論文作成
	10	⑧発表・質疑応答(3・4)	論文作成
	11	⑧発表・質疑応答(5・6)	論文作成
	12	卒業論文集の作成	論文作成
	13	卒業論文集の作成	論文作成・印刷会社への連絡
	14	卒業論文集の作成	論文集作成・印刷会社への連絡
15	卒業論文集の作成	論文集作成・印刷会社への連絡	
16			
テキスト・参考文献・資料など 適宜紹介する。 発表者は参考文献のコピーを用意する。			
学びの手立て 無断欠席をしないこと。(発表者が欠席した場合、原則として単位は認めない。) 参考文献は、発表前の週に、ゼミ生・教師に配布すること。 積極的に質疑に臨む事。 発表後、訂正箇所はすぐに直し、メールでデータを送ること。			
評価 出席重視・研究発表の到達度・討議への参加・質問内容などをもとに総合的に判断する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 【カリキュラムポリシーとの関連】 4
-------	-----------------------------------

科目基本情報	科目名 多文化間コミュニケーション特別講義	期別 集中	曜日・時限 集中	単位 2
	担当者 -井上 優	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 講義期間中に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 言語の対照研究は、2つの言語の比較対照を通じて、(1)それぞれの言語の重要な特性を明らかにし、(2)それぞれの言語を公平に見る(相対化する)ための視点を見出す研究です。この講義では、対照研究の基本的な考え方について述べるとともに、文法・語彙・コミュニケーションに関する対照研究の例を紹介します。対象言語は日本語・中国語・韓国語ですが、予備知識は不要です。	メッセージ この授業では言語の対照研究の話はしますが、そのエッセンスは「異文化理解」に直接つながるものです。身近なトピックを題材とした、外国語に関する予備知識がなくても十分に理解できる内容なので、自分の言語・文化、他者の言語・文化に対する固定観念にとらわれずに、気軽に参加してください。
	到達目標 人は誰でも自分と異なるものには違和感を覚えるものです。しかし、少し見方を変えると、自分と異なるものが自然なものに見えてきて、それなりに共感できるようになり、逆に、自分にとって当たり前すぎて意識もしていなかったことが必ずしも当たり前ではないことに見えてきます。それが「2つのものを公平に見る」ということです。この授業では、そのような研究の事例にふれることにより、日本語と外国語に関する固定観念にとらわれずに、両者を公平に見られる視点を見出すセンスを磨くことを目標とします。課題レポートでも、その日に学んだことを応用して、身近な現象について説明を考えてもらいます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>対照研究とは何か</td><td>「対照研究」について調べる。</td></tr> <tr><td>2</td><td>対照研究のタイプ</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>外来語受容法</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>話し手自身に対する敬称使用</td><td>小レポート</td></tr> <tr><td>5</td><td>日本語と韓国語の過去形の用法</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td>「ぼかし表現」の機能</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>否定疑問文の意味</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>「気持ち」の言語化</td><td>小レポート</td></tr> <tr><td>9</td><td>異文化理解とは何か</td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td>コミュニケーションの日中対照(1)―「おしつけ」と「ひかえめ」―</td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td>コミュニケーションの日中対照(2)―「はっきり」と「あいまい」―</td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td>コミュニケーションの日中対照(3)―「会話」と「一言」―</td><td>小レポート</td></tr> <tr><td>13</td><td>コミュニケーションの日中対照(4)―お礼の感覚―</td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td>コミュニケーションの日中対照(5)―「親しみ」と「はりあい」―</td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td>対照研究と言語教育</td><td></td></tr> <tr><td>16</td><td>まとめ：小レポート</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	対照研究とは何か	「対照研究」について調べる。	2	対照研究のタイプ		3	外来語受容法		4	話し手自身に対する敬称使用	小レポート	5	日本語と韓国語の過去形の用法		6	「ぼかし表現」の機能		7	否定疑問文の意味		8	「気持ち」の言語化	小レポート	9	異文化理解とは何か		10	コミュニケーションの日中対照(1)―「おしつけ」と「ひかえめ」―		11	コミュニケーションの日中対照(2)―「はっきり」と「あいまい」―		12	コミュニケーションの日中対照(3)―「会話」と「一言」―	小レポート	13	コミュニケーションの日中対照(4)―お礼の感覚―		14	コミュニケーションの日中対照(5)―「親しみ」と「はりあい」―		15	対照研究と言語教育		16	まとめ：小レポート	
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																	
1	対照研究とは何か	「対照研究」について調べる。																																																		
2	対照研究のタイプ																																																			
3	外来語受容法																																																			
4	話し手自身に対する敬称使用	小レポート																																																		
5	日本語と韓国語の過去形の用法																																																			
6	「ぼかし表現」の機能																																																			
7	否定疑問文の意味																																																			
8	「気持ち」の言語化	小レポート																																																		
9	異文化理解とは何か																																																			
10	コミュニケーションの日中対照(1)―「おしつけ」と「ひかえめ」―																																																			
11	コミュニケーションの日中対照(2)―「はっきり」と「あいまい」―																																																			
12	コミュニケーションの日中対照(3)―「会話」と「一言」―	小レポート																																																		
13	コミュニケーションの日中対照(4)―お礼の感覚―																																																			
14	コミュニケーションの日中対照(5)―「親しみ」と「はりあい」―																																																			
15	対照研究と言語教育																																																			
16	まとめ：小レポート																																																			
テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しない。プリント配布。 参考文献：井上優『相席で黙ってられるか―日中言語行動比較論―』（岩波書店、2013年）																																																				
学びの手立て 外国語に関する予備知識は必要ないが、日本語や外国語に対する固定観念やイメージにとらわれずに、自分の頭で「2つの言語を公平に見られる見方」を考えることを求める。																																																				
評価 小レポート（4回）：70%（4回すべて提出すること）。平常点：30%（授業への参加状況と受講態度から総合的に判断）。																																																				

学びの継続	次のステージ・関連科目 どのような科目であれ、自分と異なる言語や文化について学ぶ際には、単に「他の言語・文化について書かれた内容をそのまま理解する」という姿勢ではなく、「他の言語・文化が自然なものとして見えてくる見方を自分で考える」という姿勢で臨んでもらいたい。
-------	--

科目基本情報	科目名 多文化共生論	期別 後期	曜日・時限 水4	単位 2
	担当者 西岡 敏	対象年次 3年	授業に関する問い合わせ 研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 地球上には、数千にも及ぶ言語があるとされているが、その多くが21世紀中には消滅するのではないかと危惧されている（琉球語諸方言もそういった言語の中に入るであろう）。本講義では、世界における様々な言語を地域別に調べる。それぞれが固有の言語文化を持っていることを理解し、多文化共生の視点を培っていく。	メッセージ 日本語、英語、中国語などの多数派の言語にふれる機会が多いかもしれない。しかし、世界には、多種多様な言語があり、それぞれの地域で祖先から受け継いだ文化を継承しようとしている。沖縄の現状もふまえつつ、世界中の各地域の言語文化に思いを寄せてほしい。
	到達目標 他言語を理解するための基本的な概念を知り、多文化共生への手がかりとする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	参考文献の確認、レジュメの準備
	2	北アジア・東アジアの言語①	レジュメの準備、講義内容の復習
	3	北アジア・東アジアの言語②	レジュメの準備、講義内容の復習
	4	南アジア・太平洋地域の言語①	レジュメの準備、講義内容の復習
	5	南アジア・太平洋地域の言語②	レジュメの準備、講義内容の復習
	6	中央アジア・中近東・アラブ地域の言語①	レジュメの準備、講義内容の復習
	7	中央アジア・中近東・アラブ地域の言語②	レジュメの準備、講義内容の復習
	8	ロシア地域・北欧・東欧の言語①	レジュメの準備、講義内容の復習
9	ロシア地域・北欧・東欧の言語②	レジュメの準備、講義内容の復習	
10	西欧・南欧の言語①	レジュメの準備、講義内容の復習	
11	西欧・南欧の言語②	レジュメの準備、講義内容の復習	
12	アフリカの言語①	レジュメの準備、講義内容の復習	
13	アフリカの言語②	レジュメの準備、講義内容の復習	
14	北米・中南米の言語①	レジュメの準備、講義内容の復習	
15	北米・中南米の言語②	講義内容の復習	
16	予備日		
実践	テキスト・参考文献・資料など 梶茂樹・中島由美・林徹『事典 世界のことば141』（大修館書店、2009年）、『言語学大辞典』（第1巻～第6巻・別巻、三省堂、1988～2001年）、ニコラス・エヴァンズ（大西正幸・長田俊樹・森若菜〔訳〕）『危機言語 言語の消滅でわれわれは何を失うのか』（京都大学学術出版会、2013年）。		
	学びの手立て 出席日数が3分の2に満たない者は単位を与えない。 発表形式の授業である。発表担当者は責任をもって発表すること。		
	評価 平常点（出席を含む）、試験、レポート等で総合的に判断する。平常点では、授業に対する姿勢（積極的な発言など）、授業における発表の内容についても評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 言語文化接触論Ⅰ・Ⅱ、比較文化論、アジア太平洋文化論、共通科目外国語科目群などが関連科目である。
-------	---

※ポリシーとの関連性

多文化間コミュニケーションコースでは、沖縄・琉球文化を世界に向けて広く発信していくスキル修得を教育目標の1つとしている。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域文化情報論	前期	土2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏(3回)、芳山紀子(6回)、伊佐常利(7回)	3年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、ICTを用いた文化発信のスキルを実践的に身に付けるための専門科目と位置づけ、MySQL やWebプログラミングを用いて琉球語・日本語を課材とするデータベースを作成する。言語研究や文学研究を緻密に客観的に行うためには、充実したデータベースに基づく手法が不可欠である。その基礎となるデータベース作成の手法について学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <p>①琉球語の継承におけるデータベース構築の必要性を理解できる。 ②MySQLとWebプログラミングの仕組みを理解することができる。</p> <p>③MySQLとWebプログラミングを用いてリレーショナルデータベースを構築できる。 ※本科目は、上級情報処理士資格取得のための選択科目である。</p>	<p>コンピュータの情報処理能力は、私たちのことばの成り立ちを解析してくれるときにも威力を発揮します。たとえば、かつて辞典を作るときは単語を1枚1枚カードにして「人力」で50音順（あるいはアルファベット順）に並べ変えたのですが、今のコンピュータは一瞬にして「文字列処理」をし、有益な情報を与えてくれます。その手法を学んでみましょう。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	はじめに：文字列の情報処理	文字コードについて知る
	2	言語研究・文学研究・辞書作成と索引	琉球語テキストの準備①
	3	琉球語データベースの必要性	琉球語テキストの準備②
	4	MySQL 2 テーブルの作成、確認、削除/データ型と列制約/データの挿入/データの検索	DBの概要を復習・課題テーマ設定
	5	MySQL 3 where句/比較演算子/論理演算子	課題作成のためのデータ収集
	6	MySQL 4 並び替え/データの上書き/データの削除	データ収集・課第作成①
	7	MySQL 5 あいまい検索/結合	課題作成②
8	独自データベース（課題）の作成と提出	課題作成③ 提出	
9	Webプログラミング基礎 1 コーディング基礎と出力	コーディングの基礎を復習	
10	Webプログラミング基礎 2 変数とデータ/演算子（算術・文字列連結・代入）	変数と演算子の理解を深める	
11	Webプログラミング基礎 3 if文/比較演算子/if else/if else if else	条件分岐文を理解する	
12	Webプログラミング基礎 4 論理演算子/for	ループ文を理解する	
13	Webプログラミング基礎 5 関数	課題に備え総復習	
14	フォームの送受信/Webプログラミングとデータベースとの連携 1	最終課題作成	
15	Webプログラミングとデータベースとの連携 2	最終課題作成	
16	最終課題発表	最終課題提出	
	テキスト・参考文献・資料など		
	オリジナルテキストを使用する。		
	学びの手立て		
	出席日数が3分の2に満たない者は単位を与えない。		
	評価		
	定期テスト・・・0点（テストは行わない）		
	提出物・・・70点（課題発表でのソフトウェアの完成度で評価する）		
	平常点・・・30点（单元ごとの課題提出状況、到達度を評価する）		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	日本文化学科が専門科目として開講している上級情報処理士科目「アカデミックセミナー」「エリアスタディ演習」「図書館情報技術論」などを中心に、共通科目の情報科目も積極的に受講し、情報処理スキルをさらに高めていきましょう。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	図書館概論	前期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山口 真也	1年	授業開始前、または終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本授業は、図書館の存在意義・種類・機能を幅広く学び、現代の図書館が直面している課題や職員制度の問題点などを説明する。司書資格課程の導入科目として位置づけ、必要となる基礎知識を習得するとともに、自己の職業適性を考える機会とする。一般学生については、図書館の意義・利用法を幅広く知り、大学生活や将来の職業生活・社会生活に役立つ知識を得ることを目的とする。</p>	<p>司書資格の取得を目指す人は必ず1年生で受講しましょう。資格取得を目指さない人も、日本文化学科での研究活動に役立つ基礎的なリテラシー(図書館活用の基本)を身に着けることができる科目です。</p>
到達目標	<p>①図書館情報学を学ぶ上での基本知識(用語の意味など)と学習態度を身につけることができる。 ②図書館の存在を支える「図書館の自由」という理念を、民主主義、表現の自由、知る自由といったキーワードを用いて、適切に説明することができる。 ③現代の図書館と図書館司書が抱える制度的な問題を知り、自身が在住する自治体の図書館活動に結びつけて理解することができる。 ④幅広い図書館の種類、豊かな機能、司書の役割を知り、自己の職業適性を考えることができる</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・図書館の定義と機能・サービスの種類	シラバスを読んで授業に備える
	2	図書館の構成要素と現代的課題(1):建物・資料	指定図書を読む
	3	図書館の構成要素と現代的課題(2):職員、司書になるには?	在住自治体の司書採用制度を調べる
	4	図書館の構成要素と現代的課題(3):利用者	在住自治体の司書採用制度を調べる
	5	図書館の存在意義と「図書館の自由」(1):民主主義・表現の自由・知る自由・図書館戦争	レポートの準備
	6	図書館の存在意義と「図書館の自由」(2):資料収集・提供の自由 はだしのゲン・『絶歌』問題	レポートの準備
	7	図書館の存在意義と「図書館の自由」(3):利用者の秘密を守る	レポートの準備
	8	図書館の種類(1) 公共図書館①:設置主体・目的、サービス対象、収集する資料、「任務と目標」	指定図書を読む
	9	図書館の種類(2) 公共図書館②:サービスの三原則	指定図書を読む
	10	図書館の種類(3) 学校図書館①:設置主体・目的、サービス対象	指定図書を読む
	11	図書館の種類(4) 学校図書館②:設置義務、司書教諭制度とその課題、沖縄の学校図書館の特徴	学校司書の雇用状況を調べる
	12	図書館の種類(5) 大学図書館:設置主体・目的、サービス対象、課題	指定図書を読む
	13	図書館の種類(6) 専門図書館:種類、特徴、地方議会図書室、病院図書館、刑務所図書館など	指定図書を読む
14	図書館の種類(7) 国立国会図書館・外国の図書館:種類、目的、利用方法、納本制度	指定図書を読む	
15	図書館をめぐる様々な制度とその課題: 指定管理者制度、授業のまとめ	テスト勉強	
16	試験+解説	テストの振り返り	
実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>1回目の授業で指示します。 適宜、プリントを配布します。 有川浩『図書館戦争』(角川文庫), 角川書店, 2011</p>		
学びの手立て	<p>・司書資格取得希望者は、新年度に行っている図書館司書課程オリエンテーションにて、履修の順序を確認した上で履修してください。 ・授業中に紹介する指定図書を図書館で読み、單元ごとに出題する演習問題(自由提出課題)に積極的に取り組みましょう。</p>		
評価	<p>定期テスト...80点(期末試験の到達度により評価) 平常点...20点(授業時間中の提出レポートの到達度により評価) レポート...30点(※自由提出レポートの点数をテストの点数に点数を追加して評価することもある)</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>司書資格の取得を目指す人は、この科目を受講した後、後期に開講される「図書館情報資源概論」を受講しましょう。「図書館情報資源概論」は「図書館概論」で学んだことを基礎とする科目ですので、プリント、ノート等は大事に保管しておくとういでしょう。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	図書館サービス概論	前期	月5	2
	担当者 山口 真也(11回)、呉屋美奈子(4回)	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	授業開始前、または終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 図書館活動の基本的なあり方を、図書館サービスの中でも、特に「パブリックサービス」という側面に注目して、その多様な種類、理念、具体的な方法について具体的に学ぶことで、図書館活動の意義、役割をより深く学ぶ。後期から始まる、図書館サービスの各論(児童サービス、レファレンス、情報検索など)の基礎科目と位置づける。	メッセージ この科目を通して図書館の機能・役割、司書の専門性を多く人に知ってもらいたいと思っています。
	到達目標 ①図書館サービスに関するの基本知識(専門用語の意味、必要性の理解)、 ②自身が普段利用している図書館のサービスを適切に評価する力、 ③自己の職業適性を考える力、 ④多様な文献や図書館サービスを積極的に活用した上でレポートを作成し、図書館サービスの中でも特に重要な資料提供サービスの必要性・重要性を利用者の視点から理解する力	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・図書館サービスの種類と理論、法令との関わり	シラバスを読み、授業に備える
	2	閲覧サービス① 閲覧サービス・フロアワーク	授業の復習・予習
	3	閲覧サービス② 展示活動=課題解決支援・医療健康情報サービスなど、レポートのテーマ発表	レポートの準備(テーマ選定)
	4	図書館の広報活動① 図書館行事・イベント、市民との協働	レポートの準備(文献収集)
	5	図書館の広報活動② 図書館PR	レポートの準備(文献収集)
	6	貸出サービス 貸出の意義と種類、貸出サービスにみる司書の専門性	授業の復習・予習
	7	予約サービス 予約の意義、リクエストとリザーブドの違い、相互貸借とは?	授業の復習・予習
	8	情報サービス レファレンスサービスの現代的意義と制約、ビジネス支援サービスの展開	授業の復習・予習
	9	対象別サービス① 若い世代(乳幼児・児童サービス、ヤングアダルト(YA))へのサービス	授業の復習・予習
	10	対象別サービス② 図書館利用に障害・困難を抱える人(障害者・高齢者)へのサービス	授業の復習・予習
	11	対象別サービス③ 外国人・そのほかへのサービス、ホームレス問題	授業の復習・予習
	12	図書館サービスの諸課題 危機管理、利用規則の見直し、滞在型図書館への転換	身近な図書館の見学
	13	図書館サービスと著作権法① 著作権の理論	授業の復習・予習
	14	図書館サービスと著作権法② 複写サービスを中心に	授業の復習・予習
15	図書館サービスの評価・望ましい基準、授業のまとめ、レポート課題の確認	レポート課題に取り組む	
16	(予備の時間) 図書館イベントの体験	イベントの準備	
	テキスト・参考文献・資料など ・プリントを配布する。欠席した場合は研究室前まで取りに来ること。 ・授業で紹介する参考文献は本学図書館1F、指定図書コーナーに排架されている。		
	学びの手立て ・司書資格取得希望者は、新年度に行っている図書館司書課程オリエンテーションにて、履修の順序を確認した上で履修してください。(1年生の時にオリエンテーションを受講していない人) ・授業中に紹介する指定図書を図書館で読み、単元ごとに出題する演習問題に積極的に取り組みましょう。 ・レポート作成においては、6月～7月にかけて実施される「レポートライティングサポート」や、本学図書館のレファレンスカウンターでのサービスを積極的に活用しましょう。 ・4、5、13、14回目を呉屋が、それ以外は山口が担当します。 ・6月最終週は休講。その前週は5、6時間目に続けて授業を行う予定です。		
	評価 レポート・・・100点 (期末レポート、多様な文献・図書館サービスを活用した上で作成すること) ※このほかに自由提出レポートの点数をテストの点数に点数を追加して評価することもある。 ※詳細は1回目の授業で説明する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 後期からサービス系科目の各論科目が多数開講されます。司書を目指す人は、この科目で学んだことを基礎としてさらに学びを深めてください。
-------	--

※ポリシーとの関連性 日本文化学科の自由選択科目です。司書課程受講生が受講できます。
。（司書課程受講生であれば、日文以外の学生の受講も大歓迎）

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	図書館情報学特別演習 I	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山口 真也	3年	授業開始前、または終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本授業は、現代の図書館に求められる「課題解決」機能をテーマとする演習・実習形式の授業である。読書推進活動、選書ワークショップ、イベント運営協力、ボランティア活動など、座学が中心となる司書資格科目では取り入れられない様々な活動を積極的に取り入れたい。	メッセージ 日本文化学科の専門科目の1つですが、司書課程受講生であれば他学科の学生も歓迎です。司書を目指す人はぜひ受講して下さい。
	到達目標 ①図書館での選書やイベントの運営などの実習を通して、これからの司書に求められる企画運営能力を身に着ける、 ②司書として活躍している方々との交流を通して、職業に対する理解を深め、進路決定の参考とする、 ③グループでの実習を通して、司書として、社会人として求められる協働意識やチームの一員として働く上での自己の適性を理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・グループの決定	シラバスを読み、授業に備える
	2	選書ワークショップ① テーマの検討(次年度の大学図書館での展示に向けて)	テーマの検討
	3	選書ワークショップ② テーマの決定・報告、調整	テーマの確定
	4	選書ワークショップ③ 選書リスト・見計らいによる資料選択	選書作業を進める
	5	選書ワークショップ④ 選書ツアーによる資料選択(1) ※ジュンク堂を予定	選書作業を進める
	6	選書ワークショップ⑤ 選書ツアーによる資料選択(2) ※ジュンク堂を予定(5回目と同日)	選書作業を進める
	7	読書推進活動の体験① 沖縄県立図書館「図書館まつり」の運営協力(ビブリオバトルセミナー参加)	紹介する本を選ぶ
	8	読書推進活動の体験① 沖縄県立図書館「図書館まつり」の運営協力(7回目と同日)	感想レポート作成
	9	選書ワークショップ⑥ 図書館への提案(プレゼン)のための事前打ち合わせ	企画書の準備・修正
	10	選書ワークショップ⑦ 図書館への提案(プレゼンテーション)	企画書の提出
	11	読書推進活動の体験③ 宜野湾市民図書館イベント(ビブリオバトル)の運営協力	紹介する本を選ぶ
	12	読書推進活動の体験④ 宜野湾市民図書館イベント(ビブリオバトル)の運営協力(11回目と同日)	感想レポート作成
	13	県内図書館との協働によるイベント運営① 絵本関連イベントの協力(調整中)	調整中
	14	県内図書館との協働によるイベント運営② 絵本関連イベントの協力(調整中)	調整中
15	県内図書館との協働によるイベント運営③ 絵本関連イベントの協力(調整中)	調整中	
16	都道府県立図書館の役割を知る・授業のまとめ	感想レポート作成	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：プリントを使用する。		
	学びの手立て ・司書資格取得のための科目ではありません。 ・図書館情報学の基礎知識を必要とするアドバンスド科目ですので、原則として、次の司書科目の基礎科目(概論科目)を履修していることを履修の条件とします。「図書館概論」「図書館サービス概論」「図書館情報資源概論」「情報サービス概論」「情報資源組織論I・II」 ・図書館現場への訪問などの日程は後期開始前に確定します。日程が確定次第、シラバスを変更します。 ・ゲスト講師の都合により、各回の内容・日程が変更になることもあります。日程変更等は学籍番号のメールに連絡します。		
	評価 ・遅刻は3回で1回の欠席とし、6回以上欠席した場合は単位を認定しない。 ・個人課題、グループ課題への参加状況、発表内容の到達度を合計して行う。 ＜個人評価＞ 2回のビブリオバトルへの取り組み…40点満点 ＜グループ課題＞ グループ課題の到達度…60点満点 ※グループ学習の回は欠席1回につき10点減点		

学びの継続	次のステージ・関連科目 この授業で取り組んだ内容をベースとして、次年度「図書館情報学特別演習Ⅱ」が開講されます。こちらもぜひ受講しましょう。＜例＞今年選書した資料を使って、次年度に本学図書館でテーマ展示を行う。
-------	--

※ポリシーとの関連性

日本文化学科の自由選択科目ですが、司書課程受講生であれば全学
科受講できます。他学科からの受講も大歓迎です。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	図書館情報学特別演習Ⅱ	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山口 真也	4年	授業開始前、または授業後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本授業は、現代の図書館に求められる「課題解決」機能をテーマとする演習・実習形式の授業です。「図書館情報学特別演習Ⅰ」の学習内容をさらに実践的に展開していきます。司書課程の授業をほぼ取り終えている学生であれば、「演習Ⅰ」を受講していない学生の受講も歓迎します。</p>	<p>日本文化学科の専門科目の1つですが、司書課程受講生であれば他学科の学生も歓迎です。司書を目指す人はぜひ受講して下さい。</p>
到達目標	<p>①図書館における企画展示の実習、イベントの運営などの協力を通して、これからの司書に求められる企画運営能力を身に着ける、 ②司書として活躍している方々と交流を通して、職業に対する理解を深め、進路決定の参考とする、 ③グループワークを通して、司書として、社会人として求められる協働意識やチームの一員として働く上での自己の適性を理解する。</p>	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・大学図書館企画展示ワークショップ① テーマ確定・資料収集	コーナーのテーマを検討
	2	大学図書館企画展示ワークショップ② 図書館への企画書提出・展示物の準備確認	選書・必要な道具の選定
	3	恩納村図書館との協働によるイベント運営①事前学習	恩納村について調べる
	4	恩納村図書館との協働によるイベント運営②アイデアソンへの参加 (5/18午後)	恩納村について調べる
	5	恩納村図書館との協働によるイベント運営②アイデアソンへの参加 (5/18午後)	恩納村について調べる
	6	大学図書館企画展示ワークショップ③ 展示実習(1) (5/25午前)	展示物の準備
	7	大学図書館企画展示ワークショップ④ 展示実習(2) (5/25午前)	展示物の確認
	8	県内専門図書館との協働によるお話し会ワークショップ① 企画意図の説明	図書館における多文化活動を知る
	9	県内専門図書館との協働によるお話し会ワークショップ② プログラムの検討(1)	プログラムの検討
	10	県内専門図書館との協働によるお話し会ワークショップ③ プログラムの検討(2)	プログラムの検討
	11	県内専門図書館との協働によるお話し会ワークショップ④ 図書館訪問・プログラム提案(6/22午前)	プログラムの見直し
	12	県内専門図書館との協働によるお話し会ワークショップ⑤ 図書館にて選書(6/22午前)	選書リスト作成
	13	大学図書館企画展示ワークショップ⑤ 展示物の片づけ・反省会	感想レポート作成
	14	県内専門図書館との協働によるお話し会ワークショップ⑥ 図書館にて打ち合わせ	プログラム飲み直し
15	県内専門図書館との協働によるお話し会ワークショップ⑦ リハーサル	お話し会の練習	
16	県内専門図書館との協働によるお話し会ワークショップ⑧ お話し会・授業のまとめ	感想レポート作成	
実践	テキスト・参考文献・資料など ・プリントを使用する。		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・司書資格取得のための科目ではありません。 ・図書館情報学の基礎知識を必要とするアドバンスド科目ですので、次の司書科目の基礎科目(概論科目)を履修していることを履修の条件とします。「図書館概論」「図書館サービス概論」「情報サービス概論」「図書館情報資源概論」「情報資源組織論Ⅰ・Ⅱ」 ・ゲスト講師、協力館の都合により、日程が変更になることもあります。 ・午前中に2コマ、または午後に2コマ続けて授業を行うこともあります。(上記の日付部分を確認) 		
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・出席回数、グループ学習の参加状況、課題発表の到達度を合計して行う。 ・遅刻は3回で1回の欠席とし、6回以上欠席した場合は単位を認定しない。 ・評価は次の基準で行う。 グループによるプレゼンテーション・感想レポートの到達度 100点満点 グループ学習の参加状況 (グループ学習の回を欠席すると1回につき10点減点) 		

学びの継続	次のステージ・関連科目 この授業で学んだことを卒業後に図書館現場で生かしてくれることを期待しています。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	図書館情報資源概論	後期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山口 真也	1年	授業開始前、または授業後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 図書館活動の基本的なあり方を、図書館情報資源（資料・メディア）という側面に注目して、収集の理念・方法、選択ツールの種類、管理・保存方法について具体的に学ぶとともに、関連領域である出版と流通のあり方について理解し、図書館活動の意義、役割をより深く学ぶ。	メッセージ 司書資格を取得するための基礎科目です。日本文化学科の専門科目にもなっていますので、大学生活で図書館を上手に活用したいと思っている人はぜひ受講しましょう。
	到達目標 ①図書館資料（情報資源）の種類を理解し、図書館サービスの多様性と関連づけてその機能を説明することができる。 ②図書館資料の収集・提供をめぐるこれまで生じてきた様々な問題を知り、「図書館の自由」の理念をふまえて望ましい対応を提案できる。 ③図書館資料をめぐる制度である日本独自の出版・流通制度の特徴を理解し、その意義と問題点を説明することができる。 ④様々な資料を活用して課題レポートを作成することで、図書館資料の必要性を利用者の視点から理解することができる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・図書館情報資源（資料）の定義	シラバスを読み、授業に備える
	2	図書館資料（情報資源）の種類（1）図書	授業の復習・予習
	3	図書館資料（情報資源）の種類（2）逐次刊行物（雑誌） マガジンとジャーナルの違い	指定図書を読む
	4	図書館資料（情報資源）の種類（3）逐次刊行物（新聞）新聞による報道の違い、中立公正とは？	指定図書を読む
	5	図書館資料（情報資源）の種類（4）小冊子 地域資料と灰色文献	授業の復習・予習
	6	図書館資料（情報資源）の種類（5）書写資料・視覚障害者向け資料	指定図書を読む
	7	図書館資料（情報資源）の種類（6）電子書籍・インターネットサービス、電子図書館	授業の復習・予習
	8	図書館資料（情報資源）の収集 収集方針・選択理論・ツール	レポート①の準備（文献収集）
	9	図書館資料（情報資源）の整理（1）分類、人文・社会・自然科学分野の資料とは？	レポート①の準備（文献収集）
	10	図書館資料（情報資源）の整理（2）目録・排架・装備	レポート①の準備（文献収集）
	11	図書館資料（情報資源）の収集 資料保存	授業の復習・予習
	12	図書館資料とパブリックサービス（1）図書館の自由との関わり・資料収集、提供の自由とは？	授業の復習・予習
	13	図書館資料とパブリックサービス（2）事例紹介：BL本・『絶歌』・基地関係資料をめぐる問題	レポート②の準備（文献収集）
	14	図書館資料をめぐる諸制度： 取次、再販制の意義と問題	レポート②の準備（文献収集）
15	授業のまとめ・到達度の確認、授業評価アンケート	テスト勉強	
16	試験		
	テキスト・参考文献・資料など 1回目の授業で指示します。 適宜、プリントを配布します。		
	学びの手立て ・司書資格取得希望者は、新年度に行っている図書館司書課程オリエンテーションにて、履修の順序を確認した上で履修してください。後期から受講を始める人は履修ガイドをよく読むこと。 ・授業中に紹介する指定図書を図書館で読み、単元ごとに出题する演習問題（自由提出課題）にも積極的に取り組みましょう。 ・レポート課題を作成する際は、インターネットに安易に頼るのではなく、多様な図書館資料を活用するように心がけましょう。1月中旬から本学図書館で開催予定の「レポートライティングサポート」も積極的に受講しましょう。		
	評価 定期テスト・・・70点（期末試験の到達度により評価） 平常点・・・30点（授業時間中に提出を指示する課題の到達度により評価） レポート・・・30点（※自由提出レポートの点数をテストの点数に点数を追加して評価することもある）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 2年生から司書資格科目の各論が始まります。本科目の発展科目としては「情報資源組織論Ⅰ」「情報資源組織論Ⅱ」などがあります。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	図書館文化論	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉田 肇吾	2年	yoshida@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	生涯学習社会・情報社会における図書館について、国策レベルの公共図書館の内容と変化の方向性（理想像）を把握した上で、現在の公共図書館における課題・問題点のとらえ方の基礎を学ぶ。さらに、最新の図書館情報学の学問的成果や、実際の図書館の諸相を広く取り上げ、分析方法の基礎を身につける。	3年次から「図書館情報学ゼミナール（吉田ゼミ）」に進もうとしている2年次向けの「プレゼミ」科目として設定しています。
到達目標	図書館を取り巻く基礎知識として関連法、法則、綱領などをあらためて把握した上で、日本の公共図書館の諸問題を考える上で中核となる国レベルの政策を取り上げ、図書館の理想と現実を見つめ直してみる。さらに、今日の図書館が直面している諸問題についても内容を把握して考察をすすめ、専門課程で図書館情報学のゼミを選択する人の基礎的知識の土台を造る。	

学びの実践	学びのヒント																																																				
	授業計画																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション：科目内容と進め方の説明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>公共図書館の基礎知識 1</td> <td>第2～4週：法律・綱領の内容把握</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>公共図書館の基礎知識 2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>公共図書館の基礎知識 3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>レポートA（図書館像①近未来像）：提示・説明</td> <td>第5～12週：国レベルの政策を把握</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>レポートA（図書館像①近未来像）：発表・まとめ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>レポートB（図書館像②図書館政策）：提示・説明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>レポートB（図書館像②図書館政策）：発表・まとめ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>レポートC（図書館像③理想と現実）：提示・説明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>レポートC（図書館像③理想と現実）：発表・まとめ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>レポートA～Cのまとめ（図書館像の理想と現実）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>レポートD（図書館の現状と課題）：提示・説明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>レポートE（図書館が直面する諸問題）：提示・説明</td> <td>第13～16週：関連文献での調査</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>レポートE（図書館が直面する諸問題）：発表 1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>レポートE（図書館が直面する諸問題）：発表 2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>総括</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	オリエンテーション：科目内容と進め方の説明		2	公共図書館の基礎知識 1	第2～4週：法律・綱領の内容把握	3	公共図書館の基礎知識 2		4	公共図書館の基礎知識 3		5	レポートA（図書館像①近未来像）：提示・説明	第5～12週：国レベルの政策を把握	6	レポートA（図書館像①近未来像）：発表・まとめ		7	レポートB（図書館像②図書館政策）：提示・説明		8	レポートB（図書館像②図書館政策）：発表・まとめ		9	レポートC（図書館像③理想と現実）：提示・説明		10	レポートC（図書館像③理想と現実）：発表・まとめ		11	レポートA～Cのまとめ（図書館像の理想と現実）		12	レポートD（図書館の現状と課題）：提示・説明		13	レポートE（図書館が直面する諸問題）：提示・説明	第13～16週：関連文献での調査	14	レポートE（図書館が直面する諸問題）：発表 1		15	レポートE（図書館が直面する諸問題）：発表 2		16	総括		
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
1	オリエンテーション：科目内容と進め方の説明																																																				
2	公共図書館の基礎知識 1	第2～4週：法律・綱領の内容把握																																																			
3	公共図書館の基礎知識 2																																																				
4	公共図書館の基礎知識 3																																																				
5	レポートA（図書館像①近未来像）：提示・説明	第5～12週：国レベルの政策を把握																																																			
6	レポートA（図書館像①近未来像）：発表・まとめ																																																				
7	レポートB（図書館像②図書館政策）：提示・説明																																																				
8	レポートB（図書館像②図書館政策）：発表・まとめ																																																				
9	レポートC（図書館像③理想と現実）：提示・説明																																																				
10	レポートC（図書館像③理想と現実）：発表・まとめ																																																				
11	レポートA～Cのまとめ（図書館像の理想と現実）																																																				
12	レポートD（図書館の現状と課題）：提示・説明																																																				
13	レポートE（図書館が直面する諸問題）：提示・説明	第13～16週：関連文献での調査																																																			
14	レポートE（図書館が直面する諸問題）：発表 1																																																				
15	レポートE（図書館が直面する諸問題）：発表 2																																																				
16	総括																																																				
テキスト・参考文献・資料など	必要に応じて、適宜プリントを配布する。																																																				
学びの手立て	国レベルでの理想像と、身近に利用している最寄りの公共図書館の現実を比較・対象してみる。また、社会変化により、どのような新たな問題に図書館は直面しているのか、という視点で日本の公共図書館全体を概観してみる。																																																				
評価	出席状況（10%）及び課題レポートの提出・発表（80%）、授業への参加姿勢（10%）による総合評価とする。																																																				

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本近代文学史 I	前期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	黒澤 亜里子	1年		

学びの準備	ねらい 近現代史を踏まえながら日本近代文学の成立背景や特質について学ぶ。具体的には、いくつかの代表的な作品にふれながら、どのような社会状況のもとでテキストが読まれ生成されてきたかについて考える。	メッセージ
	到達目標 明治以降の日本近現代文学の成立と変遷について学び、文学史的知識の基礎を身につけることを目的とする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	高校までの基礎知識を復習する。
	2	近代文学と進化論	プリントを復習する。
	3	写真主義文学～坪内逍遙「小説神髓」～	指示したテキストを読解する。
4	言文一致運動と文体のゆれ～二葉亭四迷「浮雲」ほか～	同上。	
5	硯友社の文学～尾崎紅葉「金色夜叉」ほか～	同上。	
6	近代恋愛の成立～北村透谷「厭世詩家と女性」～	同上。	
7	立身出世と恋愛～森鷗外「舞姫」～	同上。	
8	女性作家の登場と樋口一葉～「たけくらべ」～	同上。	
9	自然主義文学の成立(1)～島崎藤村「破壊」～	同上。	
10	自然主義文学の成立(2)～田山花袋「蒲団」～	同上。	
11	夏目漱石と新聞小説～「三四郎」～	同上。	
12	耽美派の文学～谷崎潤一郎「刺青」～	同上。	
13	〈新しい女〉と田村俊子～「木乃伊の口紅」～	同上。	
14	白樺派の文学～武者小路実篤「友情」ほか～	同上。	
15	大正期文学の諸動向～芥川龍之介ほか～	同上。	
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など 毎回、プリント及びテキストを適宜指示する。		
	学びの手立て		
	評価 文学作品を実際に読み、文学史の概略をつかむことを目標とする。事前学習として課すレポートや学期末試験で総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本近代文学史Ⅱ	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	1年	y.murakami@okiu.ac.jp 5号館404研究室	

学びの準備	ねらい 関東大震災から現代に至るまでの文学史の流れを理解すると同時に、代表的な作家・作品についての理解を深めていく。 受講生には積極的な読書を求める。 受講生が日本近代文学における諸概念を理解し、さまざまな文学表現を具体的に考察するための力を養うことを目的とする。	メッセージ 戦前から現代にかけての文学は明治期のもの比べて格段に読みやすくなります。 講義で取り上げる作品を実際に読み、読書量を上げ、読解力を高めていきましょう。
	到達目標 文学史を理解し、大正から現代にかけての文学がいかに関展してきたかを具体的に把握できるようになる。 実際の作品に触れ、読解力を高める。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	ガイダンス	シラバスをよく読んでおくこと。
	2	関東大震災と文学	「セメント樽の中の手紙」を読む。
3	新感覚派とプロレタリア文学	プロレタリア文学について復習。	
4	梶井基次郎の文学	「檸檬」を読む。	
5	山之口獮の詩	山之口獮の詩を読む。	
6	昭和10年前後の文学	戦前の文学について復習。	
7	戦時下の文学の問題点	戦時下の文学の傾向について復習。	
8	戦後派文学—新日本文学会と『近代文学』派	戦後文学の出発について理解する。	
9	太宰治と戦後の頹廢的空氣感	太宰治について調べる。	
10	大岡昇平「野火」①—見棄てられた兵士たち	「野火」を読む。	
11	大岡昇平「野火」②—殺すこと、食べること、生きること	「野火」を読む。	
12	大岡昇平「野火」③—「私」の狂気をめぐって	「野火」を読む。	
13	石牟礼道子「五月」①—水俣病という病	水俣病について調べる。	
14	石牟礼道子「五月」②—語りつくせぬことを聞き取る可能性に向けて	水俣病について調べる。	
15	村上春樹の世界・総論	村上春樹について復習する。	
16	テスト：文学史の理解度をはかる設問。論述問題もあり。持ち込み可。	テスト内容の復習。	
	テキスト・参考文献・資料など 毎回の講義で資料を配付する。 大岡昇平『野火』（新潮文庫）。		
	学びの手立て 文学史のテストでは講義で配布するレジュメおよび自分のノートの持ち込みを認める。 暗記ではなく、講義資料を活用して文学史を理解することを求める。 また、講義で扱う文学作品に実際に触れることを推奨する。		
	評価 期末テスト（80%）、小課題の提出および受講態度（20%）。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 文学史に登場する作品を実際に読破し、作品への理解を深める。 関連科目は「日本近代文学史Ⅰ」。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本芸能史	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮城 茂雄	2年	ptt566@okiu.ac.jp 授業終了後も教室にて受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	能をはじめとする現代に伝わる古典芸能は、数百年という長い歴史の中で継承されてきた。また琉球王国では、能や狂言などを盛んに学び琉球の芸能に多大な影響を与えてきた。本講義では、能・狂言・歌舞伎・舞踊・三味線音楽などの古典芸能を取り上げ、その歴史と表現の特徴について解説する。	現代の沖縄における生活では、能や狂言など古典芸能は身近な芸能ではないかもしれませんが。しかし、琉球士族はこれらの芸能を学び実際に演じ、沖縄に伝わる芸能にも大きな影響を与えました。この講義では、映像鑑賞を取り入れながら日本古典芸能について解説します。
到達目標	①琉球の歴史と日本古典芸能のかかわりについて理解する。②能楽の歴史・詞章・身体表現・舞台構造などについて知識を深める。③能「道成寺」を中心に道成寺説話に関わる芸能を鑑賞し、理解する。④三線音楽と三味線音楽の関係性について理解する。⑤「舞」と「踊」という語の意味から、日本の舞踊について考察する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
2	組踊創始者の玉城朝薫と日本古典芸能の関わり	琉球と日本の文化交流について理解	
3	能楽概説①	能楽について知識を深める	
4	能楽概説②	能楽の表現について	
5	能の映像鑑賞	映像から表現の特徴について理解	
6	能の表現「謡」「仕舞」	謡・仕舞について理解を深める	
7	作品研究①能「道成寺」道成寺の解説	道成寺説話について	
8	作品研究②能「道成寺」詞章講読	道成寺の詞章の理解を深める	
9	作品研究③能「道成寺」映像鑑賞	映像鑑賞から表現の理解を深める	
10	作品研究③能「道成寺」映像鑑賞	映像鑑賞から表現の理解を深める	
11	作品研究④能「道成寺」と組踊「執心鐘入」の比較	道成寺説話もあわせて考察する	
12	歌舞伎「京鹿子娘道成寺」①概説・詞章講読	歌舞伎の歴史について理解する	
13	歌舞伎「京鹿子娘道成寺」②映像鑑賞	映像鑑賞から表現の特徴を理解する	
14	歌舞伎「京鹿子娘道成寺」③映像鑑賞	映像鑑賞から表現の特徴を理解する	
15	舞と踊「地唄舞」・三線音楽と三味線音楽「地唄・長唄」	舞と踊・三味線音楽の歴史について	
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	教科書は指定しません。解説プリントや歌詞解説などを随時配布します。		
学びの手立て	①受講にあたって、以下を注意してください。出席の確認を毎回行います。私語や途中退席などは慎んでください。②板書にあわせて口頭での解説も多くなります。各自ノートやプリントに記録してください。③芸能の映像鑑賞を数回予定しています。④この講義は、毎回のテーマについて解説・考察することを目的としています。受講者の積極的な授業参加を望みます。⑤芸能についてのレポート（課題）を1回程度予定しています。		
評価	試験60%・レポート20%・出席20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	数百年かけて熟成されてきた芸能には、何世代にもわたって受け継がれた魅力があります。その魅力を感じることは、日本の古典文化を理解することでもあります。古典文学や古語の研究などに役立てていただきたいと思います。後期の「琉球芸能史」も受講することで、日本古典芸能と琉球芸能の影響関係の理解に役立つと考えます。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本言語史Ⅰ	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲原 穰	2年	授業終了後に教室で受け付けます（「リアクション・ペーパー」への記入も可）。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本授業では、日本語の音韻（発音の体系）、語法（会話のしくみ）、語彙（単語の集まり）、文字・表記（ことばを記すルール）などの各分野の歴史を概観していきます。日本語がどのように生じ、どのように発達したか、また、なぜ衰え滅んだかを考えることで、どのような特徴を持つことばなのかを理解できるようになります。	本科目は、日本語教員養成プログラムや国語教育にも関連している科目です。将来、国語教師や日本語教員になりたい人や普段使用している「日本語」が他の言語とどのような違いがあるのかについて関心がある人へ受講を勧めます。
到達目標	1. 本講義の到達目標は、現代日本語のどの要素が古典語から現代まで生き残り、どのような要素が変化したのか、分析する力を持つことです。そのためには、その前に日本語史の基礎的な知識を身につける必要があります。	
	2. 身につけた日本語史の知識を日本語教育や国語教育へ取り入れ、教育現場や一般社会などでこれを生かせるように実力をつけることです。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：講義内容の確認と登録調整／上代の日本語(1) 音韻①	プリントとテキストⅠ章を読む
	2	上代の日本語(2) (奈良時代までの日本語の音韻②, 文字)	プリントとテキストⅠ章を読む
	3	上代の日本語(3) (奈良時代までの日本語の文法)	プリントとテキストⅠ章を読む
	4	上代の日本語(4) (奈良時代までの日本語の語彙)	プリントとテキストⅡ章を読む
	5	中古の日本語(1) (平安時代の日本語の音韻)	プリントとテキストⅡ章を読む
	6	中古の日本語(2) (平安時代の日本語の文字, 文法①)	プリントとテキストⅡ章を読む
	7	中古の日本語(3) (平安時代の日本語の文法②)	前半のプリントとⅠ～Ⅲ章を読む
	8	中世の日本語(1) (院政期, 鎌倉時代, 室町時代の日本語の音韻) / 中間試験	プリントとテキストⅢ章を読む
	9	中世の日本語(2) (院政期, 鎌倉時代, 室町時代の日本語の文法)	プリントとテキストⅢ章を読む
	10	中世の日本語(3) (院政期, 鎌倉時代, 室町時代の日本語の語彙)	プリントとテキストⅣ章を読む
	11	近世の日本語(1) (江戸時代の日本語の音韻, 文字)	プリントとテキストⅣ章を読む
	12	近世の日本語(2) (江戸時代の日本語の文法)	プリントとテキストⅣ章を読む
	13	近世の日本語(3) (江戸時代の日本語の語彙)	プリントとテキストⅤ章を読む
14	近現代の日本語(1) (明治～昭和時代〔戦前〕までの日本語の音韻・表記)	プリントとテキストⅤ章を読む	
15	近現代の日本語(2) (明治～昭和時代〔戦前〕までの日本語の文法・語彙)	後半のプリントとテキストを読む	
16	期末試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	【テキスト】 ※テキストは講義で使用します。必ず購入してください。 『日本語の歴史』(山口仲美[著], 岩波書店, 2006年) 【参考文献】 『日本語史』(沖森卓也・金子彰・近藤泰弘・久保田篤[著], おうふう, 1989年) 『はじめて読む日本語の歴史』(沖森卓也[著], ベレ出版, 2010年) 『新訂 国語史要説』(土井忠夫・森田武[著], 修文社, 1975[1955]年)		
	学びの手立て		
	この授業で日本語史に関する知識をきちんと理解していないと、日本語史Ⅱの講義内容についていけません。また、各自に与えられた発表テーマについての理解ができずに発表レジュメの作成や質疑応答も行うことができません。そのため、この授業で日本語史の概略を把握できるよう、テキストや配布プリントを事前や事後に読み返してください。さらに参考文献にも目を通しておくと、授業では取り上げられなかった内容についても関連づけて学ぶことができます。		
	評価		
	中間試験(30%) + 期末試験(50%) + 講義への参加度[リアクションペーパーの提出](20%)によって成績を判じます。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	(1) 関連科目: この講義を受講後、より深く学びたい人は「関連科目」の「日本語史Ⅱ」を受講してください。 (2) 次のステージ: 現代日本語も常に進化し、変化していきます。日本語の変化の特徴を学び、今後起こりうる言語変化に対応できるようになりましょう。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本言語史Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲原 穰	2年	授業終了後、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	日本語の音韻・語法・語彙等の各分野について、ある言語事実がどのように生じ、どのように発達したか、またどんな経路をとって衰え滅んだかを跡づけます。前半の講義で具体的な発表の実例や取り扱う言語資料に関する解説を行い、後半は受講生による発表形式を取り、研究テーマに関する発表、質疑応答、レポートの作成などに取り組むことで実社会でも役立つ力を身につけてもらいます。	受講生は最初に日本言語史の重要なテーマのなかから発表するテーマを選択します。実際に発表を行う際は、選択したテーマの内容をテキストや参考文献、専門書などをよく読んで内容の理解を深めます。つぎに、実際の言語資料から用例を抜き出すなどしてテーマの検証を行います。真摯に取り組めば、発表力だけでなく、読解力、分析力、質問力なども向上します。
到達目標	①担当するテーマをよく理解し、適切な文献にあたって言語資料を抜き出すことができる。②抜き出したデータを分析し、どのような特徴があるのかをまとめることができる。③テキストや参考文献に書かれてある内容と自分の分析結果を比べ、テーマに書かれてあることが正しいかどうか判断することができる。④これらを制限枚数内にまとめてレジюмеを作成し、印刷・配布することができる。⑤研究内容をわかりやすく説明し、質疑に的確に答えることができる。⑥他者の発表を聞き、質問をすることができる。⑦発表内容や批評をレポートにまとめることができる。⑧レポートを決められた体裁に整え、期日内に提出することができる。この科目の最終的な目標は、帰納法、実証方法を収得することです。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：講義方法・テーマの確認と担当決め、日本言語史の区分	プリントとテキスト第Ⅰ部を読む
	2	事例に学ぶ（資料の集め方と分析の仕方）（その1）	プリントとテキスト第Ⅰ部を読む
	3	古典語の文献とその特徴	プリントとテキスト第Ⅰ部を読む
	4	現代語の文献とその特徴	プリントとテキスト第Ⅰ部を読む
	5	事例に学ぶ（資料の集め方と分析の仕方）（その2）	レジюмеとテキスト第Ⅱ部を読む
	6	発表と質疑：上代の音韻	レジюмеとテキスト第Ⅱ部を読む
	7	発表と質疑：上代の文法 / レポート提出	レジюмеとテキスト第Ⅱ部を読む
	8	発表と質疑：中古の音韻 / レポート提出	レジюмеとテキスト第Ⅱ部を読む
	9	発表と質疑：中古の文法 / レポート提出	レジюмеとテキスト第Ⅱ部を読む
	10	発表と質疑：中世の音韻 / レポート提出	レジюмеとテキスト第Ⅱ部を読む
	11	発表と質疑：中世の文法 / レポート提出	レジюмеとテキスト第Ⅱ部を読む
	12	発表と質疑：近世の音韻 / レポート提出	レジюмеとテキスト第Ⅱ部を読む
	13	発表と質疑：近世の文法 / レポート提出	レジюмеとテキスト第Ⅱ部を読む
	14	発表と質疑：近現代の表記 / レポート提出	レジюмеとテキスト第Ⅱ部を読む
15	発表と質疑：近現代の文法 / レポート提出	レポートを綴り、テキストを読む	
16	レポート最終提出日（発表予備日）		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト】 ※講義のテーマを深く理解するために使用します。 沖森卓也・金子彰・近藤泰弘・久保田篤（1989）『日本語史』おうふう</p> <p>【参考文献】 土井忠夫・森田武（1975[1955]）『新訂 国語史要説』修文社</p>
----	--

学びの手立て	<p>受講生の一人ひとりが、自分がこのテーマを担当していたらどのように分析するか、という視点で発表を聞いて討議に積極的に参加してください。なお、発表者のレジюмеは1週間前に配布されるので、事前に目を通して内容の把握を行うとともに質疑応答への準備もしてください。</p> <p>レポートは発表の態度のほか、資料（底本となる文献）の選び方、言語資料（データ）の集め方、データの分類や整理の仕方、レジюмеの作り方などに対する評価を具体的に記すようにしてください。また、提出期限を守ってください（厳守）。レポートの最終提出日には、表紙やつづり方など、第1回目の授業で配布する「要領」に記載されている書式で提出してください。</p>
--------	---

評価	<p>研究発表(50%)＋レポート[授業記録](35%)＋討議[授業参加](15%)で成績を判断します。</p> <p>※「研究発表」では、レジюмеの作成とその内容、発表態度、質疑応答で目標の達成度を判断します。「レポート」では発表内容のまとめ方、批評の際の独自の視点、提出状況で目標の達成度を判断します。「討議」では、他者の発表やレジюмеの理解度や質問力、積極性などで目標の達成度を判断します。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目 前期に開設される「日本語史Ⅰ」を受講してから本科目を受講してください。「日本語史Ⅰ」を受講せずに本科目を受講する場合は、山口仲美『日本語の歴史』（岩波書店、2006年）を手に入れて一読し、テキストの第Ⅰ部を読み込んでから参加しなければ、授業について行くことができません。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

本科目は、専門分野における諸課題について深く学ぶための応用科目に当たる（カリキュラム・ポリシー3）。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本古典文学史	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	2年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 古代・中世・近世文学の流れを辿り、それぞれの歴史性について理解する。	メッセージ 何か一つ好きな作品を見つけてほしい。そうすると、そこから広げて様々な作品をつなげていくことができるはずである。
	到達目標 古代・中世・近世文学の流れを理解し、レポートを書く。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	古代・中世・近世文学の概観	テキストの学習2~4頁
	2	万葉集の世界・初期万葉	5~10頁
	3	万葉集の世界・人麻呂と赤人	11~13頁
	4	万葉集の世界・旅人と家持	15~22頁
	5	古事記、日本書紀、風土記	34~42頁
	6	古今集の世界	44~52頁
	7	平安時代の物語	88~96頁
	8	平安時代の日記	112~118頁
	9	新古今集の世界	125~139頁
	10	軍記物語	167~175頁
	11	御伽草子	182~188頁
	12	近世の俳諧	224~241頁
	13	近世の小説	242~250頁
	14	近世の演劇	レポートの作成
	15	レポートの書き方について	レポートの作成
	16	まとめ	レポートの手直し
	テキスト・参考文献・資料など 『日本古典読本』筑摩書房		
	学びの手立て 新日本古典文学大系（岩波書店）、新編日本古典文学全集（小学館）、古典集成（新潮社）などを繙いてください。		
	評価 三回のレポートで評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「日本文学概論」では日本文学の様々な特質について考えるとともに、様々な研究方法を紹介する。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語音声学特講	前期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	3年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	日本語や琉球語の諸方言には、標準日本語の「50音図」にはおさまりに切れない音声が多数ある。また、それら諸方言のアクセント（音の高低）も、標準日本語とは異なる体系を持っていることが多い。本講義では、人類共通の音声器官の仕組みを知り、各地の方言の音声を声に出して練習することで、正確に発音できるようになることを目指す。	ヒト（ホモ・サピエンス）は誰も同じ音声器官を持っている。赤ん坊から成長するに従い、それぞれの言語に応じた発音を習得していく。そのため、他の言語の発音が難しくなるが、音声学の知識を身につければ、理論的に様々な言語の聞き取り、発音が再び可能になる。
到達目標	音声器官の仕組みを知り、様々な音声が正確に聞き取れ、発音できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：言語学の中の音声学	講義内容の復習
	2	琉歌・組踊語の発音①～摩擦音・破擦音～	講義内容の復習・発音練習
	3	琉歌・組踊語の発音②～合拗音～	講義内容の復習・発音練習
	4	琉歌・組踊語の発音③～声門破裂音～	講義内容の復習・発音練習
	5	南琉球語の発音～中舌（舌尖）母音・成節的子音・無声化～	講義内容の復習・発音練習
	6	北琉球語の発音～中舌母音・喉頭化子音・摩擦音化～	講義内容の復習・発音練習
	7	日本語諸方言の様々な発音	講義内容の復習・発音練習
	8	中間試験（筆記試験および発音実技試験）	中間試験の復習・発音練習
	9	東京方言のアクセント	講義内容の復習・発音練習
	10	京都方言のアクセント	講義内容の復習・発音練習
	11	青森方言のアクセント	講義内容の復習・発音練習
	12	鹿児島方言のアクセント	講義内容の復習・発音練習
	13	日本語アクセントの歴史的研究	講義内容の復習・発音練習
	14	琉球語諸方言のアクセント	講義内容の復習・発音練習
15	期末試験（筆記試験および発音実技試験）	期末試験の復習・発音練習	
16	予備日		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	適宜、プリントを配布する。参考書・参考資料としては、服部四郎『音声学』（岩波書店・1984年）、城生佰太郎『音声学 新装増訂版』（アポロン工業・1988年）、斉藤純男『日本語音声学入門』（三省堂・1997年）がある。

学びの実践	学びの手立て
	初回時に国際音声字母（IPA）の表を配布する。世界中の言語（もちろん琉球語も含む）を音学的に正確に書き留める際には、この表に従って表記することになっているので、まずはこの表の見方を覚える必要がある。子音の場合は、横軸の「調音点」、縦軸の「調音法」、「有声」と「無声」の対立といった考えを理解する。母音の場合は、「広母音」と「狭母音」、「平唇母音」と「円唇母音」の対立を理解する。そして、その考えに則って、目標となる発音を繰り返し口に出して練習することで、ネイティブスピーカー（生え抜き話者）とほぼ同じ発音ができるようになる。

学びの実践	評価
	中間・期末試験および平常点（出席を含む）によって評価する。平常点では、授業における姿勢（積極性など）についても評価する。なお、中間・期末試験は、筆記試験のほか、発音実技試験も行なう。

学びの継続	次のステージ・関連科目
	日本語音声学、多文化共生論、琉球語学特講Ⅰ・Ⅱなどが関連科目である。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語学概論	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	2年	5-401(研究室) kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業では日本語学における基礎的知識および考え方の習得をめざします。ふだん何気なく、無意識に使っている日本語が、いったいどのような特徴を持った言語なのかを意識的に考えてみましょう。この「概論」では、音声学の基礎および現代日本語の音声の特徴、また日本語の音声と文字の歴史的変遷、現代日本語の表記の問題について学びます。	メッセージ 言語に関する専門的な知識を得ることによって、「コトバを客観的に捉える視点」を養ってもらいたいと思います。
	到達目標 ・「日本語」に関する以下の項目について適切に説明することができる。 ①日本語の音声の特徴 ②日本語の文字と発音の歴史的変遷 ③日本語の表記法(漢字、仮名)	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	日本語の音声の特徴①：音声のしくみ、日本語の母音	授業の復習、次回内容の確認(資料)
	3	日本語の音声の特徴②：日本語の子音	同上
	4	日本語の音声の特徴③：音韻論	同上
	5	文字とは、日本語の文字	同上
	6	かな文字と発音の変化(1)：上代	同上
	7	かな文字と発音の変化(2)：中古	同上
	8	かな文字と発音の変化(3)：中世～近世	テスト範囲の復習
9	中間試験	同上	
10	漢字の歴史と分類、試験の解答解説	同上	
11	漢字の構成、音読みと訓読み(1)	同上	
12	音読みと訓読み(2)	同上	
13	漢字をめぐる議論：近代の国語・国字論	同上	
14	当用漢字と常用漢字	同上	
15	仮名遣いと漢字の送り仮名	テスト範囲の復習	
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など ・テキストは使用しません。講義内において資料を配布します。 ・参考文献(時間外の自主学習に役立ててください) 仁田義雄 他『改訂版 日本語要説』ひつじ書房、山口明穂他1997『日本語の歴史』東京大学出版会、今野真二2012『百年前の日本語』岩波新書、『新しい国語表記ハンドブック(第5版)』三省堂、など。		
	学びの手立て 履修の心構え ・出席日数が講義全体(15回)の3分の2に満たない場合、原則として単位を認めません。 ・登録者数が100人を超える場合、座席の指定を行います。 ・予告なしに小テストを行うことがあります(3～4回)。		
	評価 中間試験30%、期末試験30%、小テスト20%、平常点20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本語に関する専門的な知識を身につけ、国語教員・日本語教師に必要な知識、技能を高める。また卒業後、ビジネスや日常生活において武器となる知識、教養を高める。
-------	--

※ポリシーとの関連性 日本語学の基本を理解し、知的好奇心を高めるための科目である。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語学入門	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	1年	5-401(研究室) kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業では日本語学における基礎的知識および考え方の習得をめざします。本科目は、本文化学科・日本文化コースの導入科目となります。ふだん何気なく無意識に使っている日本語ですが、その特徴について意識的に考えてみましょう。言語学の基礎的事項を理解した後、日本語の語種、語構成、位相といった語彙論、社会言語学に関することがらについて学びます。	メッセージ 言語に関する専門的な知識を得ることによって、「コトバを客観的に捉える視点」を養ってもらいたいと思います。
	到達目標 ・「言語」「日本語」に関する以下の項目について適切に説明することができる。 ①言語の単位一文・語・形態素 ②日本語の語構成、語種 ③日本語の位相、ウチナーヤマトゥグチ	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	「言語」とは？「日本語」とは？	授業の復習、次回内容の確認(資料)
	3	文・語・形態素について(1)	同上
	4	文・語・形態素について(2)	同上
	5	語彙とは、語の構成(1)	同上
	6	語彙とは、語の構成(2)	同上
	7	語種と語感(1)：語種の出自とその特徴、和語と漢語	同上
	8	語種と語感(2)：外来語・混種語	テスト範囲の復習
9	中間試験	次回内容の確認(資料)	
10	語の位相(1)：集団語・役割語、試験の解答解説	授業の復習、次回内容の確認(資料)	
11	語の位相(2)：性差とことば	同上	
12	語の位相(3)：世代差とことば、場面とことば	同上	
13	語の位相(4)：地域差とことば	同上	
14	語の位相(5)：琉球の伝統方言とウチナーヤマトゥグチ①	同上	
15	語の位相(6)：琉球の伝統方言とウチナーヤマトゥグチ②	テスト範囲の復習	
16	期末試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など ・テキストは使用しません。講義内において資料を配布します。 ・参考文献(時間外の自主学習に役立ててください) 仁田義雄 他『改訂版 日本語要説』ひつじ書房、町田健編／中井精一著『社会言語学のしくみ』研究社、宮地裕他編著『講座日本語と日本語教育第6巻 日本語の語彙・意味(上)』明治書院、野原三義2005『うちなあぐちへの招待』沖縄タイムス社など。		
	学びの手立て 履修の心構え ・出席日数が講義全体(15回)の3分の2に満たない場合、原則として単位を認めません。 ・登録者数が100人を超える場合、座席の指定を行います。 ・予告なしに小テストを行うことがあります(3~4回)。		
	評価 中間試験30%、期末試験30%、小テスト20%、平常点20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本語に関する専門的な知識を身につけ、国語教員・日本語教師に必要な知識、技能を高める。また卒業後、ビジネスや日常生活において武器となる知識、教養を高める。 関連科目：「日本語学概論」
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語学入門	後期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	1年	5-401(研究室) kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業では日本語学における基礎的知識および考え方の習得をめざします。本科目は、本文化学科・日本文化コースの導入科目となります。ふだん何気なく無意識に使っている日本語ですが、その特徴について意識的に考えてみましょう。言語学の基礎的事項を理解した後、日本語の語種、語構成、位相といった語彙論、社会言語学に関することがらについて学びます。	メッセージ 言語に関する専門的な知識を得ることによって、「コトバを客観的に捉える視点」を養ってもらいたいと思います。
	到達目標 ・「言語」「日本語」に関する以下の項目について適切に説明することができる。 ①言語の単位一文・語・形態素 ②日本語の語構成、語種 ③日本語の位相、ウチナーヤマトゥグチ	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	「言語」とは? 「日本語」とは?	授業の復習、次回内容の確認(資料)
	3	文・語・形態素について(1)	同上
	4	文・語・形態素について(2)	同上
	5	語彙とは、語の構成(1)	同上
	6	語彙とは、語の構成(2)	同上
	7	語種と語感(1): 語種の出自とその特徴、和語と漢語	同上
	8	語種と語感(2): 外来語・混種語	テスト範囲の復習
9	中間試験	次回内容の確認(資料)	
10	語の位相(1): 集団語・役割語、試験の解答解説	授業の復習、次回内容の確認(資料)	
11	語の位相(2): 性差とことば	同上	
12	語の位相(3): 世代差とことば、場面とことば	同上	
13	語の位相(4): 地域差とことば	同上	
14	語の位相(5): 琉球の伝統方言とウチナーヤマトゥグチ①	同上	
15	語の位相(6): 琉球の伝統方言とウチナーヤマトゥグチ②	テスト範囲の復習	
16	期末試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など ・テキストは使用しません。講義内において資料を配布します。 ・参考文献(時間外の自主学習に役立ててください) 仁田義雄 他『改訂版 日本語要説』ひつじ書房、町田健編/中井精一著『社会言語学のしくみ』研究社、宮地裕他編著『講座日本語と日本語教育第6巻 日本語の語彙・意味(上)』明治書院、野原三義2005『うちなあぐちへの招待』沖縄タイムス社など。		
	学びの手立て 履修の心構え ・出席日数が講義全体(15回)の3分の2に満たない場合、原則として単位を認めません。 ・登録者数が100人を超える場合、座席の指定を行います。 ・予告なしに小テストを行うことがあります(3~4回)。		
	評価 中間試験30%、期末試験30%、小テスト20%、平常点20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本語に関する専門的な知識を身につけ、国語教員・日本語教師に必要な知識、技能を高める。また卒業後、ビジネスや日常生活において武器となる知識、教養を高める。 関連科目: 「日本語学概論」
-------	--

科目基本情報	科目名 日本語表現法演習 I	期別 前期	曜日・時限 木 4	単位 2
	担当者 -佐渡山 美智子	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ free-net@ezweb.ne.jp	

学びの準備	ねらい 音声表現（話し言葉）を中心に、基本である日本語の発声・発音・滑舌トレーニングを「はじめ、「伝えるための方法」を学び実践します。グループワークを通して、お互いを認め合い、チームとして取り組むプログラムの中からコミュニケーションの意味を考え、「繋がる」ことから「伝達」「表現」の理解を深めるプログラムです。	メッセージ 日本文化学科で学ぶことの基礎として、声を磨くことから始めませんか。発声トレーニングの「外郎売り」は、グループで合格をめざす中で個々のスキルを高めながら、コミュニケーションによって力を合わせることを知り、言葉への意識を高めていきます。後期のプロジェクト演習「鬼慶良間」を受講するためには必須科目です。
	到達目標 ●姿勢を整え、腹式で声を響かせることができること。●「外郎売り」の暗唱ができ、はっきりと発音することができる。●グループで協力しながら、目標を達成することができる。●話をよく聞き、質問することができる。●内容が伝わるように読むことができる。●朗読として内容を表現することができる。●積極的に活動することができる。●創作詩を書くことができる。●報告・連絡・相談ができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	○ガイダンス	個人プロフィールの作成
	2	○発声・発音トレーニングの基本<姿勢・発声・発音など>	自己紹介の準備
	3	○自己紹介○「外郎売り」の音読	班員紹介の準備・ミーティング
	4	○班員紹介プレゼンテーション	好きな詩を選んでくる
	5	○人物スケッチ<傾聴・情報の整理・選択・表現>	人物スケッチ・まとめ
	6	○人物スケッチ・他己紹介	感想・詩を選んでくる
	7	○詩の朗読<読み方のポイント・伝えたい言葉の表現方法>	詩の読み方を練習する
	8	○詩の朗読<発表>	美術鑑賞感想文の提出準備
	9	○創作詩<グループリレー朗読>一提出	編集委員会を中心に詩集製作
	10	○美術館の感想文から<抜粋で朗読グループリレー>	詩集を読んで共感の評価
	11	○群読の実践<言葉に想いをあわせて>	外郎売りのテストの準備
	12	○創作詩集から共感ランキングの発表<朗読・実践>	外郎売りのテストの準備
	13	○創作民話劇「鬼慶良間」<役割とその内容について>	鬼慶良間の役割希望の選択
	14	○「鬼慶良間」キャストオーディション	外郎売りのテストの準備
	15	○「鬼慶良間」キャスト発表・スタッフ役割決定	ノート・レポートのまとめ
16	○総括		

実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しません。必要な資料はプリントで配布致します。
----	--

学びの手立て	履修の心構えとして ●出欠確認を厳格に行います。連絡なしの欠席・遅刻は大きな減点になります。やむを得ない状況の場合は、必ず連絡すること。欠席届は必ず翌週までに提出してください。●提出物や宿題は、必ず期日を守り提出、準備を行ってください。●この講義を受講する目的を明確にして臨むことが効果的な活動へと繋がります。●「外郎売り」の暗唱テストは、10名のグループごとのテストです。メンバーの意思疎通ができています。お互いが助け合える環境を整えることが大切です。●講義の内容などをノートに記録してください。提出をもとめることがあります。
--------	--

評価	●出席率 ●提出物 ●活動実績・活動状況 ●「外郎売り」暗唱・発声テスト
----	--------------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 後期のプロジェクト演習、創作民話劇「鬼慶良間」と連動しています。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語表現法演習Ⅱ	前期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-佐渡山 美智子	1年	free-net@ezweb.ne.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	日本語表現法演習Ⅱでは、1年から学んできた「表現」を継続する位置づけで、まず、発声・発音の基本から「読む力」から取り組みます。聞き取りやすく、内容の伝わる読み方の要点をおさえ実践します。後半では、論理的な思考と表現方法、話の本質を理解し自らの意見や意思を伝えることを目的にディスカッション・ディベートを行い、プレゼンテーションで情報を共有していきます。	1年で取り組んだ「外郎売り」「鬼慶良間」は、個々の努力とお互いの協力で豊かな学びの機会をなりました。そのことをベースとして、声にだして読むための方法を学んでいきます。そして、グループワークでは、多角的な物事のとらえ方、多様な価値観、情報の収集・整理・選択・表現を目的にディスカッションとディベートを行います。
到達目標	達成目標 ●姿勢を整え、聞き取りやすい声の響きで発声することができる。●滑舌よく、はっきりとした言葉で発音することができる。●内容がよく伝わる読み方ができる。●朗読で聞く人の心に響かせることができる。●現状を把握するための情報を収集できる。●情報の内容の裏付け、信憑性をはかることができる。●目的を明確に要点を押さえることができる。●言葉の足し算・引き算で調整することができる。●相手に身になって考えることができる。●相手にあわせて、効果的に表現することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	受講の目的などプロフィール作成
	2	発声・発音トレーニング<姿勢・声の響き・滑舌など>	発声・発音練習。原稿の音読練習。
	3	作品を読む<明瞭な発音・抑揚・アクセント・間の取り方など>	作品の解釈と読み込み。
	4	作品を読む<声の使い方や表情・聞き手にあわせた読み方など>	2分で読む作品の朗読。発表準備。
	5	朗読<披露・感想・意見交換>	朗読についてのレポート
	6	ディベートとは<ソフトディベートについて。その目的と内容>	ディベートテーマの提案・準備
	7	ディベートテーマの提案・プレゼンテーションとテーマの決定	情報の収集・整理
	8	ディベートマップの作成<多角的視点・論理構成・ストーリー>	ファイルの整理・発言リハーサル
	9	ディベートマッチ<実践>=物事の本質を観る論理的な話し方	ディスカッションテーマの提案
	10	ディスカッションテーマの提案<グループテーマの選択>	テーマについての情報収集
	11	ディスカッションを効果的に進めるために<目的と論点>	コメントの作成と考え方の整理
	12	ディスカッション<実践>	内容の整理・報告の準備
	13	報告プレゼンテーションのポイントについて	グループで報告内容の準備
	14	報告プレゼンテーション<実践>	振り返りレポート
15	総括<朗読・ディベート・ディスカッション・プレゼンテーション>	ノートの提出	
16	まとめのレポート (それぞれのPDCAマネジメントサイクルへ)		

実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しません。必要な資料は、プリントで配布致します。
----	---

学びの手立て	履修の心構えとして ●出欠確認を厳格に行います。連絡なしの欠席・遅刻は大きな減点となります。やむを得ない状況の場合は必ず連絡をすること。欠席届は、翌週までに提出を基本とします。●この講義を受講する目的を明確にして臨むことが有意義な活動へと繋がります。●講義内容の要点を記録し、ノートを作成してください。傾聴が基本です。●グループワークを中心に活動します。報告・連絡・相談を行い、メンバーに迷惑のかからないように心がけてください。
--------	--

評価	●出席率 ●提出物 ●宿題・課題などの事前準備 ●活動内容と実績
----	----------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 聞き取りやすく、聞き手にわかりやすく効果的に話す力は、今後、あらゆる場面で活かされるコミュニケーションのスキルです。よりよい表現の方法を求めて、勇気をもって実践することが必要です。
-------	---

※ポリシーとの関連性

日本文化学科の修得目標のひとつ「日本文化の理解」に資するために、古典読解の導入科目として設置します。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語文法基礎Ⅰ	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-田仲 一枝	1年	授業中および終了後に質問してください。	

学びの準備	ねらい 日本の古典文学を読解、理解するためのひとつの方策として①日本語古典文法を学びなおす。②文法の定義、文法を研究史等を学ぶ。③文法の知識を使って古文・漢文の読解力を養う。	メッセージ 日本文化学科の学生にとって、日本の古典（漢文含む）原文を読み解くことは必要不可欠です。そのために日本語の古典文法を学びなおします。また文法とは何かなど発展的学習をします。
	到達目標 ①日本語古典文法の全体像を理解、把握する。②日本語の古文および漢文を読解するための、個々の基礎的文法事項を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス。文法とは何か。文法研究の歴史等	
	2	日本語古典文法の概略。歴史的仮名遣いと五十音図	文法研究者の本(指定)をよむ。
	3	用言の活用(動詞四段、下一・二、上一・二)	古語の品詞分類の練習をする。
	4	用言の活用(動詞カ・サ・ナ・ラ)	暗記のための工夫(歌等)をする。
	5	用言の活用(形容詞)	暗記のための工夫(歌等)をする。
	6	用言の活用(形容動詞)	確認シートで自己点検をする。
	7	用言の確認テスト。ノート確認	ノートを整理しておく。
	8	百人一首テスト①	百人一首25番までを暗記する。
	9	和歌の修辭法	テキストで例を挙げておく
	10	敬語法	桐壺冒頭を暗記する。
	11	付属語のうち助動詞の概略と活用(打消し)	活用と接続と訳を理解する。
	12	付属語のうち助動詞の概略と活用(断定)	助動詞一覧表を活用する。
	13	漢文:漢文訓読とは何か。訓読の基本。	般若心経を読んでみよう。
	14	漢文句法演習(否定形)、百人一首テスト②	百人一首50番までを暗記する。
	15	漢文句法演習(禁止、二重否定等)	訓読練習
	16	漢文分野確認テスト	
	テキスト・参考文献・資料など ①『基礎からの日本語文法』 第一学習社 600円 ②『明説漢文ノート』尚文出版 500円 ③『百人一首』文英堂 550円 ④古語辞典・漢和辞典・国語便覧等		
	学びの手立て ①テキストを必ず毎時持参する。②指示されたところは必ず次時まで暗記する。③A4判ノートを使用し、適時提出する。④グループ学習を活用する。⑤百人一首を暗記する(語彙を蓄積するため)。		
	評価 ①古文分野試験と漢文分野試験および百人一首暗記テスト 70% ノート等の提出物 20% 平常点 10%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ※後期の「日本語文法基礎Ⅱ」を継続履修する。後期は助動詞の学習と古文訳出練習を重点的におこなう。古文読解には不可欠である。
-------	--

※ポリシーとの関連性 日本文化学科の修得目標のひとつ「日本文化の理解」に資するため
に、古典読解の導入科目として設置します。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語文法基礎Ⅰ	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-田仲 一枝	1年	授業中および終了後に質問してください。	

学びの準備	ねらい 日本の古典文学を読解、理解するためのひとつの方策として①日本語古典文法を学びなおす。②文法の定義、文法を研究史等を学ぶ。③文法の知識を使って古文・漢文の読解力を養う。	メッセージ 日本文化学科の学生にとって、日本の古典（漢文含む）原文を読み解くことは必要不可欠です。そのために日本語の古典文法を学びなおします。また文法とは何かなど発展的学習をします。
	到達目標 ①日本語古典文法の全体像を理解、把握する。②日本語の古文および漢文を読解するための、個々の基礎的文法事項を身につける。	

学びの準備	到達目標 ①日本語古典文法の全体像を理解、把握する。②日本語の古文および漢文を読解するための、個々の基礎的文法事項を身につける。

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス。文法とは何か。文法研究の歴史等
	2	日本語古典文法の概略。歴史的仮名遣いと五十音図
	3	用言の活用（動詞四段、下一・二、上一・二）
	4	用言の活用（動詞カ・サ・ナ・ラ）
	5	用言の活用（形容詞）
	6	用言の活用（形容動詞）
	7	用言の確認テスト。ノート確認
	8	百人一首テスト①
	9	和歌の修辭法
	10	敬語法
	11	付属語のうち助動詞の概略と活用（打消し）
	12	付属語のうち助動詞の概略と活用（断定）
	13	漢文：漢文訓読とは何か。訓読の基本。
	14	漢文句法演習（否定形）、百人一首テスト②
	15	漢文句法演習（禁止、二重否定等）
16	漢文分野確認テスト	
		時間外学習の内容
		文法研究者の本（指定）をよむ。
		古語の品詞分類の練習をする。
		暗記のための工夫（歌等）をする。
		暗記のための工夫（歌等）をする。
		確認シートで自己点検をする。
		ノートを整理しておく。
		百人一首25番までを暗記する。
		テキストで例を挙げておく
		桐壺冒頭を暗記する。
		活用と接続と訳を理解する。
		助動詞一覧表を活用する。
		般若心経を読んでみよう。
		百人一首50番までを暗記する。
		訓読練習

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ①『基礎からの日本語文法』 第一学習社 600円 ②『明説漢文ノート』尚文出版 500円 ③『百人一首』文英堂 550円 ④古語辞典・漢和辞典・国語便覧等
-------	---

学びの実践	学びの手立て ①テキストを必ず毎時持参する。②指示されたところは必ず次時までに暗記する。③A4判ノートを使用し、適時提出する。④グループ学習を活用する。⑤百人一首を暗記する（語彙を蓄積するため）。
-------	---

学びの実践	評価 ①古文分野試験と漢文分野試験および百人一首暗記テスト 70% ノート等の提出物 20% 平常点 10%
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 ※後期の「日本語文法基礎Ⅱ」を継続履修する。後期は助動詞の学習と古文訳出練習を重点的におこなう。古文読解には不可欠である。
-------	--

※ポリシーとの関連性 日本文化学科の修得目標のひとつ「日本文化の理解」に資するため、古典読解に必要な不可欠な文法を学習しなおし、習得します。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語文法基礎Ⅱ	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-田仲 一枝	1年	授業中および授業後に教室で質問してください。	

学びの準備	ねらい 日本の古典文学を読解、理解するためのひとつの方策として①日本語古典文法を学びなおす。②文法の定義、文法を研究史等を学ぶ。③文法の知識を使って古文・漢文の読解力を養う。	メッセージ 日本文化学科の学生にとって、日本の古典（漢文含む）原文を読み解くことは必要不可欠です。そのために日本語の古典文法を学びなおします。また文法とは何かなど発展的学習をします。
	到達目標 ①日本語古典文法の全体像を理解、把握する。②日本語の古文および漢文を読解するための個々の基礎的文法事項を身につける。	

学びの準備	到達目標 ①日本語古典文法の全体像を理解、把握する。②日本語の古文および漢文を読解するための個々の基礎的文法事項を身につける。

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス。前期学習の復習等
	2	助動詞（打消し、断定）
	3	助動詞（推量）。
	4	助動詞（受け身等・使役等）。
	5	助動詞（願望等）
	6	古文助動詞分野確認テスト
	7	敬語法（動詞と補助動詞等）。ノート確認
	8	百人一首テスト①
	9	助詞（格助詞）
	10	助詞（接続助詞）
	11	助詞（係助詞、終助詞）
	12	助詞（副助詞、間投助詞）
	13	漢文：漢文訓読の基本復習。
	14	漢文句法演習（反語・受身・使役等）、百人一首テスト②
	15	漢文句法演習（限定・累加・抑揚形等）
16	漢文分野確認テスト	
時間外学習の内容		
前期学習定着確認シートを使う。		
定着確認シートを使う。		
活用の練習をする。		
暗記のための工夫（歌等）をする。		
正確な口語訳の練習をする。		
確認シートで自己点検をする。		
ノートを整理しておく。		
百人一首75番までを暗記する。		
例語を挙げてみる。		
例語を挙げてみる。		
活用と接続、訳を理解する。		
助詞一覧表の見方に慣れる。		
史伝を読んでみよう。		
百人一首100番までを暗記する。		
訓読練習		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ①『基礎からの日本語文法』 第一学習社 600円 ②『明説漢文ノート』尚文出版 500円 ③『百人一首』 文英堂 550円 ④古語辞典・漢和辞典・国語便覧等
-------	--

学びの実践	学びの手立て ①テキストを必ず毎時持参する。②指示されたところは必ず次時までに暗記する。③A4判ノートを使用し、適時提出する。④グループ学習を活用する。⑤百人一首を暗記する（語彙を蓄積するため）。
-------	---

学びの実践	評価 ①古文分野試験と漢文分野試験および百人一首暗記テスト 70% ノート等の提出物 20% 平常点 10%
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 ※後期の「日本語文法基礎Ⅱ」を継続履修する。後期は助動詞の学習と古文訳出練習を重点的におこなう。古文読解には不可欠である。
-------	--

※ポリシーとの関連性 日本文化学科の修得目標のひとつ「日本文化の理解」に資するため
に、古典読解に必要な不可欠な文法を学習しなおし、習得します。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語文法基礎Ⅱ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-田仲 一枝	1年	授業中および授業後に教室で質問してください。	

学びの準備	ねらい 日本の古典文学を読解、理解するためのひとつの方策として①日本語古典文法を学びなおす。②文法の定義、文法を研究史等を学ぶ。③文法の知識を使って古文・漢文の読解力を養う。	メッセージ 日本文化学科の学生にとって、日本の古典（漢文含む）原文を読み解くことは必要不可欠です。そのために日本語の古典文法を学びなおします。また文法とは何かなど発展的学習をします。
	到達目標 ①日本語古典文法の全体像を理解、把握する。②日本語の古文および漢文を読解するための個々の基礎的文法事項を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス。前期学習の復習等	前期学習定着確認シートを使う。
	2	助動詞（打消し、断定）	定着確認シートを使う。
3	助動詞（推量）。	活用の練習をする。	
4	助動詞（受け身等・使役等）。	暗記のための工夫（歌等）をする。	
5	助動詞（願望等）	正確な口語訳の練習をする。	
6	古文助動詞分野確認テスト	確認シートで自己点検をする。	
7	敬語法（動詞と補助動詞等）。ノート確認	ノートを整理しておく。	
8	百人一首テスト①	百人一首75番までを暗記する。	
9	助詞（格助詞）	例語を挙げてみる。	
10	助詞（接続助詞）	例語を挙げてみる。	
11	助詞（係助詞、終助詞）	活用と接続、訳を理解する。	
12	助詞（副助詞、間投助詞）	助詞一覧表の見方に慣れる。	
13	漢文：漢文訓読の基本復習。	史伝を読んでみよう。	
14	漢文句法演習（反語・受身・使役等）、百人一首テスト②	百人一首100番までを暗記する。	
15	漢文句法演習（限定・累加・抑揚形等）	訓読練習	
16	漢文分野確認テスト		
	テキスト・参考文献・資料など ①『基礎からの日本語文法』 第一学習社 600円 ②『明説漢文ノート』尚文出版 500円 ③『百人一首』 文英堂 550円 ④古語辞典・漢和辞典・国語便覧等		
	学びの手立て ①テキストを必ず毎時持参する。②指示されたところは必ず次時までに暗記する。③A4判ノートを使用し、適時提出する。④グループ学習を活用する。⑤百人一首を暗記する（語彙を蓄積するため）。		
	評価 ①古文分野試験と漢文分野試験および百人一首暗記テスト 70% ノート等の提出物 20% 平常点 10%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ※後期の「日本語文法基礎Ⅱ」を継続履修する。後期は助動詞の学習と古文訳出練習を重点的におこなう。古文読解には不可欠である。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語文法論 I	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	2年	5-401(研究室) kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	言語には必ず「文法＝言葉の運用ルール」が備わっています。この「文法」の実態を明らかにするのが「文法論」という学問です。この授業では、俗に「学校文法」と呼ばれる日本語文法の考え方の1つをとりあげます。学校教育で学んできた「文法」を見直し、そこに含まれる問題点について議論していきましょう。	文法と聞くと難しい・つまらないと思われがちですが、私たちが日本語を自由に操ることができるのはその文法が身につけているからなのです。「無意識の知」に目を向けてみましょう。

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本語文法の発展の歴史を理解し、適切に説明することができる。 いわゆる「学校文法」の概要と問題点を理解し、適切に説明することができる。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	文法とは、日本語文法研究史①	授業の復習、次回内容の確認(資料)
	3	日本語文法研究史②	同上
	4	日本語文法研究史③	授業の復習、予習：text p.16-18
	5	学校文法とは、ことばの単位：「文節」批判①	授業の復習、予習：text p.19-33
	6	文の種類、単語の働き：「文節」批判②	授業の復習、予習：text p.38-45
	7	単語の種類(品詞分類)	授業の復習、予習：text p.96-110
	8	動詞①：活用形	授業の復習、予習：text p.110-113
	9	動詞②：自動詞と他動詞、可能動詞	授業の復習、予習：text p.153-191
	10	動詞③：「助動詞」批判	授業の復習、予習：text p.126-134
	11	形容詞①：活用形とその変遷	授業の復習、予習：text p.135-139
	12	形容詞②：ナ形容詞	授業の復習、予習：text p.214-220
	13	助詞①：「格助詞」批判	授業の復習、予習：text p.214-215
	14	助詞②：連体の「の」	授業の復習、予習：text p.206,229
15	助詞③：副助詞—主語の「は」と「が」		
16	期末試験	講義内容全体の復習	

学びの手立て	<p>履修の心構え</p> <ul style="list-style-type: none"> 出席日数が講義全体(15回)の3分の2に満たない場合、原則として単位を認めません。 毎時間「リアクションペーパー」を提出してもらいます。 予告なしに小テストを行うことがあります(2~3回) <p>学びを深めるために</p> <ul style="list-style-type: none"> いわゆる国語の「文法」が苦手だった人は予習して講義にのぞみましょう(「時間外学習の内容」を参考)。
--------	---

評価	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> 使用するテキスト：田近洵一2012『くわしい国文法 中学1~3年[新学習指導要領対応]』文英堂 参考文献 高橋太郎他2005『日本語の文法』ひつじ書房、山田敏弘2004『国語教師が知っておきたい日本語文法』くろしお出版、山田敏弘2015『日本語文法練習帳』くろしお出版、大野晋1978『日本語の文法を考える』岩波書店、高山善行・青木博史編2010『ガイドブック日本語文法史』ひつじ書房、など。 <p>期末試験50%、リアクションペーパー20%、平常点20%、小テスト10%</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>文法についてさらに深く学びたい人へ 関連科目「日本語文法論Ⅱ」</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語文法論Ⅱ	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	3年	5-401(研究室) kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>言語には必ず「文法＝言葉の運用ルール」が備わっています。この「文法」の実態を明らかにするのが「文法論」という学問です。この授業では、Iで見た「学校文法」とは異なる視点から構築された文法論について説明していきます。文法論を通して言語研究の面白さ、奥深さを感じてもらいたいです。</p>	<p>文法と聞くと難しい・つまらないと思われがちですが、私たちが日本語を自由に操ることができるのはその文法が身につけているからです。「無意識の知」に目を向けてみましょう。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本語文法論の基本を理解し、主要な術語やカテゴリーの概要を適切に説明することができる。 格やヴォイスといった主要なカテゴリーのシステムを理解し、そのカテゴリーに関して実際の文の分析ができる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	「学校文法」のおさらい	授業の復習、予習：text p. 8-17
	3	文法論とは、文の部分の種類①	授業の復習、予習：text p. 8-17
	4	文の部分の種類②	授業の復習、予習：text p. 8-17
	5	文の部分の種類③	授業の復習、予習：text p. 151-162
	6	品詞、陳述副詞について	授業の復習、予習：text p. 25- 46
	7	名詞の格①	授業の復習、予習：text p. 25- 46
8	名詞の格②	授業の復習、予習：text p. 25- 46	
9	名詞の格③	授業の復習、予習：text p. 51-57	
10	特殊な名詞：「コソアド」、数量名詞、形式名詞	授業の復習、予習：text p. 71-74	
11	動詞①：ヴォイスとは、ヴォイスの種類	授業の復習、予習：text p. 74-76	
12	動詞②：うけみ	授業の復習、予習：text p. 76-78	
13	動詞③：使役	授業の復習、予習：text p. 79-86	
14	動詞④：テンスとは・アスペクトとは	授業の復習、予習：text p. 86- 91	
15	動詞⑤：基本的なアスペクト		
16	期末レポート提出	レポート作成	
テキスト・参考文献・資料など	<p>・使用テキスト：高橋太郎他（2005）『日本語の文法』ひつじ書房（※コピーを配布します）</p> <p>・参考文献 鈴木重幸1972『日本語文法形態論』むぎ書房、益岡隆志・田窪行則『基礎日本語文法・改訂版』くろしお出版、山田敏弘(2004)『国語教師が知っておきたい日本語文法』くろしお出版、など。</p>		
学びの手立て	<p>履修の心構え</p> <ul style="list-style-type: none"> 出席日数が講義全体（15回）の3分の2に満たない場合、原則として単位を認めません。 毎時間「リアクションペーパー」を提出してもらいます。 <p>学びを深めるために</p> <ul style="list-style-type: none"> Iよりもかなり専門的な内容となります。予習・復習を。 		
評価	<p>期末レポート50%、リアクションペーパー30%、平常点20%</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語文法に関する専門的な知識を深め、外国語と対照する。 これまで当たり前にかえていたモノゴトを批判的に捉え直す能力を向上させる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本の美術	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-金城 美奈子	2年	375mnko@gmail.com 授業終了後に教室でも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	日本の美術は古くから外来文化を巧みに吸収しながら独自の表現や様式を創出してきました。本講義では近世から近・現代までの日本美術の歴史と特徴について、各時代の代表的な作家や作品を取り上げて解説します。日本美術の技法や感性が現代アートやポップカルチャーにどのように受け継がれているのか、また日本の美術史とは別の文脈である琉球絵画や近・現代沖縄美術についても学びます。	グローバル化が加速する現代社会を生きる上で、自分が拠って立つところの日本や琉球・沖縄の美術についての知識を持つことは大切です。これから国際社会や地域社会における様々な場で、多様な国籍を持つ人々や文化に出会うことでしょう。多文化理解の一步は自らの足元にある文化・芸術を知ることから始まります。博物館や美術館学芸員を目指す人にもおすすめします。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 日本の美術の歴史と各時代の特徴を理解する。 琉球・沖縄の美術の歴史と各時代の特徴を理解する。 現代の美術にも古典の要素が取り込まれていることを理解する。 好きな作家や作品について論じられるようにする。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	日本の美術概説	講義内容の復習
	2	江戸時代の美術1：寛永美術	講義内容の復習
	3	江戸時代の美術2：元禄美術	講義内容の復習
	4	江戸時代の美術3：享保～化政美術	講義内容の復習
	5	近・現代の美術1：近代美術の幕開け	講義内容の復習
	6	近・現代の美術2：日本画・洋画／旧派・新派①	講義内容の復習
	7	近・現代の美術3：日本画・洋画／旧派・新派②	講義内容の復習
	8	近・現代の美術4：大正期の美術	講義内容の復習
	9	近・現代の美術5：昭和初期の傾向 モダニズムと戦争美術	講義内容の復習
	10	近・現代の美術6：表現の多様化 写真・挿絵・漫画	講義内容の復習
	11	近・現代の美術7：戦後の美術	講義内容の復習
	12	近・現代の美術8：日本美術の現在	講義内容の復習
	13	沖縄の美術1：琉球絵画	講義内容の復習
14	沖縄の美術2：近・現代の沖縄美術（戦前）	講義内容の復習	
15	沖縄の美術3：近・現代の沖縄美術（戦後）	講義内容の復習	
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	適宜プリントを配布します。教科書は使用しませんが日本美術史の参考文献としては、辻惟雄『日本美術の歴史』（東京大学出版会・2005年・3,024円）があります。その他の関係図書は授業中に随時教示します。		
学びの手立て	<ol style="list-style-type: none"> 出席の確認は毎回行います。私語や途中退席などは慎んで下さい。 美術展の観賞レポート（課題）を1回程度予定しています。 授業で配布した資料は保管し、毎回持参すること。 積極的に博物館や美術館に足を運び美術鑑賞を行いましょう。 授業中に気になった作家や作品があったら図書館に足を運び、美術全集や作品集をこまめに見るようになると良いと思います（たとえ1点であっても自分の問題意識とつながって記憶に残るものです）。 		
評価	試験・レポート・出席で総合的に評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本と琉球・沖縄の美術について学んだことは、国内外問わずさまざまな芸術鑑賞の機会や多文化理解に役立つと考えます。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本文化特別講義 I	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-小森 陽一	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	夏目漱石『文学論』の理論的可能性を長編小説の分析を通して検証する。対象とする小説は前期三部作最後の『門』、後期三部作最後の『こころ』および漱石の唯一の自伝的小説である『道草』とする。	2017年は漱石の生誕150周年にあたります。漱石が生きた時代や模索した理論はどのようなものだったのか。それらは漱石の小説にどうあらわれ、どう読まれてきたのか。講義を通してともに学んでいきましょう。
到達目標	本講義では、19世紀の終わりから20世紀の始まりを生きた漱石の画期となる作品を理分析・検証していく。また、作品が執筆された歴史的背景、漱石の文学理論がどのように実践されていったかを学ぶ。これらを通して、近代日本に関する知識、理論に基づいた文学作品の読解力を培うことを目標とする。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	導入 150年目の漱石	
2	『文学論』の理論的可能性		
3	『門』（一）	夏目漱石『門』を通読する	
4	『門』（二）		
5	『門』（三）		
6	『門』（四）		
7	『こころ』（一）	夏目漱石『こころ』を通読する	
8	『こころ』（二）		
9	『こころ』（三）		
10	『こころ』（四）		
11	『道草』（一）	夏目漱石『道草』を通読する	
12	『道草』（二）		
13	『道草』（三）		
14	『道草』（四）		
15	総括		
16	レポート執筆		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト・・・夏目漱石『門』、『こころ』、『道草』（いずれも岩波文庫版をテキストとして指定する）</p> <p>参考文献・・・小森陽一『漱石を読み直す』（岩波現代文庫、2016年）</p>		
学びの手立て	<p>「求められる態度」・・・講義中の私語、遅刻厳禁。</p> <p>「前提科目・推奨科目」・・・日本近代文学史Ⅰ・Ⅱ</p> <p>前提科目の単位を取得していることが望ましいが、それ以外の者も含め日本近代文学に関心を寄せる学生を広く受け入れる。講義で扱う長編小説は各自で事前に入手し、通読しておくこと。</p>		
評価	<p>①レポート70％・平常点30％</p> <p>②レポートの内容を評価する。</p> <p>③欠席が1／3を超える者には単位は認定しない。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>【関連科目】現代文学理論Ⅰ・Ⅱ（3～4年次）</p> <p>【カリキュラムポリシーとの関連】3. 各専門分野における諸課題について深く学ぶための「応用科目」を設置。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

本科目は、学問体系の基本を理解し、知的好奇心を高める導入科目に当たる（カリキュラム・ポリシー2）。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本文化論Ⅰ	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	1年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、日本文化について概観するものである。まず絵巻と古典文学について考え、次に演劇と古典文化について考え、最後に映画と現代文化について考える。映像資料を活用する予定である。	メッセージ 日本文化の多様性や広がりを知ってほしい。
	到達目標 日本文化の多様性を理解し、レポートを書く。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	日本文化の概観	テキストの予習
	2	絵巻と日本文化1・鳥獣戯画	テキストの復習と予習
	3	絵巻と日本文化2・源氏物語絵巻	テキストの復習と予習
	4	絵巻と日本文化3・信貴山縁起絵巻	テキストの復習と予習
	5	絵巻と日本文化4・伴大納言絵巻、北野天神縁起	レポートの作成
	6	レポートの書き方	レポートの作成
	7	演劇と日本文化1・能	テキストの復習と予習
	8	演劇と日本文化2・狂言	テキストの復習と予習
	9	演劇と日本文化3・浄瑠璃	テキストの復習と予習
	10	演劇と日本文化4・歌舞伎	テキストの復習と予習
	11	演劇と日本文化5・現代演劇	レポートの作成
	12	レポートの書き方	レポートの作成
	13	映画と日本文化1・映画のスタイル	プリントによる学習
	14	映画と日本文化2・映画の歴史	プリントによる学習
15	映画と日本文化3・現代映画の展開	プリントによる学習	
16	まとめ	レポートの作成	
	テキスト・参考文献・資料など 秋山虔『日本古典読本』筑摩書房		
	学びの手立て 『日本の絵巻』（中央公論社）、『新古典文学大系』（岩波書店）、『新編日本古典文学全集』（小学館）、『現代日本戯曲大系』（三一書房）、『日本映画史』（岩波書店）などのシリーズを活用するとよい。		
	評価 三回のレポートによって成績を評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「日本文化論Ⅱ」では外国人による日本文化論を紹介する。
-------	--

※ポリシーとの関連性

本科目は、学問体系の基本を理解し、知的好奇心を高める導入科目に当たる（カリキュラム・ポリシー2）。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本文化論Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	1年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は日本文化に関する様々な名著を読み解きながら、日本文化について考えるものである。	メッセージ 日本文化論を書いた著者の人生と、その時代についても考えてほしい。
	到達目標 様々な日本文化論を読み込み、レポートを書く。	

学びの準備	到達目標 様々な日本文化論を読み込み、レポートを書く。

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	日本文化論の概観	テキストの予習
	2	小泉八雲の日本文化論1・雪女	テキストの復習と予習
	3	小泉八雲の日本文化論2・怪談	テキストの復習と予習
	4	小泉八雲の日本文化論3・日本人の微笑	テキストの復習と予習
	5	小泉八雲の日本文化論4・伝統と近代	テキストの復習と予習
	6	ルース・ベネディクト「菊と刀」を読む1・義理と人情	プリントによる学習
	7	「菊と刀」を読む2・忠臣蔵について	プリントによる学習
	8	外国人の見た日本文化	プリントによる学習
9	新渡戸稲造「武士道」を読む	プリントによる学習	
10	岡倉天心「茶の本」を読む	プリントによる学習	
11	内村鑑三「代表的日本人」を読む	プリントによる学習	
12	九鬼周造「いきの構造」を読む	プリントによる学習	
13	和辻哲郎「風土」を読む	プリントによる学習	
14	柳田國男「遠野物語」を読む	プリントによる学習	
15	レポートの書き方について	レポートの作成	
16	まとめ	レポートの作成	
	テキスト・参考文献・資料など 小泉八雲『小泉八雲集』新潮文庫		
	学びの手立て 日本文化論の名著は、数多く岩波文庫に収められている。		
	評価 レポートによって評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ジャパノロジー、アジア太平洋文化論、比較文化論などで視野を広げてほしい。
-------	---

※ポリシーとの関連性

本科目は、専門分野における諸課題について深く学ぶための応用科目に当たる（カリキュラム・ポリシー3）。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本文学概論	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	2年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 文学研究の方法を学び、日本文学の特質について理解する。	メッセージ 好きな作品を一つ見つけてください。そうすると、そこから広げて様々な作品につなげることができるはずである。
	到達目標 文学研究の方法と日本文学の特質について理解し、レポートを書く。	

到達目標	文学研究の方法と日本文学の特質について理解し、レポートを書く。
------	---------------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	文学と映画	テキスト学習
	2	文学と演劇	テキスト学習
	3	文学研究の方法論	テキスト学習
	4	書誌学、文献学的研究	テキスト学習
	5	作家論	テキスト学習
	6	作品論	テキスト学習
	7	テキスト論、読者論	テキスト学習
	8	思想史的研究	プリントによる学習
	9	イメージ論、都市論、記号論	プリントによる学習
	10	社会学的研究、歴史学的研究	プリントによる学習
	11	民俗学的研究	プリントによる学習
	12	心理学的研究	プリントによる学習
	13	比較文学的研究	プリントによる学習
	14	児童文学研究	プリントによる学習
15	大衆文学、推理小説研究	レポート作成	
16	日本文学の特質	レポート作成	
	テキスト・参考文献・資料など 森鷗外『山椒大夫・高瀬舟』新潮文庫		
	学びの手立て 注釈付きの近代文学大系（角川書店）を利用するとよい。		
	評価 レポートで評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「日本文学を読む」Ⅰ・Ⅱで個別の作品を精読することができる。「現代文学理論」Ⅰ・Ⅱで理論に関して詳しく学ぶことができる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本文学特講Ⅰ	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	3年	授業終了後に、教室で受け付けます。 または、c.toubaru@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	文学的文章における「読みの交流」の理論的モデルを学ぶと共に、中学・高等学校の国語科教科書に採録されている文学的文章教材を取り上げ、読みの交流を促す学習課題について具体的に考察する。	国語科教育に関する講義で、教職課程履修者を対象とする。「読みの交流」学習の基本理論を身に付け、実践に活かせるようにしてほしい。
到達目標	ナラトロジーの歴史を知り、実際に文学作品の語りの分析ができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・「読みの交流」活動を体験する①	講義概要の把握・講義内容の復習
	2	「読みの交流」活動を体験する②	講義内容の復習
	3	文学教育とナラトロジー（研究討議）	講義内容の復習
	4	文学教育とナラトロジー（研究討議）	講義内容の復習・レジュメ作成
	5	文学教育とナラトロジー（研究討議）	講義内容の復習・レジュメ作成
	6	文学教育とナラトロジー（研究討議）	講義内容の復習・レジュメ作成
	7	文学教育とナラトロジー（研究討議）	講義内容の復習・レジュメ作成
	8	文学教育とナラトロジー（研究討議・研究討議）①	講義内容の復習・作品分析
	9	文学教育とナラトロジー（研究討議・研究討議）②	講義内容の復習・作品分析
	10	文学教育とナラトロジー（研究討議・研究討議）③	講義内容の復習・作品分析
	11	文学教育とナラトロジー（研究討議）	講義内容の復習・作品分析
	12	教材分析・学習課題分析（グループ発表・研究討議）①	講義内容の復習
	13	教材分析・学習課題分析（グループ発表・研究討議）②	講義内容の復習
14	教材分析・学習課題分析（グループ発表・研究討議）③	講義内容の復習	
15	教材分析・学習課題分析（グループ発表・研究討議）④	講義内容の復習	
16	総括		
	テキスト・参考文献・資料など		
	【テキスト】 松本修、『文学の読みと交流のナラトロジー』、東洋館出版社、2006、本体2500円+税		
	【参考文献】 野村眞木夫、『日本語のテキスト－関係・効果・様相－』、ひつじ書房、2000		
	学びの手立て		
	①教職課程受講者を対象とする。 ②テキストを事前に読み込んで、自分の解釈をもって授業に臨むこと。 ③授業外の課題やグループ活動などへの参加が要求される。		
	評価		
	発表内容、討議への参加状況、提出物、出席状況などにより、総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	(1) 関連科目【上位科目】日本文学特講Ⅱ（3年次・後期） (2) 次のステージ 日本文学特講Ⅱでは、学習者の発話分析を行う。 【カリキュラムポリシーとの関連】2.

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本文学特講Ⅱ	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	3年	授業終了後に、教室で受け付けます。 または、c.toubaru@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 日本語のテキストについて学び、文章や談話の仕組みを知る。さらに、発話プロトコルの分析方法を学び、学習者の実態を検証する能力と姿勢を身につける。実際に文学的文章教材における読みの交流を行い、交流の実体と学習課題について具体的に考察する。	メッセージ 国語科教育に関する講義で、教職課程履修者を対象とする。学習者分析の基礎を身に付け、学習実態を把握する力を付けてほしい。
	到達目標 談話分析の歴史を知り、実際に発話分析ができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・学習者分析の実際・発話プロトコルの分析法	講義概要の把握・復習
	2	日本語のテキストについて(1)	講義内容の復習
	3	日本語のテキストについて(2)	講義内容の復習
	4	日本語のテキストについて(3)	講義内容の復習
	5	日本語のテキストについて(4)	講義内容の復習
	6	日本語のテキストについて(5)	講義内容の復習
	7	読みの交流（ビデオ撮影・参観）	参与観察のまとめ
	8	発話分析①（パソコン室）	発話分析
9	発話分析②（パソコン室）	発話分析・課題分析	
10	発話分析③（パソコン室）	発話分析・課題分析	
11	グループ発表・研究討議（課題分析）①	課題分析・講義内容の復習	
12	グループ発表・研究討議（課題分析）②	課題分析・講義内容の復習	
13	日本語のテキストについて(6)	講義内容の復習	
14	日本語のテキストについて(7)	講義内容の復習	
15	日本語のテキストについて(8)	講義内容の復習	
16	総括		
	テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】 野村眞木夫、『日本語のテキスト－関係・効果・様相－』、ひつじ書房、2000 【参考文献】 佐久間まゆみ・杉戸清樹・半澤幹一、『文章・談話のしくみ』、おうふう、2003		
	学びの手立て ①教職課程受講者を対象・必修とする。 ②テキストを事前に読み込んで、自分の解釈をもって授業に臨むこと。 ③授業外の課題やグループ活動などへの参加が要求される。		
	評価 発表内容、討議への参加状況、提出物、出席状況などにより、総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目【関連・上位科目】国語科教育法演習Ⅰ（3年次・後期）国語科教育法Ⅱ（4年次・前期） (2) 次のステージ 学習者の発話から、学習実態をつかむ意識をもって模擬授業に臨んでほしい。
-------	--

※ポリシーとの関連性

「本文化学科カリキュラムポリシー「3. 各専門分野における諸課題について深く学ぶための「応用科目」を設置します。」

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本文学を読むⅠ	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	2年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講は『宇治拾遺物語』の講読を行い、語彙、文法、表現等への理解を深め、古文読解力の養成をめざします。日本中世社会への関心を深めながら、いくつかの文学理論に基づく読解を試みます。国語の教職免許状取得のために必要な科目でもあるので、高等学校において教えるうる知識理解の習得、読解力の育成を目指します。	「生きるためには、古典なんかいらぬ？しかし、如何に生きるかと考え始めたときに、古典が必要になってくる」(奈良大学教授上野誠先生)という言葉は、実感をもって迫ってきます。講読をとおして、いろいろの思考を楽しみましょう。
到達目標	1 中世社会への関心を深め、身分、宗教、芸能文化への知識を身に付ける。 2 古文読解のための語彙、文法、表現等への理解力を身に付ける。 3 いくつかの文学理論に基づいた読解方法を身に付ける。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	1 道命、和泉式部の許に於いて読経し、五条の道祖神聴聞の事	なぜ道祖神が現れるかを考える
	3	2 丹波国篠山、平茸生ふる事	丹波篠山の地域性を考える
	4	3 鬼に瘤取らるる事 (グループワーク 1)	発表資料の作成
	5	4 鬼に瘤取らるる事 (グループワーク 2)	発表資料の作成
	6	5 鬼に瘤取らるる事 (グループワーク 3)	発表資料の作成
	7	中間考査	指定した話を事前に読む
8	6 笑いと性愛 1 (源大納言雅俊、一生不犯の鐘打たせたる事)	指定した話を事前に読む	
9	7 笑いと性愛 2 (児の搔餅するに空寝したる事)	指定した話を事前に読む	
10	8 笑いと性愛 3 (平貞文、本院侍従の事)	指定した話を事前に読む	
11	9 狐と説話 (狐、人に憑きてしとぎ食ふ事)	指定した話を事前に読む	
12	10 狸と説話 (獵師、仏を射る事)	指定した話を事前に読む	
13	11 ことば遊びと説話 (陪従家綱、行綱、互いに謀りたる事)	指定した話を事前に読む	
14	12 観音信仰と説話 (長谷寺参籠の男、利生にあづかる事)	指定した話を事前に読む	
15	13 夢と説話 (夢買ふ人/ある唐人、女の羊に生れたると知らずして殺す事)	指定した話を事前に読む	
16	期末考査		
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：中島悦次校注『宇治拾遺物語』（角川ソフィア文庫）940円		
	学びの手立て 古典文法や古典の基礎を学ぶための学習支援を講義外で行っています。希望者は遠慮なく申し出てください。講義では辞典類をよく使います。必携してください。		
	評価 単純に（授業態度：30%＋テスト：35%＋レポート35%）を成績評価とする。レポートのテーマは講義初回に提示する。『宇治拾遺物語』に関する複数のテーマから任意に選択し取り組んでもらう。尚、400字詰原稿用紙換算10枚以上とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本文学を読むⅡ
-------	-------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本文学を読むⅢ	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	黒澤 亜里子	2年		

学びの準備	ねらい 本講義では、主として近現代作家のテキストを取り上げながら、日本近代のジェンダー編成のありかたを考察します。	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） <ol style="list-style-type: none"> 1 ジェンダー論入門 「勢力（power）」概念で読む向田邦子の「花の名前」「かわうそ」 2 樋口一葉「にごりえ」/ジェンダーと周縁性 3 与謝野晶子「みだれ髪」/ジェンダーと身体性の言説 4 田山花袋「蒲団」/ジェンダーと困り込み 5 森鷗外「半日」/ジェンダーと〈母〉 6 長塚節「土」/ジェンダーと階級
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：『ジェンダーの日本近代文学』（黒澤亜里子他著、翰林書房） 参考文献：そのつど指示します。

学びの実践	
-------	--

学びの実践	学びの手立て 履修の心構え ・期末レポート以外に、発表、課題を2～3回課します。
	評価 ①試験（orレポート） ②課題・提出物 ③出席

学びの実践	
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本文学を読むⅣ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	黒澤 亜里子	2年		

学びの準備	ねらい 本講義では、主として近現代作家のテキストを取り上げながら、日本近代のジェンダー編成のありかたを考察します。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） （導入）ジェンダー論入門Ⅱ 7 田村俊子「生血」/ジェンダーと〈性〉 8 平塚らいてう「茅ヶ崎へ、茅ヶ崎へ」/女性同性愛というセクシュアリティ 9 夏目漱石「こゝろ」/男性同性愛と異性愛体制およびジェンダー 10 菊池寛「父帰る」/ジェンダーと家父長制 11 有島武郎「或る女」/「ジェンダーとセクシュアリティ」 12 谷崎潤一郎「痴人の愛」/ジェンダーとメディア
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：『ジェンダーの日本近代文学』（黒澤亜里子他著、翰林書房） 参考文献：そのつど指示します。
	学びの手立て 履修の心構え ・期末レポート以外に、発表、課題を2～3回課します。
	評価 ①試験（orレポート） ②課題・提出物 ③出席

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	認知言語学	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	3年	5-401(研究室) kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業では、認知意味論という分野の基礎的な内容の概説を通して「意味」について理解・考察を深めていくことを目標とします。特に「比喩」の話題を中心に扱います。各話題の終わりに小課題を課します。講義のまとめとして、認知意味論に関わるテーマについてグループ・ワークおよびリサーチを行い、その成果を発表します。	メッセージ この科目では受講者の抽選が行われます。登録できた人は積極的な姿勢で授業に臨んでください。
	到達目標 ・認知意味論の基礎を理解し、主要な術語について適切に説明することができる。 ・文学作品などの言語テキストで用いられている比喩表現を適切に分析することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、認知言語学とは	
	2	言語と経験①：比較する能力	授業の復習
3	言語と経験②：同一の対象の異なる捉え方	同上	
4	言語と経験③：「参照点」に基づいて捉える	授業の復習、ワーク課題に取り組む	
5	言語と経験④：経験基盤主義、小課題①	授業の復習	
6	「意味」とは	同上	
7	意味の捉え方②	同上	
8	語の意味①：比喩とは	同上	
9	語の意味②：比喩の種類(1)	同上	
10	語の意味③：比喩の種類(2)	授業の復習、ワーク課題に取り組む	
11	語の意味④；比喩の種類(3)、小課題②	授業の復習	
12	語の意味④：多義語の分析(1)	同上	
13	語の意味⑤：多義語の分析(2)	授業の復習、グループワーク課題	
14	グループ・ワーク①	グループワーク成果報告の準備	
15	グループ・ワーク②、成果報告	レポートの作成	
16	期末レポート提出		
	テキスト・参考文献・資料など ・使用テキスト：ガイダンスにおいて指定します。 ・参考文献 町田健編／榎山洋介著2002『認知意味論のしくみ』研究社、野村益寛2014『ファンダメンタル認知言語学』ひつじ書房、今井むつみ2010『ことばと思考』岩波書店、久島茂2002『《物》と《場所》の意味論』くろしお出版、S. I. ハヤカワ1985『思考と行動における言語』岩波書店、など。		
	学びの手立て 履修の心構え ・出席日数が講義全体(15回)の3分の2に満たない場合、原則として単位を認めません。 ・仮題、グループワーク&成果報告の日程は、授業の進み具合により変わる場合があります。		
	評価 期末レポート40%、グループワーク&成果報告30%、小課題20%、平常点10%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	比較文化演習	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	狩俣 恵一	3年	karimata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい ヤマトの言語文化と比較することで、琉球の言語文化の独自性とヤマトの言語文化の影響について考えると同時に、発表を通して「考える力」と「文章力」のスキルアップを図る。	メッセージ 本土と琉球の言語文化を比較するためには、発表テーマの先行研究と資料を提示すること。
	到達目標 発表を通して、考える力と文章力のスキルアップを図る。	

学びの準備	到達目標 発表を通して、考える力と文章力のスキルアップを図る。
-------	------------------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 説話・歌謡・芸能について、本土と沖縄の比較研究を行う。 第1回 比較研究の方法について説明する。 第2回 発表者の順番を決め、発表内容について説明する。 第3回 「大歳ノ客」の比較 第4回 「蛇婿入り」の比較 第5回 「天女伝説」の比較 第6回 「ほら話」の比較 第7回 「とんち話」の比較 第8回 「万葉集」と琉歌の比較 第9回 「古今和歌集」と琉歌の比較 第10回 「近世小唄」と琉歌の比較 第12回 能と組踊の比較 第13回 歌舞伎と組踊の比較 第14回 狂言の比較 第15回 総括—比較研究の意義を考える— 第16回 総括と試験
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：なし 参考文献：その都度指示する。
	学びの手立て 発表資料はしっかりと読んで理解しておくこと。
	評価 出席・発表資料・レポート・試験による総合評価

学びの継続	次のステージ・関連科目 「ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」
-------	-------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	比較文化論	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	兼本 敏	2年	研究室5501 メール：kanemoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この講義では、各自が持つ異文化に対する好奇心や憧れを自文化と比較することで自他の文化への理解を深めるってもらう。比較する際に陥りやすい批判や先入観、ステレオタイプについて考えてもらいたい。	メッセージ 「ことば」をキーワードに自文化と他文化の相似点・相違点を認識してもらい、その背景に有る諸要素に気付いてもらいたい。
	到達目標 次の3点について理解してもらいたい。 1. 文化を比較するとは何であるのか 2. 文化をどのように比較するか 3. どのように役に立てるか 理解度を確認するために小テストとレポートを提出する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（講義の目的と諸注意）	諸注意とレポートについて
	2	文化とは？ 比較と対照	言語学と文化人類学
	3	比較・対照の事例紹介（先輩方の発表事例を中心に）	同上
	4	古今東西の文化・文明の交流史の例を概観する	地理および年表の復習
	5	古今東西の文化・文明の交流史の例を概観する	同上
	6	文化の諸相（1） 地理・気候と交通	同上
	7	文化の諸相（2） 地理・気候と交通	同上
	8	小テスト①	
	9	文化の諸相（1） 世界の宗教と自然	気候と社会
	10	文化の諸相（2） 世界の宗教と自然	同上
	11	日本と西洋の接触（1）	琉球と日本と中国
	12	日本と西洋の接触（2）	同上
	13	小テスト②	
	14	レポートの書き方指導	テーマの紹介と質疑
15	質疑と評価法の確認		
16	総括		
	テキスト・参考文献・資料など 高校までに習得した地理（地形・気候）や歴史（文化・宗教）を確認しておくこと。 講義の理解度を確保するため毎回の講義内でクイズを出します。		
	学びの手立て 本講義は「比較文化論」であるが文化人類学的な比較文化ではなく「言葉」をキーワードに文化の対照・比較を中心に行う。ことばが持つ機能や特性について日頃から考える心がけを持って欲しい。事例を講義初日に挙げて説明する。		
	評価 毎回のクイズ（各5%×12） レポート（各20%×2）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 多文化間コミュニケーションに興味を持つ学生、あるいは、コースを専攻したい学生や卒論やゼミ論で扱いたい学生は、講義の中で紹介する書籍や資料を積極的に読んでほしい。
-------	---

※ポリシーとの関連性

書く専門分を学ぶ上で前提となる基礎的な思考力、言語運用能力、情報検索能力などのアカデミックスキルを習得する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化情報処理入門	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山口 真也(8回)、芳山 紀子(8回)	1年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>日本文化学科の専門課程で修得する専門知識をより広く、多様な手法で表現するために、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法に関する基本的な技術を修得することを旨とする。文化研究の基礎となる、インターネットを活用した情報収集・文献収集のテクニックを身につけることで、文化研究における情報技術の必要性と可能性を実践的に学習する。</p>	<p>将来、どのような職業に就くにしても、PCの基本的なスキルは必ず求められます。日本文化学科の学生はPCが苦手な人も多いようですが、この科目にしっかりと組んで早めに克服しましょう。皆さんの先輩のSA(3年生)も授業に参加しますので、分からないことがあれば気軽に相談して下さい。</p>
到達目標	<p>①Word文書処理技能検定2級レベルの技能を修得し、大学生活での様々なニーズに応じて、レポート、案内文書、レジュメなど、適切な文書を作成することができる。②表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本的な操作方法を理解し、2年生から本格的に開始するゼミ等での調査、研究発表に役立てる準備ができる。③インターネットや図書館を使った文献検索法を身につけ、後期から始まる「リテラシー入門II」での研究発表に活かすことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス/PCの基本構造・基本操作/情報検索・文献検索ガイダンス①	図書館機能を活用した文献収集
	2	情報検索・文献検索ガイダンス②	図書館機能を活用した文献収集
	3	プレゼンテーションソフトの基本操作 画像・グラフ挿入、アニメーション効果	研究発表の準備
	4	Wordの基本操作① 日本語入力・ファイルとフォルダ管理・ページ設定(ヘッダー・フッターを含む)	キータッチの練習
	5	Wordの基本操作② ワードアートの挿入(オブジェクト編集)・スタイルの定義(段落設定)	検定2級レベルの文書作成①
	6	Wordの基本操作③ 表・罫線の処理、オブジェクト(図形・画像)の作成	検定2級レベルの文書作成②
	7	Wordの基本操作④ その他の機能(脚注・並べ替え・参考資料・校閲タブの操作)、練習問題	練習問題を解く・テスト勉強
	8	Wordの基本操作⑤ 到達度確認テスト①(35点満点)	テストの見直し
	9	Excelの基本操作① 画面構成/データの種類と入力の規則他	データの種類と入力時の規則再確認
	10	Excelの基本操作② 初歩的な表計算機能の活用(基礎的な関数/相対参照/演習問題)	演習問題1
	11	Excelの基本操作③ グラフ機能(単独グラフ/複合グラフ/高度なグラフ作成)	演習問題2
	12	Excelの基本操作④ データベース機能①(並べ替え/フィルター/フォーム/複雑な条件抽出等)	演習問題3/演習問題4
	13	Excelの基本操作⑤ 表計算機能の活用②(条件判断/端数処理/順位付け)	演習問題5
14	Excelの基本操作⑥ データベース機能②(ピボットテーブル基礎・自動集計基礎)	演習問題6	
15	Excelの基本操作⑦ 到達度確認テスト②(50点満点)	日商PC検定3級範疇の技術習得	
16	Excelの基本操作⑧ テストの振り返り・パソコン理論講義	ハード・ソフト等の基礎概論習得	
テキスト・参考文献・資料など	オリジナルテキストを使用します。		
学びの手立て	<p>1) 学籍番号順にクラス分けをする。無断でクラスを変更しないこと。 2) 日本語入力の練習は各自行うこと。速度が上がらない場合は相談に来ること。 3) 授業終了後、2月～3月にかけて、自由参加による検定対策講座(Word文書処理技能認定試験2級・日商PCデータ活用分野3級)を実施する。参加を希望する学生は予定をあけておくこと。</p>		
評価	<p>1) 山口担当回(50点満点) テストとレポートの合計点で評価する。 2) 芳山担当回(50点満点) テストの点数で評価する。 3) 合計6回以上欠席した場合は単位を与えない。(各パートで欠席は3回まで)</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> この授業前半で取り上げるWordの操作は、授業後に実施するWord2級検定のレベルを想定しています。授業にまじめに取り組めば必ず合格できる検定ですので、積極的にチャレンジしましょう。 2年生必修科目「アカデミックライティング」ではこの授業の後半部分のExcelの操作法を基礎とした、アンケート集計、データベース管理法などを学習していきます。
-------	--

※ポリシーとの関連性

書く専門分を学ぶ上で前提となる基礎的な思考力、言語運用能力、情報検索能力などのアカデミックスキルを習得する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化情報処理入門	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山口 真也(8回)、芳山 紀子(8回)	1年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>日本文化学科の専門課程で修得する専門知識をより広く、多様な手法で表現するために、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法に関する基本的な技術を修得することを旨とする。文化研究の基礎となる、インターネットを活用した情報収集・文献収集のテクニックを身につけることで、文化研究における情報技術の必要性と可能性を実践的に学習する。</p>	<p>将来、どのような職業に就くにしても、PCの基本的なスキルは必ず求められます。日本文化学科の学生はPCが苦手な人も多いようですが、この科目にしっかりと組んで早めに克服しましょう。皆さんの先輩のSA(3年生)も授業に参加しますので、分からないことがあれば気軽に相談して下さい。</p>
到達目標	<p>①Word文書処理技能検定2級レベルの技能を修得し、大学生活での様々なニーズに応じて、レポート、案内文書、レジュメなど、適切な文書を作成することができる。②表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本的な操作方法を理解し、2年生から本格的に開始するゼミ等での調査、研究発表に役立てる準備ができる。③インターネットや図書館を使った文献検索法を身につけ、後期から始まる「リテラシー入門II」での研究発表に活かすことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス/PCの基本構造・基本操作/情報検索・文献検索ガイダンス①	図書館機能を活用した文献収集
	2	情報検索・文献検索ガイダンス②	図書館機能を活用した文献収集
	3	プレゼンテーションソフトの基本操作 画像・グラフ挿入、アニメーション効果	研究発表の準備
	4	Wordの基本操作① 日本語入力・ファイルとフォルダ管理・ページ設定(ヘッダー・フッターを含む)	キータッチの練習
	5	Wordの基本操作② ワードアートの挿入(オブジェクト編集)・スタイルの定義(段落設定)	検定2級レベルの文書作成①
	6	Wordの基本操作③ 表・罫線の処理、オブジェクト(図形・画像)の作成	検定2級レベルの文書作成②
	7	Wordの基本操作④ その他の機能(脚注・並べ替え・参考資料・校閲タブの操作)、練習問題	練習問題を解く・テスト勉強
	8	Wordの基本操作⑤ 到達度確認テスト①(35点満点)	テストの見直し
	9	Excelの基本操作① 画面構成/データの種類と入力の規則他	データの種類と入力時の規則再確認
	10	Excelの基本操作② 初歩的な表計算機能の活用(基礎的な関数/相対参照/演習問題)	演習問題1
	11	Excelの基本操作③ グラフ機能(単独グラフ/複合グラフ/高度なグラフ作成)	演習問題2
	12	Excelの基本操作④ データベース機能①(並べ替え/フィルター/フォーム/複雑な条件抽出等)	演習問題3/演習問題4
	13	Excelの基本操作⑤ 表計算機能の活用②(条件判断/端数処理/順位付け)	演習問題5
14	Excelの基本操作⑥ データベース機能②(ピボットテーブル基礎・自動集計基礎)	演習問題6	
15	Excelの基本操作⑦ 到達度確認テスト②(50点満点)	日商PC検定3級範疇の技術習得	
16	Excelの基本操作⑧ テストの振り返り・パソコン理論講義	ハード・ソフト等の基礎概論習得	
テキスト・参考文献・資料など	オリジナルテキストを使用します。		
学びの手立て	<p>1) 学籍番号順にクラス分けをする。無断でクラスを変更しないこと。 2) 日本語入力の練習は各自行うこと。速度が上がらない場合は相談に来ること。 3) 授業終了後、2月～3月にかけて、自由参加による検定対策講座(Word文書処理技能認定試験2級・日商PCデータ活用分野3級)を実施する。参加を希望する学生は予定をあけておくこと。</p>		
評価	<p>1) 山口担当回(50点満点) テストとレポートの合計点で評価する。 2) 芳山担当回(50点満点) テストの点数で評価する。 3) 合計6回以上欠席した場合は単位を与えない。(各パートで欠席は3回まで)</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> この授業前半で取り上げるWordの操作は、授業後に実施するWord2級検定のレベルを想定しています。授業にまじめに取り組めば必ず合格できる検定ですので、積極的にチャレンジしましょう。 2年生必修科目「アカデミックライティング」ではこの授業の後半部分のExcelの操作法を基礎とした、アンケート集計、データベース管理法などを学習していきます。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化テキスト論Ⅰ	前期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	2年	y.murakami@okiu.ac.jp 5号館404研究室	

学びの準備	ねらい 日本近現代文学のテキスト読解を通して、家族のありかたの変化や他者との関係性についての関心を深める。	メッセージ この講義で取り扱うテキストはほとんどが短篇ですから、さほど時間をかけずに読むことができます。多くのテキストに触れることを通して視野を広げ、自分自身が「当たり前」だと思っていた価値観を問い直し、考え直す機会にしてほしいと思います。
	到達目標 日本近現代文学を家族、身体性、他者性、ジェンダーなどの視点から考察する力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読んでくる。
	2	田山花袋「少女病」①－見る身体・見られる身体	指定された作品を読んでくる。
	3	田山花袋「少女病」②－まなざしと欲望	指定された作品を読んでくる。
	4	岡本かの子「老妓抄」①－老いと若さ	指定された作品を読んでくる。
	5	岡本かの子「老妓抄」②－ジェンダーの観点から	指定された作品を読んでくる。
	6	梶井基次郎「Kの昇天」－もう一人の「私」	指定された作品を読んでくる。
	7	宮沢賢治「銀河鉄道の夜」①－ジョバンニとカムパネルラの関係	指定された作品を読んでくる。
	8	宮沢賢治「銀河鉄道の夜」②－ジョバンニの嫉妬	指定された作品を読んでくる。
9	宮沢賢治「銀河鉄道の夜」③－本当の幸いについて	指定された作品を読んでくる。	
10	幸田文「雛」①－雛人形というモチーフ	指定された作品を読んでくる。	
11	幸田文「雛」②－家族のあり方	指定された作品を読んでくる。	
12	金井美恵子「兎」①－崩壊する家族	指定された作品を読んでくる。	
13	金井美恵子「兎」②－エロティックな食欲	指定された作品を読んでくる。	
14	星野智幸「紙女」①－書く／書かれるという関係	指定された作品を読んでくる。	
15	星野智幸「紙女」②－書く存在となることの痛み	レポートに向けての学習。	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示する。		
	学びの手立て 事前・事後学習として多数の読書を求める。		
	評価 学期末のレポート（70%）、講義内で課す小課題および受講態度（30%）。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 文化テキスト論Ⅱ、現代文学理論Ⅰ・Ⅱ。
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化テキスト論Ⅱ	後期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	2年	y.murakami@okiu.ac.jp 5号館404研究室	

学びの準備	ねらい 言葉に関する感性を高め、多くの文学テキストを論理的に読解していく力を養う。	メッセージ この講義では多様な短篇小说を「ことば」という視点から読み解いていきます。 ことばで構成されている物語、その語り手、書き手について深く考えてみましょう。
	到達目標 日本近現代文学テキストを一つのテーマのもとに読み解く読解力および独自の視点で問題を発見できる能力を身につける。	

到達目標	日本近現代文学テキストを一つのテーマのもとに読み解く読解力および独自の視点で問題を発見できる能力を身につける。
------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読んでくる。
	2	芥川龍之介「桃太郎」一定型をくつがえす	指定された作品を読んでくる。
	3	中島敦「狐憑」①—物語とは何か	指定された作品を読んでくる。
	4	中島敦「狐憑」②—作者という存在	指定された作品を読んでくる。
	5	中島敦「文字禍」①—文字と声はどう違う？	指定された作品を読んでくる。
	6	中島敦「文字禍」②—記録のゆがみと重みについて	指定された作品を読んでくる。
	7	井伏鱒二「かきつばた」①—語るべき出来事と「私」の遠さ	指定された作品を読んでくる。
	8	井伏鱒二「かきつばた」②—知らないものを語る方法	指定された作品を読んでくる。
	9	大庭みな子「山姥の微笑」①—心を読まれることの不気味さ	指定された作品を読んでくる。
	10	大庭みな子「山姥の微笑」②—不十分なコミュニケーション手段としての言葉	指定された作品を読んでくる。
	11	武田泰淳「審判」①—手紙による告白	指定された作品を読んでくる。
	12	武田泰淳「審判」②—言葉が通じない存在	指定された作品を読んでくる。
	13	多和田葉子「雪の練習生」①—熊と人間	指定された作品を読んでくる。
	14	多和田葉子「雪の練習生」②—他なるものへの言葉	指定された作品を読んでくる。
	15	総括	レポートに向けての学習。
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示する。
-------	-------------------------------

学びの手立て	文化テキスト論Ⅰを受講していることが望ましい。 事前事後学習として多数の読書を求める。
--------	--

評価	レポート（70%）、講義内で課す小課題および受講態度（30%）。
----	----------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 現代文学理論Ⅰ・Ⅱ。
-------	---------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文学実作演習	前期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 貞俊	3年	授業終了後	

学びの準備	ねらい 文学作品を実作することによって、書くことの基本を身に付ける。また書くことの実践体験を通して、自らと他者との関係を把握し、書くことの喜びを習得する。	メッセージ 社会生活を営む上で、書くことは大切なスキルです。言葉の力を理解し、豊かなコミュニケーションを図るためにも、日頃から優れた文章や文学作品に親しみましょう。
	到達目標 1 書くことの基本を習得し、自らの考えを表現することができる。 2 文学作品を創作することによって、豊かな言語生活を営む基盤にすることができる。	

学びの準備	到達目標 1 書くことの基本を習得し、自らの考えを表現することができる。 2 文学作品を創作することによって、豊かな言語生活を営む基盤にすることができる。

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	はじめに。日本語の面白さ。自己紹介文を書く。
	2	様々な表現法と表記の留意点(1)間違いやすい漢字や語法。
	3	様々な表現法と表記の留意点(2)悪文の例、句読点の打ち方など。
	4	実用文の書き方(往復はがき、手紙、メールなど)
	5	詩を書いてみよう(1)詩の作り方。題名入れ替え。
	6	詩を書いてみよう(2)変身ポエム。
	7	小説を書いてみよう(1)絵を見て物語を作る。
	8	小説を書いてみよう(2)詩を読んで小説を書く。
	9	文章を豊かにする表現法(比喩表現、ことわざなど)
	10	文学作品の様々な表現法と実験。
	11	短歌を作ろう。
	12	俳句に挑戦しよう。
	13	公用文の書き方(案内文、依頼文、企画書)。
	14	小論文の書き方(構成や引用の仕方)。
	15	作品集の編集と印刷・製本
16	合評・まとめ・評価	
	時間外学習の内容	
	書くことは重要なスキル	
	表現の基本を学ぶ。	
	表現の基本を学ぶ	
	具体的な実践。	
	言葉の力。レトリックを学ぶ。	
	文学作品にみる言葉の力。	
	オリジナルな作品の提出。	
	オリジナルな作品の提出。	
	公用文の基本	
	小論文の基本	
	オリジナル作品の印刷・製本	
	まとめ	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 特になし。 各回ごとに授業レジメを配布する。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 多くの文学作品を読むこと。書くことは、読むことと大きな関連があります。古今東西の文学作品を読んで、書くことの糧にしましょう。
-------	--

学びの実践	評価 1 オリジナルな創作作品の提出による評価(60%) 2 小課題の提出や、出欠状況による評価(40%)
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 文学作品を創出することは、言葉の力を実感することになります。また自分自身や周りの出来事等を洞察する力を身に付けることができます。表現することに関心を持ち続けることは、豊かな言語生活を築く基盤になります。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プロジェクト演習	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-佐渡山 美智子	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「鬼慶良間」の脚本の中に織り込まれている沖縄の歴史・文化・人のくらしを知るから始めます。そして、平和な未来へのメッセージを、学生が想いを繋いでおくります。意思疎通の難しさ、多様な価値観や個性の中で創り上げる舞台。コミュニケーション・相互理解・そして、表現の中から生きるチカラを育みます。</p>	<p>日本文化学科の伝統として受け継がれている創作民話劇「鬼慶良間」は、一冊の台本を読み解くことから始めます。同じ本であっても、その表現方法は毎年特徴のある個性的な舞台となります。大学祭に2日間の上演。集中講義として全員が心をひとつに届けるテーマは、「肝どう宝」。泣いて、笑って、崩れそうになりながら想いを繋ぎ創り上げる感動のプロジェクトです。</p>
到達目標	<p>○脚本をしっかりと理解すること。知らないことは、個人・またはチームで調べて理解を深めること。 ○報告・連絡・相談ができること。 ○やるべき仕事を責任をもって実行すること。 ○ルールを守れること。 ○相手の身になって考えることができること。 ○表現する力、スキルを高めること。 ○キャストも裏方も、支えられていることを知り、感謝を忘れないこと。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス<集中講義計画の説明・日程・チームの連携など>	レポート・スケジュール提出
	2	各班リーダーからの報告・連絡・相談	全体スケジュールの作成と共有
	3	演出を中心に現状報告<進捗状況と課題など>	各班リーダーミーティング
	4	「鬼慶良間」立ち稽古<各班予定の活動>	各班リーダーミーティング
	5	「鬼慶良間」立ち稽古<各班予定の活動>	各班の活動と情報の共有
	6	「鬼慶良間」立ち稽古<各班予定の活動>	各班の活動と情報の共有
	7	大学祭二週間前 通し稽古	各班の活動と情報の共有
	8	大学祭一週間前 リハーサル<音響入り>	全員でリハーサルから調整・改善
	9	大学祭3日前 リハーサル<音響入り>	成功のポイントと改善・対策
	10	大学祭2日前 ゲネプロ<衣装・メイク・音響・照明ほか本番同様に>	ゲネプロから改善・練習・対策
	11	大学祭前日 リハーサル	全員で最終の調整と協力
	12	大学祭にて上演1日目 創作民話劇「鬼慶良間」	朝から上演後ミーティングまで
	13	大学祭にて上演2日目 創作民話劇「鬼慶良間」	朝から終演・打ち上げまで
14	創作民話劇「鬼慶良間」上映	個人報告書の作成	
15	各班活動報告プレゼンテーション1	班の報告書・個人報告書の提出	
16	各班活動報告プレゼンテーション2	DVD編集制作と返金の日程まで	
テキスト・参考文献・資料など	<p>○創作民話劇「鬼慶良間」脚本</p>		
学びの手立て	<p>●この講義では、大所帯でひとつの舞台を創り上げることとなりますので、情報を共有することが簡単ではありません。報告・連絡・相談が重要なポイントです。●脚本をしっかりと読み込み理解を深めることが基本です。脚本からその大切な意味を読み取り、どのように表現していくのかを考え、演出やリーダーと相談をしながら進めていきます。●多様な価値観をまとめていくのも、脚本に答えや手がかりがあります。本気になればなるほど、個々の主張は強くなります。コミュニケーションの力が求められます。●演劇未経験の人がほとんどです。日々成長していく演技とキャストを支えるほかの裏方の力が大きな力となります。●大学祭まで講義外の活動が多くあります。それぞれの状況をメンバーで把握し、理解と協力で進めていくことが必要です。できることを精一杯取り組むことが大切です。●感動の瞬間を信じて頑張りましょう。</p>		
評価	<p>●出席率 ●活動実績 ●活動報告書</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>●日本文化学科の学生として、この経験は大学生活の中でも貴重な経験となり、先輩・後輩と縦の糸で繋がる共有の財産になります。●日本語表現法Ⅰの後半から、この講義に繋いでいきますので、登録の確認を行ってください。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

日本文化学科では、日本文化および琉球文化に対する造詣を深め、広い領域に興味・関心を持つ人材育成を目指している。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ポップカルチャー論	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-久万田 晋 (6回)、土屋誠一 (5回)、大胡太郎 (5回)	1年	s-kumada@ken.okigei.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	近代以降の日本および沖縄社会の中で、どのようにしてポピュラー文化が誕生し、伝統文化諸分野といかなる相互関係を持ちながら発展してきたか、社会的状況とどのような関わりを持ちながら成立したかについて、音楽、文学・コミック、写真・美術・映画などの分野別に概観してゆく。	自分の関心ある分野について、各講師が講義において示す作品や参考文献等をよく読んで授業に臨むこと。
到達目標	日本のポピュラー文化の各分野の表現において、日本的あるいは沖縄的アイデンティティが、日本や世界の時代的・文化的状況とどのような因果関係を持って構築されているのかを、理論的、系統的に理解できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	大衆メディアと音楽 (久万田)	参考図書を確認すること
	2	日本のポピュラー音楽 戦前 (久万田)	与えられた課題を事前学習すること
	3	日本のポピュラー音楽 戦後 (久万田)	与えられた課題を事前学習すること
	4	日本のポピュラー音楽 アイドル歌謡 (久万田)	与えられた課題を事前学習すること
	5	日本のポピュラー音楽 テクノロジー (久万田)	与えられた課題を事前学習すること
	6	戦後漫画誌史 1 (大胡)	与えられた課題を事前学習すること
	7	戦後漫画誌史 2 (大胡)	与えられた課題を事前学習すること
8	戦後漫画誌史 3 (大胡)	与えられた課題を事前学習すること	
9	戦後漫画誌史 4 (大胡)	与えられた課題を事前学習すること	
10	戦後漫画誌史 5 (大胡)	与えられた課題を事前学習すること	
11	オタク文化の考古学 1 (土屋)	与えられた課題を事前学習すること	
12	オタク文化と「95年問題」 (土屋)	与えられた課題を事前学習すること	
13	オタク文化と「セカイ系」 (土屋)	与えられた課題を事前学習すること	
14	オタク文化と「空気系」 (土屋)	与えられた課題を事前学習すること	
15	オタク文化の現在 (土屋)	与えられた課題を事前学習すること	
16	全体のまとめ	これまでの講義内容の復習	
テキスト・参考文献・資料など	<p>参考文献：中村とうよう著『ポピュラー音楽の世紀』（岩波書店、1999年、岩波新書）、藤本由香里『私の居場所はどこにあるの？』（朝日文庫、2008年）、四方田犬彦『漫画原論』（ちくま学芸文庫、1999年）、速水健朗『1995年』（ちくま新書、2013年）、前島賢『セカイ系とは何か』（星海社文庫、2014年）</p>		
学びの手立て	<p>ただ講義を受動的に聴くのではなく、自分なりの問題意識を持って主体的に授業に臨むこと。そのために各講師が講義において示す作品例や参考文献等をよく読み、鑑賞して講義での論点を復習しておくこと。</p>		
評価	<p>【方法】平常点（平常点は授業への参加状況、30%）、コメントペーパー（各講義の理解度と提出状況、20%）、期末レポート（学習目標達成度、50%）により総合的に判断して評価する。遅刻2回で1回の欠席とみなすので、遅刻しないように留意すること。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	日本、琉球、世界の多様な文化に関心を持ってほしい。グローバルコミュニケーション論、比較文化論、ジャパノロジーⅠ・Ⅱ、日本芸能史、琉球芸能史、多文化共生論などで幅広い知識を培ってほしい。

※ポリシーとの関連性

学科のカリキュラムポリシー1（専門分野を学ぶ上で前提となる能力を修得するための「基礎科目」を設置）に関連する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	リテラシー入門Ⅰ	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	1年	授業終了後に、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学生活へのスムーズな移行を目指し、履修計画や仲間作りをサポートするとともに、情報収集・整理力など「アカデミック・スキル」の基礎を幅広く習得する。合同ガイダンス（図書館オリエンテーションやワークショップ）の実施と、要約文・意見文・レポートの作成方法についての学びを重ねながら、「読む・書く・話す・聞く」力を高め、本学科における学びの基礎的能力の習得を目指す。</p>	<p>大学生活のスタートにあたり、大学で必要とされる「アカデミック・スキル」を学ぶための、基礎的な科目である。この科目を受講することで、必要な文献を収集する力、まとめる力、大学で課されるレポートを作成する力を身に付けてほしい。</p>
到達目標	課題に即したレポートを、文献を元に作成することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・クラス開き	自己紹介を考える
	2	自己紹介	復習（自己紹介）
	3	大学入門①	復習（大学入門）
	4	図書館オリエンテーション	復習（図書館情報検索）
	5	大学入門②	復習（大学入門）
	6	要約文の書き方①	課題（要約文を書く）
	7	要約文の書き方②	課題（要約文を書く）
8	意見文の書き方①	課題（意見文を書く）	
9	意見文の書き方②	課題（意見文を書く）	
10	意見文の書き方③	課題（意見文を書く）	
11	こころの健康ガイダンス	復習（自己を見つめる）	
12	レポートの書き方	課題（レポートを書く）	
13	各ゼミごとの学習	課題	
14	キャリアガイダンス	課題（大学生活を見直す）	
15	まとめ・到達度の確認・夏休みの目標設定	課題（書評など）	
16			
実践	<p>テキスト・参考文献・資料など 1回目のオリエンテーションにて説明します。</p>		
	<p>学びの手立て ①無断欠席は厳禁。（欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。） ②欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は、単位を与えません。</p>		
	<p>評価 授業への取り組み、提出物、出席状況などをもとにして総合的に判断します。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>（1）関連科目【上位科目】リテラシー入門Ⅱ（1年次・後期） アカデミック・ライティング（2年次・前期）ゼミナール入門（2年次・後期）ゼミ（3年次から）（2）次のステージ リテラシー入門Ⅱでは、レジュメを作成し、研究発表を行う。【カリキュラムポリシーとの関連】1. 各専門分野を学ぶ上で前提となる基礎的な思考力、言語運用能力、情報検索能力などのアカデミックスキルを習得するための「基礎科目」を設置。</p>

※ポリシーとの関連性

学科のカリキュラムポリシー1（専門分野を学ぶ上で前提となる能力を修得するための「基礎科目」を設置）に関連する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	リテラシー入門Ⅰ	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	1年	授業終了後に、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 大学生活へのスムーズな移行を目指し、履修計画や仲間作りをサポートするとともに、情報収集・整理力など「アカデミック・スキル」の基礎を幅広く習得する。合同ガイダンス（図書館オリエンテーションやワークショップ）の実施と、要約文・意見文・レポートの作成方法についての学びを重ねながら、「読む・書く・話す・聞く」力を高め、学びの基礎的能力の習得を目指す。	メッセージ 大学生活のスタートにあたり、大学で必要とされる「アカデミックスキル」を学ぶための、基礎的な科目である。この科目を受講することで、必要な文献を収集する力、まとめる力、大学で課されるレポートを作成する力を身に付けてほしい。
	到達目標 課題に即したレポートを、文献を元に作成することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・クラス開き	自己紹介を考える
	2	自己紹介	復習（自己紹介）
	3	大学入門①	復習（大学入門）
	4	図書館オリエンテーション	復習（図書館情報検索）
	5	大学入門②	復習（大学入門）
	6	要約文の書き方①	課題（要約文を書く）
	7	要約文の書き方②	課題（要約文を書く）
	8	意見文の書き方①	課題（意見文を書く）
9	意見文の書き方②	課題（意見文を書く）	
10	意見文の書き方③	課題（意見文を書く）	
11	こころの健康ガイダンス	復習（自己を見つめる）	
12	レポートの書き方	課題（レポートを書く）	
13	各ゼミごとの学習	課題（書くことの意味を考える）	
14	キャリアガイダンス	課題（大学生活を見直す）	
15	まとめ・到達度の確認・夏休みの目標設定	課題（後期の学修計画）	
16	予備日		
	テキスト・参考文献・資料など 1回目のオリエンテーションにて説明します。		
	学びの手立て ①無断欠席は厳禁。（欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。） ②欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は、単位を与えません。		
	評価 授業への取り組み、提出物、出席状況などをもとにして総合的に判断します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 （1）関連科目【上位科目】リテラシー入門Ⅱ（1年次・後期） アカデミック・ライティング（2年次・前期）ゼミナール入門（2年次・後期）ゼミ（3年次から）（2）次のステージ リテラシー入門Ⅱでは、レジュメを作成し、研究発表を行う。【カリキュラムポリシーとの関連】1. 各専門分野を学ぶ上で前提となる基礎的な思考力、言語運用能力、情報検索能力などのアカデミックスキルを習得するための「基礎科目」を設置。
-------	---

※ポリシーとの関連性

本演習は、基礎的な思考力、言語運用能力、情報検索能力などのアカデミックスキルを習得するための基礎科目に当たる。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	リテラシー入門Ⅰ	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	1年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習は、日本文化学科における学びの基礎的能力を習得することをめざす。	メッセージ 大学生活に慣れるための基礎科目である。気軽に質問、相談してください。
	到達目標 レポートの書き方を身につける。	

学びの準備	到達目標 レポートの書き方を身につける。

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・クラス開き	プリントによる学習
	2	自己紹介・他者紹介	プリントによる学習
	3	大学入門①	プリントによる学習
	4	図書館オリエンテーション	プリントによる学習
	5	大学入門②、要約の練習	プリントによる学習
	6	要約文の書き方①	プリントによる学習
	7	要約文の書き方②	プリントによる学習
	8	意見文の書き方①、資料の読み取り方	プリントによる学習
	9	意見文の書き方②、意見を述べる (1)	プリントによる学習
	10	意見文の書き方③、意見を述べる (2)	プリントによる学習
	11	こころの健康ガイダンス	プリントによる学習
	12	レポートの書き方①	プリントによる学習
	13	レポートの書き方②	プリントによる学習
	14	キャリアガイダンス	プリントによる学習
15	前期のまとめ、自己点検、夏休みの目標設定	ブックガイドによる学習	
16			
	テキスト・参考文献・資料など テキストはない。そのつど、指示する。		
	学びの手立て 百科事典、沖縄大百科事典、日本国語大辞典など大きな事典類を引くとよい。		
	評価 提出物、出席状況など総合的に判断する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「リテラシー入門Ⅱ」ではゼミ発表の方法について学ぶ。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	リテラシー入門Ⅰ	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	黒澤 亜里子	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	1年生が大学生活にスムーズに移行できるように、履修計画や仲間づくりをサポートするとともに、情報収集・整理力など、大学生として必要となる「アカデミック・スキル」の基礎を幅広く習得することを目的とする。図書館オリエンテーションなどの合同ガイダンスの実施と、要約文・意見文・レポートの作成方法についての学びを重ねながら、「読む」「書く」「話す」「聞く」能力を養う。	
到達目標		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・クラス開き	自己紹介を考える
2	自己紹介	復習（自己紹介）	
3	大学入門①	復習（大学入門）	
4	図書館オリエンテーション	復習（図書館情報検索）	
5	大学入門②	復習（大学入門）	
6	要約文の書き方①	課題（要約文を書く）	
7	要約文の書き方②	課題（要約文を書く）	
8	意見文の書き方①	課題（要約文を書く）	
9	意見文の書き方②	課題（要約文を書く）	
10	意見文の書き方③	課題（要約文を書く）	
11	こころの健康ガイダンス	復習（自己を見つめる）	
12	レポートの書き方	課題（レポートを書く）	
13	各ゼミごとの学習	課題	
14	キャリアガイダンス	課題（大学生活を見直す）	
15	まとめ・到達度の確認・夏休みの目標設定	課題（書評など）	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 1回目のオリエンテーションにて説明します。		
	学びの手立て 履修の心構え 1) 欠席する場合は必ず事前に連絡をすること。（無断欠席は厳禁） 2) 欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は単位を与えません。		
	評価 授業への取り組み、提出物、発表内容、出席状況などをもとにして総合的に判断します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

学科のカリキュラムポリシー1（専門分野を学ぶ上で前提となる能力を修得するための「基礎科目」を設置）に関連する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	リテラシー入門Ⅰ	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	狩俣 恵一	1年	授業終了後に、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 大学生活へのスムーズな移行を目指し、履修計画や仲間作りをサポートするとともに、情報収集・整理力など「アカデミック・スキル」の基礎を幅広く習得する。合同ガイダンス（図書館オリエンテーションやワークショップ）の実施と、要約文・意見文・レポートの作成方法についての学びを重ねながら、「読む・書く・話す・聞く」力を高め、学びの基礎的能力の習得を目指す。	メッセージ 大学生活のスタートにあたり、大学で必要とされる「アカデミックスキル」を学ぶための、基礎的な科目である。この科目を受講することで、必要な文献を収集する力、まとめる力、大学で課されるレポートを作成する力を身に付けてほしい。
	到達目標 課題に即したレポートを、文献を元に作成することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・クラス開き	自己紹介を考える
	2	自己紹介	復習（自己紹介）
	3	大学入門①	復習（大学入門）
	4	図書館オリエンテーション	復習（図書館情報検索）
	5	大学入門②	復習（大学入門）
	6	要約文の書き方①	課題（要約文を書く）
	7	要約文の書き方②	課題（要約文を書く）
	8	意見文の書き方①	課題（意見文を書く）
9	意見文の書き方②	課題（意見文を書く）	
10	意見文の書き方③	課題（意見文を書く）	
11	こころの健康ガイダンス	復習（自己を見つめる）	
12	レポートの書き方	課題（レポートを書く）	
13	各ゼミごとの学習	課題（書くことの意味を考える）	
14	キャリアガイダンス	課題（大学生活を見直す）	
15	まとめ・到達度の確認・夏休みの目標設定	課題（後期の学修計画）	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 1回目のオリエンテーションにて説明します。		
	学びの手立て ①無断欠席は厳禁。（欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。） ②欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は、単位を与えません。		
	評価 授業への取り組み、提出物、出席状況などをもとにして総合的に判断します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 （1）関連科目【上位科目】リテラシー入門Ⅱ（1年次・後期） アカデミック・ライティング（2年次・前期）ゼミナール入門（2年次・後期）ゼミ（3年次から）（2）次のステージ リテラシー入門Ⅱでは、レジュメを作成し、研究発表を行う。【カリキュラムポリシーとの関連】1. 各専門分野を学ぶ上で前提となる基礎的な思考力、言語運用能力、情報検索能力などのアカデミックスキルを習得するための「基礎科目」を設置。
-------	---

※ポリシーとの関連性

学科のカリキュラムポリシー1（専門分野を学ぶ上で前提となる能力を修得するための「基礎科目」を設置）に関連する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	リテラシー入門Ⅰ	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	1年	授業終了後に、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学生活へのスムーズな移行を目指し、履修計画や仲間作りをサポートするとともに、情報収集・整理力など「アカデミック・スキル」の基礎を幅広く習得する。合同ガイダンス（図書館オリエンテーションやワークショップ）の実施と、要約文・意見文・レポートの作成方法についての学びを重ねながら、「読む・書く・話す・聞く」力を高め、本学科における学びの基礎的能力の習得を目指す。</p>	<p>大学生活のスタートにあたり、大学で必要とされる「アカデミック・スキル」を学ぶための、基礎的な科目である。この科目を受講することで、必要な文献を収集する力、まとめる力、大学で課されるレポートを作成する力を身に付けてほしい。</p>
到達目標	課題に即したレポートを、文献を元に作成することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・クラス開き	自己紹介を考える
	2	自己紹介	復習（自己紹介）
	3	大学入門①	復習（大学入門）
	4	図書館オリエンテーション	復習（図書館情報検索）
	5	大学入門②	復習（大学入門）
	6	要約文の書き方①	課題（要約文を書く）
	7	要約文の書き方②	課題（要約文を書く）
8	意見文の書き方①	課題（意見文を書く）	
9	意見文の書き方②	課題（意見文を書く）	
10	意見文の書き方③	課題（意見文を書く）	
11	こころの健康ガイダンス	復習（自己を見つめる）	
12	レポートの書き方	課題（レポートを書く）	
13	各ゼミごとの学習	課題	
14	キャリアガイダンス	課題（大学生活を見直す）	
15	まとめ・到達度の確認・夏休みの目標設定	課題（書評など）	
16			
実践	<p>テキスト・参考文献・資料など 1回目のオリエンテーションにて説明します。</p>		
	<p>学びの手立て ①無断欠席は厳禁。（欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。） ②欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は、単位を与えません。</p>		
	<p>評価 授業への取り組み、提出物、出席状況などをもとにして総合的に判断します。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>（1）関連科目【上位科目】リテラシー入門Ⅱ（1年次・後期） アカデミック・ライティング（2年次・前期）ゼミナール入門（2年次・後期）ゼミ（3年次から）（2）次のステージ リテラシー入門Ⅱでは、レジュメを作成し、研究発表を行う。【カリキュラムポリシーとの関連】1. 各専門分野を学ぶ上で前提となる基礎的な思考力、言語運用能力、情報検索能力などのアカデミックスキルを習得するための「基礎科目」を設置。</p>

※ポリシーとの関連性

学科のカリキュラムポリシー1（専門分野を学ぶ上で前提となる能力を修得するための「基礎科目」を設置）に関連する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	リテラシー入門Ⅱ	後期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	1年	授業終了後に、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「リテラシー入門Ⅰ」の内容を深化発展させ、情報収集・整理力、分析力、思考力、批判力、発表力（プレゼンテーションスキル）、文章記述力などの「アカデミック・スキル」の習得を目的とする。合同ガイダンス（環境問題・キャリア講座）を実施するとともに、グループで研究発表を行い、共に学び合うことの大切さを理解し、日本文化学に関する研究手法の基礎的能力の習得を目指す。	大学で必要とされる「アカデミックスキル」を学ぶための、基礎的な科目である。前期のリテラシー入門Ⅰの深化・発展科目として、文献の引用方法を学び、それを活かしたレジュメ作成、グループによる協同研究発表の力を身につけてほしい。
到達目標	課題に即したレジュメを、文献を元に作成し、発表することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	クラス開き・受講者の確認・教員紹介	テーマを考える
	2	研究発表の方法・テーマ、グループの決定	テーマに関する文献調べ
	3	レジュメの書き方・まとめ方	テーマに関する文献調べ
	4	文章の引用方法、著作権	引用箇所を決める
	5	研究発表の方法・テーマの提示、グループの決定	引用箇所を決める
	6	研究発表の見本（模擬発表）	レジュメ作成
	7	環境意識を育てるためのガイダンス	レジュメ作成
8	グループ研究発表①	レジュメ作成・振り返り	
9	グループ研究発表②	レジュメ作成・振り返り	
10	グループ研究発表③	レジュメ作成・振り返り	
11	グループ研究発表④	レジュメ作成・振り返り	
12	グループ研究発表⑤	レジュメ作成・振り返り	
13	グループ研究発表⑥	レジュメ作成・振り返り	
14	キャリアガイダンス	ワークシート（感想）	
15	まとめ・到達度の確認・春休みの目標設定		
16			
実践	テキスト・参考文献・資料など 1回目のオリエンテーションにて説明します。		
	学びの手立て ①無断欠席は厳禁。（欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。） ②欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は、単位を与えません。		
	評価 授業への取り組み、提出物、出席状況などをもとにして総合的に判断します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 1) 関連科目【上位科目】アカデミック・ライティング（2年次・前期）ゼミナール入門（2年次・後期）ゼミ（3年次から）（2）次のステージ アカデミック・ライティングでは、文章表現法や調査分析方法を学び、レポート報告を行う。【カリキュラムポリシーとの関連】1. 各専門分野を学ぶ上で前提となる基礎的な思考力、言語運用能力、情報検索能力などのアカデミックスキルを習得するための「基礎科目」を設置。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	リテラシー入門Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	黒澤 亜里子	1年		

学びの準備	ねらい 「基礎演習Ⅰ」での学習内容を発展させ、情報収集・整理力、分析力、思考力、批判力、発表力、文章記述力など、大学生として必要となる「アカデミック・スキル」をさらに深く習得することを目的とする。環境問題やキャリアをテーマとする講座などの合同ガイダンスを実施するとともに、グループごとの研究発表を行い、各自が共に学び合う体験を共有する。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	クラス開き・受講者の確認・教員紹介	テーマを考える
	2	研究発表の方法	テーマに関する文献調べ
	3	レジュメの書き方、まとめ方	テーマに関する文献調べ
	4	文章の引用方法、著作権	引用箇所を決める
	5	研究発表の方法	引用箇所を決める
	6	研究発表の見本	レジュメ作成
	7	環境ガイダンス	レジュメ作成
	8	研究発表①	レジュメ作成・振り返り
9	研究発表②	レジュメ作成・振り返り	
10	研究発表③	レジュメ作成・振り返り	
11	研究発表④	レジュメ作成・振り返り	
12	研究発表⑤	レジュメ作成・振り返り	
13	研究発表⑥	レジュメ作成・振り返り	
14	キャリアガイダンス	ワークシート（感想）	
15	まとめ・自己点検・春休みの目標設定		
16			
	テキスト・参考文献・資料など 1回目のオリエンテーションにて説明します。		
	学びの手立て 1) 欠席する場合は必ず事前に連絡をすること。（無断欠席は厳禁） 2) 欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は単位を与えません。		
	評価 授業への取り組み、提出物、発表内容、出席状況などをもとにして総合的に判断します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

本演習は、基礎的な思考力、言語運用能力、情報検索能力などのアカデミックスキルを習得するための基礎科目である。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	リテラシー入門Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	1年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習は、日本文化学に関する研究方法の基礎的能力の習得をめざす。	メッセージ 大学生活に慣れるための科目である。気軽に質問、相談してほしい。
	到達目標 研究発表の方法を身につける。	

学びの準備	到達目標 研究発表の方法を身につける。
-------	------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	クラス開き、教員紹介	ブックガイドによる学習
	2	研究発表の方法	ブックガイドによる学習
	3	レジュメの書き方、まとめ方	ブックガイドによる学習
	4	文章の引用方法	ブックガイドによる学習
	5	研究発表の方法	ブックガイドによる学習
	6	研究発表の見本	ブックガイドによる学習
	7	環境ガイダンス	発表の準備
	8	研究発表①	発表の準備
	9	研究発表②	発表の準備
	10	研究発表③	発表の準備
	11	研究発表④	発表の準備
	12	研究発表⑤	発表の準備
	13	研究発表⑥	ブックガイドによる学習
	14	キャリアガイダンス	ブックガイドによる学習
	15	まとめ、自己点検、春休みの目標設定	ブックガイドによる学習
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストはない。そのつど、指示する。
-------	--------------------------------------

学びの実践	学びの手立て 百科事典、沖縄大百科事典、日本国語大辞典など大きな事典類を引くとよい。
-------	---

学びの実践	評価 提出物、出席状況など総合的に判断する。
-------	---------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 「アカデミック・ライティング」では専門的な論文の書き方について学ぶ。
-------	---

※ポリシーとの関連性 学科のカリキュラムポリシー1（専門分野を学ぶ上で前提となる能力を修得するための「基礎科目」を設置）に関連する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	リテラシー入門Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	狩俣 恵一	1年	授業終了後に、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「リテラシー入門Ⅰ」の内容を深化発展させ、情報収集・整理力、分析力、思考力、批判力、発表力（プレゼンテーションスキル）、文章記述力などの「アカデミック・スキル」の習得を目的とする。合同ガイダンス（環境問題・キャリア講座）を実施するとともに、グループで研究発表を行い、共に学び合うことの大切さを理解し、日本文化学に関する研究手法の基礎的能力の習得を目指す。	大学で必要とされる「アカデミックスキル」を学ぶための、基礎的な科目である。前期のリテラシー入門Ⅰの深化・発展科目として、文献の引用方法を学び、それを活かしたレジュメ作成、グループによる協同研究発表の力を身につけてほしい。
到達目標	課題に即したレジュメを、文献を元に作成し、発表することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	クラス開き・受講者の確認・教員紹介	テーマを考える
	2	研究発表の方法・テーマ、グループの決定	テーマに関する文献調べ
	3	レジュメの書き方・まとめ方	テーマに関する文献調べ
	4	文章の引用方法、著作権	引用箇所を決める
	5	研究発表の方法・テーマの提示、グループの決定	引用箇所を決める
	6	研究発表の見本（模擬発表）	レジュメ作成
	7	環境意識を育てるためのガイダンス	レジュメ作成
8	グループ研究発表①	レジュメ作成・振り返り	
9	グループ研究発表②	レジュメ作成・振り返り	
10	グループ研究発表③	レジュメ作成・振り返り	
11	グループ研究発表④	レジュメ作成・振り返り	
12	グループ研究発表⑤	レジュメ作成・振り返り	
13	グループ研究発表⑥	レジュメ作成・振り返り	
14	キャリアガイダンス	ワークシート（感想）	
15	まとめ・到達度の確認・春休みの目標設定		
16			
実践	テキスト・参考文献・資料など 1回目のオリエンテーションにて説明します。		
	学びの手立て ①無断欠席は厳禁。（欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。） ②欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は、単位を与えません。		
	評価 授業への取り組み、提出物、発表内容、出席状況などをもとにして総合的に判断します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目【上位科目】アカデミック・ライティング（2年次・前期）ゼミナール入門（2年次・後期）ゼミ（3年次から）（2）次のステージ アカデミック・ライティングでは、文章表現法や調査分析方法を学び、レポート報告を行う。【カリキュラムポリシーとの関連】1. 各専門分野を学ぶ上で前提となる基礎的な思考力、言語運用能力、情報検索能力などのアカデミックスキルを習得するための「基礎科目」を設置。
-------	---

※ポリシーとの関連性

学科のカリキュラムポリシー1（専門分野を学ぶ上で前提となる能力を修得するための「基礎科目」を設置）に関連する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	リテラシー入門Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	1年	授業終了後に、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「リテラシー入門Ⅰ」の内容を深化発展させ、情報収集・整理力、分析力、思考力、批判力、発表力（プレゼンテーションスキル）、文章記述力などの「アカデミック・スキル」の習得を目的とする。合同ガイダンス（環境問題・キャリア講座）を実施するとともに、グループで研究発表を行い、共に学び合うことの大切さを理解し、日本文化学に関する研究手法の基礎的能力の習得を目指す。	大学で必要とされる「アカデミックスキル」を学ぶための、基礎的な科目である。前期のリテラシー入門Ⅰの深化・発展科目として、文献の引用方法を学び、それを活かしたレジュメ作成、グループによる協同研究発表の力を身につけてほしい。
到達目標	課題に即したレジュメを、文献を元に作成し、発表することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	クラス開き・受講者の確認・教員紹介	テーマを考える
	2	研究発表の方法・テーマ、グループの決定	テーマに関する文献調べ
	3	レジュメの書き方・まとめ方	テーマに関する文献調べ
	4	文章の引用方法、著作権	引用箇所を決める
	5	研究発表の方法・テーマの提示、グループの決定	引用箇所を決める
	6	研究発表の見本（模擬発表）	レジュメ作成
	7	環境意識を育てるためのガイダンス	レジュメ作成
8	グループ研究発表①	レジュメ作成・振り返り	
9	グループ研究発表②	レジュメ作成・振り返り	
10	グループ研究発表③	レジュメ作成・振り返り	
11	グループ研究発表④	レジュメ作成・振り返り	
12	グループ研究発表⑤	レジュメ作成・振り返り	
13	グループ研究発表⑥	レジュメ作成・振り返り	
14	キャリアガイダンス	ワークシート（感想）	
15	まとめ・到達度の確認・春休みの目標設定		
16			
実践	テキスト・参考文献・資料など 1回目のオリエンテーションにて説明します。		
	学びの手立て ①無断欠席は厳禁。（欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。） ②欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は、単位を与えません。		
	評価 授業への取り組み、提出物、発表内容、出席状況などをもとにして総合的に判断します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目【上位科目】アカデミック・ライティング（2年次・前期）ゼミナール入門（2年次・後期）ゼミ（3年次から）（2）次のステージ アカデミック・ライティングでは、文章表現法や調査分析方法を学び、レポート報告を行う。【カリキュラムポリシーとの関連】1. 各専門分野を学ぶ上で前提となる基礎的な思考力、言語運用能力、情報検索能力などのアカデミックスキルを習得するための「基礎科目」を設置。
-------	---

※ポリシーとの関連性

学科のカリキュラムポリシー1（専門分野を学ぶ上で前提となる能力を修得するための「基礎科目」を設置）に関連する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	リテラシー入門Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	1年	授業終了後に、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「リテラシー入門Ⅰ」の内容を深化発展させ、情報収集・整理力、分析力、思考力、批判力、発表力（プレゼンテーションスキル）、文章記述力などの「アカデミック・スキル」の習得を目的とする。合同ガイダンス（環境問題・キャリア講座）を実施するとともに、グループで研究発表を行い、共に学び合うことの大切さを理解し、日本文化学に関する研究手法の基礎的能力の習得を目指す。	大学で必要とされる「アカデミックスキル」を学ぶための、基礎的な科目である。前期のリテラシー入門Ⅰの深化・発展科目として、文献の引用方法を学び、それを活かしたレジュメ作成、グループによる協同研究発表の力を身につけてほしい。
到達目標	課題に即したレジュメを、文献を元に作成し、発表することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	クラス開き・受講者の確認・教員紹介	テーマを考える
	2	研究発表の方法・テーマ、グループの決定	テーマに関する文献調べ
	3	レジュメの書き方・まとめ方	テーマに関する文献調べ
	4	文章の引用方法、著作権	引用箇所を決める
	5	研究発表の方法・テーマの提示、グループの決定	引用箇所を決める
	6	研究発表の見本（模擬発表）	レジュメ作成
	7	環境意識を育てるためのガイダンス	レジュメ作成
8	グループ研究発表①	レジュメ作成・振り返り	
9	グループ研究発表②	レジュメ作成・振り返り	
10	グループ研究発表③	レジュメ作成・振り返り	
11	グループ研究発表④	レジュメ作成・振り返り	
12	グループ研究発表⑤	レジュメ作成・振り返り	
13	グループ研究発表⑥	レジュメ作成・振り返り	
14	キャリアガイダンス	ワークシート（感想）	
15	まとめ・到達度の確認・春休みの目標設定		
16			
実践	テキスト・参考文献・資料など 1回目のオリエンテーションにて説明します。		
	学びの手立て ①無断欠席は厳禁。（欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。） ②欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は、単位を与えません。		
	評価 授業への取り組み、提出物、出席状況などをもとにして総合的に判断します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 1) 関連科目【上位科目】アカデミック・ライティング（2年次・前期）ゼミナール入門（2年次・後期）ゼミ（3年次から）（2）次のステージ アカデミック・ライティングでは、文章表現法や調査分析方法を学び、レポート報告を行う。【カリキュラムポリシーとの関連】1. 各専門分野を学ぶ上で前提となる基礎的な思考力、言語運用能力、情報検索能力などのアカデミックスキルを習得するための「基礎科目」を設置。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球芸能史	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮城 茂雄	2年	ptt566@okiu.ac.jp 講義終了後に教室でも受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>琉球の時代、首里城を中心とした士族社会の中で演じられた芸能は、日本や中国などの影響を受けながら発展し、現在は琉球古典芸能として継承されている。その変遷を解説し、芸能鑑賞や詞章講読をおしてその表現方法の特質について考察する。</p>	<p>古典芸能や民俗芸能・新しい沖縄の芸能など、現在も芸能が盛んな沖縄です。琉球の時代から現在までの芸能の歴史や、芸能の表現について解説します。特に、楽器や舞踊衣装・小道具などを実際に皆さんに見ていただきます。</p>
到達目標	<p>①琉球時代の芸能の存在意義について理解する を理解し、すらすらと音読できるようにする。</p> <p>②琉球の時代から現代までの芸能の変遷を理解する ④音楽や舞踊などの表現方法や歴史背景を理解する。</p> <p>③琉球語による歌（琉歌）</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
2	古典芸能の略史	琉球史に沿って理解する	
3	三線音楽と琉歌①	琉歌の形式と表記法について	
4	三線音楽と琉歌②	三線の歴史について	
5	古典舞踊概説	古典舞踊の定義について	
6	老人踊り	老人踊りの歴史背景	
7	若衆踊り	若衆踊りの特徴	
8	女踊り①	女踊りの歌詞構成について	
9	女踊り②	女踊りの所作の特徴について	
10	二才踊り	二才踊りの歴史背景	
11	衣装・小道具の解説	それぞれの踊りの衣装小道具の特徴	
12	雑踊り①	雑踊りの歴史について	
13	雑踊り②	表現方法の特徴について	
14	民俗芸能と古典芸能①	民俗芸能の特質について	
15	民俗芸能と古典芸能②	同上	
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	教科書は指定しません。解説プリントや歌詞解説などを随時配布します。		
学びの手立て	<p>①受講にあたって、以下を注意してください。出席の確認を毎回行います。私語や途中退席などは慎んでください。②板書にあわせて口頭での解説も多くなります。各自ノートやプリントに記録してください。③芸能の映像鑑賞を数回予定しています。④この講義は、毎回のテーマについて解説・考察することを目的としています。受講者の積極的な授業参加を望みます。⑤芸能についてのレポート（課題）を1回程度予定しています。</p>		
評価	試験60%・レポート20%・出席20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>琉球芸能は、現在の沖縄にも深く根付いています。芸能に関心を持つことで、沖縄の伝統行事や風習などがより身近に感じていただけるように望みます。関連科目として「琉球文学特講Ⅰ・Ⅱ」</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球語会話 I	前期	木 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	2年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	琉球語諸方言の一つである沖縄語首里方言について、テキストを用いながら学んでいく。会話練習や練習問題を解くことによって首里方言に慣れ親しむ。また、沖縄語中南部方言に属する首里方言のみならず、沖縄語、宮古語、八重山語、与那国語、奄美語などの諸語についても折にふれて解説する。	現在、世界中の多様な言語が消滅の危機にあるが、この伝統的な沖縄語（ウチナーグチ）も、消滅危機言語と言えるのかもしれない。グローバル化する世界における多文化共生の考え方もふまえつつ、沖縄語の継承について考えていってほしい。

到達目標	沖縄語で実際に会話することによって、沖縄語の実質にふれ、沖縄語で表現することへの回路を開いていく。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・琉球語諸方言の区画	言語区画を覚える
	2	自己紹介さびら	自己紹介の仕方を覚える
	3	沖縄語の発音（1）—三母音化—	三母音化について復習・練習問題
	4	沖縄語の発音（2）—口蓋化—	口蓋化について復習・練習問題
	5	沖縄語の文法（1）—「ガ」と「ヌ」—	助詞について復習・練習問題
	6	沖縄語の文法（2）—動詞①—	動詞活用について復習・練習問題
	7	沖縄語の文法（3）—動詞②—	動詞活用について復習・練習問題
	8	沖縄語の文法（4）—形容詞—	形容詞活用について復習・練習問題
	9	中間試験	中間試験の復習
	10	沖縄語の文法（5）—係り結び—	係り結びについて復習・練習問題
	11	沖縄語の発音（3）—声門閉鎖音—	声門閉鎖音について復習・練習問題
	12	沖縄語の文法（6）—丁寧語—	丁寧語について復習・練習問題
	13	沖縄語の文法（7）—テ形—	テ形について復習・練習問題
	14	沖縄語の文法（8）—過去形・継続形—	動詞活用について復習・練習問題
15	期末試験	期末試験の復習	
16	予備日		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>西岡敏・仲原穰〔著〕、伊狩典子・中島由美〔協力〕 2006[2000] 『沖縄語の入門（CD付き改訂版） たのしいウチナーグチ』（白水社）。</p> <p>国立国語研究所〔編〕1963 『沖縄語辞典』（大蔵省印刷局）、井上史雄・吉岡泰夫〔監修〕 『沖縄の方言 調べてみよう暮らしのことば』（ゆまに書房）。</p>
----	---

学びの手立て	<p>登録人数を制限することがある。</p> <p>出席日数が3分の2に満たない者は原則として単位を与えない。</p> <p>練習問題はWEB上で解答できるので、各自積極的に取り組むこと。</p>
--------	--

評価	中間・期末試験および出席点によって評価する。
----	------------------------

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>琉球語会話Ⅱ、琉球語学概論、琉球芸能史、琉球文学概論。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球語会話Ⅱ	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	2年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 琉球語諸方言の一つである沖縄語首里方言について、テキストを用いながら学んでいく。会話練習や練習問題を解くことによって首里方言に慣れ親しむ。また、沖縄語中南部方言に属する首里方言のみならず、沖縄語、宮古語、八重山語、与那国語、奄美語などの諸語についても折にふれて解説する。	メッセージ 現在、世界中の多様な言語が消滅の危機にあるが、この伝統的な沖縄語（ウチナーグチ）も、消滅危機言語と言えるのかもしれない。グローバル化する世界における多文化共生の考え方もふまえつつ、沖縄語の継承について考えていってほしい。
	到達目標 沖縄語で実際に会話することによって、沖縄語の実質にふれ、沖縄語で表現することへの回路を開いていく。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	普通体と丁寧体	復習・練習問題
	2	複文（順接文・逆接文・条件文）	復習・練習問題
	3	規則動詞と不規則動詞	復習・練習問題
	4	第1過去形と第2過去形	復習・練習問題
	5	親族名称	復習・練習問題
	6	疑問の係り結び	復習・練習問題
	7	受身文・使役文	復習・練習問題
	8	敬語	復習・練習問題
	9	中間試験	中間試験の復習
	10	応用①：琉球料理	復習・練習問題
	11	応用②：マチグラー	復習・練習問題
	12	応用③：昔ばなし	復習・練習問題
	13	琉歌・民謡	復習・練習問題
	14	歌劇・組踊	復習・練習問題
15	期末試験	期末試験の復習	
16	予備日		
	テキスト・参考文献・資料など 西岡敏・仲原穰〔著〕、伊狩典子・中島由美〔協力〕 2006〔2000〕 『沖縄語の入門（CD付き改訂版） たのしいウチナーグチ』（白水社）。 国立国語研究所〔編〕1963 『沖縄語辞典』（大蔵省印刷局）、井上史雄・吉岡泰夫〔監修〕 『沖縄の方言 調べてみよう暮らしのことば』（ゆまに書房）。		
	学びの手立て 登録人数を制限することがある。 出席日数が3分の2に満たない者は原則として単位を与えない。 練習問題はWEB上で解答できるので、各自積極的に取り組むこと。		
	評価 中間・期末試験および出席点によって評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 琉球語学特講Ⅰ・Ⅱ、琉球文学特講Ⅰ・Ⅱ、多文化共生論。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球語学概論	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	2年	5-401(研究室) kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業では、琉球各地の方言—奄美、沖縄北部、沖縄南部、宮古、八重山—をその地域ごとに概説していきます。講義の後半では、近年メディアでも話題とされている「危機言語」の問題について取りあげ、グループディスカッションとプレゼンテーションを行います。琉球語をとりまく現状を知り、その継承の必要性や問題点、可能性について考えていきましょう。	今私たちの暮らしている「沖縄・琉球」のことばのことをどのくらい知っていますか。琉球語（琉球方言）はとても多様な言語です。で講義内容も広範囲になります。興味と意欲と問題意識をもって、積極的な姿勢で受講してほしいと思います。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「琉球語」「沖縄方言」「ウチナーグチ」といった各「術語」の定義について適切に説明できる。 ・琉球各地の方言（琉球語の下位方言）について、それぞれの言語的特徴、違いを理解している。 ・琉球語のおかれている「危機」について現状を把握し、自らの意見を述べるができる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	琉球語とは—方言と言語—	授業の復習
	3	奄美のことば	同上
	4	沖縄のことば(1)—北部	同上
	5	沖縄のことば(2)—中南部(1)	同上
	6	沖縄のことば(3)—中南部(2)	同上
	7	宮古のことば(1)	同上
	8	宮古のことば(2)—多良間方言(1)	同上
	9	宮古のことば(3)—多良間方言(2)	授業の復習と中間レポート資料収集
	10	八重山のことば	同上
	11	与那国のことば	授業の復習と中間レポートの作成
	12	危機言語とは：「危機に瀕した」琉球語、中間レポートの提出	ディスカッションの事前リサーチ
	13	琉球語をとりまく諸問題(1)：グループディスカッション	振り返りと補足リサーチ
14	琉球語をとりまく諸問題(2)：グループディスカッション	まとめとプレゼン資料の作成	
15	琉球語をとりまく諸問題(3)：プレゼンテーション	講義内容全体の復習	
16	期末レポート提出		
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストは使用しません。講義内において資料を配布します。 ・参考文献（ほんの一部です） 中本正智1981『図説琉球語辞典』力富書房、岡村隆博2007『奄美方言』南方新社、名護市史編さん委員会編2006『名護市史本編10 言語』、西岡敏・仲原穰（2006 [2000]）『沖縄語の入門（CD付き改訂版）』白水社、野原三義2005『うちなあぐちへの招待』沖縄タイムス社、平山輝男他1967『琉球先島方言の総合的研究』明治書院、呉人恵[編]（2011）『日本の危機言語—言語・方言の多様性と独自性』北海道大学出版会、など		
	学びの手立て		
	履修の心構え		
	<ul style="list-style-type: none"> ・出席日数が講義全体（15回）の3分の2に満たない場合、原則として単位を認めません。 ・出席をとる代わりに毎時間「リアクションペーパー」を提出してもらいます。記入内容も評価の対象です。 		
	学びを深めるために		
	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に参考文献に目を通しておくと講義への理解が深まります。 		
	評価		
	期末試験30%、中間レポート20%、リアクションペーパー20%、ディスカッション・プレゼンテーション15%、平常点15%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	琉球語についてさらに深く学んでいきたい人へ。 関連科目：「琉球語会話ⅠⅡ」「琉球語学特講ⅠⅡ」

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球語学概論	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-當山 奈那	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>琉球列島には約800の伝統的な集落があり、その全ての方言がそれぞれ固有の言語体系を持つといわれている。これらの伝統的な方言は現在、消滅の危機に瀕している。具体的な事例や多様な方言の言語学的な分析を通して、今、琉球方言を継承することや琉球方言を研究することについて、その必要性や問題点、可能性などを講義のなかで考える。</p>	<p>どんな小さな集落の方言であっても、日本語や英語のような言語と同様に、文の構成材料としての単語と、それらを文にまとめあげていくきまりとしての文法とがそなわっています。また、程度の差こそあれ、危機に瀕しているのは、琉球方言のみならず日本語の諸方言も同じです。このような危機言語の実態と言語学的可能性について学びましょう。</p>
到達目標	<p>①琉球方言の言語学的な特徴について、日本語を含めたバリエーションをふまえて理解し、説明することができる。 ②フィールドワークの基礎的な考え方や手法を身につけることができる。 ③琉球方言もふくめた日本や世界の少数言語や危機言語について、記録や継承の意義や問題点を理解したうえで、問題の解決法を考えることができるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	琉球語／琉球方言／琉球諸語とは何か（1）	
2	琉球語／琉球方言／琉球諸語とは何か（2）	コメントシートで予習・復習	
3	琉球語／琉球方言／琉球諸語とは何か（3）	コメントシートで予習・復習	
4	琉球語／琉球方言／琉球諸語とは何か（4）	コメントシートで予習・復習	
5	琉球語を研究するということー方言からはじめる言語学ー（1）	コメントシートで予習・復習	
6	なぜ琉球語（及び日本語方言を含む危機言語）を継承する必要があるのか	課題に必要なデータを収集する	
7	琉球語継承に必要な取り組みについて考える（1）	課題に必要な文献を収集する	
8	琉球語継承に必要な取り組みについて考える（2）	課題に必要な文献を収集する	
9	フィールドワークの方法	課題作成①	
10	課題報告会（1）	課題作成②	
11	課題報告会（2）	課題作成③	
12	琉球語を研究するということー方言からはじめる言語学ー（2）	コメントシートで予習・復習	
13	琉球語を研究するということー方言からはじめる言語学ー（3）	コメントシートで予習・復習	
14	琉球語を研究するということー方言からはじめる言語学ー（4）	コメントシートで予習・復習	
15	琉球語を研究するということー方言からはじめる言語学ー（5）	テスト勉強	
16	期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>・テキスト：使用しません。プリントを配布します。</p>		
学びの手立て	<p>・履修の心構え フィールドワーク方法を学習するにあたって、PCの基本操作ができることがのぞましい。音声データを編集・加工する作業手順などを説明する。使用ソフトや手順などは丁寧に説明するが、心構えは必要。不明な点があれば相談してください。</p>		
評価	<p>定期テスト・・・50点 上記の到達目標の①③を評価する レポート・・・30点 （単元内に課される課題の提出状況と到達度を評価） 上記到達目標の②を評価する 平常点・・・20点 （毎時間の終わりにまとめるコメントシートの提出状況と内容を評価） 上記到達目標の①②③を評価する</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目として、「琉球語会話」、また、琉球諸語の音声や文法のしくみを勉強・研究するために、「日本語文法論」や「日本語音声学」の講義をとおして日本語のしくみを理解しておくことをおすすめします。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球語学特講 I	前期	木 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	3年	5-401(研究室) kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業ではJ-POPの歌詞や詩、絵本など日本語共通語で書かれた「作品」を琉球語に翻訳して発表することを目標とします。ウチナーグチの翻訳作品をいくつか紹介し、その中によく出てくる表現や文法について説明します。授業の後半では、各自「作品」を選び、辞書などを利用してウチナーグチに翻訳します。そしてその成果を発表し、質疑応答の結果を踏まえてレポートとして提出します。	メッセージ 翻訳作業を通して琉球語と日本語との違いを学び、さらには方言の可能性を広げるためにできること・すべきことを考えてもらいたいです。
	到達目標 ・「琉球語」の定義を正確に説明することができる。 ・「ウチナーグチ」の音声や文法の基礎を身に付ける。 ・日本語共通語の「作品」をウチナーグチに翻訳し、発表する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、発表について	
	2	琉球方言概説(1)：日本語と琉球方言(琉球語)、琉球弧の広がり	授業の復習
	3	琉球方言概説(2)：「ウチナーグチ」とは、琉球方言の多様性	同上
	4	翻訳作品の紹介と文法概説(1)	授業の復習と翻訳する作品の選択
	5	翻訳作品の紹介と文法概説(2)	同上
	6	翻訳作品の紹介と文法概説(3)、翻訳する作品の提出(報告)	授業の復習と中間報告の準備
	7	翻訳作品の紹介と文法概説(4)	同上
	8	翻訳の中間報告と質疑応答(1)	質疑応答の振り返りと発表の準備
9	翻訳の中間報告と質疑応答(2)	同上	
10	翻訳の中間報告と質疑応答(3)	同上	
11	翻訳の中間報告と質疑応答(4)	同上	
12	翻訳作品の発表(1)	レポートの作成	
13	翻訳作品の発表表(2)	同上	
14	翻訳作品の発表(3)	同上	
15	翻訳作品の発表(4)	同上	
16	レポート提出		
	テキスト・参考文献・資料など ・テキストは使用しません。講義内において資料を配布します。 ・参考文献(時間外の自主学習に役立ててください) 西岡敏・仲原穰(2006 [2000])『沖縄語の入門(CD付き改訂版)』白水社、国立国語研究所編1963『沖縄語辞典』、野原三義・内間直仁2006『沖縄語辞典』研究社		
	学びの手立て 履修の心構え ・出席日数が講義全体(15回)の3分の2に満たない場合、原則として単位を認めません。 ・中間報告および発表の日程は、受講人数及び授業の進み具合により変わる場合があります。 ・「琉球語学概論」「琉球語会話」のいずれかを受講済みである、あるいは並行して受講していることが望ましい。		
	評価 中間報告30%、発表30%、最終レポート30%、平常点(出欠状況および質疑応答の態度を評価)10%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 近年琉球語への関心は高まっています。翻訳という実践的な学びを通して得た知識・技能のさらなる向上のために、より長い作品の翻訳にも挑戦してみてください。 関連科目：「琉球語学特講Ⅱ」
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球語学特講Ⅱ	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	3年	5-401(研究室) kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業では、日本語共通語で文章（意見文など）を書き、その文章を琉球語に翻訳して発表することを目標とします。可能であれば、琉球語による作文を行います。翻訳作業は辞書を利用したり琉球方言を話せる人に習うなどして進めます。授業の最後には発表の際の質疑応答の結果を踏まえつつ、レポートとして提出します。また、「琉球語スピーチコンテスト」の出場を目指します。	メッセージ 翻訳作業を通して琉球方言と日本語との違いを学び、さらには方言の可能性を広げるためにできること・すべきことを考えてもらいたいです。
	到達目標 ・日本語共通語の文章を琉球語に翻訳する。あるいは琉球語で文章を書く。 ・「琉球語スピーチコンテスト」に出場する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、発表について	
	2	首里方言の文法概説(1)、発表順番決め	授業の復習と日本語原稿の作成
3	首里方言の文法概説(2)	同上	
4	首里方言の文法概説(3)、作業の説明、日本語原稿の提出	授業の復習と中間報告の準備	
5	中間報告(1)	質疑応答の振返りと作品発表の準備	
6	中間報告(2)	同上	
7	中間報告(3)	同上	
8	中間報告(4)	同上	
9	中間報告(5)	同上	
10	作品発表(1)	レポート作成とスピコン発表練習	
11	作品発表(2)	同上	
12	作品発表(3)	同上	
13	作品発表(4)	同上	
14	作品発表(5)	同上	
15	「琉球語スピーチコンテスト」		
16	レポート提出		
	テキスト・参考文献・資料など ・テキストは使用しません。講義内において資料を配布します。 ・参考文献は適宜紹介します。		
	学びの手立て 履修の心構え ・事前に「琉球語学特講Ⅰ」を受講していること。 ・出席日数が講義全体(15回)の3分の2に満たない場合、原則として単位を認めません。 ・中間報告および発表の日程は、受講人数及び授業の進み具合により変わる場合があります。		
	評価 中間報告30%、発表30%、最終レポート30%、平常点(出欠状況および質疑応答の態度を評価)10%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 近年、琉球語に対する社会的な関心、ニーズが高まっています。翻訳作業を通して得た言語的な知識をさらに深めるとともに、会話にも挑戦してみてください。 関連科目：「琉球語会話ⅠⅡ」
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球語学入門	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-當山 奈那	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>琉球列島には約800の伝統的な集落があり、その全ての方言がそれぞれ固有の言語体系を持つといわれる。琉球方言のことを学びながら、その琉球方言を普及、継承するために必要なことは何か、特に学校教育のなかで琉球諸方言の教育が可能か、それはどのように行なうのか、指導の意義と目的などを検討する。</p>	<p>どんな小さな集落の方言であっても、日本語や英語のような言語と同様に、文の構成材料としての単語と、それらを文にまとめあげていくきまりとしての文法とがそなわっています。また、程度の差こそあれ、危機に瀕しているのは、琉球方言のみならず日本語の諸方言も同じです。このような危機言語の実態と言語学的可能性について学びましょう。</p>
到達目標	<p>①琉球方言がどのような言語であるか、日本語を含めたバリエーションをふまえて理解し、説明することができる。 ②琉球方言のおかれている状況、琉球方言を教育する意義などについての理解をふかめ、沖縄の大学で学ぶものとして琉球方言のみならず少数言語や危機言語と向き合う態度、自らのかんがえを確立する力を養う。 ③言語を静的なものとしてとらえるのではなく、歴史的な状況のなかでダイナミックに変化するものとしてとらえる視点を養う。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	琉球語／琉球方言／琉球諸語とは何か（1）	シラバスを読むこと
	2	琉球語／琉球方言／琉球諸語とは何か（2）	コメントシートで予習・復習
	3	琉球語／琉球方言／琉球諸語とは何か（3）	コメントシートで予習・復習
	4	琉球語／琉球方言／琉球諸語とは何か（4）	コメントシートで予習・復習
	5	琉球語を研究するということー方言からはじめる言語学ー（1）	コメントシートで予習・復習
	6	琉球語を研究するということー方言からはじめる言語学ー（2）	コメントシートで予習・復習
	7	琉球語を研究するということー方言からはじめる言語学ー（3）	コメントシートで予習・復習
8	なぜ琉球語（及び日本語方言を含む危機言語）を継承する必要があるのか（1）	コメントシートで予習・復習	
9	なぜ琉球語（及び日本語方言を含む危機言語）を継承する必要があるのか（2）	コメントシートで予習・復習	
10	琉球語継承の取り組みの問題点	コメントシートで予習・復習	
11	琉球語継承に必要な取り組みについて考える（1）	コメントシートで予習・復習	
12	琉球語継承に必要な取り組みについて考える（2）	コメントシートで予習・復習	
13	国語教育と英語教育と方言教育（1）	コメントシートで予習・復習	
14	国語教育と英語教育と方言教育（2）	コメントシートで予習・復習	
15	国語教育と英語教育と方言教育（3）	テスト勉強	
16	期末試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	・テキスト：使用しません。プリントを配布します。		
	学びの手立て		
	履修の心構えとして、以下の点を注意してください。		
	・毎時間最後にコメントシートを提出してもらいます。提出を出欠確認代わりとします。		
	・出欠状況について、無断欠席が5回以上になると「不可」とします。		
	評価		
	テスト・・・50点 上記の到達目標の①を評価する		
	レポート・・・30点 上記到達目標の②③を評価する		
	平常点・・・20点（毎時間の終わりにまとめるコメントシートの提出状況と内容を評価） 上記到達目標の①②③を評価する		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	関連科目として、「琉球語会話」、また、琉球諸語の音声や文法のしくみを勉強・研究するために、「日本語文法論」や「日本語音声学」の講義をとおして日本語のしくみを理解することをおすすめします。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球文化論	前期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	狩俣 恵一	1年	授業終了後に受け付ける。 メールアドレス：karimata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 琉球沖縄の言語文化を専門的に学ぶにあたって、琉球の言葉・歌謡・昔話・伝説・芸能と歴史・民俗についての基礎的な知識を習得する。	メッセージ 琉球の言語文化には、記録されたものと口頭で伝承されたものがあるが、それらを学ぶためには、文献だけでなく、博物館や祭り・芸能等を実際に見学し、総合的に考えること。
	到達目標 琉球の言語文化の概要の理解し、琉球文の読みができるようになること。	

学びの準備	ねらい 琉球沖縄の言語文化を専門的に学ぶにあたって、琉球の言葉・歌謡・昔話・伝説・芸能と歴史・民俗についての基礎的な知識を習得する。	メッセージ 琉球の言語文化には、記録されたものと口頭で伝承されたものがあるが、それらを学ぶためには、文献だけでなく、博物館や祭り・芸能等を実際に見学し、総合的に考えること。
	到達目標 琉球の言語文化の概要の理解し、琉球文の読みができるようになること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 琉球・沖縄の言語文化は、士族文化と庶民文化に大別されます。士族の言語文化は琉球士族語であり、「琉球文」で記録されている。また、庶民の言語文化は口頭で伝承されたシマ言葉があり、近代以降の沖縄芝居はウチナーグチが基本である。そのことを念頭に、琉球・沖縄の言語文化について学ぶこととする。 第1回 琉球王国の歴史と文化 第2回 近世琉球王国の社会 第3回 ノロとユタ 第4回 祭りの歌謡 第5回 おもろさうし概説 第6回 御冠船踊りと江戸上りの芸能 第7回 神話・伝説 第8回 昔話・世間話 第9回 琉球古典音楽と沖縄民謡 第10回 琉球古典舞踊と「琉歌」 第11回 組踊と「唱え」 第12回 沖縄芝居 第13回 村踊り（民俗芸能） 第14回 琉球士族語と琉球文 第15回 ウチナーグチとシマ言葉 第16回 試験
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：コピーを配布する。 参考書：『大学的沖縄ガイド』
	学びの手立て 「琉球文」を学ぶには「日本古文」の知識が必要である。
	評価 出席・授業態度・試験・レポートによる総合評価。

学びの継続	次のステージ・関連科目 「琉球文学特講Ⅰ・Ⅱ」
-------	----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球文化論	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	狩俣 恵一	1年	授業終了後に受け付ける。 メールアドレス：karimata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 琉球沖縄の言語文化を専門的に学ぶにあたって、琉球の言葉・歌謡・昔話・伝説・芸能と歴史・民俗についての基礎的な知識を習得する。	メッセージ 琉球の言語文化には、記録されたものと口頭で伝承されたものがあるが、それらを学ぶためには、文献だけでなく、博物館や祭り・芸能等を実際に見学し、総合的に考えること。
	到達目標 琉球の言語文化の概要の理解し、琉球文の読みができるようになること。	

学びの準備	到達目標 琉球の言語文化の概要の理解し、琉球文の読みができるようになること。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 琉球・沖縄の言語文化は、士族文化と庶民文化に大別されます。士族の言語文化は琉球士族語であり、「琉球文」で記録されている。また、庶民の言語文化は口頭で伝承されたシマ言葉があり、近代以降の沖縄芝居はウチナーグチが基本である。そのことを念頭に、琉球・沖縄の言語文化について学ぶこととする。 第1回 琉球王国の歴史と文化 第2回 近世琉球王国の社会 第3回 ノロとユタ 第4回 祭りの歌謡 第5回 おもろさうし概説 第6回 御冠船踊りと江戸上りの芸能 第7回 神話・伝説 第8回 昔話・世間話 第9回 琉球古典音楽と沖縄民謡 第10回 琉球古典舞踊と「琉歌」 第11回 組踊と「唱え」 第12回 沖縄芝居 第13回 村踊り（民俗芸能） 第14回 琉球士族語と琉球文 第15回 ウチナーグチとシマ言葉 第16回 試験
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：テキスト：コピーを配布する。 参考書：『大学的沖縄ガイド』
	学びの手立て 「琉球文」を学ぶには「日本古文」の知識が必要である。
	評価 出席・授業態度・試験・レポートによる総合評価。

学びの継続	次のステージ・関連科目 「琉球文学特講Ⅰ・Ⅱ」
-------	----------------------------

※ポリシーとの関連性

専門知識として必要な科目の一つとして、地域の文学である「琉球文学」を学ぶ。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球文学概論	前期	金 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲原 伸子	2年	授業終了後に教室で受け付ける	

学びの準備	ねらい 文学作品は叙事文学、叙情文学、劇文学の三つのジャンルに分類される。奄美・沖縄・宮古・八重山の四つの諸島で展開されてきた文学を「琉球文学」と呼ぶが、「琉球文学」にはさまざまな歌謡・作品があり、三大ジャンルすべてがある。 本講義では「琉球文学」の定義、琉球文学のジャンル分類などを整理し、それぞれの歌謡・作品を紹介する。	メッセージ 「琉球文学」とは何か、どのような作品があるのか、初級者向けのやさしいテキストを使用して読み進めます。
	到達目標 「琉球文学」とは何か、どのようなジャンルがあるのかを理解し、それぞれの作品を読み味わう。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	「琉球文学」の定義	
	2	琉球文学研究史	
	3	古謡①	テキスト p. 18～35
	4	古謡②	〃
	5	古謡③	〃
	6	物語歌謡①	テキスト p. 36～64
	7	物語歌謡②	〃
	8	短詞形歌謡（抒情詞）①	テキスト p. 66～78
	9	短詞形歌謡（抒情詞）②	〃
	10	琉球説話文学①	テキスト p. 80～88
	11	琉球説話文学②	〃
	12	琉球劇文学①	テキスト p. 90～118
	13	琉球劇文学②	〃
	14	琉球和文学	テキスト p. 130～142
	15	琉球漢文学	テキスト p. 144～152
	16	期末試験	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：『新編 沖縄の文学（増補・改訂版）』（高教組教育資料センター『新編 沖縄の文学』編集委員会編、沖縄時事出版、2008年） 参考文献：『沖縄文学全集 第二〇巻 文学史』（沖縄文学全集編集委員会編、国書刊行会、1991年）、『岩波講座日本文学史 第十五巻 琉球文学、沖縄の文学』（岩波書店、1996年）、その他、参考文献一覧を授業で配布する。		
	学びの手立て ・毎回出席確認を行うので、遅刻した者は授業終了後に必ず申し出ること。欠席した者は後日欠席届を提出すること。		
	評価 平常点（30%）欠席5回以上は「不可」とする。期末試験（70%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「琉球文学概論」で琉球文学の全体像を理解した後は、「琉球文学を読むⅠ・Ⅱ」で更に専門的な知識を深めてほしい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球文学特講 I	前期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮城 茂雄	3年	ptt566@okiu.ac.jp 授業終了後教室でも受け付けます	

学びの準備	ねらい 琉球文学において戯曲として位置づけられる組踊は、玉城朝薫によって創作され以後多くの作品が誕生した。また、現在まで上演され続けている琉球芸能の一つでもある。本講義では、組踊の表現法をさまざまな視点から考察することを目的とする。	メッセージ 組踊は、琉球時代の思想や風景が描かれています。琉球語の音の持つ魅力や、セリフや歌に込められた琉球の人々の思いを、皆で考えていきたいと思ひます。
	到達目標 ①組踊の誕生、その歴史を理解する。②組踊の表現方法（セリフ・歌・所作・衣装・楽器・舞台演出方法など）を理解する。③組踊や琉歌の表記法を理解し、声に出してすらすらと音読できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドダンス	
	2	組踊の誕生と歴史	組踊誕生の歴史背景について
	3	文学的表現（セリフの表現方法を中心に）	セリフの表現方法を考察する
	4	音楽的・舞踊的表現	歌や所作の表現方法を理解する
	5	作品研究「執心鐘入①」映像鑑賞・音読担当割り振り	音読担当部分の自主練習
	6	「執心鐘入②」台本講読	執心鐘入の内容理解
	7	「執心鐘入③」台本講読	同上
	8	「執心鐘入④」台本講読	同上
	9	「二童敵討①」映像鑑賞・音読担当割り振り	音読担当部分の自主練習
	10	「二童敵討②」台本講読	二童敵討の内容理解
	11	「二童敵討③」台本講読	同上
	12	「花売の縁①」映像鑑賞・音読割り振り	音読担当部分の自主練習
	13	「花売の縁②」台本講読	花売の縁の内容理解
	14	「花売の縁③」台本講読	同上
15	まとめ	上記3作品のまとめ	
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など 教科書は指定しません。プリントや台本を随時配布します。			
学びの手立て ①受講にあたって、以下を注意してください。出席・遅刻の確認を毎回行います。私語や途中退席などは慎んでください。②板書にあわせて口頭での解説も多くなります。各自ノートやプリントに記録してください。③組踊の映像鑑賞を数回予定しています。④この講義は、組踊を地道にじっくりと読んでいきます。受講者の積極的な授業参加を望みます。⑤組踊についてのレポート（課題）を1回程度予定しています。			
評価 試験60%・レポート20%・出席20%			

学びの継続	次のステージ・関連科目 ユネスコの世界無形文化遺産としても注目されている「組踊」に関心を持ち、琉球文学の研究に役立てる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球文学特講Ⅱ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮城 茂雄	3年	ptt566@okiu.ac.jp 授業終了後教室でも受け付けます	

学びの準備	ねらい 琉球文学において戯曲として位置づけられる組踊は、玉城朝薫によって創作され以後多くの作品が誕生した。また、現在まで上演されている琉球芸能の一つでもある。本講義では、「琉球文学特講Ⅰ」に続いて、組踊の表現法をさまざまな視点から考察することを目的とする。	メッセージ 組踊は、琉球時代の思想や風景が描かれています。琉球語の音の持つ魅力や、セリフや歌に込められた琉球の人々の思いを、皆で考えていきたいと思ひます。
	到達目標 ①組踊の誕生、その歴史を理解する。②組踊の表現方法（セリフ・歌・所作・衣装・楽器・舞台演出方法など）を理解する。③組踊や琉歌の表記法を理解し、声に出してすらすらと音読できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドダンス	
	2	組踊の誕生と歴史	組踊誕生の歴史背景について考える
	3	文学的表現（セリフの表現方法を中心に）	セリフの表現方法を考察する
	4	音楽的・舞踊的表現	歌や所作の表現方法を理解する
	5	作品研究「銘苺子①」映像鑑賞・音読担当割り振り	音読担当部分の自主練習
	6	「銘苺子②」台本講読	銘苺子の内容理解
	7	「銘苺子③」台本講読	同上
	8	「万歳敵討①」映像鑑賞・音読担当割り振り	音読担当部分の自主練習
	9	「万歳敵討②」台本講読	万歳敵討の内容理解
	10	「万歳敵討③」台本講読	同上
	11	「雪払い①」映像鑑賞・音読割り振り	音読担当部分の自主練習
	12	「雪払い②」台本講読	雪払いの内容理解
	13	「雪払い③」台本講読	同上
	14	「雪払い④」台本講読	同上
15	まとめ	上記3作品のまとめ	
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など 教科書は指定しません。プリントや台本を随時配布します。			
学びの手立て ①受講にあたって、以下を注意してください。出席・遅刻の確認を毎回行います。私語や途中退席などは慎んでください。②板書にあわせて口頭での解説も多くなります。各自ノートやプリントに記録してください。③組踊の映像鑑賞を数回予定しています。④この講義は、組踊を地道にじっくりと読んでいきます。受講者の積極的な授業参加を望みます。⑤組踊についてのレポート（課題）を1回程度予定しています。			
評価 試験60%・レポート20%・出席20%			

学びの継続	次のステージ・関連科目 ユネスコの世界無形文化遺産としても注目されている「組踊」に関心を持ち、琉球文学の研究に役立てる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球文学を読むⅠ	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲原 伸子	2年	授業終了後に教室で受け付ける	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、琉球文学の中から『おもろさうし』を取り上げる。『おもろさうし』は首里王府によって編纂された沖縄最古の神歌集である。</p> <p>『琉球の歴史と文化—『おもろさうし』の世界』をテキストを読み進めながら、『おもろさうし』の基礎知識やオモロの世界観を学び、オモロを鑑賞する。</p>	<p>「オモロ」という言葉は一般的になってきたが、実際にその意味内容を知らない人がほとんどだと思ふ。琉球文学の中でもとりわけ重要である『おもろさうし』に触れて興味を持ってほしい。</p>
到達目標	『おもろさうし』の基礎知識と世界観を学び、最終的には自分でオモロを調べて理解することができるようにする。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	琉球文学の中の『おもろさうし』	
	2	第1章 『おもろさうし』への誘い①	テキスト：p. 14～15
	3	第1章 『おもろさうし』への誘い②	テキスト：p. 16～25
	4	第1章 『おもろさうし』への誘い③	テキスト：p. 26～36
	5	第1章 『おもろさうし』への誘い④	テキスト：p. 37～42
	6	第10章 オモロ鑑賞①	テキスト：p. 244～246
	7	第10章 オモロ鑑賞②	テキスト：p. 246～248
8	第10章 オモロ鑑賞③	テキスト：p. 248～250	
9	第10章 オモロ鑑賞④	テキスト：p. 251～253	
10	第10章 オモロ鑑賞⑤	テキスト：p. 254～256	
11	第10章 オモロ鑑賞⑥	テキスト：p. 256～258	
12	第10章 オモロ鑑賞⑦	テキスト：p. 259～261	
13	第10章 オモロ鑑賞⑧	テキスト：p. 261～264	
14	第10章 オモロ鑑賞⑨	テキスト：p. 264～266	
15	王府おもろ「五曲六節」		
16	期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト：『琉球の歴史と文化—『おもろさうし』の世界』（波照間永吉編・角川書店・2007年）。なお、購入困難なためあらかじめプリントを配布する。 参考文献：『おもろさうし』上・下（外間守善・岩波文庫・2000年刊）、その他講義内で紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>・毎回出席確認を行うので、遅刻した者は授業終了後に必ず申し出ること。欠席した者は後日欠席届を提出すること。</p>		
評価	<p>平常点（30%）欠席5回以上は「不可」とする。 期末試験（70%）レポート提出により評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「琉球文学を読むⅠ」で基礎知識を学んだ後に「琉球文学を読むⅡ」を受講しオモロの世界観を深めてほしい。「琉球文学概論」では琉球文学の全体像を紹介しているので、併せて受講してほしい。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球文学を読むⅡ	後期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲原 伸子	2年	授業終了後に教室で受け付ける	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、琉球文学の中から『おもろさうし』を取り上げる。『おもろさうし』は首里王府によって編纂された沖縄最古の神歌集である。『琉球の歴史と文化—『おもろさうし』の世界』をテキストを読み進めながら、『おもろさうし』の基礎知識やオモロの世界観を学び、オモロを鑑賞する。</p>	<p>「オモロ」という言葉は一般的になってきたが、実際にその意味内容を知らない人がほとんどだと思ふ。琉球文学の中でもとりわけ重要である『おもろさうし』に触れて興味を持ってほしい。</p>
	到達目標	
	『おもろさうし』の基礎知識と世界観を学び、最終的には自分でオモロを調べて理解することができるようにする。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	琉球文学の中の『おもろさうし』	
	2	琉球文学への誘い—『おもろさうし』の魅力①	嘉手苺2003 : p. 86~88
	3	琉球文学への誘い—『おもろさうし』の魅力②	嘉手苺2003 : p. 89~95
	4	琉球文学への誘い—『おもろさうし』の魅力③	嘉手苺2003 : p. 95~103
	5	琉球文学への誘い—『おもろさうし』の魅力④	嘉手苺2003 : p. 104~111
	6	第2章 『おもろさうし』から何を読みとるか①	テキスト : p. 43~53
	7	第2章 『おもろさうし』から何を読みとるか②	テキスト : p. 53~60
8	第2章 『おもろさうし』から何を読みとるか③	テキスト : p. 61~63	
9	第2章 『おもろさうし』から何を読みとるか④	テキスト : p. 64~73	
10	第6章 『おもろさうし』の神出現の表現①	テキスト : p. 133~138	
11	第6章 『おもろさうし』の神出現の表現②	テキスト : p. 139~150	
12	第6章 『おもろさうし』の神出現の表現③	テキスト : p. 151~160	
13	第9章 『おもろさうし』の比喩表現①	テキスト : p. 217~227	
14	第9章 『おもろさうし』の比喩表現②	テキスト : p. 228~241	
15	王府おもろ「五曲六節」		
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など		
	<p>テキスト：『琉球の歴史と文化—『おもろさうし』の世界』（波照間永吉編・角川書店・2007年）。なお、購入困難なためあらかじめプリントを配布する。参考文献：『おもろさうし』上・下（外間守善・岩波文庫・2000年刊）、『おもろと琉歌の世界—交響する琉球文学』（嘉手苺千鶴子・森話社・2003年）、その他講義内で紹介する。</p>		
	学びの手立て		
	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回出席確認を行うので、遅刻した者は授業終了後に必ず申し出ること。欠席した者は後日欠席届を提出すること。 		
	評価		
	平常点（30%）欠席5回以上は「不可」とする。 期末試験（70%）レポート提出により評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>「琉球文学を読むⅠ」で基礎知識を学んだ後に「琉球文学を読むⅡ」を受講しオモロの世界観を深めてほしい。「琉球文学概論」では琉球文学の全体像を紹介しているので、併せて受講してほしい。</p>